

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (67)

— 一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 I —

よこ い たけ の やま  
横井竹ノ山遺跡

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (67)

横井竹ノ山遺跡

二〇〇四年三月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2004年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター





## 序 文

鹿児島県教育委員会では、一般県道小山田谷山線改良工事に伴い、平成7年度から埋蔵文化財の調査を実施してまいりました。

本報告書は、その中から「横井竹ノ山遺跡」の発掘調査の記録をまとめたものです。

当遺跡では、旧石器時代終末から縄文時代草創期にかけての大規模な石器群が発見され、多大な成果を収めました。特に細石刃核、石鏃、土器の伴出については資料の少ないこの時期の様相を解明するうえで貴重な資料として注目されます。

また、古代の合わせ口埴の出土とその墨書についても注目されたところ です。

本書を今後の文化財保護の推進や学術研究のための資料として多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、調査にあたりましてご協力いただいた県土木部道路建設課をはじめ、調査関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

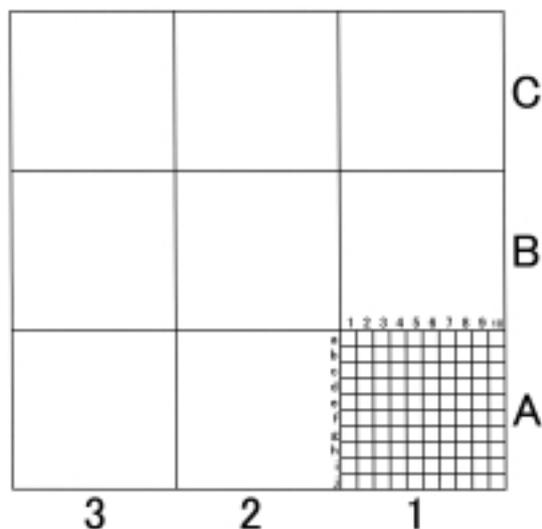
平成16年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所 長 木 原 俊 孝

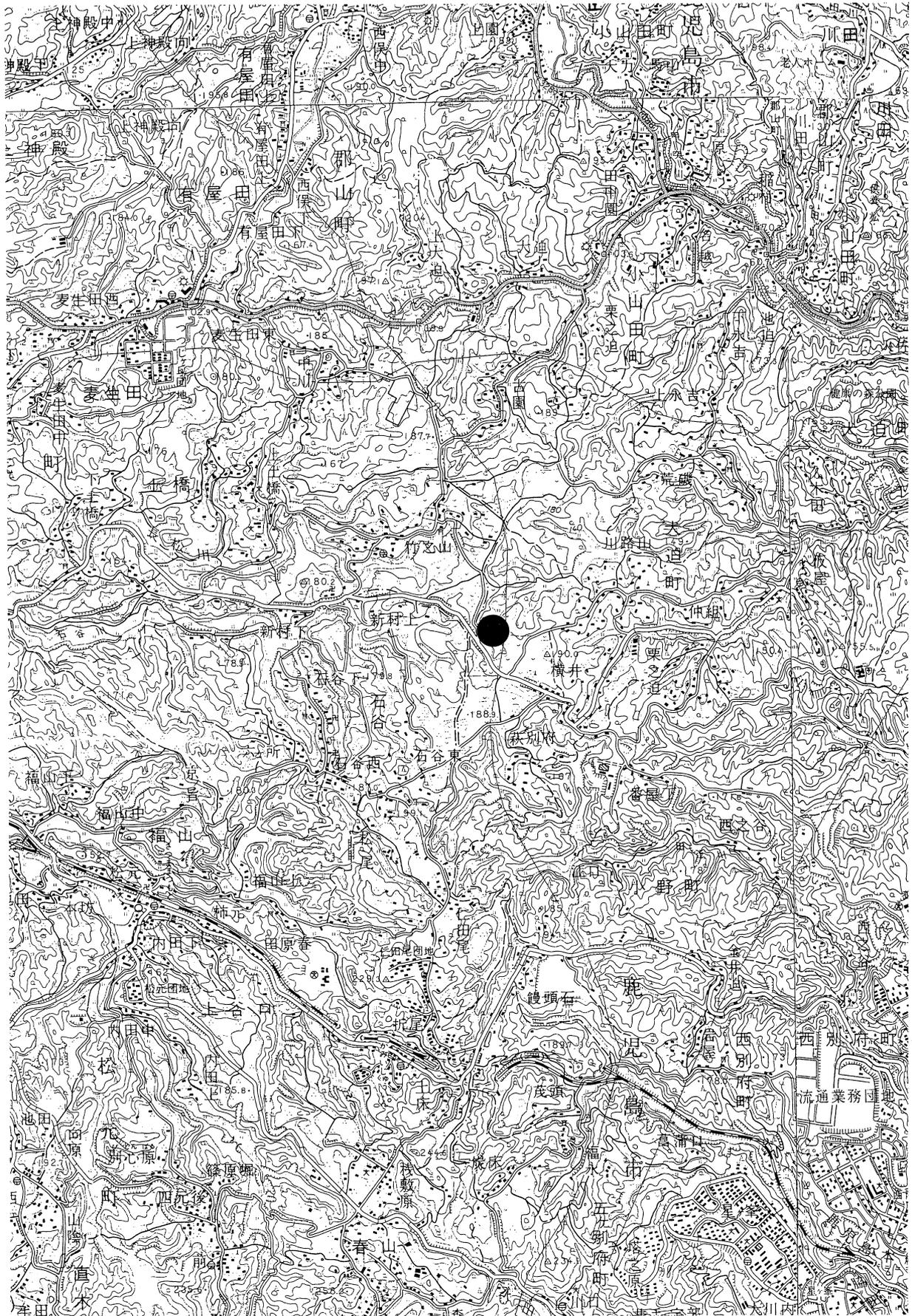
# 例 言

- 1 本書は、鹿児島県立埋蔵文化財センターが発掘調査・整理作業・報告書作成を行った横井竹ノ山遺跡の報告書である。
- 2 発掘調査は鹿児島県立埋蔵文化財センターが、鹿児島県土木部伊集院土木事務所の依頼を受け、県道小山田・谷山線改良工事に伴う事前調査として実施した。
- 3 本書に関わる整理作業及び報告書の作成、執筆、編集は鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて桑波田武志が担当した。
- 4 本遺跡では調査範囲を10m四方の大グリッドで区切り、南から北へはアラビア数字を、西から東へはアルファベットを用いて区分けした。整理作業の際には大グリッドをさらに100個の小グリッドに細分し、北から南へアラビア数字を、東から西へアルファベットの小文字を用いて区分けした。遺物座標は縦軸をX、横軸をYとし、大グリッドはA - 8区左下を(X, Y) = (0, 0)とする。
- 5 本書で用いた標高(Z座標)は全て海拔高度を示す。
- 6 石器の挿図縮尺は 層の遺物は2/3、 層の遺物は1/1を基本とし、一部大型石器については1/2としている。図版組は肉眼観察による同一産地石材と考えられる資料別に行っている。遺物挿図の番号は、文化層位別連番で、文中・属性表等の番号と一致する。
- 7 旧石器時代の石器実測については328点を民間業者に委託し、監修は桑波田が行った。その他の石器の実測は整理作業員、桑波田が行った。土器の実測は中村耕治、坂本佳代子、整理作業員、桑波田が行った。
- 8 本書における写真撮影は、現場写真については鶴田静彦、大久保浩二、桑波田が、遺物写真については横手浩二郎、西園勝彦が行った。
- 9 発掘調査における労務管理については伊集院土木事務所が新和技術コンサルタントに委託して行った。
- 10 墨書土器についてはラ・サール学園教諭 永山修一氏にご指導頂き、また、玉稿を頂いた。
- 11 土師器内容物の科学分析・原稿執筆は永濱功治が行った。
- 12 本書に掲載した出土遺物、図面、写真等は鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管・活用する。



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	よこいたけのやまいせき							
書名	横井竹ノ山遺跡							
副書名	一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第67集							
編著者名	桑波田 武志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899 - 4461 鹿児島県国分市上之段1175番地 1      0995 - 48 - 5811							
発行年月日	平成16年 3 月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査起因
		市町村	遺跡番号					
よこいたけのやま 横井竹ノ山	かごしまし 鹿児島市 いぬざちちよう 犬迫町 よこいたけのやま 横井竹ノ山	1	108	31° 37 25	130° 28 14	確認調査 H11.7.1 ～ H11.9.30 本調査 H11.10.1 ～ H11.11.12 H12.2.14 ～ H12.2.25 H12.6.1 H12.7.31	1,200m <sup>2</sup>	一般県道小 山田谷山線 改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
横井竹ノ山	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期  旧石器時代細石器文化期～縄文時代草創期  縄文時代早期  古代	ブロック  ユニット 15基  道跡  土師器塼埋納遺構	ナイフ形石器 剥片尖頭器 削器  細石刃核 石鏃 土器 スクレイパー  前平式土器 押型文土器 石鏃  土師器 須恵器，墨書土器				



遺跡位置図

S=1/50000

# 目 次

第1章 発掘調査の経過	1	その他のブロック	82
第1節 調査に至るまでの経緯	1	ブロック外出土遺物	82
第2節 確認調査	1	第5章 〃 層（縄文時代早期）の調査	101
第3節 全面調査	1	第1節 調査の方法	101
(1) 平成11年度	3	第2節 調査の内容	101
(2) 平成12年度	3	(1) 遺構	101
第4節 整理・報告書作成	4	(2) 遺物	101
第2章 遺跡の位置と環境	6	第6章 層（古代）の調査	107
第1節 地理的環境	6	第1節 調査の方法	107
第2節 歴史的環境	6	第2節 調査の内容	107
第3節 遺跡の層位	7	(1) 遺構	107
第3章 層（ナイフ形石器文化期）の調査	14	(2) 遺物	107
第1節 調査の方法	14	第7章 分析・同定	112
第2節 調査の内容	14	土師器の内容物について	112
(1) 石材	14	第8章 考察編	
(2) 遺構	18	第1節 石清水型削器について	113
(3) 遺物	18	(1) 各石器の素材剥片の検討	113
第4章 層（細石器文化期・		(2) 検討結果	113
縄文時代草創期）の調査	28	(3) 小結	114
第1節 調査の方法	28	第2節 細石刃核について	115
第2節 調査の内容	28	(1) 製作技術について	115
(1) 石材	28	(2) 石材と重量との関係について	115
(2) ブロック，ユニットの設定経過	29	(3) 石材と製作技術との関係について	115
(3) 遺構・遺物	29	(4) 小結	116
Aユニット	43	第3節 細石刃について	116
Bユニット	45	(1) 細石刃幅について	116
Cユニット	47	(2) 打面形状，頭部形状について	117
Dユニット	47	第4節 細石器と	
Eユニット	53	石鏃，土器の共伴について	119
Fユニット	53	第5節 接合資料について	120
Gユニット	59	第6節 鹿児島市横井竹ノ山遺跡の	
Hユニット	59	墨書土器について	125
Iユニット	68	第9章 まとめ	133
Jユニット	68	第1節 ナイフ形石器文化期	133
Kユニット	72	第2節 細石器文化期～縄文時代草創期	133
Lユニット	74	第3節 縄文時代早期	134
Mユニット	74	第4節 古代	134
Nユニット	80	写真図版	135
Oユニット	82		

## 挿 図 目 次

第 1 図	確認トレンチ配置と全面調査区	2	第33図	Aユニット出土遺物	43
第 2 図	一般県道小山田谷山線改良工事に伴う 遺跡位置図	5	第34図	Bユニット出土遺物(1)	44
第 3 図	調査区と周辺の地形	8	第35図	Bユニット出土遺物(2)	45
第 4 図	施工後の地形と遺跡残存範囲	9	第36図	Cユニット出土遺物	46
第 5 図	周辺遺跡地図	11	第37図	Dユニット出土遺物(1)	48
第 6 図	6区南壁土層断面図	12	第38図	Dユニット出土遺物(2)	49
第 7 図	1区南壁土層断面図	13	第39図	Dユニット出土遺物(3)	50
第 8 図	下層確認トレンチ配置図	14	第40図	Eユニット出土遺物	52
第 9 図	ナイフ形石器文化期遺物出土状況	15	第41図	Fユニット出土遺物(1)	54
第10図	接合図	16	第42図	Fユニット出土遺物(2)	55
第11図	器種別分布図	17	第43図	Fユニット出土遺物(3)	56
第12図	剥片尖頭器・ナイフ形石器(1)	19	第44図	Fユニット出土遺物(4)	57
第13図	ナイフ形石器(2)・削器(1)	20	第45図	Gユニット出土遺物	58
第14図	削器(2)	21	第46図	Hユニット出土遺物	60
第15図	削器(3)・縦長剥片(1)	23	第47図	Iユニット出土遺物(1)	61
第16図	削器(4)・縦長剥片(2)・叩石	25	第48図	Iユニット出土遺物(2)	62
第17図	石核等	26	第49図	Iユニット出土遺物(3)	63
第18 - 1 図	層遺物出土状況図(1)	30	第50図	Iユニット出土遺物(4)	64
第18 - 2 図	層遺物出土状況図(2)	31	第51図	Jユニット出土遺物(1)	66
第19図	層石器石材比率	32	第52図	Jユニット出土遺物(2)	67
第20図	ブロック分類図(黒曜石A)	33	第53図	Kユニット出土遺物(1)	69
第21図	ブロック分類図(黒曜石B)	33	第54図	Kユニット出土遺物(2)	70
第22図	ブロック分類図(黒曜石C)	34	第55図	Kユニット出土遺物(3)	71
第23図	ブロック分類図(黒曜石D)	34	第56図	Lユニット出土遺物	73
第24図	ブロック分類図(黒色安山岩)	35	第57図	Mユニット出土遺物(1)	75
第25図	ブロック分類図(その他)	35	第58図	Mユニット出土遺物(2)	76
第26図	垂直断面位置図	36	第59図	Mユニット出土遺物(3)	77
第27図	ブロック間垂直分布比較(1)	37	第60図	Mユニット出土遺物(4)	78
第28図	ブロック間垂直分布比較(2)	38	第61図	Nユニット出土遺物	80
第29図	ブロック間垂直分布比較(3)	39	第62図	Oユニット出土遺物	81
第30図	ブロック間垂直分布比較(4)	40	第63図	その他のブロック	83
第31図	ブロック間垂直分布比較(5)	41	第64図	ブロック外出土の遺物(1)	84
第32図	ユニット分類図	42	第65図	ブロック外出土の遺物(2)	85
			第66図	ブロック外出土の遺物(3)	86

第67図	ブロック外出土の遺物(4)	87	第80図	古代遺物出土状況	108
第68図	ブロック外出土の遺物(5)	88	第81図	古代出土遺物	109
第69図	細石刃核出土状況(1)	94	第82図	合わせ口土師壺検出状況	110
第70図	細石刃核出土状況(2)	95	第83図	合わせ口土師壺	111
第71図	細石刃出土状況	96	第84図	合わせ口土師壺内容物データ	112
第72図	石鏃出土状況	97	第85図	栴城中世人骨データ	112
第73図	ブランク出土状況	98	第86図	各石器の長幅比	114
第74図	その他の石器	99	第87図	細石刃幅の度数分布	117
第75図	早期道跡検出状況	102	第88図	細石刃(完形品)長幅比	117
第76図	縄文時代早期遺物出土状況	103	第89図	他遺跡の細石刃幅の度数分布	118
第77図	縄文時代早期出土遺物(1)	104	第90図	層接合資料(1)	121
第78図	縄文時代早期出土遺物(2)	105	第91図	層接合資料(2)	123
第79図	縄文時代早期出土遺物(3)	106	第92図	層接合資料(3)	124

## 表 目 次

表 1	一般県道小山田谷山線改良工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧	5	表15	Lユニット実測遺物観察表	73
表 2	横井竹ノ山遺跡周辺遺跡一覧	10	表16 - 1	Mユニット実測遺物観察表	78
表 3	層実測遺物観察表	27	表16 - 2	Mユニット実測遺物観察表	79
表 4	Aユニット実測遺物観察表	43	表17	Nユニット実測遺物観察表	80
表 5	Bユニット実測遺物観察表	45	表18	Oユニット実測遺物観察表	82
表 6	Cユニット実測遺物観察表	47	表19	その他のブロック実測遺物観察表	88
表 7	Dユニット実測遺物観察表	51	表20	ブロック外実測遺物観察表	89
表 8	Eユニット実測遺物観察表	53	表21	細石刃核観察表(1)	90
表 9	Fユニット実測遺物観察表	57	表21	細石刃核観察表(2)	91
表10	Gユニット実測遺物観察表	59	表21	細石刃核観察表(3)	92
表11	Hユニット実測遺物観察表	60	表21	細石刃核観察表(4)	93
表12	Iユニット実測遺物観察表	65	表22	ブロック観察表	100
表13	Jユニット実測遺物観察表	68	表23	縄文早期実測遺物観察表	106
表14	Kユニット実測遺物観察表	72	表24	古代実測遺物観察表	108
			表25	細石刃核の石材と分類	116

## 図 版 目 次

Plate 1	1	遺跡遠景	135	2	Cユニット出土遺物	144
	2	11年度確認調査近景	135	Plate11	Bユニット出土遺物	145
	3	12年度全面調査区近景	135	Plate12	Dユニット出土遺物(1)	146
	4	遺跡東側谷の湧水地と迫田	135	Plate13	Dユニット出土遺物(2)	147
	5	土層断面	135	Plate14	1 Eユニット出土遺物	148
Plate 2	1	古代遺物出土状況	136		2 Gユニット出土遺物	148
	2	合わせ口土師器検出状況	136		3 Hユニット出土遺物	148
	3	合わせ口土師器検出状況	136	Plate15	Fユニット出土遺物(1)	149
	4	合わせ口土師器下塊検出状況	136	Plate16	Fユニット出土遺物(2)	150
	5	合わせ口土師器(復元)	136	Plate17	Iユニット出土遺物(1)	151
Plate 3	1	縄文時代早期遺物出土状況	137	Plate18	Iユニット出土遺物(2)	152
	2	縄文時代早期道跡検出状況	137	Plate19	1 Iユニット出土遺物(3)	153
	3	道跡(谷側から)	137		2 Lユニット出土遺物	153
	4	道跡埋土断面	137	Plate20	Jユニット出土遺物	154
	5	道跡完掘状況	137	Plate21	Kユニット出土遺物(1)	155
Plate 4	1	細石器文化期調査風景(11年度)	138	Plate22	Kユニット出土遺物(2)	156
	2	F・D・Hユニット検出状況	138	Plate23	Mユニット出土遺物(1)	157
	3	I・J・K・Lユニット検出状況	138	Plate24	1 Mユニット出土遺物(2)	158
	4	Mユニット南側検出状況	138		2 Nユニット出土遺物	158
	5	Mユニット北側検出状況	138	Plate25	1 Oユニット出土遺物	159
	6	N・Oユニット検出状況	138		2 細石刃打面	159
Plate 5	1	縄文草創期土器(387)出土状況	139	Plate26	ブロック外出土遺物(1)	160
	2	草創期土器と細石器(Oユニット)	139	Plate27	1 ブロック外出土遺物(2)	161
	3	細石刃核出土状況	139		2 ブロック外出土遺物(3)	161
	4	細石刃出土状況	139	Plate28	細石刃(1)	162
	5	縄文草創期石斧(325)出土状況	139	Plate29	細石刃(2)	163
	6	叩石(148)出土状況	139	Plate30	礫石器	164
Plate 6	1	ナイフ形石器文化期調査風景	140	Plate31	1 縄文時代早期土器	165
	2	ナイフ形石器文化期 遺物出土状況	140		2 前平式土器(角筒)	165
	3	剥片尖頭器(1)出土状況	140	Plate32	1 縄文時代早期石器	166
	4	削器(17・18・19)出土状況	140		2 縄文時代早期・古代土器	166
	5	削器(12)出土状況	140	Plate33	古代土師器	167
	6	12年度調査区完掘状況	140	Plate34	1 土師器塊(9)「肥道里」	168
Plate 7		層出土遺物(1)	141		3 土師器塊(10)「子」	168
Plate 8		層出土遺物(2)	142		4 土師器塊(10)「☆」	168
Plate 9		層出土遺物(3)	143	Plate35	1 整理作業員	169
Plate10	1	Aユニット出土遺物	144		2 工事施工後の遺跡遠景	169

# 第1章 発掘調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県土木部道路建設課（伊集院土木事務所・鹿児島土木事務所）は、県道小山田谷山線改良工事を計画、平成7年度に県文化課・県立埋蔵文化財センターで計画長7,900mについて分布調査を実施し、計画的に事業を実施してきた。平成11年度の事業実施中、計画変更による新たな事業区域内において横井竹ノ山遺跡の存在が判明し、その取り扱いについて県土木部道路建設課、伊集院土木事務所、県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センターの4者により協議を行った。協議の結果、同年度7月から確認調査を実施した。確認調査の結果、旧石器時代細石器文化期・縄文時代草創期2,400㎡、縄文時代早期200㎡の2枚の遺物包含層が確認された。確認調査で得られた遺跡範囲について、平成11年10月、平成12年2月、平成12年6～7月の3回に分けて本調査を実施した。整理・報告書作成は平成15年度に実施した。

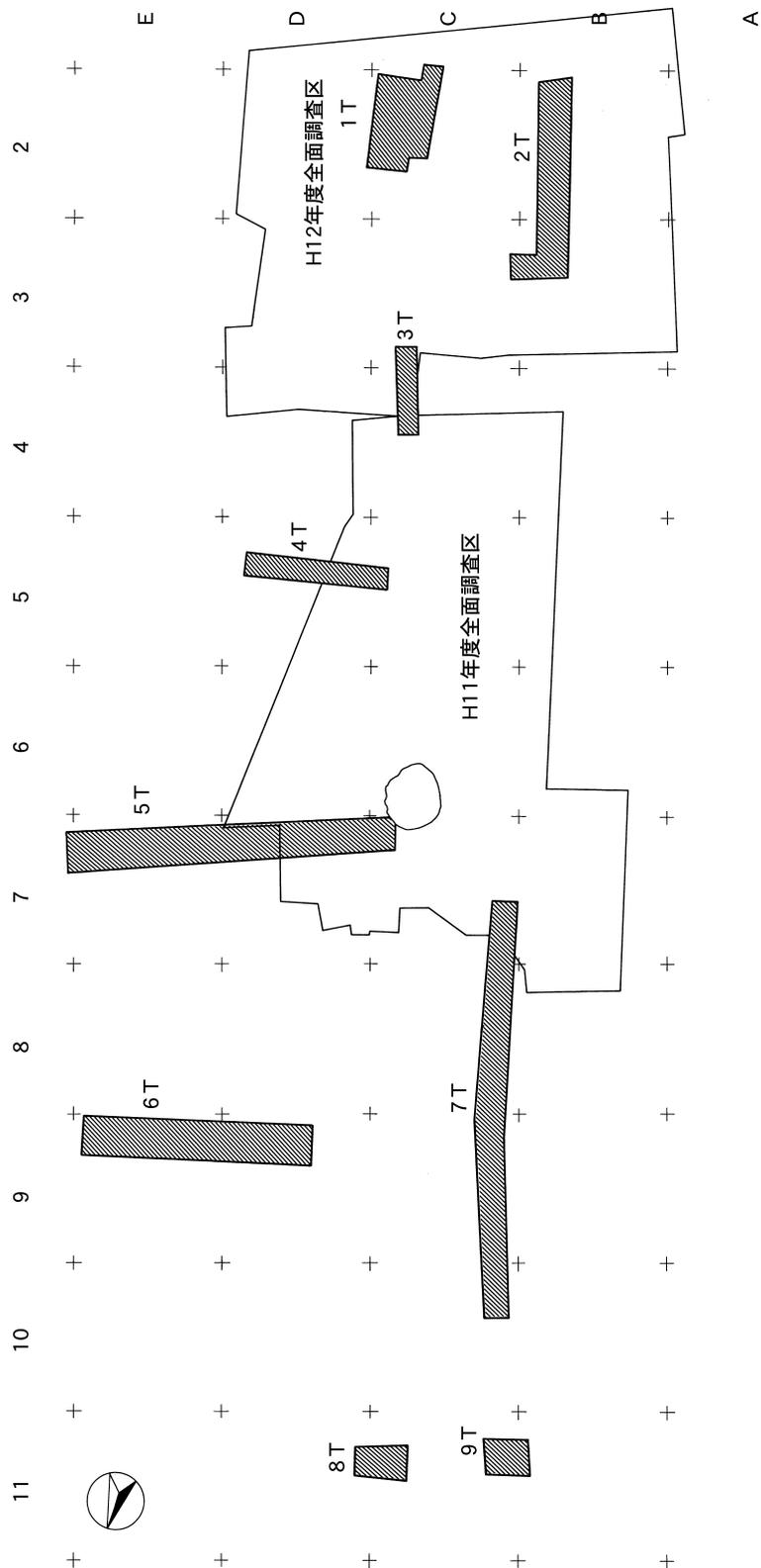
## 第2節 確認調査（瀬戸頭C遺跡の調査と並行して実施）

確認調査は平成11年7月1日～9月30日に行った。調査は16か所のトレンチを設定して行った。調査の組織は以下の通りである。

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（伊集院土木事務所）		
調査主体者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	吉 永 和 人
	"	次 長	黒 木 友 幸
	"	調 査 課 長	戸 崎 勝 洋
	"	調 査 課 長 補 佐 兼 第 一 調 査 係 長	新 東 晃 一
	"	主任文化財主事	中 村 耕 治
調査担当者	鹿児島県教育庁文化財課	文化財主事	倉 元 良 文
	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財主事	鶴 田 静 彦
	"	文化財研究員	桑 波 田 武 志
調査事務	"	総 務 係 長	有 村 貢
	"	主 査	政 倉 孝 弘
	"	主 査	今 村 孝 一 郎
	"	主 事	溜 池 佳 子

## 第3節 本調査

本調査は平成11年度に2回、平成12年度に1回の計3回に分けて実施された。なお、平成12年度は伊集院土木事務所が緊急地域雇用特別基金事業を導入し、労務管理等を民間業者に委託して調査を実施した。各調査の組織は以下の通りである。



第1図 確認トレンチ配置と全面調査区

(1) 平成11年度

一次調査 平成11年10月1日～11月12日（仁田尾中B遺跡の確認調査と並行して実施）

二次調査 平成12年2月14日～2月25日（仁田尾遺跡の本調査と並行して実施）

事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課（伊集院土木事務所）

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	吉 永 和 人
	"	次 長	黒 木 友 幸
	"	調 査 課 長	戸 崎 勝 洋
	"	調 査 課 長 補 佐 兼 第 一 調 査 係 長	新 東 晃 一
	"	主任文化財主事	中 村 耕 治
調査担当者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文 化 財 主 事	大久保 浩 二（一次）
	"	文 化 財 研 究 員	桑波田 武 志（一次・二次）
	"	文 化 財 研 究 員	西 園 勝 彦（二次）
調 査 事 務	"	総 務 係 長	有 村 貢
	"	主 査	政 倉 孝 弘
	"	主 査	今 村 孝 一 郎
	"	主 事	溜 池 佳 子

発掘作業員

天野豊子，有馬幸子，宇都妙子，柿内弘己，仮屋アキ，仮屋郁夫，仮屋八重子，川路美智子，岸上正子，久保紀子，坂下安夫，園田辰男，茶屋道良子，橋木妙子，馬場園弘子，堀内朗子，前村サチエ，前村時夫，松尾スミエ，松元チツ子，宮下巧，宮下マキ子，宮之脇綾子，森田辰夫，森田カズ子，山口節子，弓場杉子，弓場ナツ子，弓場ヨシ子，脇マス子

(2) 平成12年度

三次調査 平成12年6月1日～7月31日（瀬戸頭A遺跡と並行して実施）

事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課（伊集院土木事務所）

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井 上 明 文
	"	次 長	黒 木 友 幸
	"	調 査 課 長	新 東 晃 一
	"	調 査 課 長 補 佐	立 神 次 郎
	"	主任文化財主事 兼 第 一 調 査 係 長	青 崎 和 憲
	"	主任文化財主事	中 村 耕 治
調査担当者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文 化 財 主 事	藤 崎 光 洋

	〃	文化財研究員	桑波田 武 志
調査事務	〃	総務係長	有 村 貢
	〃	主 事	溜 池 佳 子

労務管理・作業員雇用（委託） 新和技術コンサルタント

#### 第4節 整理・報告書作成

平成15年度

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（伊集院土木事務所）		
作成主体者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課		
責 任 者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	木 原 俊 孝
	〃	次 長	田 中 文 雄
	〃	調 査 課 長	新 東 晃 一
	〃	調 査 課 長 補 佐	立 神 次 郎
	〃	主任文化財主事 兼第一調査係長	池 畑 耕 一
	〃	主任文化財主事	中 村 耕 治
担 当	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財研究員	桑波田 武 志
事 務	〃	総 務 係 長	平 野 浩 二
	〃	主 事	福 山 恵 一 郎
報告書作成指導委員会	平成15年12月24日		調査課長ほか5名
報告書作成検討委員会	平成15年12月24日		所長ほか8名
企 画 担 当 者			宮田 栄二

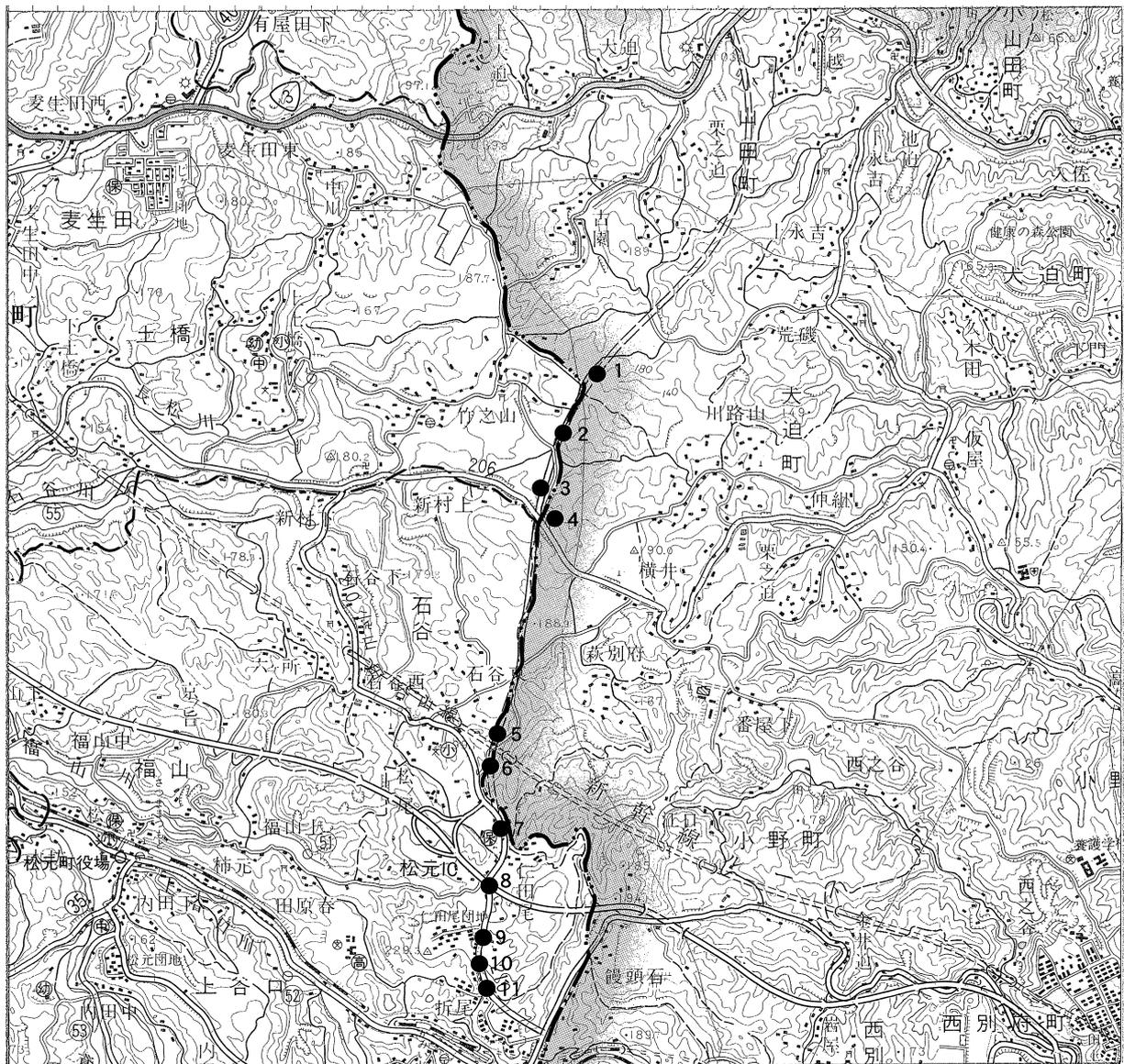
整理作業員 網屋にしき，坂元昭子，園田和江，湯之上さゆり

また，発掘調査，整理作業，報告書作成事業を通じて下記の方々にお世話になった。

栗畑光博，松本茂，永山修一，和田るみ子，東野治之，柴田博子

表1 一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	確認調査	全面調査	調査面積	時代	備考
1	瀬戸頭A	伊集院町竹之山	H9	H11・12・13	6,000	旧石器・縄文・古代	
2	瀬戸頭B	伊集院町竹之山	H9	H13	2,400	旧石器・縄文	
3	瀬戸頭C	伊集院町竹之山	H9	H11	2,000	旧石器	
4	横井竹ノ山	鹿兒島市犬迫町横井	H11	H11・12	1,400	旧石器・縄文・古代	本報告書
5	伏野	松元町石谷伏野	H12	H14	360	旧石器	
6	隠迫	松元町石谷隠迫	H12	H14	2,000	旧石器2・縄文・古代	
7	杵堀	松元町石谷杵堀	H12	H14・15	2,200	縄文	
8	仁田尾	松元町石谷仁田尾	H9	H10・11・14・15	4,110	旧石器2・縄文	
9	御飯屋跡	松元町石谷仁田尾	H14	H14・15	1,800	旧石器2	
10	仁田尾中A	松元町石谷仁田尾	H12	H14・15	1,000	旧石器	
11	仁田尾中B	松元町石谷仁田尾	H11・12	H12～15	7,800	旧石器2・縄文・古代	



第2図 一般県道小山田谷山線改良工事に伴う遺跡位置図

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

横井竹ノ山遺跡は、鹿児島市犬迫町横井竹之山に位置する。遺跡の所在地はちょうど鹿児島市、伊集院町、松元町の3市町の境にあたり、県道徳重・横井・鹿児島線沿いの北側に位置する。遺跡の標高は約185mで、鹿児島市と伊集院町・松元町との分水嶺に当たり、東西方向へ複雑に谷が開析している。河川は遺跡を囲むように東から北に荒磯川、永吉川、古園川、北から西に大倉田川、長松川、石谷川、南側に新川の支流である西之谷川が流れている。特に遺跡の東側には現在も湧水を利用した迫田が営まれており、本遺跡が古来より水の便に恵まれていたことがわかる。なお、遺跡東側の迫田と本遺跡との比高差は約120mである。

### 第2節 歴史的環境

横井竹ノ山遺跡が所在する薩摩半島中央部の台地は古くから遺跡の所在が知られているところである。古くは昭和12年に当遺跡から2km強南側に位置する西ノ原A遺跡で弥生時代の壺が採集され、また、昭和27年に3km南側に位置する木ヶ暮遺跡で河口貞徳らにより調査が行われ、縄文時代、弥生時代の遺跡が確認されている。昭和60年代初めには栗畑光博の踏査により当遺跡を含め、当遺跡以北についても次々と遺跡の所在が明らかとなっていった。また、平成4年以降は南九州西回り自動車道路、県道改良工事等に伴い、遺跡の大規模調査が次々と実施され、当地地全体に旧石器から縄文にかけての重要な遺跡が多数所在していることが判明した。

また、横井竹ノ山遺跡は個人所有地の地下げに伴い昭和63年度に鹿児島市教育委員会によって一部本調査が実施され、細石器と土器、石鏃が共伴し、旧石器時代終末から縄文時代の始まり頃の遺跡として注目された。昭和63年の調査区は平成12年度調査区東端から約40m東側にあたり、立地としては連続した同じ台地上にある。

中世には出水街道沿いに城が築かれ、南西約1.5kmに石谷城（弘治元年～文永6年）、同約4kmに谷口城（享禄年間～天文6年）等が所在し、町田氏、伊集院氏、肥後氏の居城として利用されている。さらに西側6.4kmには伊作島津氏の拠点となった一宇治城もある。

遺跡の南側には県道徳重・横井・鹿児島線が東西に走っているが、当線は江戸時代には鹿児島城下から西田橋、水上坂を経て江戸へ向かう参勤交代の官道（出水筋）として使用され続けてきた歴史的にも重要な道であり、現在も妙円寺参り等の歴史的行事に利用されている。横井竹ノ山遺跡が所在する地域は横井野町（ヨケンノマツ）と呼ばれ、街道沿いに旅人の宿泊所や休憩場所等があり、野町として栄えていたということである。

#### 参考文献

栗畑光博 1987「薩摩半島の考古学(2)」鹿児島考古第21号

鹿児島県教育委員会 1987 『鹿児島県の中世城館跡』鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(43)

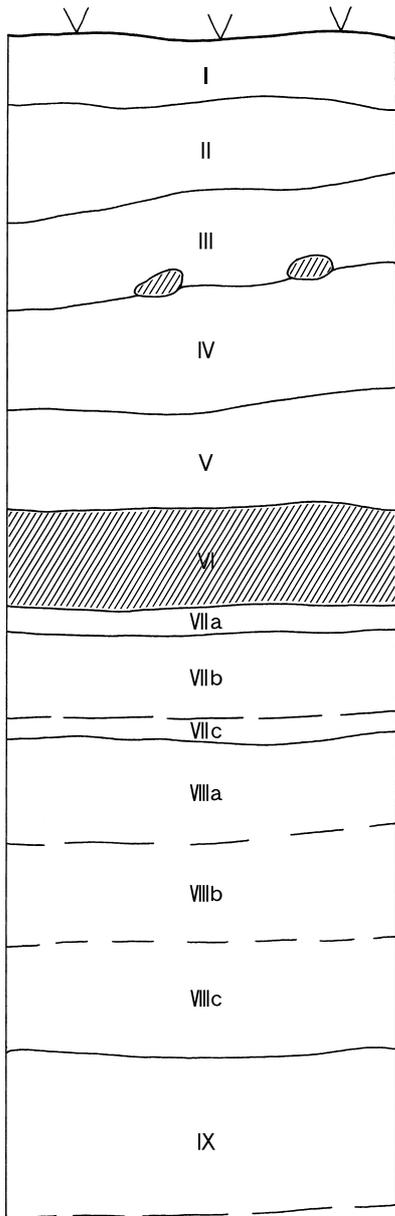
鹿児島市教育委員会 1990 『横井竹ノ山遺跡』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(10)

鹿児島県教育委員会 1998 『出水筋』報告書

三木靖・向山勝貞編 2003 『薩摩と出水街道』街道の日本史54

### 第3節 遺跡の層位

遺跡はほぼ南北に走る瘦せた尾根上に位置しており、高い部分を削平することにより平坦な現地形を作り出している。そのため尾根部に当たる地層は上位の層を残さず、東側の傾斜地に純粋な地層を残している状況である。各層の特徴は以下のとおりである。



層

表土及び客土。東側で厚い。

層

黒色土。東側にのみ残存し、古代の遺物包含層である。

層

黄橙色土。アカホヤ火山灰の二次堆積土と考えられ、所々下位に一次ブロックがみられる。

層

黄褐色土。縄文時代早期の包含層である。

層

黒褐色土。無遺物層である。

層

薩摩火山灰層。

層

黒褐色粘質土。通称チョコ層。縄文時代草創期～旧石器時代細石器文化期の遺物包含層。色調により3つに分けられ、上位がやや色調が暗い a 層，中位がやや明るめの b 層，下位が暗い c 層である。

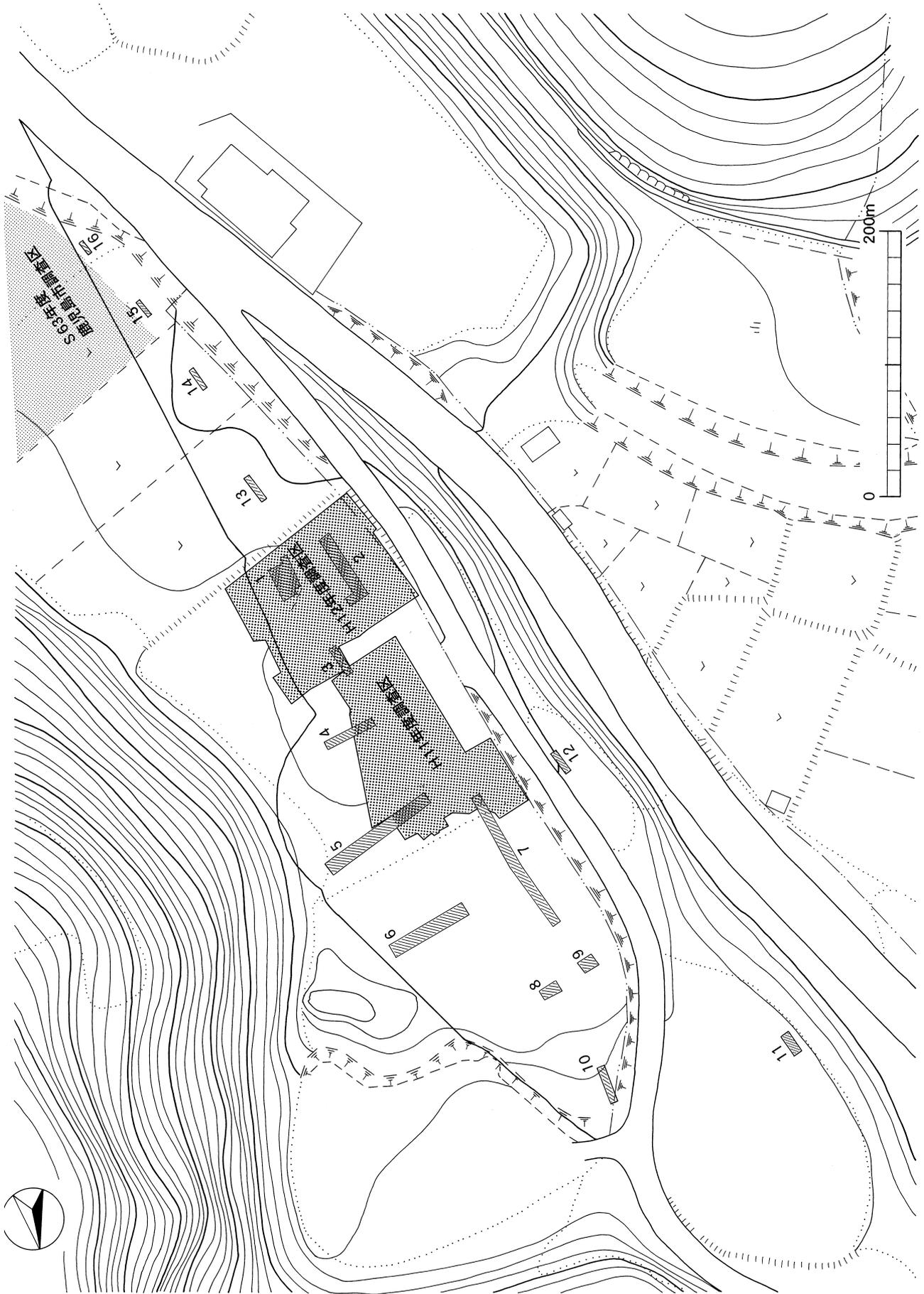
層

黄褐色土。AT火山灰の二次堆積層と考えられる。旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺物包含層である。色調により3つに細分できる。

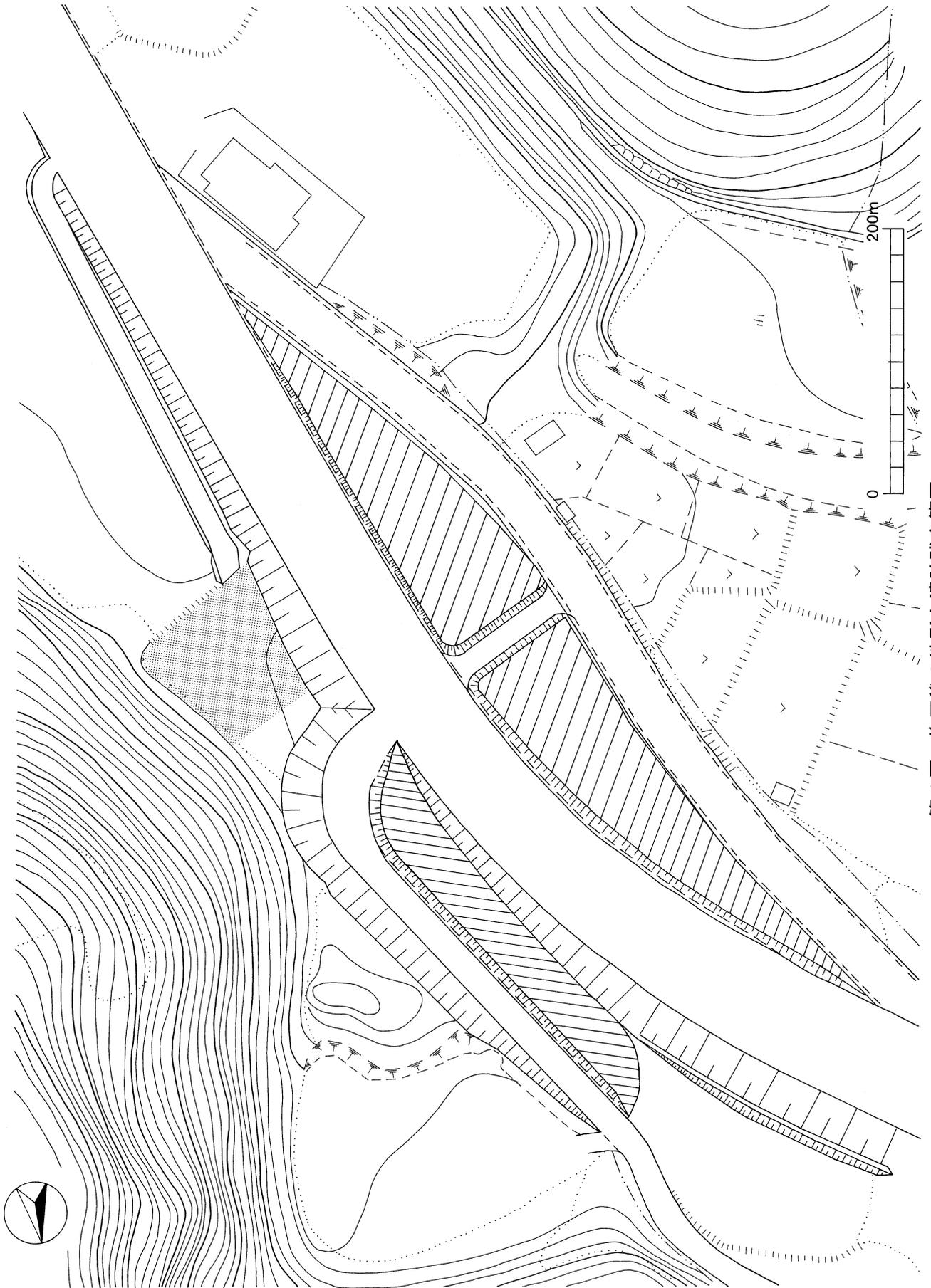
層

黄褐色土で、黄色のパミスを含む。当遺跡の基盤層であるシラスへと続く。

土層模式図



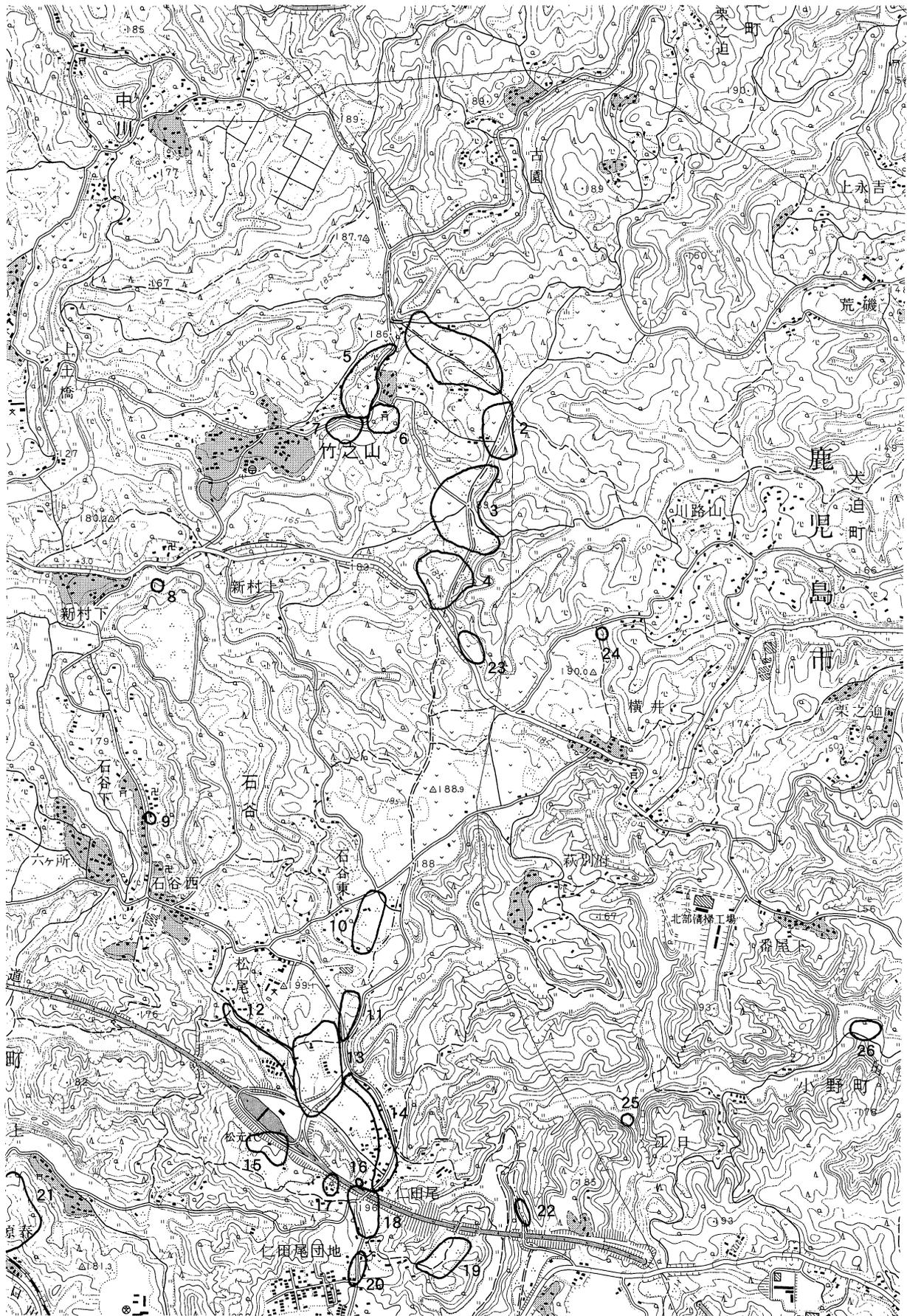
第3図 調査区と周辺の地形



第4図 施工後の地形と遺跡残存範囲

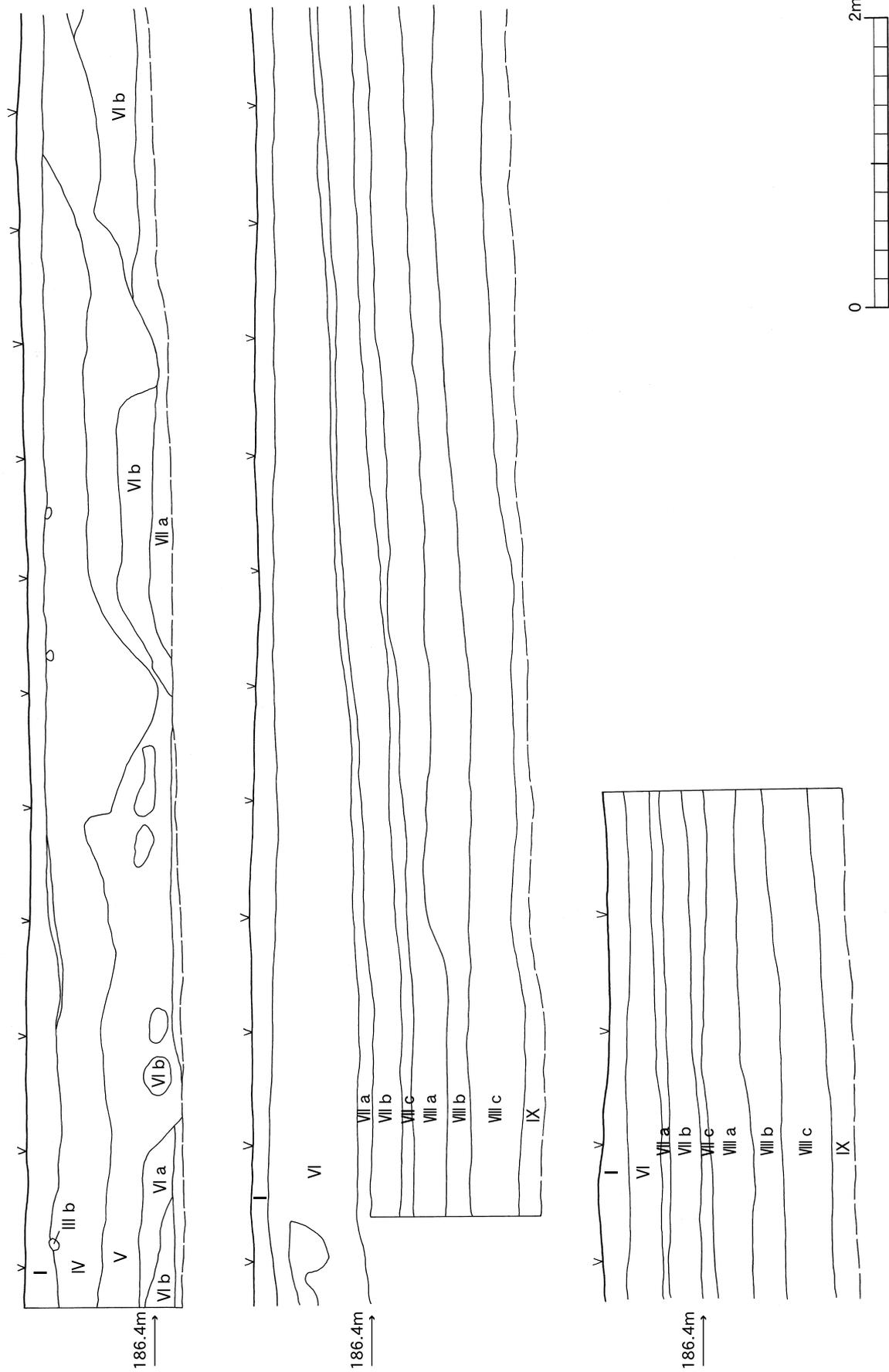
表2 横井竹ノ山遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	30 - 55	瀬戸頭	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器, 縄文, 中世	土器片	平成2年分布調査
2	30 - 75	瀬戸頭A	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器, 縄文	ナイフ形石器・細石器	平成10～12年度本調査
3	30 - 76	瀬戸頭B	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器, 縄文	細石器	平成13年度本調査
4	30 - 77	瀬戸頭C	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器, 縄文	台形石器	平成11年度本調査
5	30 - 78	竹之山	日置郡伊集院町竹之山	台地	縄文		分布調査
6	30 - 7	前迫	日置郡伊集院町土橋竹山前迫熊野神社	台地		磨製石斧	
7	30 - 14	長崎城跡	日置郡伊集院町竹之山	山地	中世		
8	31 - 1	小松迫	日置郡松元町石谷小竹山	台地	縄文早期	石坂式土器	
9	31 - 2	石谷城跡	日置郡松元町石谷杵頭	台地	中世(室町後期)	堀割跡	
10	31 - 3	伏野	日置郡松元町石谷伏野	台地	旧石器	剥片	平成14年度本調査
11	31 - 4	隠迫	日置郡松元町石谷濡ヶ丸	台地	旧石器・縄文	土器・石器	平成14年度本調査
12	31 - 5	宮ヶ迫	日置郡松元町石谷前山	台地	旧石器	ナイフ形石器・細石器	平成8～10年度本調査, 町埋文報告書③
13	31 - 6	杵堀A	日置郡松元町石谷杵堀	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・石鏃・石槍・前平式土器	平成4～9年度本調査
14	31 - 7	杵堀B	日置郡松元町石谷杵堀	台地			平成12年度確認調査
15	31 - 8	前山	日置郡松元町石谷西ノ原	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・ナイフ形石器, 成川式土器	平成7～8年度本調査
16	31 - 9	西ノ原A	日置郡松元町石谷田ノ免	台地	弥生後期	土器(完全小型壺)	「鹿県考古学会紀要」2号, 昭和12年発見
17	31 - 10	西ノ原B	日置郡松元町石谷西ノ原	台地	旧石器	細石器・ナイフ形石器	平成6年度本調査, 県埋文報告書③
18	31 - 11	仁田尾	日置郡松元町石谷仁田尾	台地	旧石器・縄文	細石器・ナイフ形石器	平成5～9・11年度本調査
19	31 - 12	宮尾	日置郡松元町石谷宮尾	台地	縄文・古代	土坑・青磁片	平成8年度本調査
20	31 - 13	御飯屋跡	日置郡松元町石谷仁田尾	台地			平成8年度分布調査
21	31 - 19	谷口城跡	日置郡松元町福山	丘陵	中世(室町後期)	水無壕跡	
22	1 - 10	木ヶ暮	鹿児島市西別府町木ヶ暮	台地	縄文中期・後期	阿高式・指宿式・市来式土器・石皿等	昭和27年調査「鹿県考古学会紀要」(2), 市埋文報(4)(9)
23	1 - 108	横井竹ノ山	鹿児島市犬迫町横井竹ノ山	台地	旧石器～縄文	ナイフ・細石器・土器	市埋文報(10)
24	1 - 109	川路山	鹿児島市犬迫町川路山	台地	縄文早期・古墳	石坂式土器	
25	1 - 130	尾崎	鹿児島市西別府町尾崎	台地			
26	1 - 147	広坂下北	鹿児島市小野町西之谷	台地	縄文～古墳		平成14年確認調査

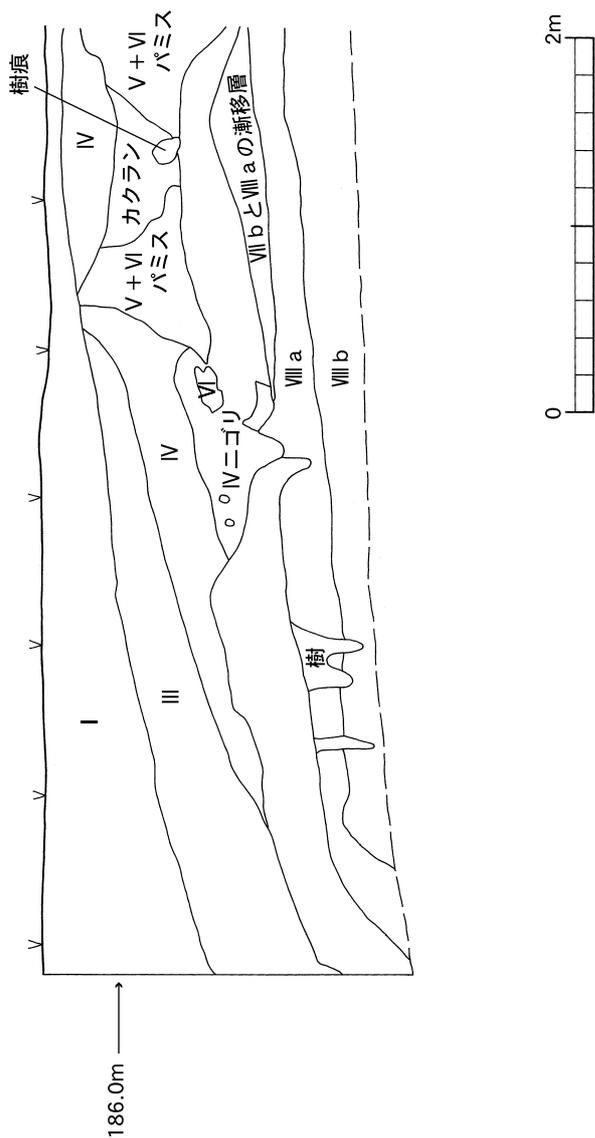
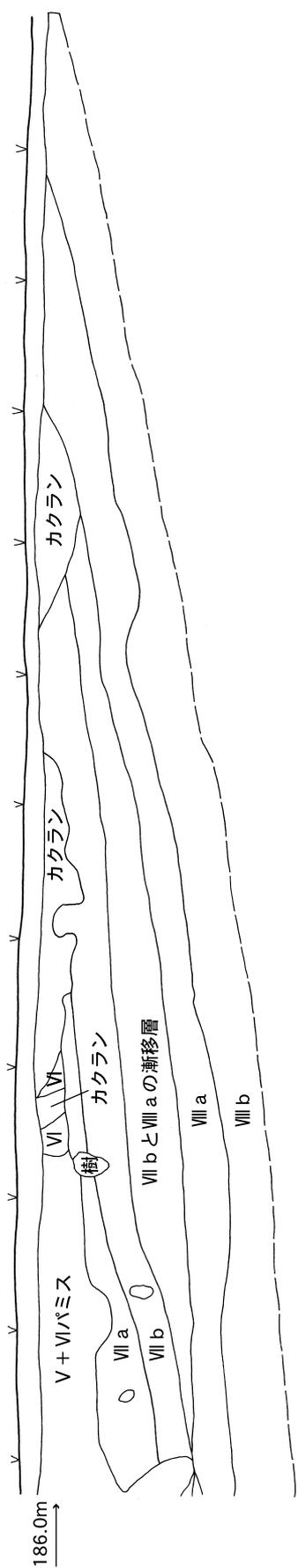


第5図 周辺遺跡地図

S =  $\frac{1}{25000}$



第6图 6区南壁土层断面图



第7図 1区南壁土層断面図

# 第3章 VIII層（ナイフ形石器文化期）の調査

## 第1節 調査の方法

層は確認調査の時点では包含層が確認されておらず，平成11年度の本調査時の最終下層確認調査で確認された。下層確認調査は第8図のとおり約250㎡の範囲について実施し，遺物が確認された350㎡について本調査を実施した。

## 第2節 発掘調査の内容

### (1) 石材

#### 頁岩 A

表面は風化により黄褐色を呈するが，内面は青灰色を呈する。

#### 頁岩 B

暗灰色を呈する。

#### シルト質頁岩

黄褐色を呈し，表面は風化により非常にもろい。風化していない内面は黒褐色を呈している。

#### 珪質頁岩

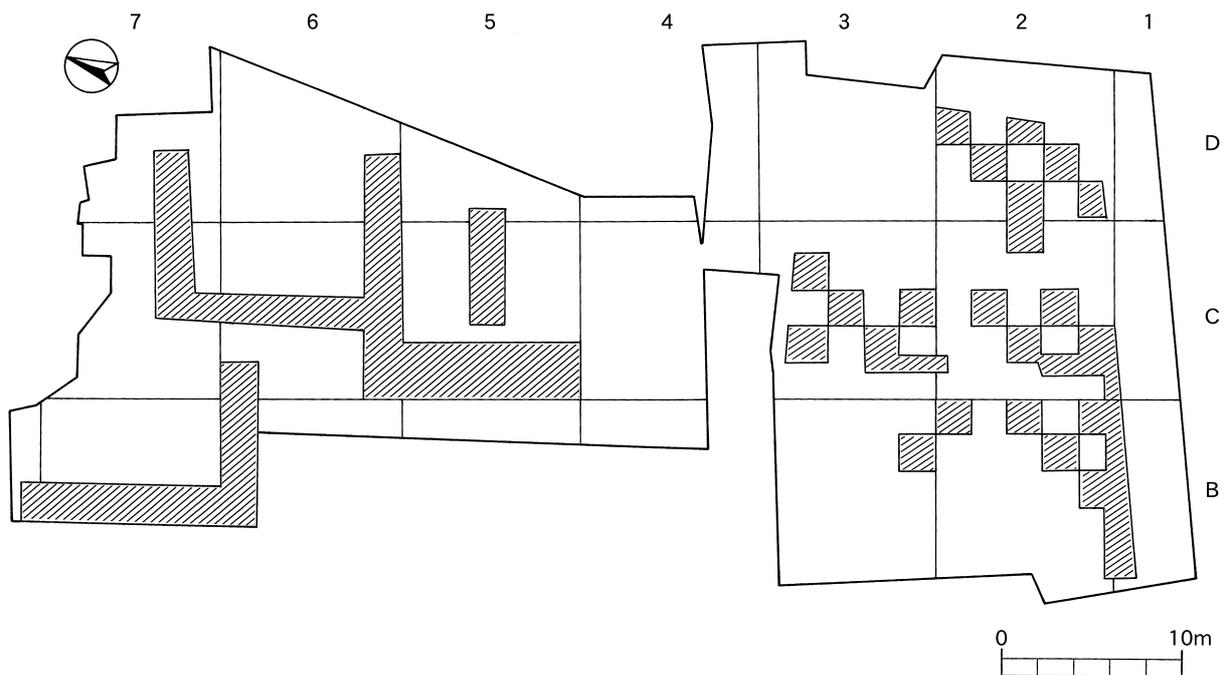
表面は青灰色を呈する。白色の極細粒が多数みられる。

#### 硬質頁岩

表面は青灰色を呈する。所々に白色の縞状の流理が観察される。

#### 硬質砂岩

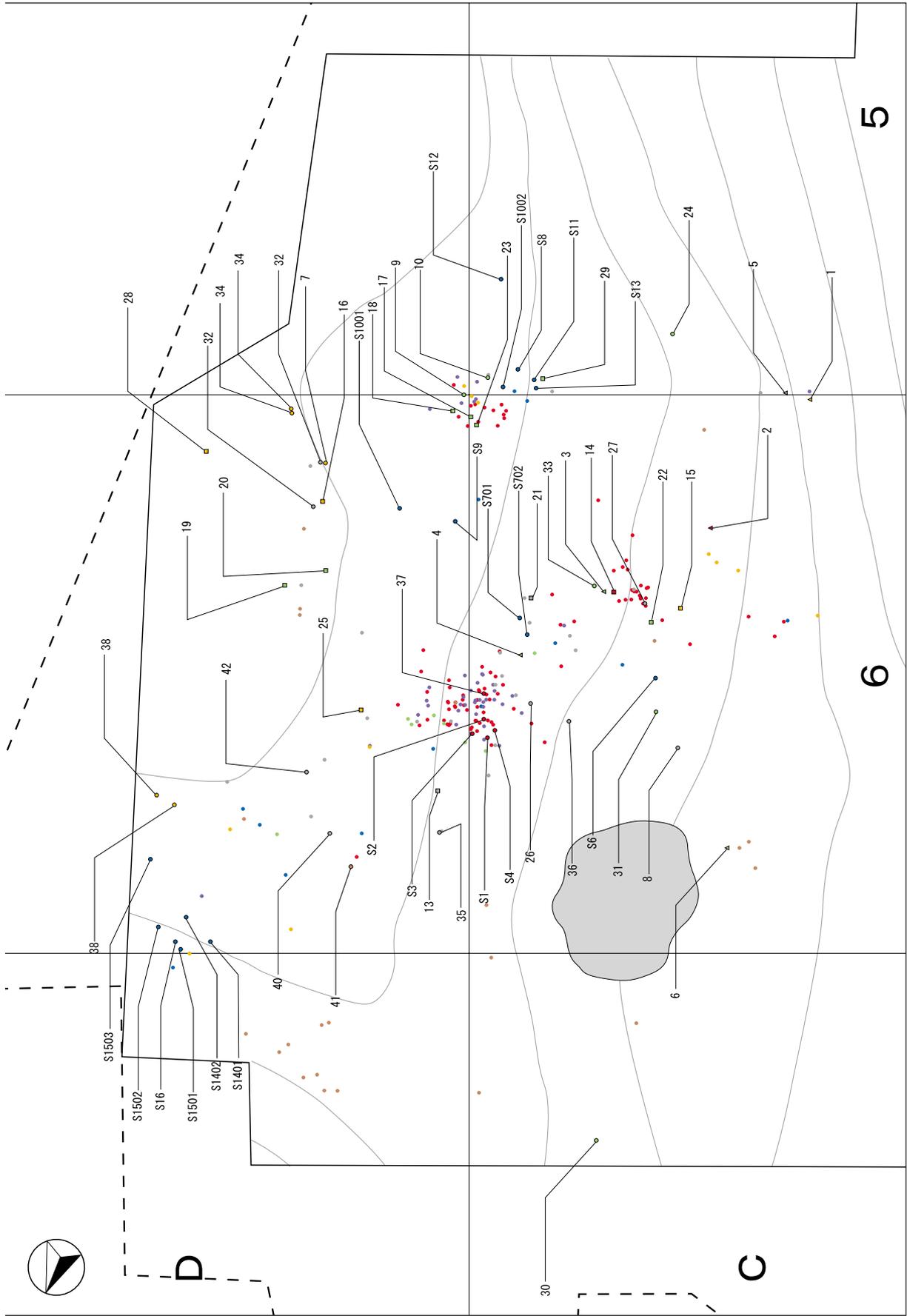
表面は灰色を呈する。



第8図 下層確認トレンチ配置図



第9図 ナイフ形石器文化期遺物出土状況

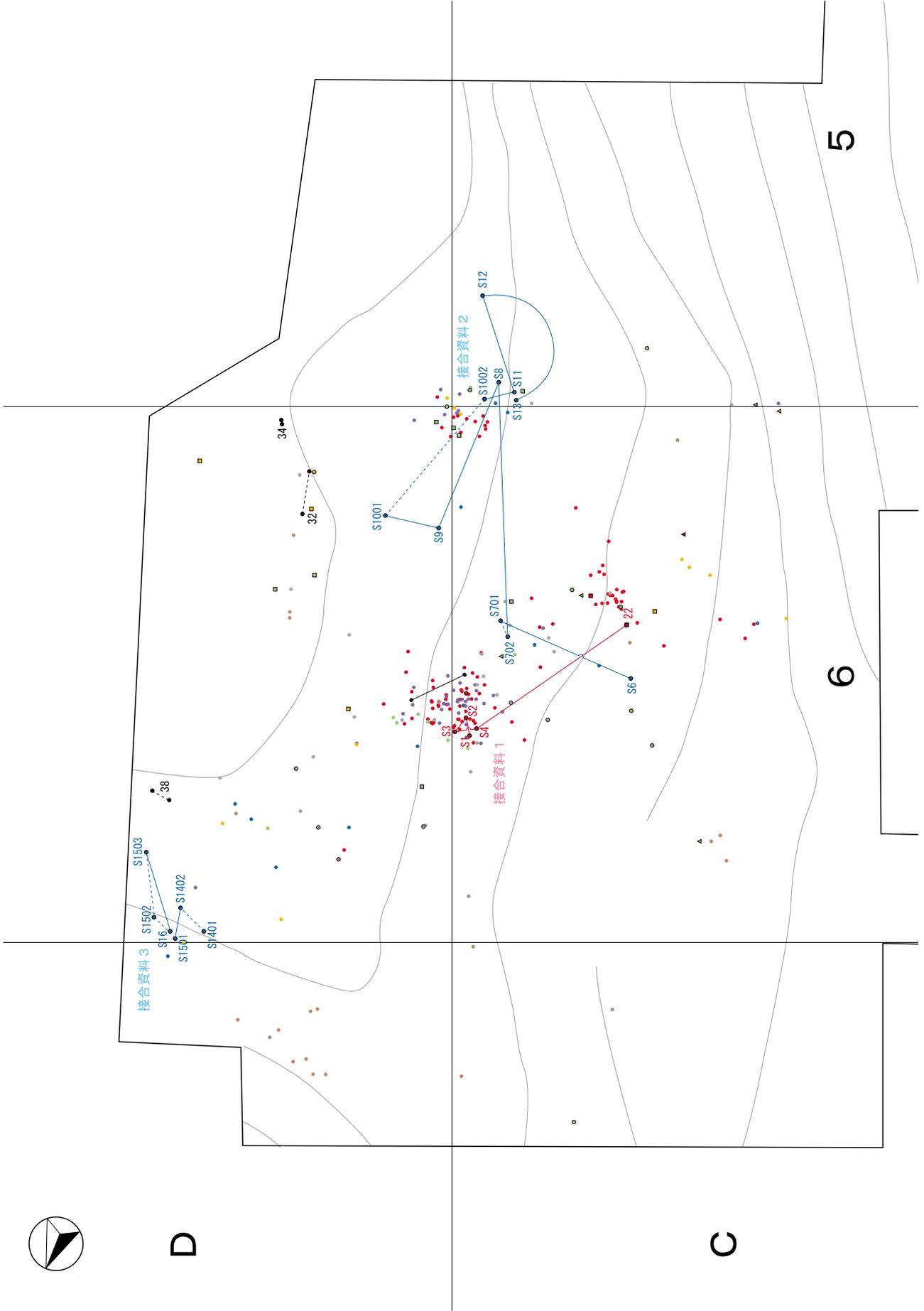


第10图 实例石器位置图



D

C



5

6

第11図 接合図

## 第4章 VII層（細石器文化期・縄文時代草創期）の調査

### 第1節 調査の方法

確認調査で確認された当該期の遺跡範囲2,400㎡について調査を実施したが、表土を剥ぐ段階で包含層が残存していない範囲があることが判明し、最終的には遺物が出土する範囲は1,400㎡となった。

表土剥ぎ前は平坦な土地であったが、表土剥ぎを実施した結果、旧地形は南北方向へ連なるやせ尾根状の地形であることが判明した。同時に現地形はやせ尾根の高い部分を削平し、低い部分を埋め立てることで形成されたものであることも判明した。そのため、C-7区～B-4区にかけての尾根上は削平により包含層が残存していなかった。遺跡は尾根から東西両側への緩斜面に形成されていた。

調査は2m×2mのメッシュを張り、千鳥格子状に掘り下げ、遺物の出土が見られた所を中心に調査区を拡張するという手法をとった。

### 第2節 調査の内容

#### (1) 石材

層からは様々な石材が出土している。分類は全て肉眼による観察により行った。

##### 黒曜石A

黒色で炭状を呈する黒曜石である。層ではもっとも比率が大きく、8,901点で、47%と全体のほぼ半数を占める。樋脇町上牛鼻産の黒曜石に類似する。

##### 黒曜石B

アメ色、ガラス質で不純物を含む。層では5,588点で30%と黒曜石Aに次いで高い比率を示す。鹿児島市三船産の黒曜石に類似する。

##### 黒曜石C

不純物の少ない良質の黒曜石である。1,290点出土している。黒色のもの、やや灰色がかかったもの、アメ色のもの等様々なものを含む。複数の産地によるものが混在し、明確な分離ができなかった。全体の7%を占める。

##### 黒曜石D

青灰色で不純物の少ない良質の黒曜石である。284点出土した。針尾、淀姫産等西北九州の黒曜石に類似する。全体の2%を占める。

##### 黒曜石E

黒色、ガラス質で小粒の不純物を多く含む。16点出土した。大口市日東産の黒曜石に類似する。

##### 黒色安山岩

表面が風化して灰色を呈しているが、内面は漆黒の石材である。所々に輝石を含む。1938点出土した。層出土の石鏃のほとんどがこの石材で製作されている。全体の10%を占める。

##### 硬質頁岩

色調は青灰色を呈する。所々に白い縞状の線がみられる。表面は比較的きめが細かい。7点出土

した。

#### 鉄石英

赤色を基調とした石英質の石材である。色調は赤色を基調とするが、むらがある。12点出土した。

#### 石英質岩

石英質の石材である。表面は風化して黄褐色を呈するが、内面は灰白色を呈する。8点出土した。

石材別出土状況図（第18図）で確認できるように、今回の調査では、H11年度が黒曜石C、黒曜石D、黒色安山岩等が中心で、H12年度は黒曜石A、黒曜石Bが中心となるというそれぞれの地点の特徴がはっきり示された。

### (2) ブロック、ユニットの設定経過

当遺跡では1,400m<sup>2</sup>と狭い範囲に遺物が約20,000点と非常に密集していたため、単純に視覚的なブロック分けは不可能である。そこで、客観的に石器群のまとまりが検証できるように、以下の手続きを踏んでブロック及びブロック群（=ユニット）を認定した。

石材別の遺物分布図を作成し、視覚的にまとまりの見られた範囲を石器製作の最小単位（=ブロック）として45か所設定した。

重複のみられるブロックについて、全て垂直分布の比較を行った。（第26図～31図）

垂直分布で上下の分離ができず、かつ、分布が重なっているものについては同一ブロック群と判断し、A～Oまでの15のブロック群を設定した。

垂直分布で上下分離の可能性があるもの、あるいはブロックが複数の集中箇所をまたぐもの、小規模なもの等についてはその他のブロックとした。

の段階で設定したブロック番号と石材の関係は次のとおりである。

黒曜石A（1～10ブロック）、黒曜石B（11～22ブロック）、黒曜石C（23～27、43～45ブロック）、黒曜石D（28～31ブロック）、黒色安山岩（32～38ブロック）、砂岩（39ブロック）、黒曜石E（40ブロック）、鉄石英（41ブロック）、石英質岩（42ブロック）

なお、それぞれのブロックの概要については表22のとおりである。ブロック間の垂直分布の評価と概要については各ユニットごとの説明と併せて後ほど取り扱う。

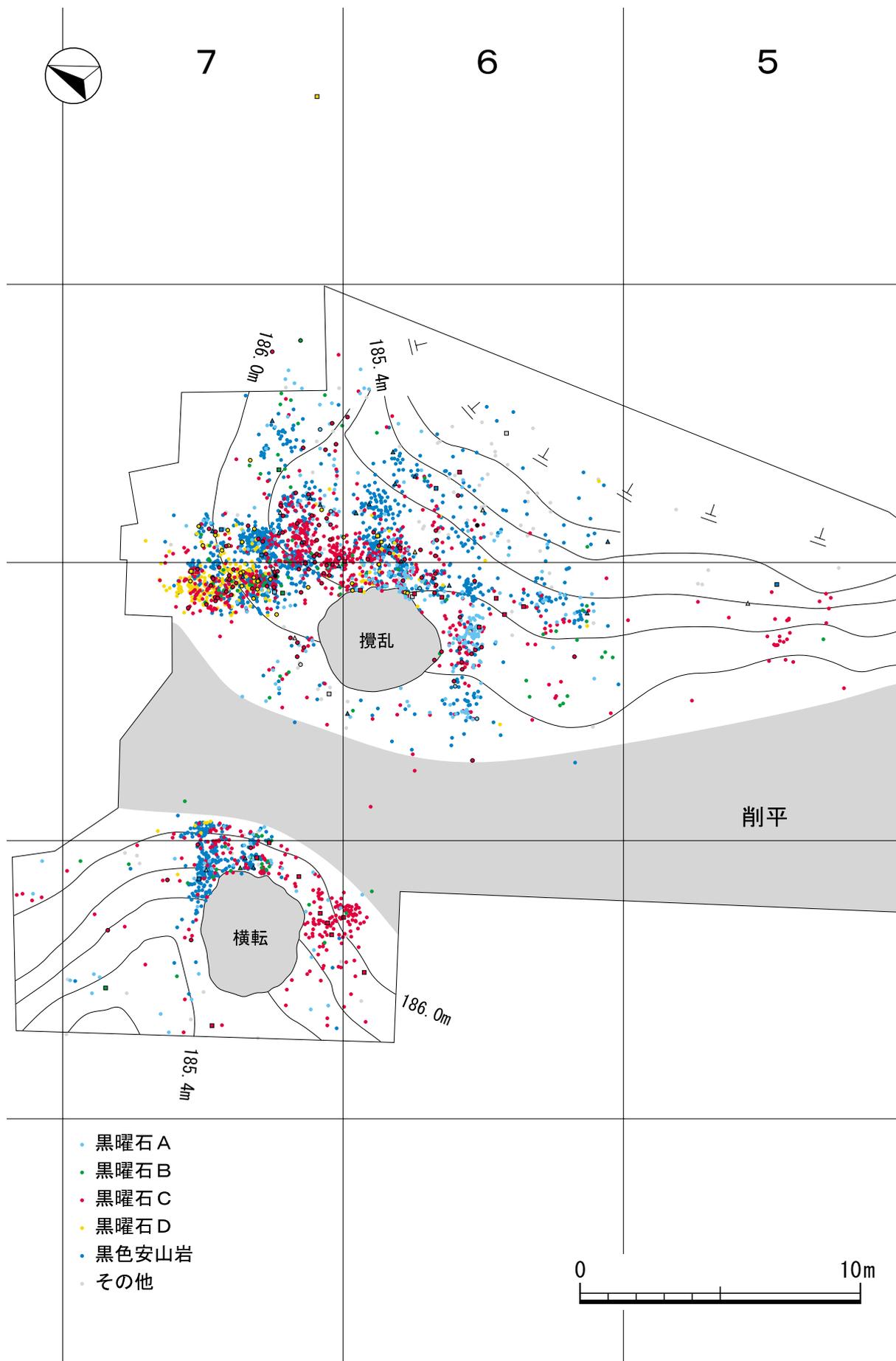
### (3) 遺構・遺物

#### ア 概要

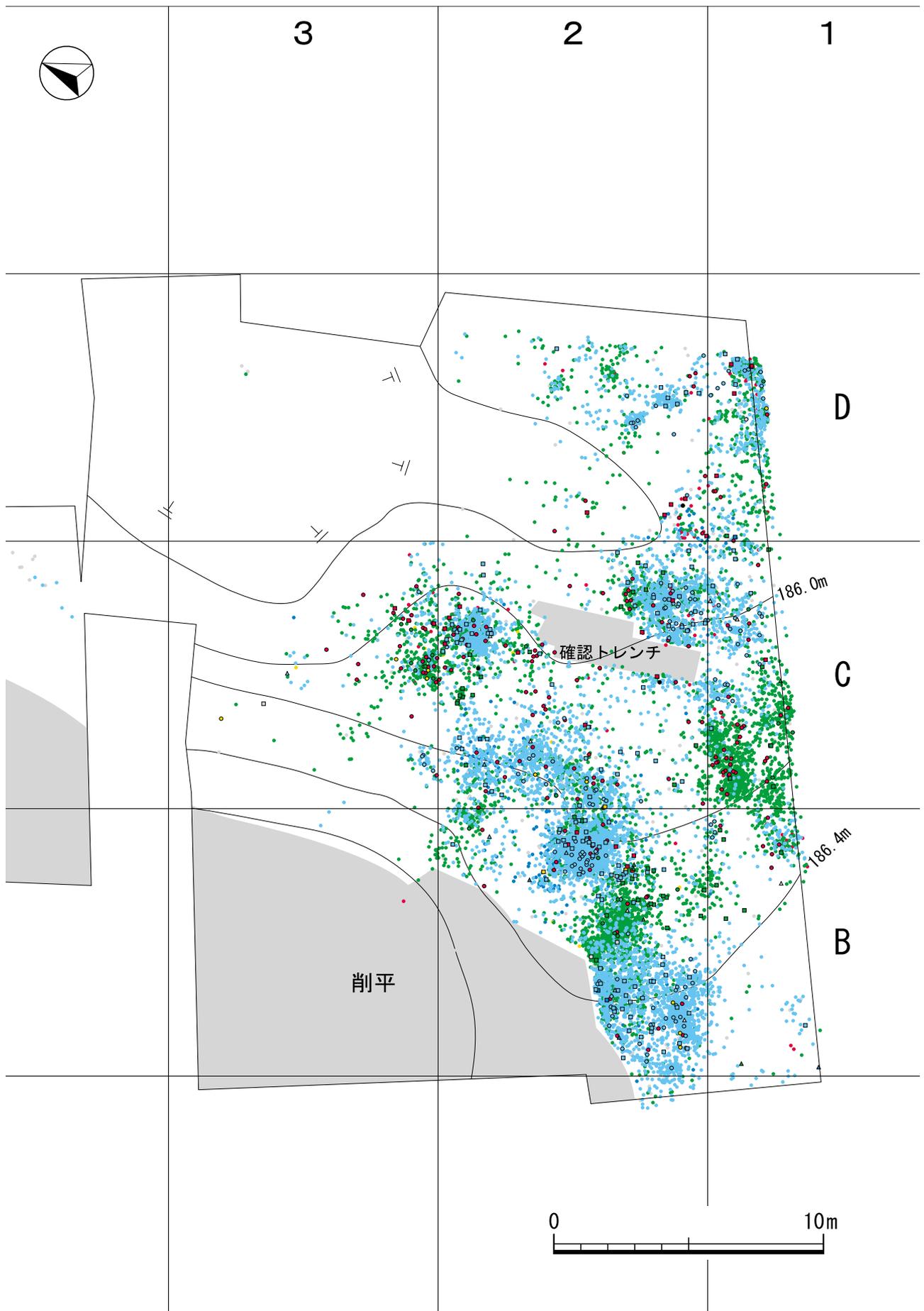
層の平板取り上げ遺物総数は18,731点である。石材の内訳は安山岩16点、硬質頁岩7点、黒色安山岩1,938点、黒曜石A8,901点、黒曜石B5,588点、黒曜石C1,290点、黒曜石D284点、黒曜石E16点、砂岩18点、タンパク石50点、チャート9点、鉄石英12点、頁岩14点、メノウ2点、凝灰岩5点、黒色頁岩3点、石英質岩8点である。

#### イ 細石刃核の分類

本遺跡出土の細石刃核は製作技術を細かく観察すると非常に多岐にわたるため、細かい分類を行うと当遺跡の持つ技術的特徴が埋没する可能性がある。そこで、ここでは本遺跡において素材の利用方法やブランク形成時において技術的に特徴のあるものについてある程度大まかに抽出し、分類を行うことにより、本遺跡の特徴を引き出していく方法を採用していく。



第18-1図 VII層遺物出土状況図(1)



第18-2図 VII層遺物出土状況図(2)

類 - 素材剥片の大剥離面を側面に利用し、ブランク形成後に打面を形成したと思われるもの。下縁からの整形、調整の有無に関わらず、下縁が尖るものが多い。打面は側方から連続する剥離により形成するもの（ - a ）と、長軸方向への剥離により形成する（ - b ）ものがある。

類 - 板状の素材、大剥離面を両側面にもつもの。大剥離面の代わりに自然面を利用しているものも含む。打面が素材の獲得時に決定しているのか、素材獲得後に打面を形成したのか残核からは明確でないものが多い。石核形成のための側面の整形剥離があまり施されない。

類 - 大剥離面を打面に設定し、打面側から側面に整形・調整剥離を施して細石刃核を形成するもの。素材の主剥離面を打面に用いるものと、側面に用いるものがある。打面側からの石核調整は片側縁のみに入念に施されるものが多い。

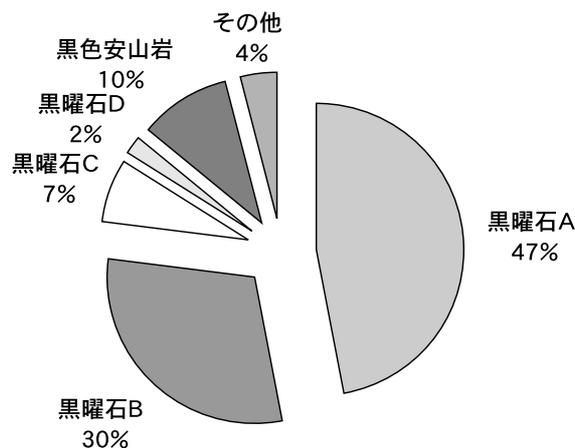
類 - 小礫を素材とするもの。石核整形は簡易である。

類 - 打面がかなり傾斜しているため、作業面と打面とが平行に近くなり、結果残核形状が扁平となる。いずれも細石刃剥離の前に打面調整を施している。

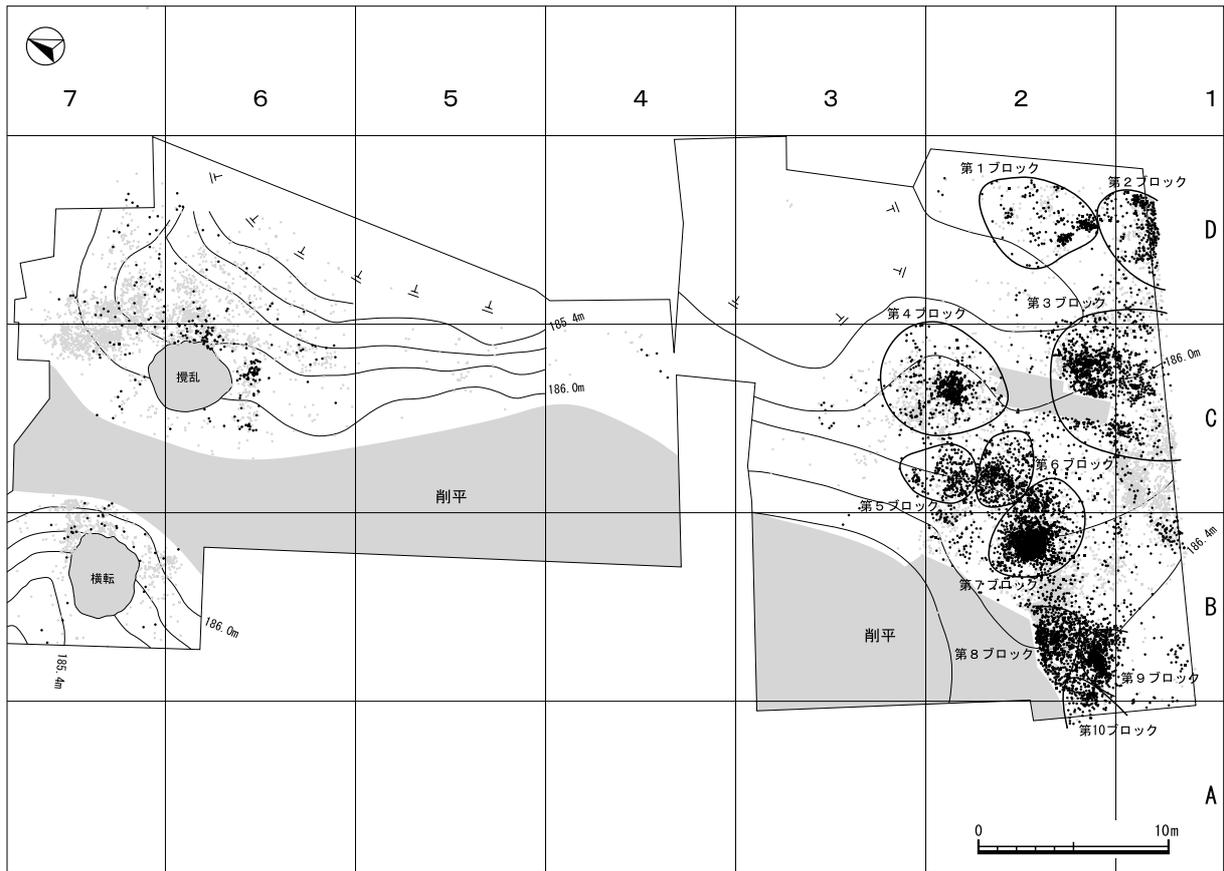
その他 - ~ 類に当てはまらないもの、あるいは残核からは ~ の技術が把握できないもの。

#### ウ 各ユニットの概要

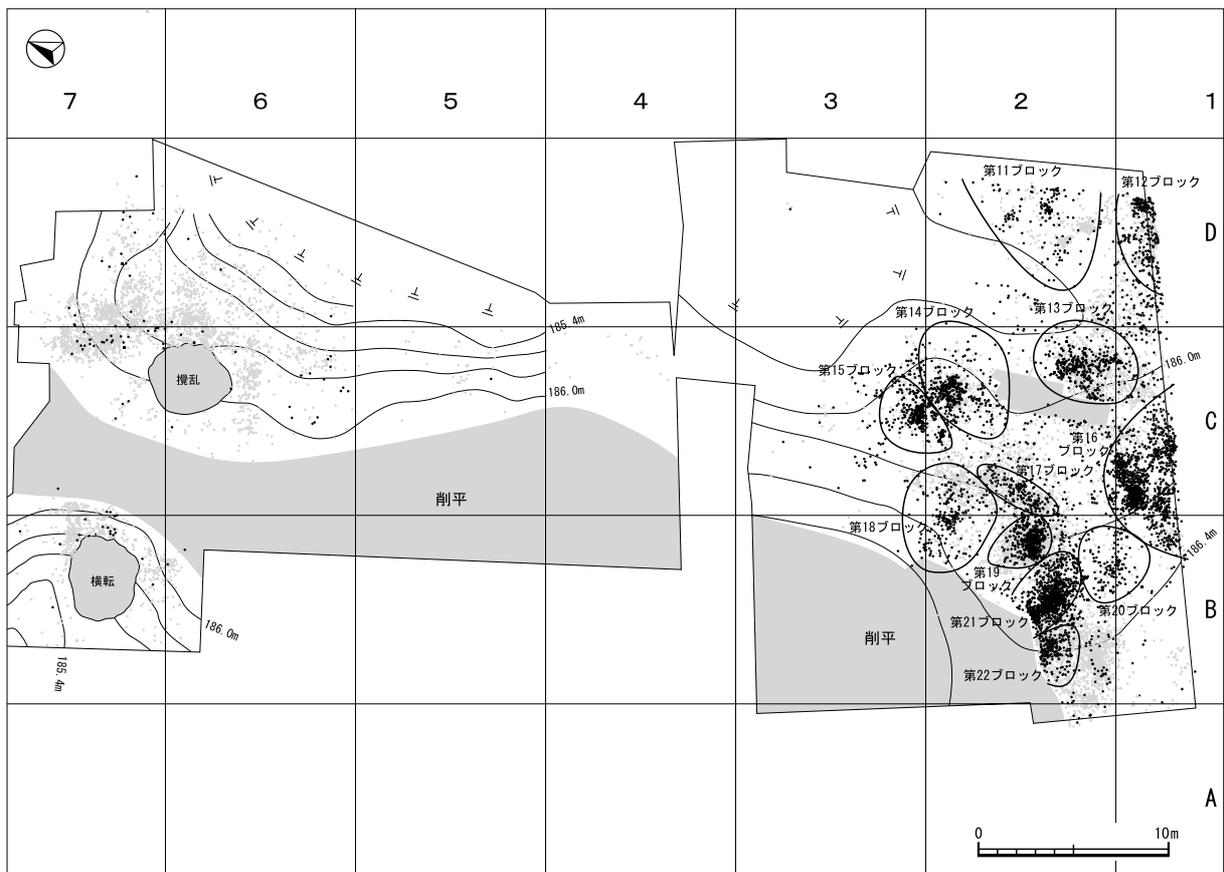
定型石器は細石刃核203点、ブランク34点、細石刃456点、石核10点、スクレイパー 9 点、石鏃23点、楔形石器 1 点等である。また、土器片が15点出土している。出土した定型石器について細石刃以外は全て図化した。以下、ユニットごとに遺物の記載を行う。なお、紙面の都合上全ての細石刃核、細石刃について特徴等を文章で説明できないため、細石刃核については観察一覧表を参照して頂きたい（表21）。



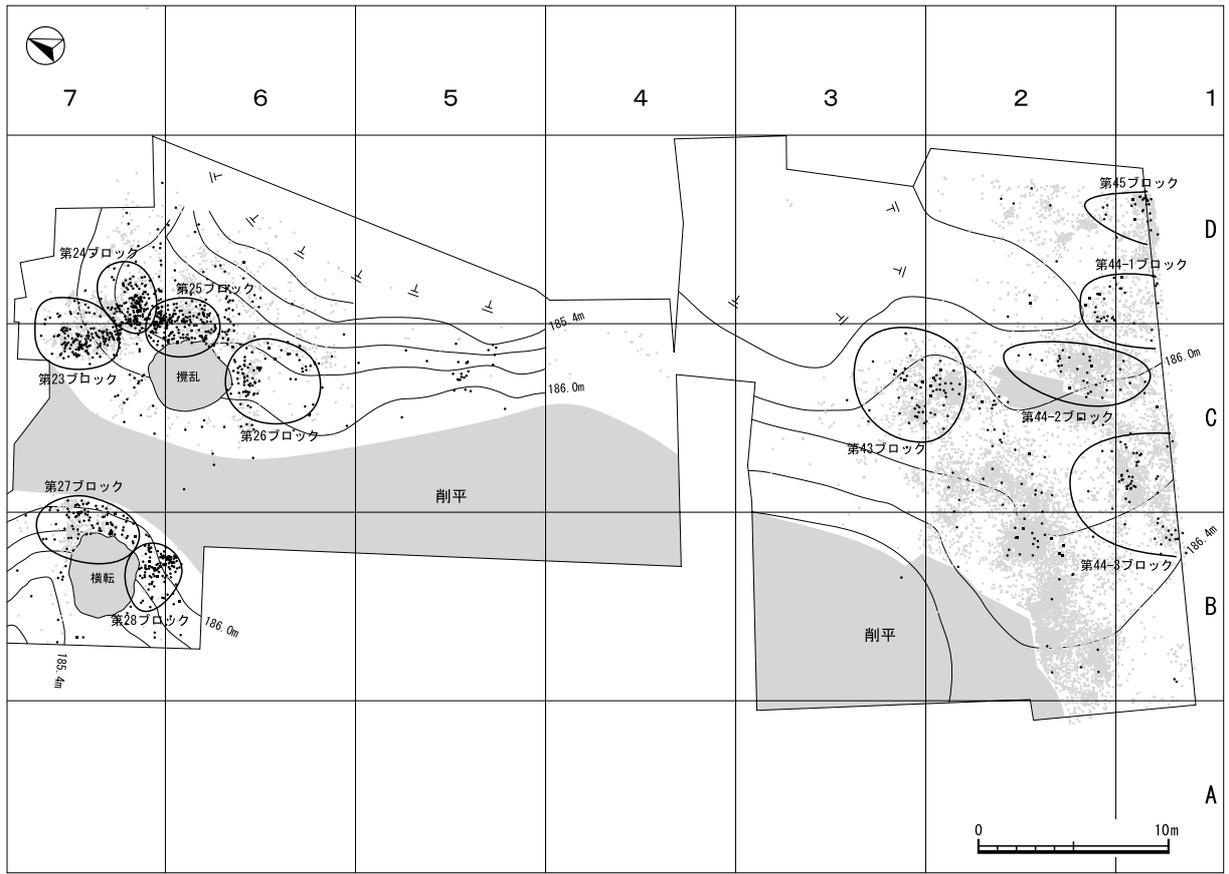
第19図 VII層石器石材比率（点数比）



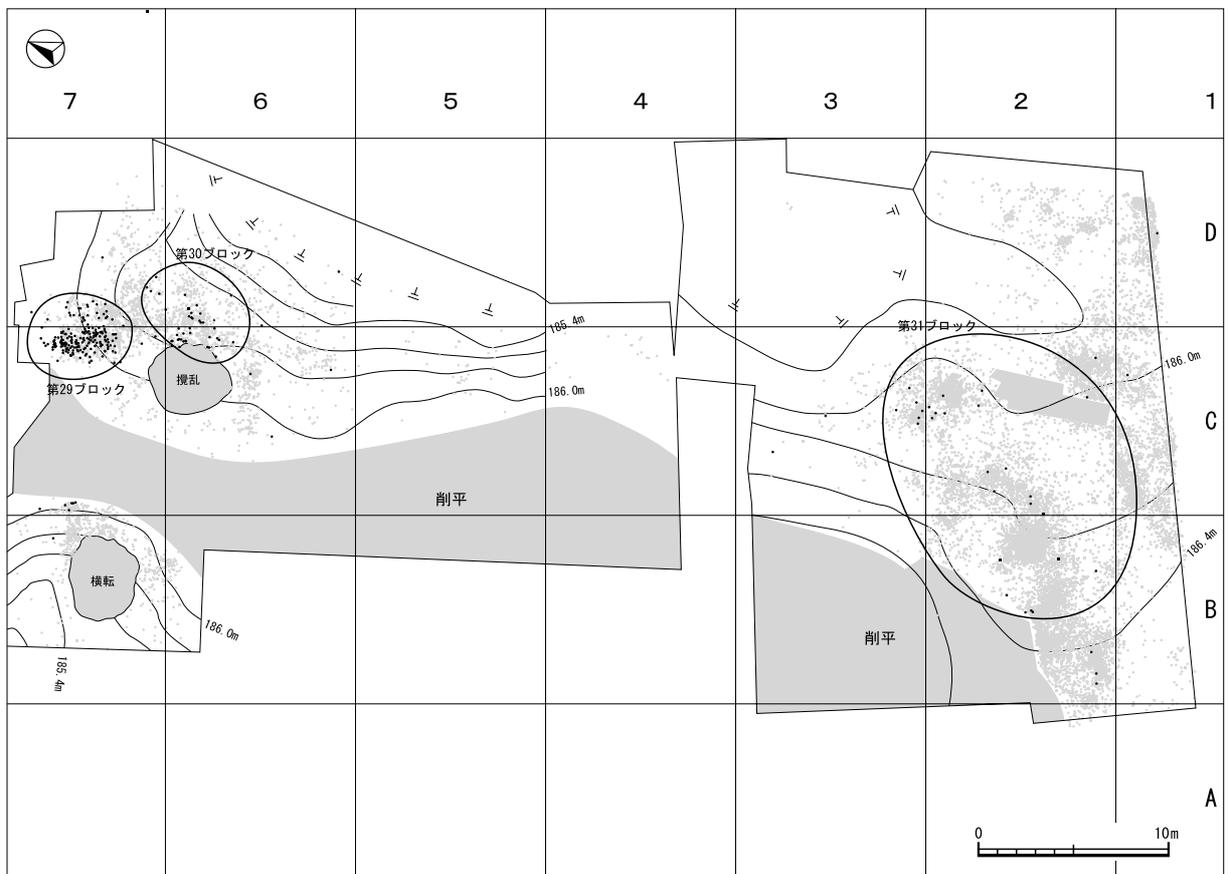
第20図 ブロック分類図（黒曜石A）



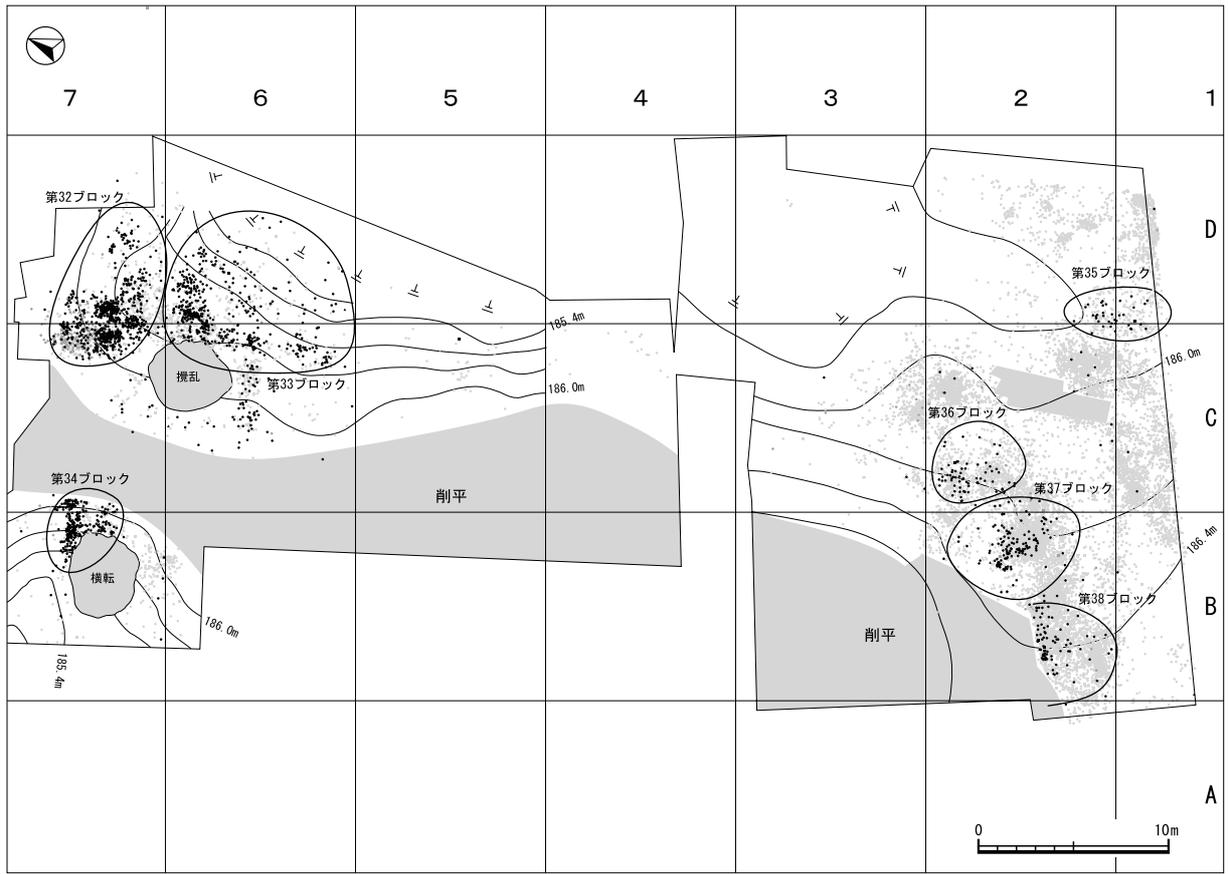
第21図 ブロック分類図（黒曜石B）



第22図 ブロック分類図（黒曜石C）



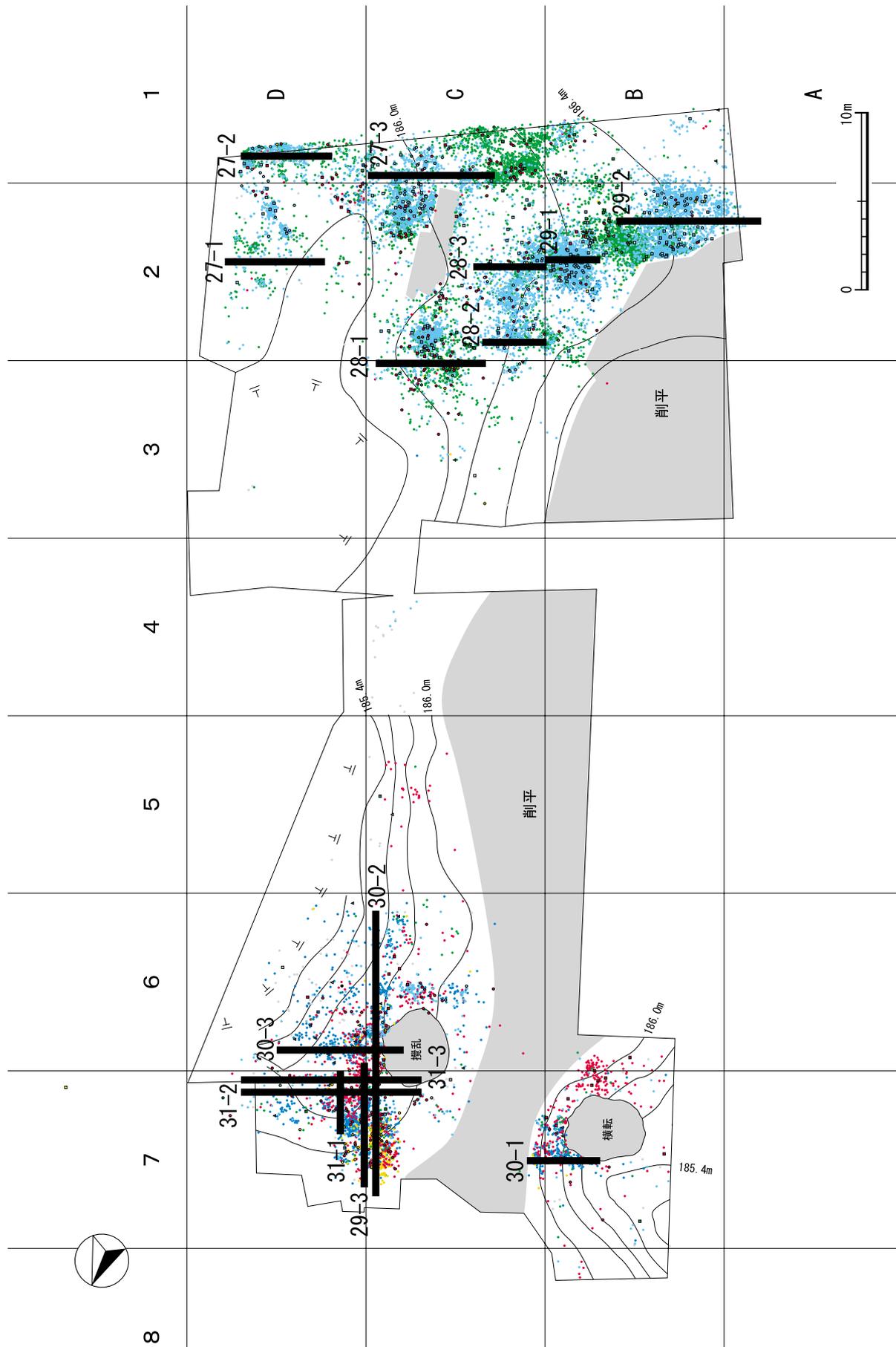
第23図 ブロック分類図（黒曜石D）



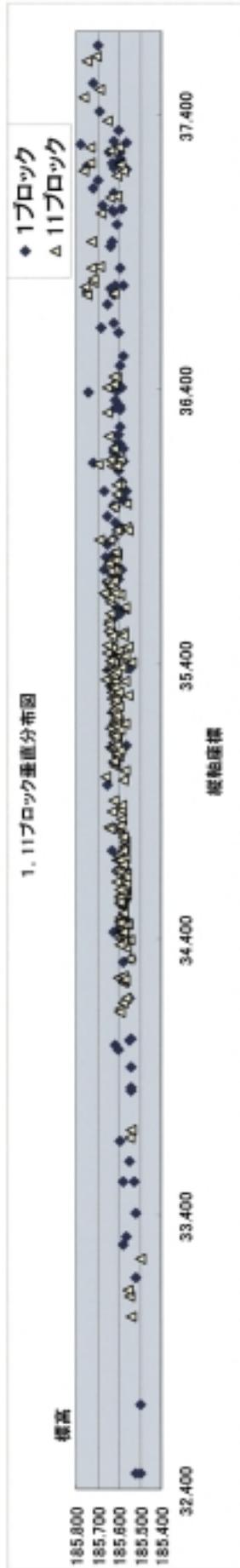
第24図 ブロック分類図（黒色安山岩）



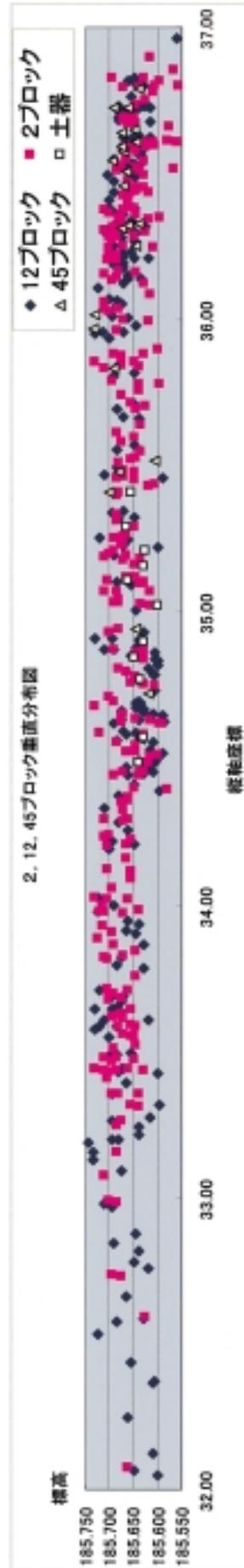
第25図 ブロック分類図（その他）



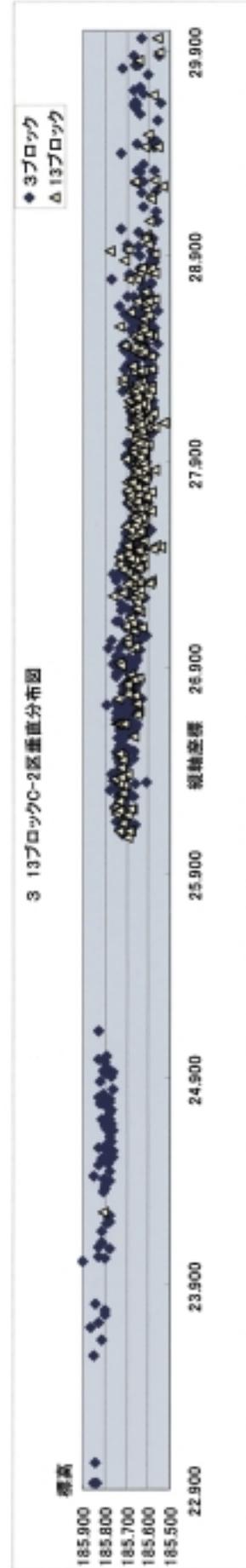
第26图 垂直断面位置图



1

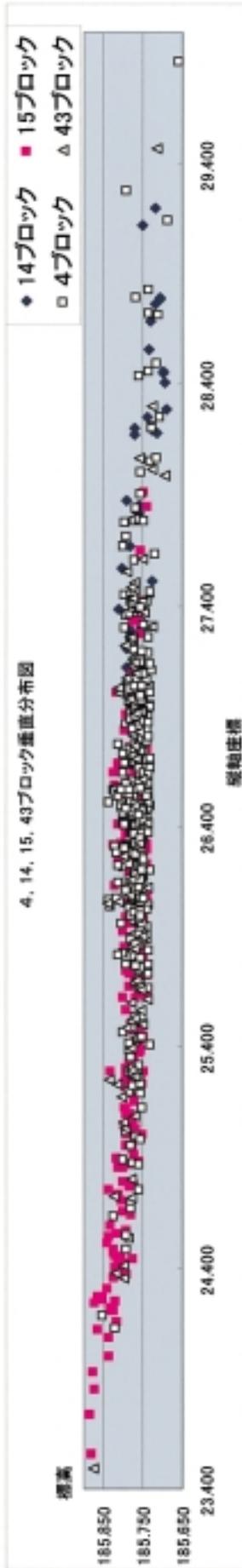


2

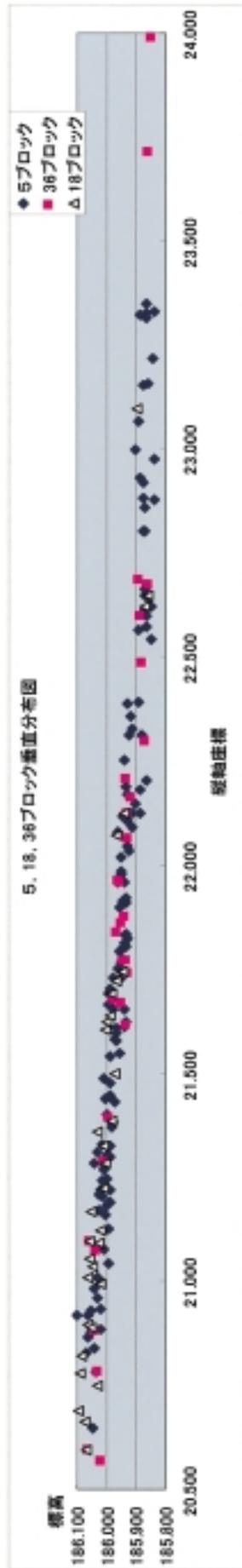


3

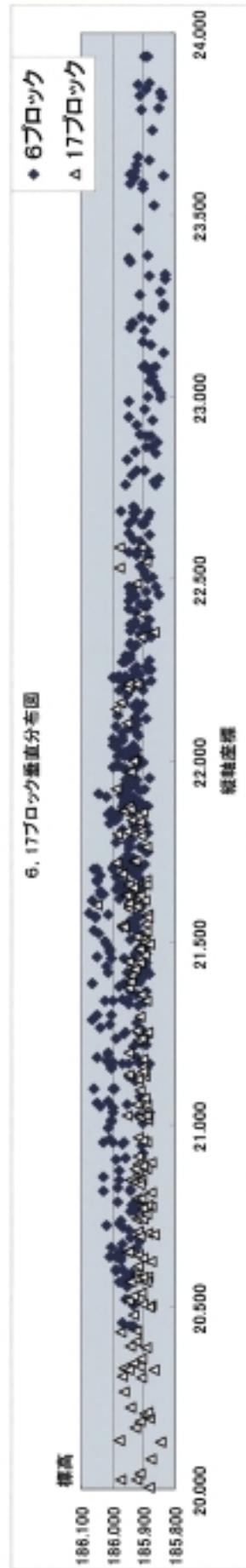
第27図 ブロック間垂直分布比較(1)



1

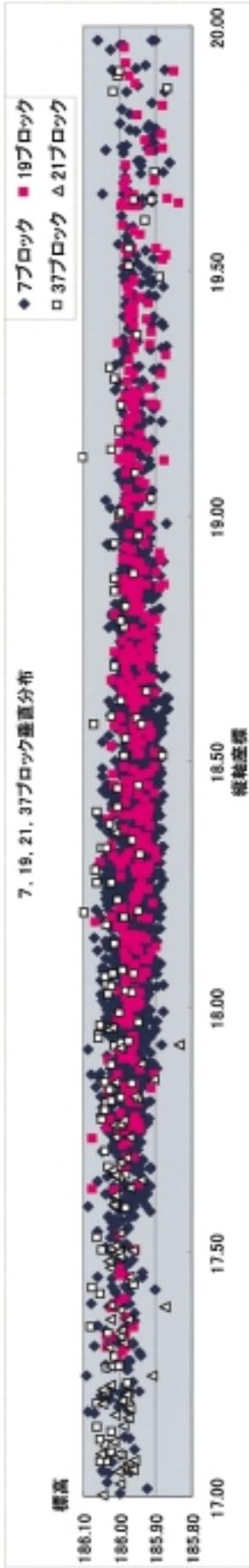


2

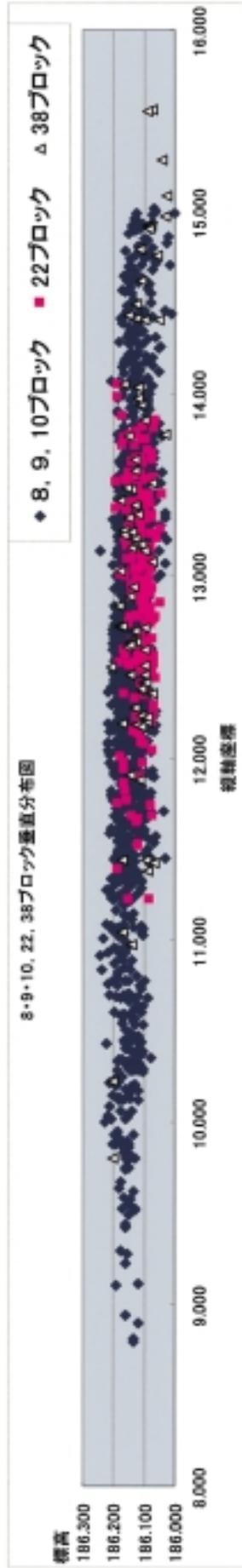


3

第28図 ブロック間垂直分布比較(2)



1

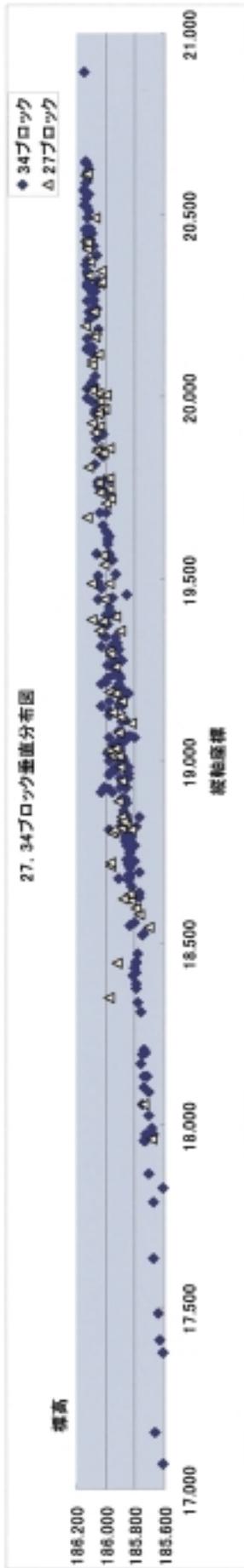


2

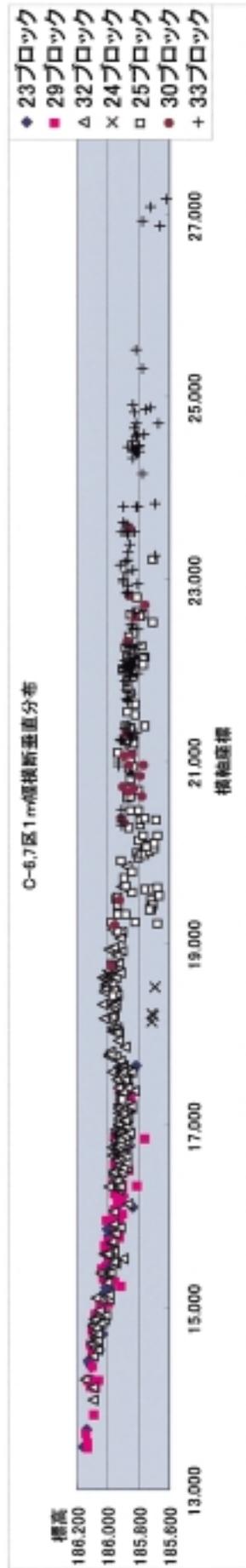


3

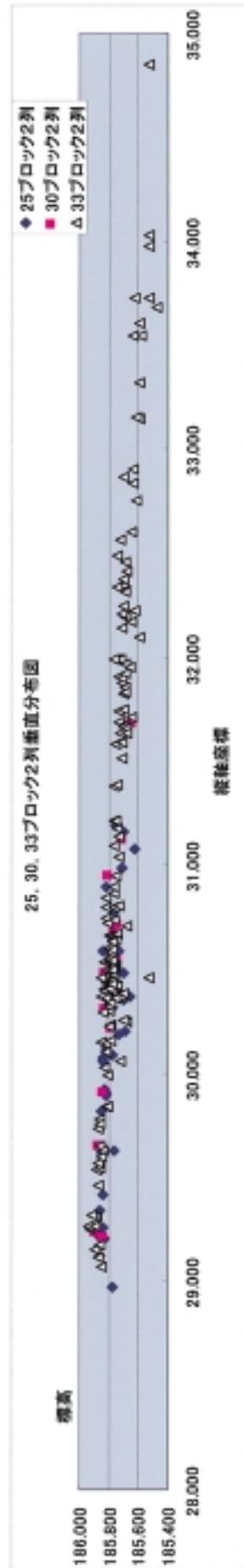
第29図 ブロック間垂直分布比較(3)



1

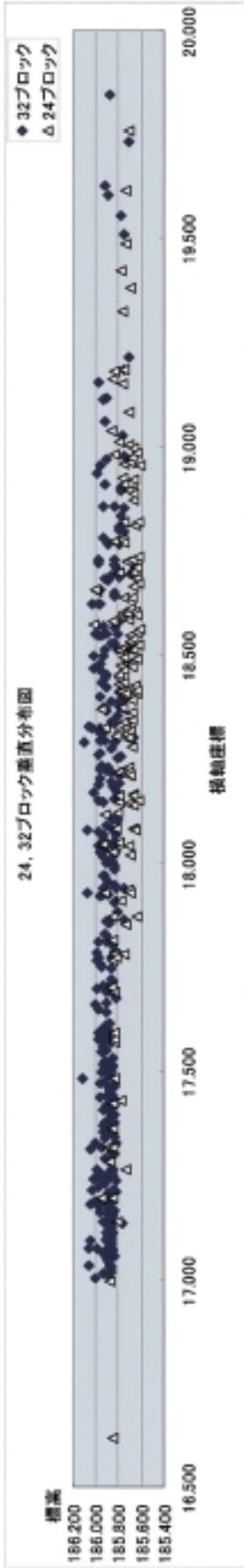


2

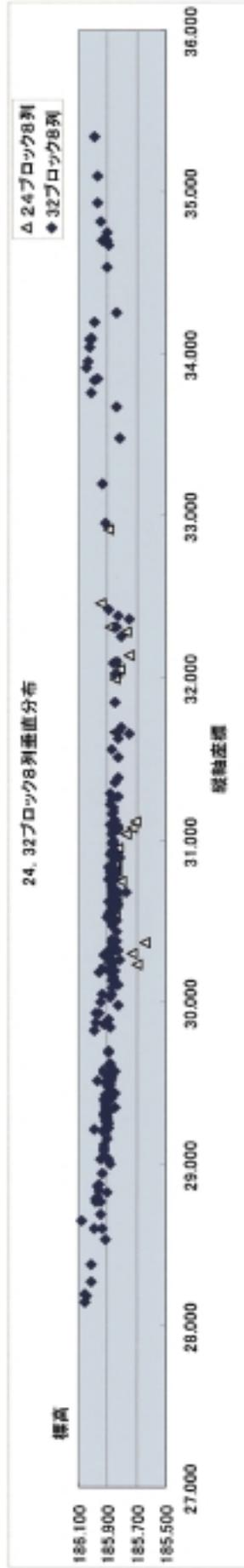


3

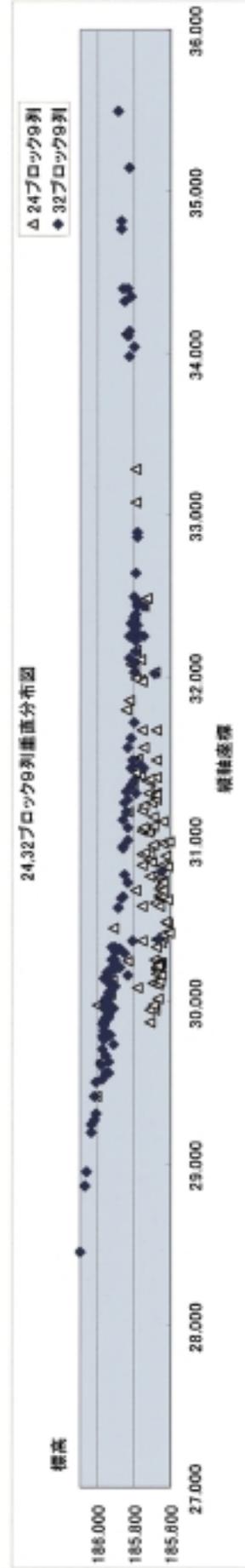
第30図 ブロック間垂直分布比較(4)



1

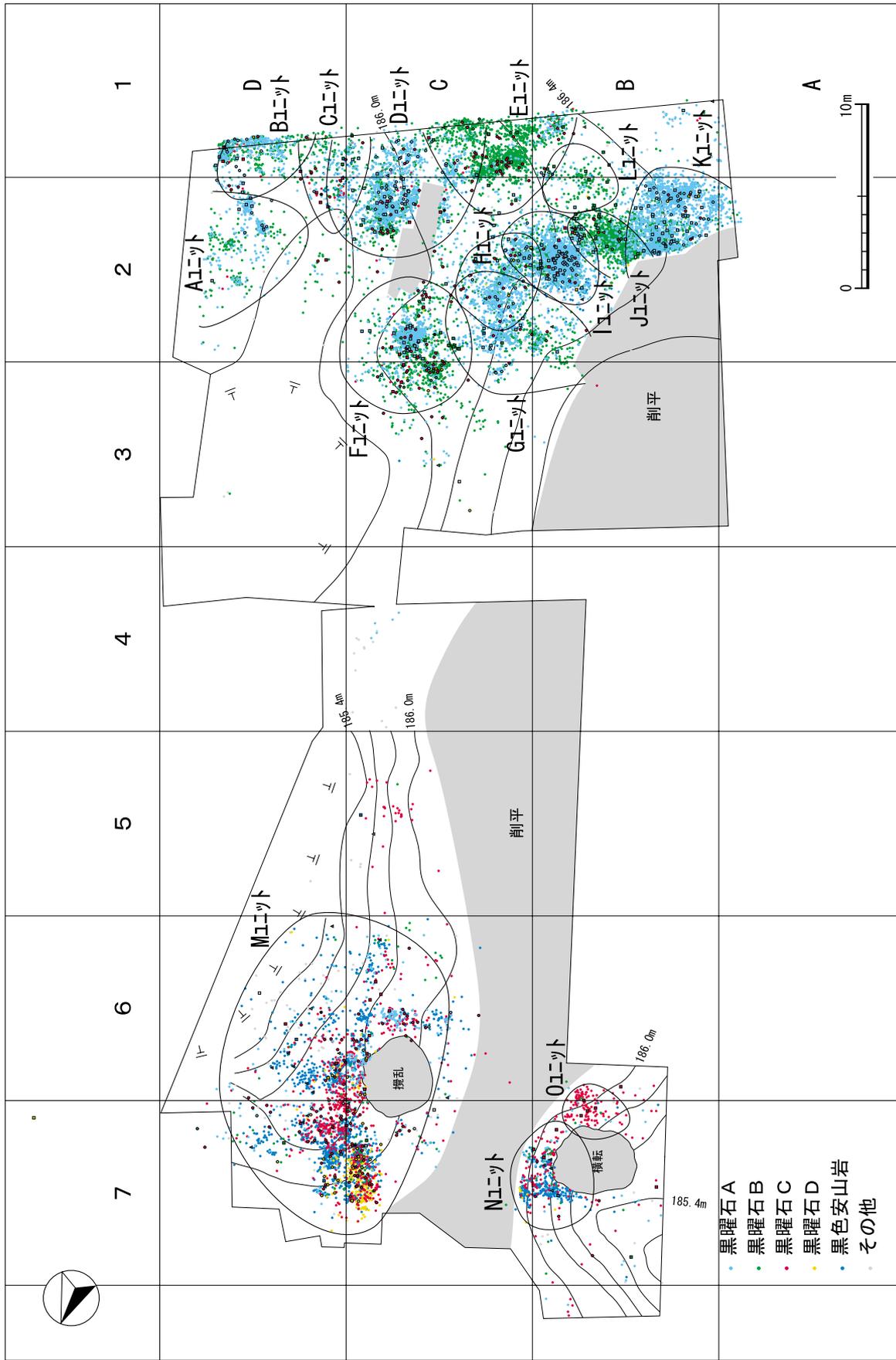


2

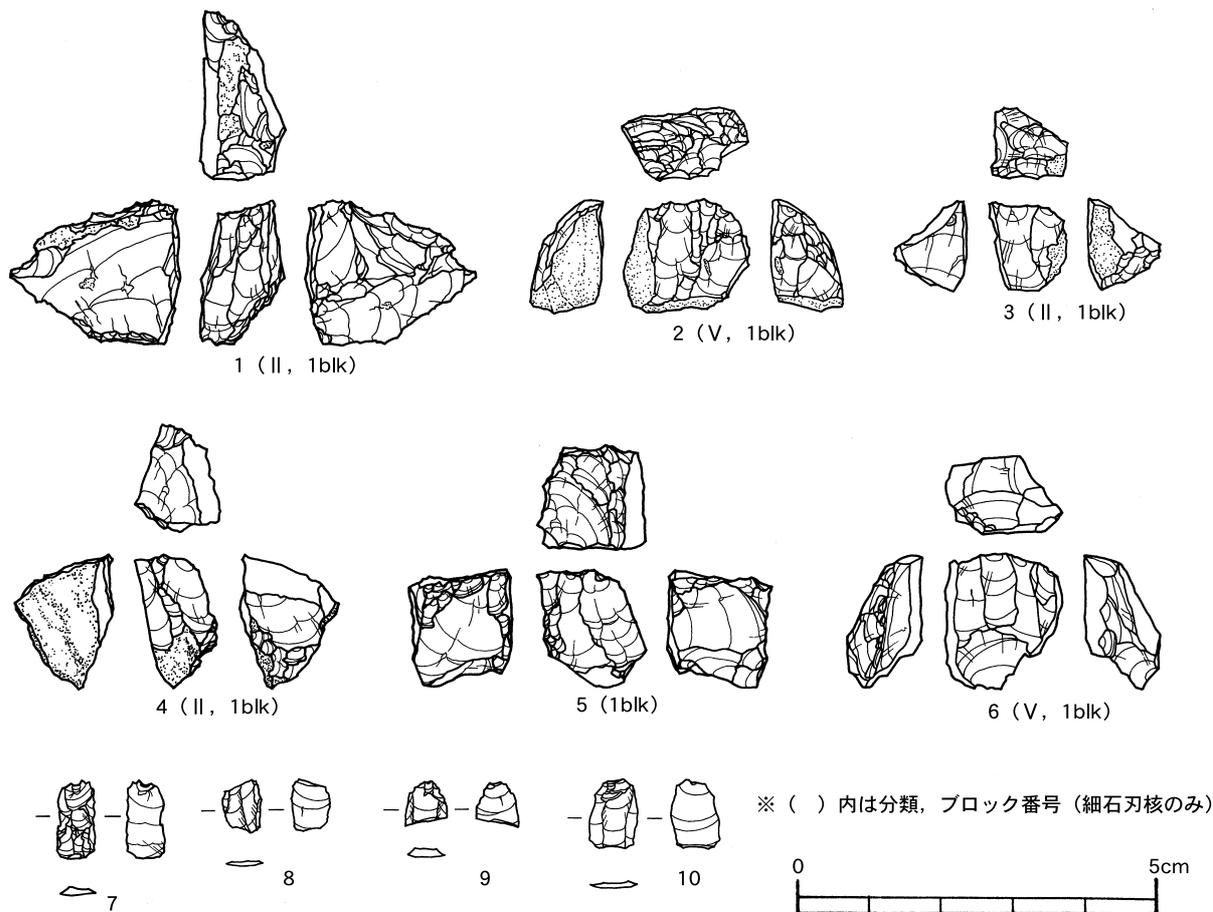


3

第31図 ブロック間垂直分布比較(5)



第32図 ユニット分類図



第33図 Aユニット出土遺物

表4 Aユニット実測遺物観察表

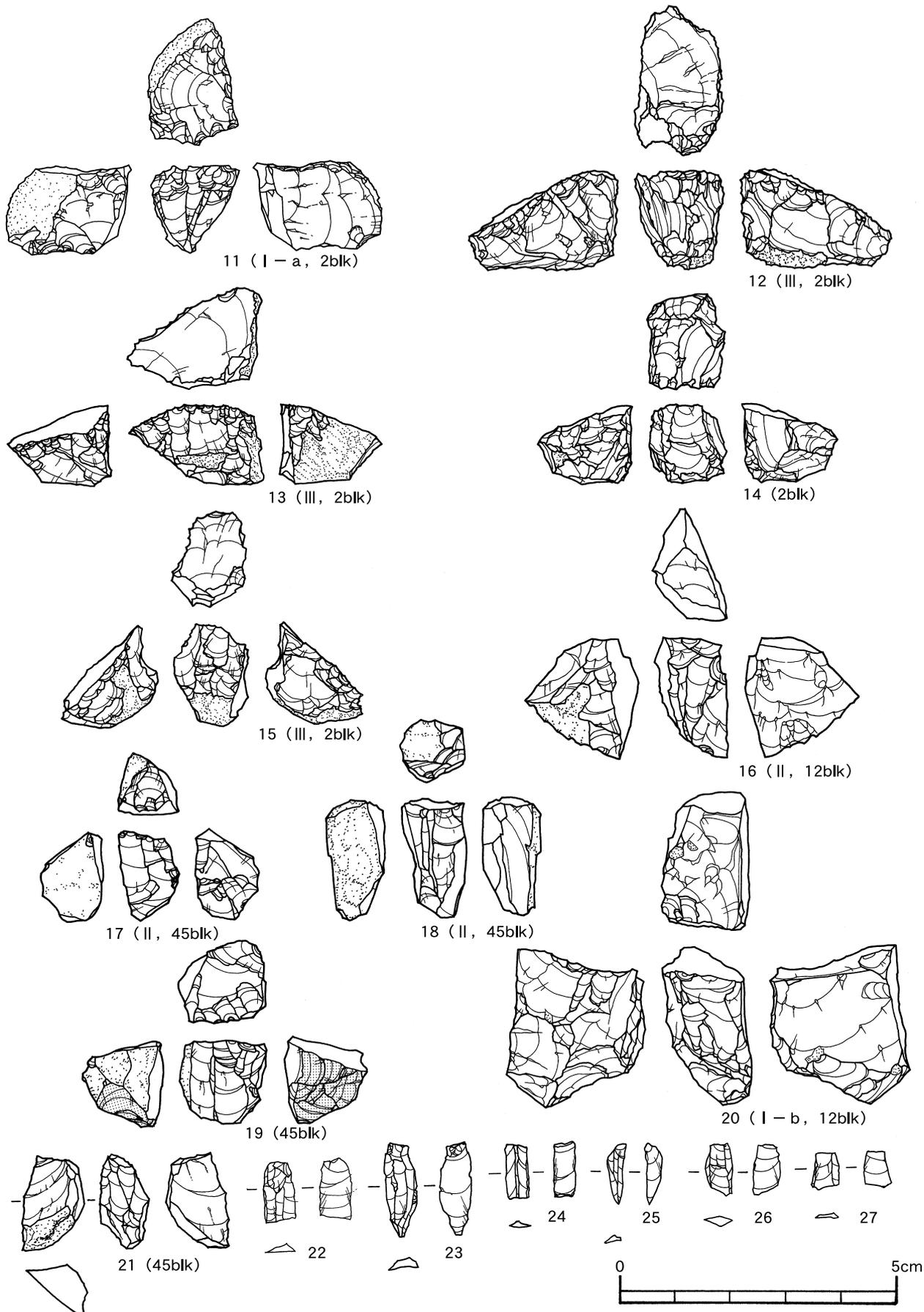
図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
1	15223	37.190	64.399	185.765	D	-	2	c	-	5	a	細石刃核	黒曜石A	2	1.19	2.39	4.8	1	A	-
2	15013	35.121	68.870	185.610	D	-	2	e	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.55	1.7	1	2.67	1	A	-
3	15042	35.742	68.268	185.620	D	-	2	e	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.2	1	1	1.05	1	A	-
4	14842	35.554	69.194	185.645	D	-	2	e	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	1.8	1.1	1.35	1.98	1	A	-
5	15022	35.047	68.437	185.625	D	-	2	e	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.65	1.5	1.4	4.02	1	A	-
6	15159	35.359	68.521	185.620	D	-	2	e	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.9	1.6	1	2.66	1	A	-
7	12778	34.498	67.412	185.590	D	-	2	f	-	8	b	細石刃	黒曜石A	1.09	0.58	0.13	-	1	A	完形
8	11631	34.404	67.162	185.570	D	-	2	f	-	8	a	細石刃	黒曜石A	0.51	0.42	0.1	-	1	A	中間部
9	12781	34.254	67.339	185.570	D	-	2	f	-	8	b	細石刃	黒曜石A	0.65	0.6	0.15	-	1	A	頭部
10	15293	35.428	67.011	185.570	D	-	2	e	-	8	a	細石刃	黒曜石A	0.98	0.68	0.14	-	1	A	頭部

Aユニット(第33図1~10,表4)

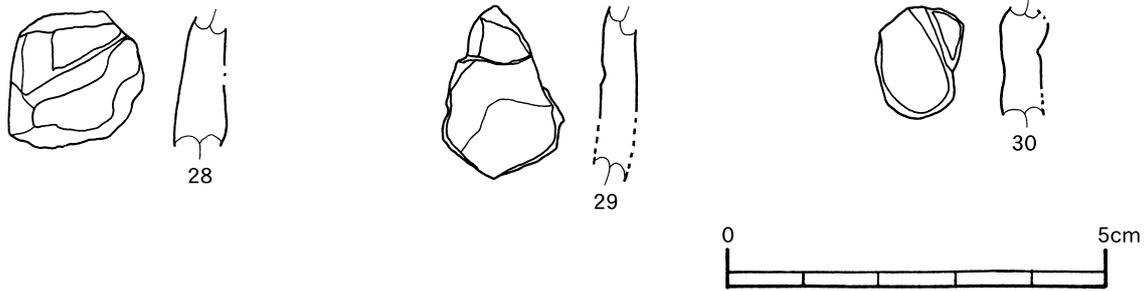
1ブロックと11ブロックとで構成される。両ブロックは平面分布で重なっている。垂直分布では明確な上下関係が認められない(第27図-1)ため、Aユニットとして一括して扱う。

総数394点のユニットである。細石刃核6点、細石刃4点全てを図化した。残り384点は全て剥片・碎片類である。

細石刃核は 類(1, 3, 4)及び 類(2, 6)がみられる。 類はいずれも打面がかなり傾斜しており、横方向からの連続剥離がみられる。



第34図 Bユニット出土遺物(1)



第35図 Bユニット出土遺物(2)

表5 Bユニット実測遺物観察表

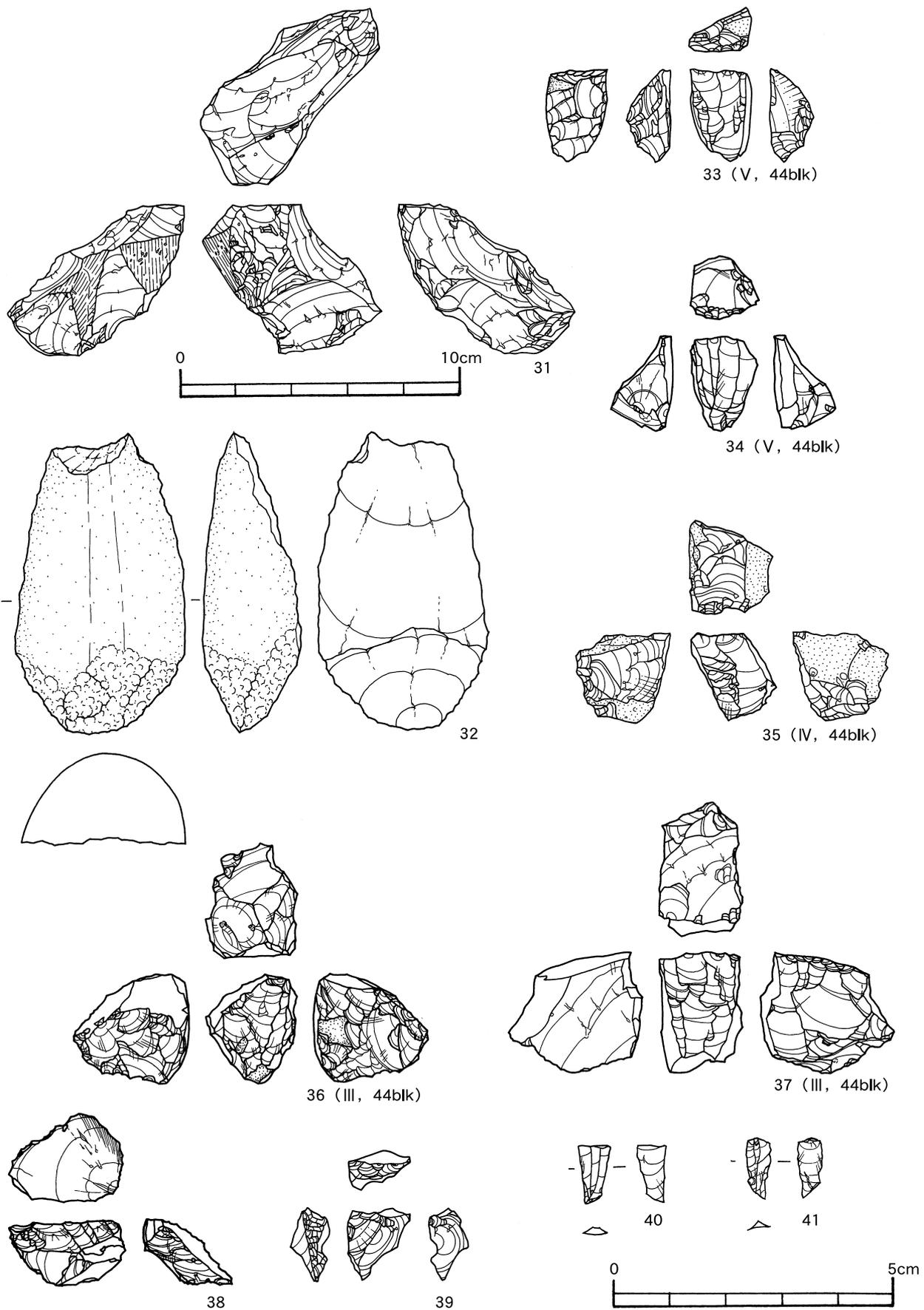
図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
11	15445	36.990	70.646	185.585	D	-	1	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石A	1.6	2.3	2.1	5.5	2	B	-
12	15107	36.516	71.613	185.685	D	-	1	d	-	2	a	ブランク	黒曜石A	1.79	1.6	2.7	7.34	2	B	-
13	15125	36.800	71.104	185.640	D	-	1	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石A	1.4	2.4	1.8	5.06	2	B	-
14	15000	35.850	71.035	185.675	D	-	1	e	-	2	a	細石刃核	黒曜石A	1.4	1.4	1.69	4.15	2	B	-
15	14837	35.530	69.677	185.655	D	-	2	e	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	1.8	1.3	1.7	2.77	2	B	-
16	13677	30.199	70.706	185.720	D	-	1	j	-	1	a	細石刃核	黒曜石B	2	1.3	2.3	4.08	12	B	-
17	14994	36.610	70.874	185.645	D	-	1	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石C	1.6	1	1.13	1.74	45	B	-
18	15406	35.516	70.980	185.605	D	-	1	e	-	1	a	細石刃核	黒曜石C	2.1	1.65	1.05	2.87	45	B	-
19	14972	36.546	71.624	185.695	D	-	1	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石C	1.5	1.55	1.45	3.45	45	B	-
20	13653	29.683	72.257	185.750	C	-	1	a	-	3	a	細石刃核	黒曜石B	2.85	1.6	2.5	10.93	12	B	-
21	15116	36.457	71.376	185.670	D	-	1	d	-	2	a	作業面再生剥片	黒曜石C	1.7	1.1	0.9	1.24	45	B	-
22	14830	36.928	69.856	185.580	D	-	2	d	-	10	a	細石刃	黒曜石A	1.08	0.68	0.14	-	2	B	頭中部
23	15481	35.964	72.071	185.675	D	-	1	e	-	3	a	細石刃	黒曜石B	1.67	0.5	0.2	-	12	B	完形
24	15525	34.723	72.214	185.620	D	-	1	f	-	3	b	細石刃	黒曜石C	0.98	0.41	0.14	-	45	B	中間部
25	15087	35.795	72.008	185.695	D	-	1	e	-	3	a	細石刃	黒曜石A	1.1	0.4	1.1	-	2	B	完形
26	15135	35.888	70.591	185.630	D	-	1	e	-	1	a	細石刃	黒曜石A	0.91	0.5	1.8	-	2	B	中間部
27	15139	35.709	70.371	185.625	D	-	1	e	-	1	a	細石刃	黒曜石A	0.65	0.5	0.8	-	2	B	中間部
28	15327	34.578	71.290	185.630	D	-	1	f	-	2	a	土器	-	-	-	-	-	B	-	
29	15475	35.416	71.995	185.655	D	-	1	e	-	2	a	土器	-	-	-	-	-	B	-	
30	15250	34.775	72.012	185.635	D	-	1	f	-	3	a	土器	-	-	-	-	-	B	-	

Bユニット(第34~35図11~30,表5)

2, 12, 45ブロックで構成される。45ブロックが小規模であるが、ブロックの中心は重なっている。垂直分布では明確な上下関係が認められないため、Bユニットとして一括して扱う。Bユニットについては土器が11点出土しており、垂直分布図も特に土器が上位に認められるということもない(第27図-2)ので、土器についても同ユニットとして取り扱う。

総数568点のユニットである。細石刃核9点、ブランク1点、作業面再生剥片1点全てを図化した。土器については11点中3点を図化した。残り8点は土器粒で図化できなかった。細石刃については12点中6点を図化した。

細石刃核は 類(11, 20), 類(16~18), 類(12, 13, 15)がみられる。28~30は土器片である。いずれも風化が著しく所々表面が剥落し、調整等の観察はできない。



第36図 Cユニット出土遺物

表6 Cユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量g	ブロック	ユニット	備考		
31	13672	30.152	71.015	185.710	D	-	1	j	-	2	a	石核	黒色安山岩	5.43	6	6.35	125.71	35	C	-
32	9560	31.319	69.084	185.630	D	-	2	i	-	10	a	叩石	砂岩	5.4	3.05	1.8	27.36	外	C	-
33	9566	31.369	68.637	185.645	D	-	2	i	-	9	a	細石刃核	黒曜石C	1.65	1.1	0.8	1.21	44	C	-
34	9562	31.581	69.169	185.645	D	-	2	i	-	10	a	細石刃核	黒曜石C	1.69	1.2	1.05	1.64	44	C	-
35	14550	30.185	69.958	185.650	D	-	2	j	-	10	a	細石刃核	黒曜石C	1.6	1.5	1.7	3.78	44	C	-
36	13729	32.439	70.324	185.755	D	-	1	h	-	1	a	細石刃核	黒曜石C	2	1.6	2.1	5.81	44	C	-
37	9597	30.973	68.405	185.630	D	-	2	j	-	9	a	細石刃核	黒曜石C	2.15	1.48	2.1	7.64	44	C	-
38	14556	30.606	70.009	185.645	D	-	1	j	-	1	a	作業面再生剥片	黒曜石C	1.2	2.1	1.55	2.36	44	C	-
39	14604	33.320	70.486	185.620	D	-	1	g	-	1	a	打面再生剥片	黒曜石C	1.25	1.1	0.7	0.51	44	C	-
40	14246	32.121	72.175	185.675	D	-	1	h	-	3	a	細石刃	黒曜石C	1.05	0.6	0.15	-	44	C	尾部
41	9571	30.860	68.949	185.635	D	-	2	j	-	9	a	細石刃	黒曜石C	1.1	0.43	0.12	-	44	C	頭中部

Cユニット（第36図31～41，表6）

35，44ブロックの一部で構成される。両ブロック間には垂直分布において明確な上下関係が認められないため，Cユニットとして取り扱う。

総数69点のユニットである。細石刃核5点，打面再生剥片1点，作業面再生剥片1点，叩石1点，石核1点全てを図化した。細石刃は8点中2点を図化した。

細石刃核は 類（36，37），類（35），類（33，34）がみられる。33は剥離がかなり進行している。背面にも横方向からの細石刃を剥離した作業面がみられ，打面転移を行っていることがわかる。34は素材剥片の剥離面を側面に利用している。打点も残っている。打面には横方向からの大きな剥離がみられる。32は砂岩製の叩石である。使用頻度は高く，長軸端部に角度を変えながら回転して使用した様子がうかがえ，多面を有する。36の黒曜石は良質，ガラス質で所々に赤い部分がみられる。作業面から打面にかけて一部欠損している。38は細石刃核の作業面再生剥片である。下縁側からの再生である。39は打面再生剥片である。

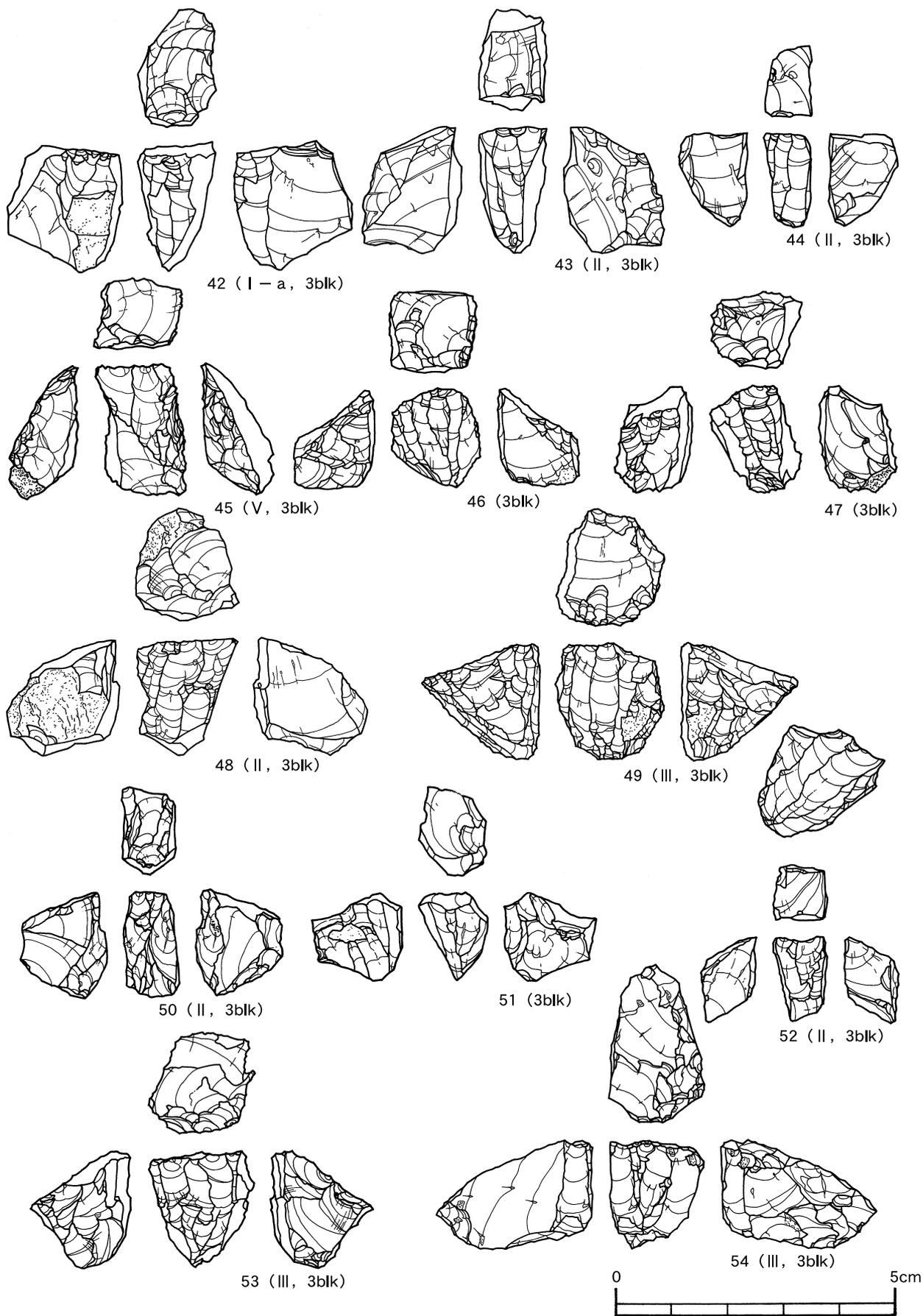
Dユニット（第37～39図42～84，表7）

3，13，44ブロックで構成され，三者は平面分布が一部重なる。13ブロックと44ブロックの一部が3ブロック内の北側に包括されるような状況である。垂直分布において明確な上下関係が認められない（第27図-3）ため，Dユニットとして取り扱う。

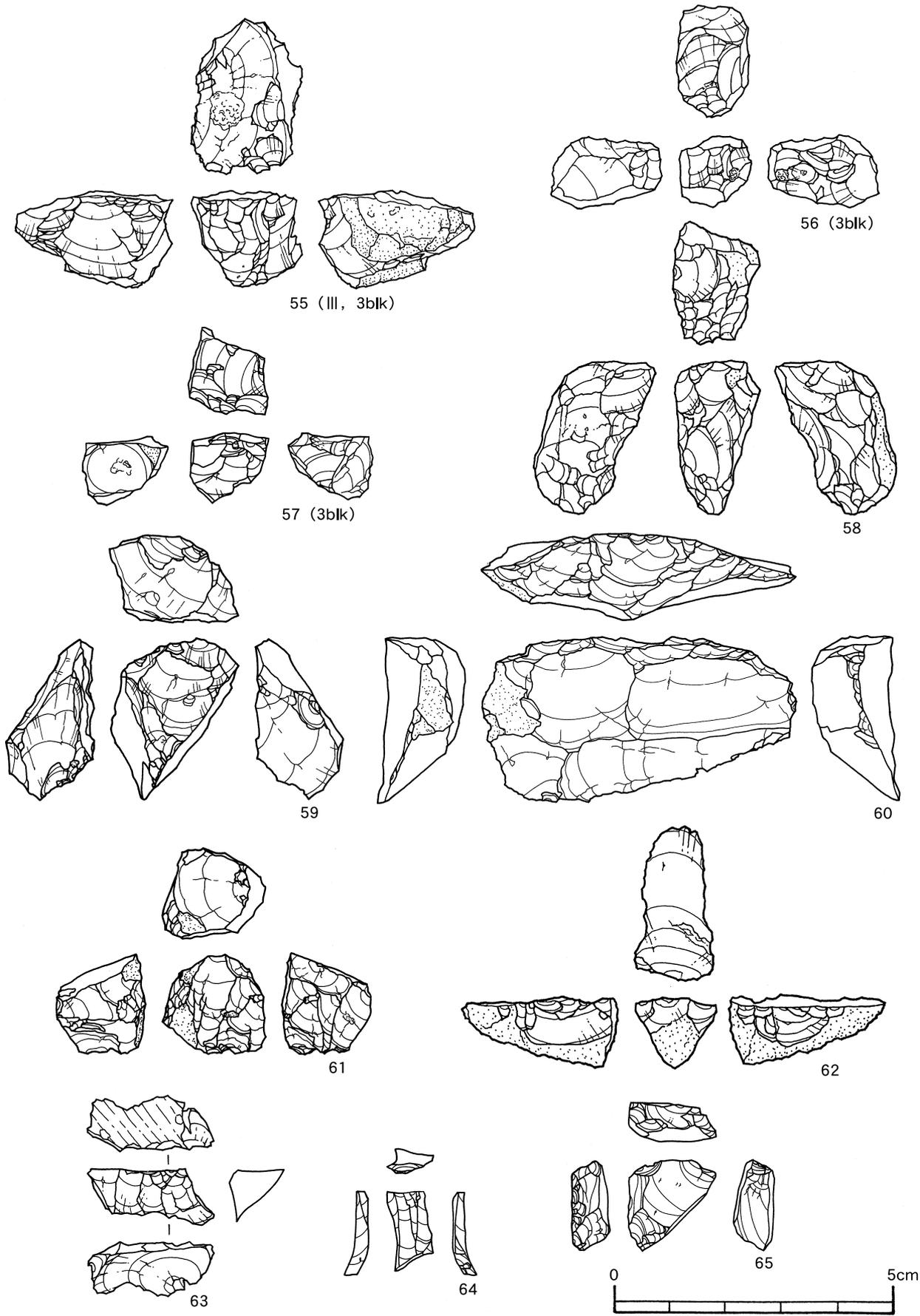
総数1536点のユニットである。細石刃核24点，ブランク7点，作業面再生剥片1点，打面再生剥片1点，砥石1点の全てを図化した。細石刃については58点中9点を図化した。

細石刃核は 類（42，66，70），類（43，44，48，50，52，60，68，69），類（49，53～55），類（45）がみられる。

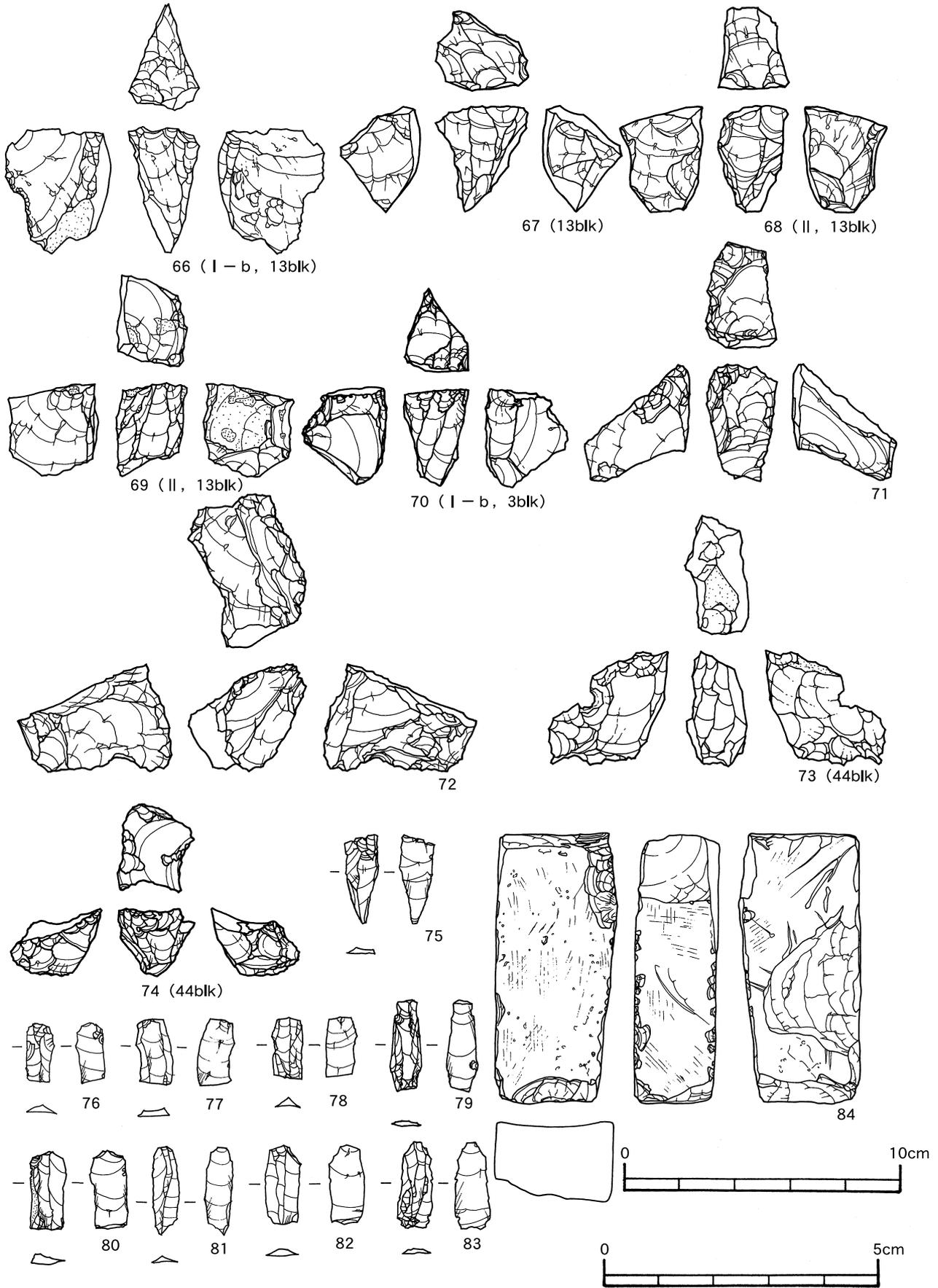
45の打面はポジ面である。素材剥片の背面を横位に作業面として利用している。49は作業面を両端に持つ。両端ともに打面調整を施した後細石刃剥離を行っている。84は凝灰岩製の砥石である。全体的に赤化している。磨面は3面に認められ，特に正面は幅の広い浅めのくぼみが認められ，石斧の存在を窺わせる遺物である。なお，Mユニット325で磨製石斧の刃部が出土しており，サイズ的には本ブロック出土の砥石とちょうど合う。



第37図 Dユニット出土遺物(1)



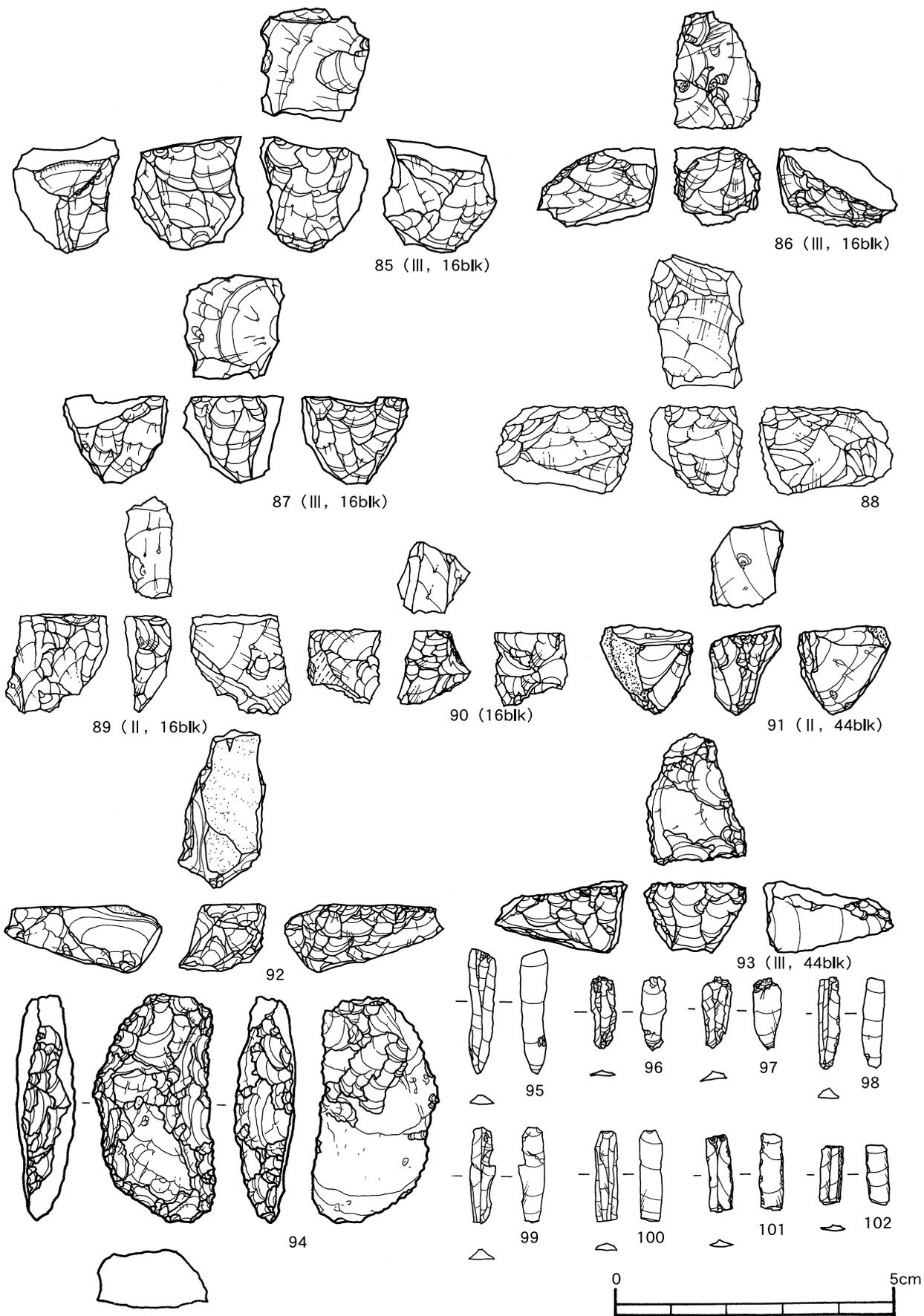
第38図 Dユニット出土遺物(2)



第39図 Dユニット出土遺物(3)

表7 Dユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
42	8386	28.453	67.038	185.635	C	-	2	b	-	8	a	細石刃核	黒曜石A	2.25	1.4	2.1	5.98	3	D	-
43	8208	26.647	69.243	185.745	C	-	2	d	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	2.3	1.2	1.8	5.27	3	D	-
44	10333	18.745	65.604	185.890	B	-	2	b	-	6	b	細石刃核	黒曜石A	1.65	0.72	1.2	2.08	3	D	-
45	13586	28.052	71.597	185.790	C	-	1	b	-	2	a	細石刃核	黒曜石A	2.4	1.55	1.2	3.79	3	D	-
46	14045	29.333	71.021	185.745	C	-	1	a	-	2	a	細石刃核	黒曜石A	1.7	1.55	1.4	3.81	3	D	-
47	8245	27.303	68.138	185.675	C	-	2	c	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.9	1.4	1.3	4.24	3	D	-
48	3821	29.640	69.296	185.650	C	-	2	a	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	2.1	1.8	2	6.89	3	D	-
49	3825	29.035	69.407	185.725	C	-	2	a	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	2	1.9	2.1	7.13	3	D	作業面2面
50	8145	27.930	68.945	185.690	C	-	2	c	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.9	1	1.55	3.38	3	D	-
51	8257	26.825	68.552	185.665	C	-	2	d	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.55	1.2	1.6	2.5	3	D	-
52	8044	28.337	68.611	185.650	C	-	2	b	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	1.5	0.95	1	1.55	3	D	-
53	14027	26.928	69.908	185.745	C	-	2	d	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	2.1	1.75	1.8	5.51	3	D	-
54	12032	22.994	70.128	185.900	C	-	1	h	-	1	a	細石刃核	黒曜石A	1.92	1.7	2.8	8.69	3	D	-
55	20390	27.583	67.299	185.700	C	-	2	c	-	8	a	細石刃核	黒曜石A	1.7	2	2.7	8.55	3	D	-
56	20362	29.566	66.647	185.560	C	-	2	a	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	1.3	1.3	2	4.28	3	D	-
57	8222	26.898	69.454	185.680	C	-	2	d	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	1.2	1.4	1.5	2.41	3	D	-
58	12864	24.528	67.606	185.770	C	-	2	f	-	8	b	ブランク	黒曜石A	2.8	1.5	2.2	7.42	3	D	-
59	8313	29.077	67.691	185.575	C	-	2	a	-	8	a	ブランク	黒曜石A	2.85	2.2	1.55	5.78	3	D	-
60	8037	27.819	68.572	185.635	C	-	2	c	-	9	a	ブランク	黒曜石A	3	5.6	1.6	21.21	3	D	-
61	8182	27.363	69.534	185.730	C	-	2	c	-	10	a	ブランク	黒曜石A	1.8	1.8	1.78	5.51	3	D	-
62	13620	28.323	70.187	185.780	C	-	1	b	-	1	a	ブランク	黒曜石A	1.25	1.4	2.7	3.91	3	D	-
63	14212	29.950	71.676	185.715	C	-	1	a	-	2	a	打面再生剥片	黒曜石A	1	2.25	1	1.47	3	D	-
64	8278	26.454	68.437	185.730	C	-	2	d	-	9	a	作業面再生剥片	黒曜石A	1.5	0.85	0.4	0.27	3	D	-
65	8343	27.891	67.996	185.675	C	-	2	c	-	8	a	スクレイパー	黒曜石A	1.6	1.55	0.7	1.76	3	D	-
66	20404	28.102	67.231	185.635	C	-	2	b	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	2.3	1.3	1.95	3.65	13	D	-
67	8311	29.194	67.412	185.590	C	-	2	a	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	1.9	1.64	1.45	2.87	13	D	-
68	20377	27.559	66.787	185.640	C	-	2	c	-	7	a	細石刃核	黒曜石B	2	1.3	1.5	3.72	13	D	-
69	8734	24.249	61.275	185.805	C	-	2	f	-	2	a	細石刃核	黒曜石B	1.7	1.79	1.66	4.31	13	D	-
70	14220	29.645	70.967	185.700	C	-	1	a	-	1	a	細石刃核	黒曜石A	2.1	1.15	2.15	-	3	D	-
71	11636	28.820	68.346	185.570	C	-	2	b	-	9	a	ブランク	黒曜石B	2.1	1.25	1.9	3.58	13	D	-
72	8329	28.191	67.707	185.680	C	-	2	b	-	8	a	ブランク	黒曜石B	1.95	2.12	2.9	8.47	13	D	-
73	8154	27.779	68.705	185.685	C	-	2	c	-	9	a	細石刃核	黒曜石C	1.8	1.19	1.5	2.64	44	D	-
74	8018	26.598	67.567	185.745	C	-	2	d	-	8	a	細石刃核	黒曜石C	1.2	1.4	1.6	1.87	44	D	-
75	8368	27.756	67.006	185.660	C	-	2	c	-	8	a	細石刃	黒曜石C	0.6	0.7	0.15	-	44	D	中尾部
76	12356	28.034	68.632	185.625	C	-	2	b	-	9	a	細石刃	黒曜石C	1.05	0.5	0.13	-	44	D	頭中部
77	13165	29.097	71.879	186.380	C	-	1	a	-	2	a	細石刃	黒曜石C	1.2	0.67	0.16	-	44	D	頭中部
78	8392	28.587	67.212	185.590	C	-	2	b	-	8	a	細石刃	黒曜石C	1.01	0.58	0.18	-	44	D	頭中部
79	8369	27.779	67.156	185.650	C	-	2	c	-	8	a	細石刃	黒曜石C	1.6	0.65	0.11	-	44	D	中間部
80	10524	27.296	69.384	185.740	C	-	2	c	-	10	a	細石刃	黒曜石A	0.41	0.7	0.22	-	3	D	中間部
81	8767	25.835	64.329	185.755	C	-	2	e	-	5	a	細石刃	黒曜石C	1.59	0.5	0.11	-	44	D	頭中部
82	8131	28.246	69.198	185.700	C	-	2	b	-	10	a	細石刃	黒曜石A	1.41	0.7	0.2	-	3	D	頭中部
83	14004	26.139	71.124	185.800	C	-	1	d	-	2	a	細石刃	黒曜石A	1.55	0.63	0.09	-	3	D	完形
84	9481	24.719	68.224	185.795	C	-	2	f	-	9	a	砥石	凝灰岩	9.95	3.02	4.48	211.24	-	D	-



第40図 Eユニット出土遺物

表8 Eユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
85	12108	22.363	72.321	185.830	C	-	1	h	-	3	a	細石刃核	黒曜石B	2.08	1.9	2	7.32	16	E	-
86	12110	22.352	72.351	185.845	C	-	1	h	-	3	a	細石刃核	黒曜石B	1.42	1.55	2.05	4.56	16	E	-
87	12947	21.131	70.829	185.935	C	-	1	i	-	1	b	細石刃核	黒曜石B	1.53	1.8	1.9	4.78	16	E	-
88	2689	22.363	69.565	185.900	C	-	2	h	-	10	a	ブランク	黒曜石B	1.6	1.7	2.4	6.67	16	E	-
89	14158	25.297	72.019	185.810	C	-	1	e	-	3	a	細石刃核	黒曜石B	1.8	0.8	1.8	2.87	16	E	-
90	12593	20.821	72.434	185.910	C	-	1	j	-	3	a	細石刃核	黒曜石B	1.3	1.3	1.3	1.93	16	E	-
91	14474	25.565	72.139	185.800	C	-	1	e	-	3	a	細石刃核	黒曜石C	1.46	1.8	1.64	2.78	44	E	-
92	9383	23.120	65.457	185.890	C	-	2	g	-	6	a	ブランク	黒曜石C	1.2	1.55	2.82	5.07	44	E	-
93	9460	24.942	68.124	185.805	C	-	2	f	-	9	a	細石刃核	黒曜石C	1.25	1.8	2.3	4.11	44	E	-
94	13443	24.774	72.696	185.880	C	-	1	f	-	3	a	スクレイパー	黒曜石B	4	1	2.2	9.55	16	E	-
95	11760	18.587	72.056	186.010	B	-	1	b	-	3	a	細石刃	黒曜石C	1.35	0.3	0.15	-	44	E	中尾部
96	14610	17.777	72.377	186.025	B	-	1	c	-	3	b	細石刃	黒曜石C	1.3	0.43	0.12	-	44	E	完形
97	14647	23.172	72.626	185.760	C	-	1	g	-	3	b	細石刃	黒曜石B	1.32	0.5	0.2	-	16	E	完形
98	12219	19.653	72.236	185.975	B	-	1	a	-	3	a	細石刃	黒曜石C	1.61	0.4	0.17	-	44	E	中尾部
99	14463	23.138	71.109	185.785	C	-	1	g	-	2	b	細石刃	黒曜石C	1.7	0.3	0.16	-	44	E	頭中部
100	2677	21.619	70.184	185.900	C	-	1	i	-	1	a	細石刃	黒曜石C	1.65	0.4	0.12	-	44	E	頭中部
101	11764	18.291	72.394	186.025	B	-	1	b	-	3	a	細石刃	黒曜石C	2.2	0.46	0.14	-	44	E	中間部
102	12480	23.761	72.991	185.865	C	-	1	g	-	3	a	細石刃	黒曜石C	1	0.4	0.09	-	44	E	中間部

Eユニット(第40図85~102,表8)

16,44ブロックで構成される。両ブロックの一部は平面分布が重なり、垂直分布でも明確な上下関係が認められないためEユニットとして取り扱う。

総数1,236点のユニットである。細石刃核7点,ブランク2点,スクレイパー1点全てを図化した。細石刃は42点中8点を図化した。

細石刃核は 類(89,91), 類(85~87,93)がみられる。当ユニットは 類が中心となるのが特徴である。

85は作業面を両端に2面有する。片側は打面調整後,もう片側は打面調整無しで細石刃剥離を行っている。94は黒曜石B製のスクレイパーである。剥片の腹面から両側縁にやや急角度の剥離により刃部を形成している。

Fユニット(第41~44図103~148,表9)

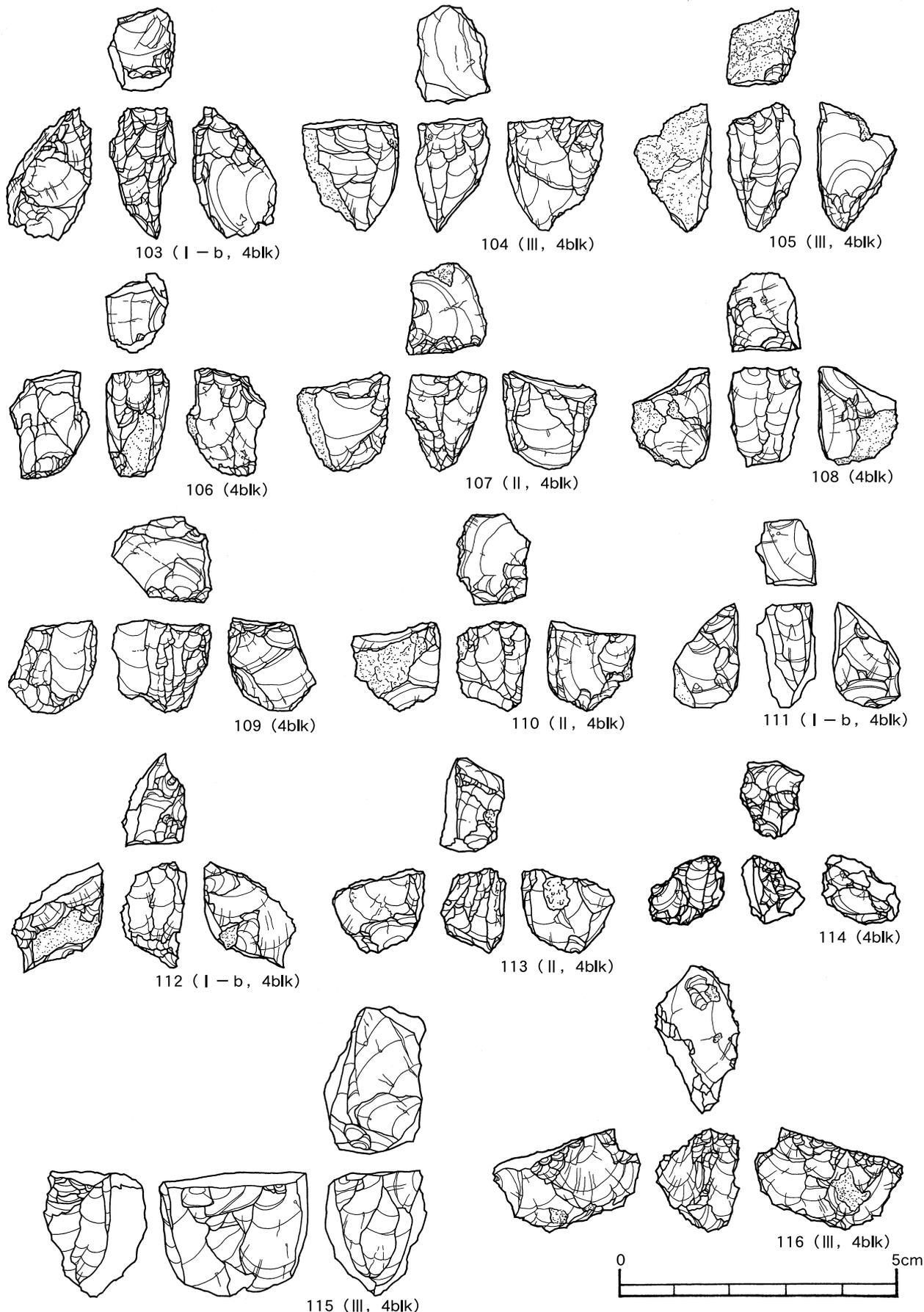
4,14,15,43ブロックで構成される。4者については平面分布がほぼ重なっている。垂直分布でも明確な上下関係が認められず(第28図-1),Fユニットとして取り扱う。

総数1,371点のユニットである。細石刃核32点,ブランク3点,作業面再生剥片2点,叩石1点全てを図化した。細石刃は54点中8点を図化した。

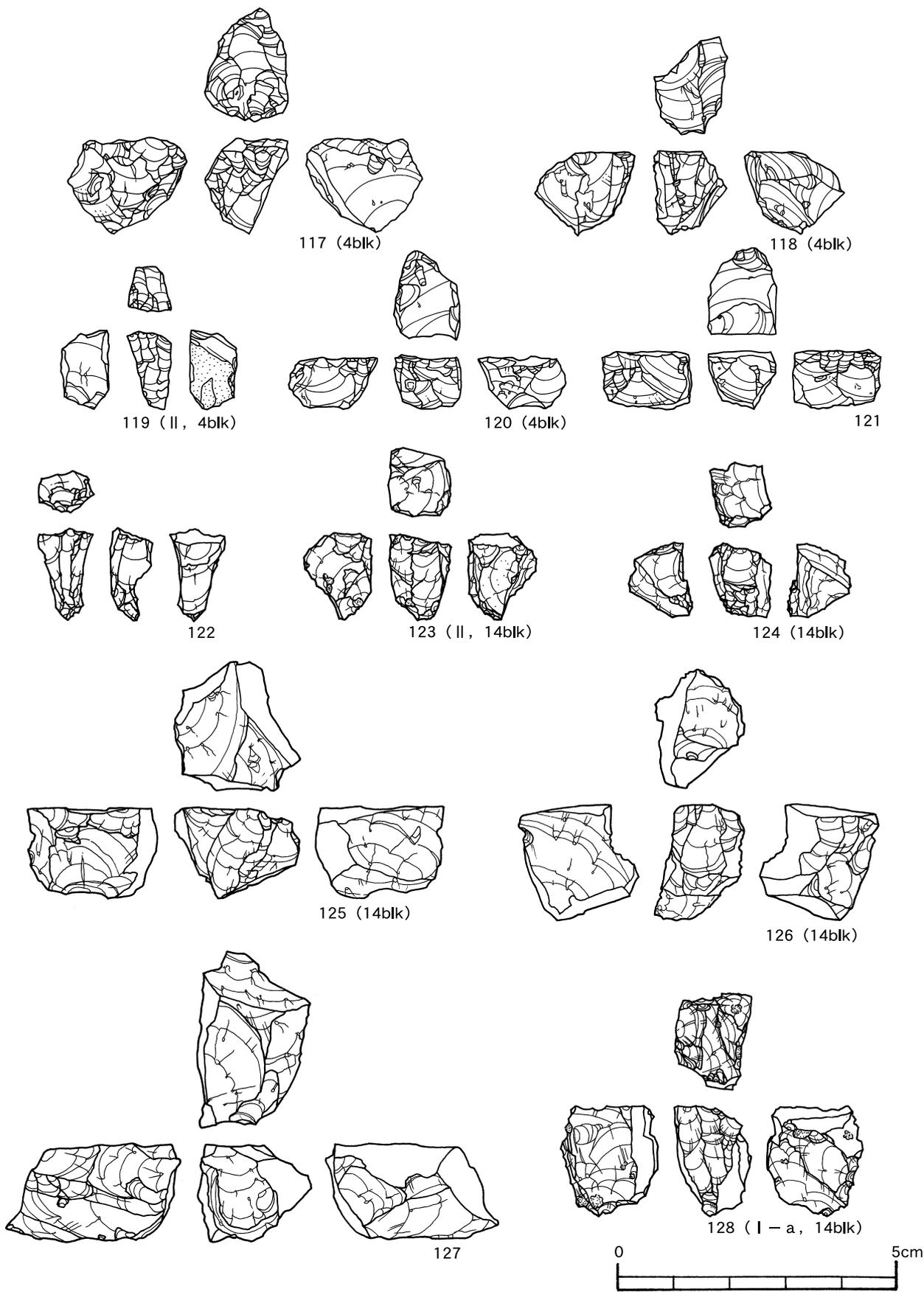
細石刃核は 類(103,111,112,128,129), 類(105,107,110,113,119,123), 類(104,115,116), 類(131,132,134~137)がみられる。

115は両端に作業面を有する。打面調整を行うものを行わないものがある。148は安山岩製の叩石である。上下,側面に若干の叩痕がみられる。

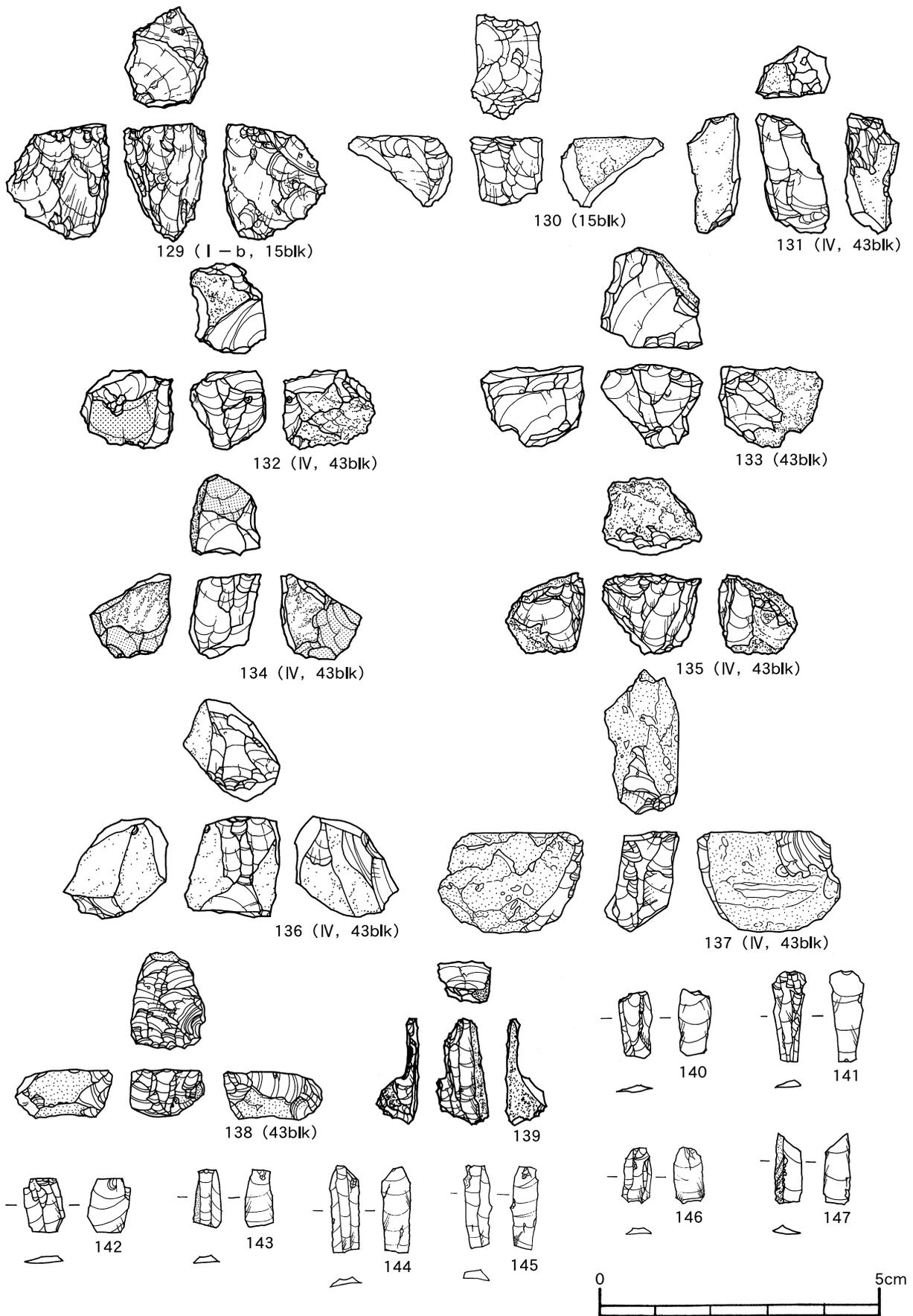
当ユニットは 類を除く各類がそれぞれまとまって出土しているのが特徴である。



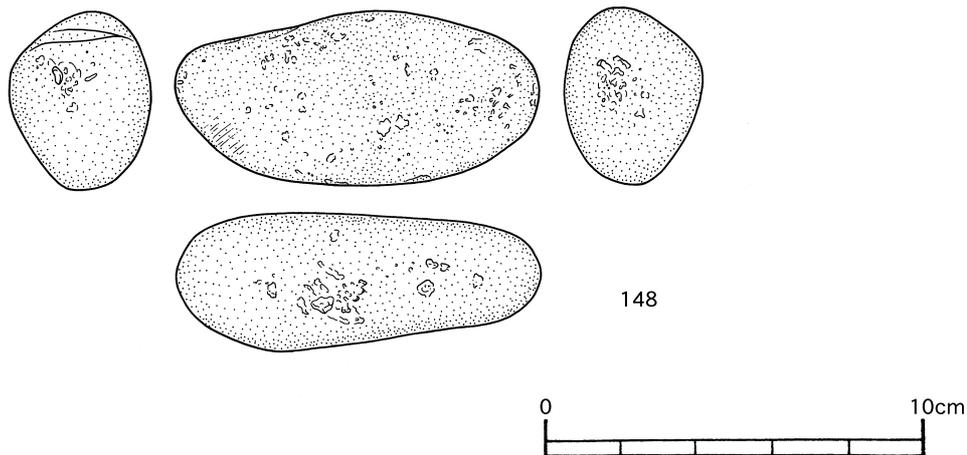
第41図 Fユニット出土遺物(1)



第42図 Fユニット出土遺物(2)



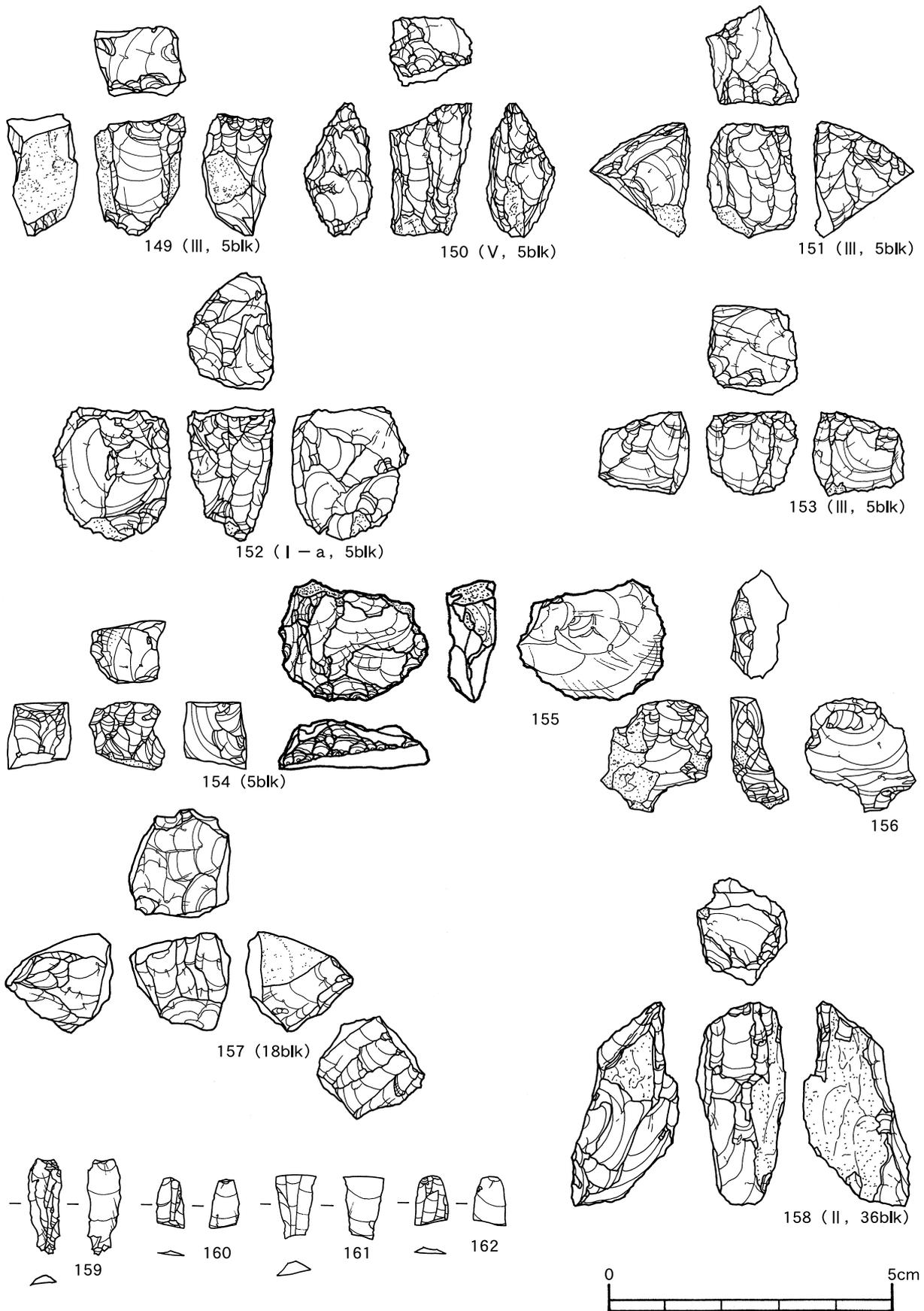
第43図 Fユニット出土遺物(3)



第44図 Fユニット出土遺物(4)

表9 Fユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
103	10912	26.548	61.850	185.810	C	-	2	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	2.3	1.2	1.5	3.5	4	F	-
104	7970	26.208	60.698	185.750	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 A	2	1.3	1.7	4.74	4	F	-
105	7953	26.874	60.516	185.780	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 A	2.3	1.3	1.4	3.24	4	F	-
106	7985	26.308	60.865	185.760	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 A	1.9	1.13	0.9	3.34	4	F	-
107	7920	29.152	61.665	185.685	C	-	2	a	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.75	1.45	1.65	4.01	4	F	-
108	11386	26.542	61.975	185.810	C	-	2	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.8	1.3	1.4	3.37	4	F	-
109	8511	25.877	60.179	185.775	C	-	2	e	-	1	a	細石刃核	黒曜石 A	1.7	1.8	1.55	4.34	4	F	-
110	7965	26.319	60.318	185.790	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 A	1.6	1.3	1.6	3.54	4	F	-
111	8427	27.428	61.565	185.780	C	-	2	c	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.9	1.09	1.19	2.34	4	F	-
112	11017	26.103	61.134	0.000	C	-	2	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.9	1.2	1.6	-	4	F	-
113	7990	26.700	60.807	185.770	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 A	1.5	1.15	1.7	3.39	4	F	-
114	8483	26.899	61.051	185.770	C	-	2	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.2	1	1.4	1.85	4	F	-
115	8773	24.639	64.228	185.825	C	-	2	f	-	5	a	細石刃核	黒曜石 A	2.2	1.8	3.15	13.1	4	F	作業面2面
116	7919	28.732	61.678	185.735	C	-	2	b	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.8	1.5	2.6	5.19	4	F	-
117	8581	26.700	61.925	185.790	C	-	2	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.7	1.5	2.1	4.43	4	F	-
118	8496	26.542	61.250	185.770	C	-	2	d	-	2	a	細石刃核	黒曜石 A	1.5	1.3	1.8	2.78	4	F	-
119	10871	25.785	63.777	185.760	C	-	2	e	-	4	a	細石刃核	黒曜石 A	1.4	0.8	0.85	0.86	4	F	-
120	7982	26.601	60.699	185.790	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 A	1	1.2	1.6	1.93	4	F	-
121	7980	26.693	60.613	185.780	C	-	2	d	-	1	a	ブランク	黒曜石 A	1.03	1.2	1.6	2.54	4	F	-
122	8472	26.917	61.506	185.760	C	-	2	d	-	2	a	作業面再生剥片	黒曜石 A	1.68	0.72	1	0.86	4	F	-
123	8714	24.003	60.728	185.835	C	-	2	f	-	1	a	細石刃核	黒曜石 B	1.5	1.1	1.2	2.56	14	F	-
124	8743	24.919	61.587	185.770	C	-	2	f	-	2	a	細石刃核	黒曜石 B	1.3	1.11	1.1	1.26	14	F	-
125	8630	25.856	63.397	185.755	C	-	2	e	-	4	a	細石刃核	黒曜石 B	1.6	2.2	2.3	7.68	14	F	-
126	8722	24.493	60.904	185.825	C	-	2	f	-	1	a	細石刃核	黒曜石 B	2.05	1.6	2.1	5.19	14	F	-
127	11031	25.754	61.177	185.790	C	-	2	e	-	2	a	ブランク	黒曜石 B	1.7	2	3.1	11.17	14	F	-
128	8726	24.166	60.906	185.815	C	-	2	f	-	1	a	細石刃核	黒曜石 B	1.95	1.35	1.8	4.3	14	F	-
129	11073	23.935	60.708	185.840	C	-	2	g	-	1	a	細石刃核	黒曜石 B	2.03	1.45	8.2	5.21	15	F	-
130	8727	24.228	60.805	185.830	C	-	2	f	-	1	a	細石刃核	黒曜石 B	1.25	1.3	1.7	2.57	15	F	-
131	7957	26.724	60.246	185.780	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 C	2.1	1.3	0.9	1.57	43	F	-
132	9155	26.914	59.846	185.765	C	-	3	d	-	10	a	細石刃核	黒曜石 C	1.4	1.35	1.65	3.37	43	F	-
133	7963	26.161	60.252	185.780	C	-	2	d	-	1	a	細石刃核	黒曜石 C	1.45	1.8	1.8	4.23	43	F	-
134	8635	25.842	62.960	185.770	C	-	2	e	-	3	a	細石刃核	黒曜石 C	1.5	1.25	1.4	2.49	43	F	-
135	7938	27.558	60.804	185.790	C	-	2	c	-	1	a	細石刃核	黒曜石 C	1.45	1.7	1.4	3.38	43	F	-
136	9044	27.484	58.388	185.780	C	-	3	c	-	9	a	ブランク	黒曜石 C	1.8	1.65	1.8	4.4	43	F	-
137	9074	27.029	58.901	185.810	C	-	3	c	-	9	a	細石刃核	黒曜石 C	1.78	1.25	2.55	5.11	43	F	-
138	7950	27.139	60.416	185.770	C	-	2	c	-	1	a	細石刃核	黒曜石 C	0.85	0.8	1.75	2.52	43	F	-
139	9273	25.251	58.508	185.835	C	-	3	e	-	9	a	作業面再生剥片	黒曜石 C	1.85	0.9	0.7	0.81	43	F	-
140	10977	27.028	61.313	0.000	C	-	2	c	-	2	a	細石刃	黒曜石 B	0.7	0.62	0.15	-	14	F	中間部
141	10866	23.490	63.517	185.875	C	-	2	g	-	4	a	細石刃	黒曜石 C	1.62	0.61	0.21	-	43	F	頭中部
142	12407	25.077	59.450	185.790	C	-	3	e	-	10	b	細石刃	黒曜石 C	0.95	0.7	0.15	-	43	F	頭部
143	9086	27.987	57.228	185.695	C	-	3	c	-	8	a	細石刃	黒曜石 C	1	0.5	0.09	-	43	F	頭中部
144	9154	26.918	59.801	185.755	C	-	3	d	-	10	a	細石刃	黒曜石 C	1.52	0.5	0.1	-	43	F	頭中部
145	8628	25.704	63.667	185.765	C	-	2	e	-	4	a	細石刃	黒曜石 C	1.45	0.45	0.15	-	43	F	頭中部
146	7976	26.492	60.578	185.770	C	-	2	d	-	1	a	細石刃	黒曜石 C	0.99	0.53	0.11	-	43	F	頭中部
147	8794	24.352	63.269	185.800	C	-	2	f	-	4	a	細石刃	黒曜石 C	1.23	0.5	0.15	-	43	F	中間部
148	9173	25.235	61.496	185.745	C	-	2	e	-	2	a	叩石	安山岩	4.7	9.6	3.7	227.64	4 or 14	F	-



第45図 Gユニット出土遺物

表10 Gユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
149	2722	20.648	61.987	186.045	C	-	2	j	-	2	a	細石刃核	黒曜石A	2.3	1.5	2	7.46	5	G	-
150	3944	20.886	61.752	186.020	C	-	2	j	-	2	a	細石刃核	黒曜石A	2.2	1.6	1.22	5.02	5	G	-
151	8865	22.600	61.816	185.865	C	-	2	h	-	2	a	細石刃核	黒曜石A	2.32	1.48	1.21	3.9	5	G	-
152	2797	20.514	62.357	186.005	C	-	2	j	-	3	a	細石刃核	黒曜石A	2	1.59	1.73	4.74	5	G	-
153	8878	22.650	60.794	185.905	C	-	2	h	-	1	a	細石刃核	黒曜石A	1.5	1.61	1.5	4.51	5	G	-
154	8885	22.227	60.888	185.955	C	-	2	h	-	1	a	細石刃核	黒曜石A	1.2	1.3	1.1	2.17	5	G	-
155	3956	21.654	61.711	185.975	C	-	2	i	-	2	a	スクレイパー	黒曜石A	2.1	0.85	2.6	5.31	5	G	-
156	8886	22.313	61.046	185.925	C	-	2	h	-	2	a	細石刃核整形剥片	黒曜石A	2	1	1.95	2.42	5	G	-
157	3312	21.621	61.034	186.000	C	-	2	i	-	2	a	細石刃核	黒曜石B	1.7	1.75	1.9	4.99	18	G	-
158	8869	22.602	61.552	185.885	C	-	2	h	-	2	a	細石刃核	黒色安山岩	3.6	1.6	1.66	8.9	36	G	-
159	3923	21.635	59.491	186.060	C	-	3	i	-	10	a	細石刃	黒曜石A	0.7	0.62	0.18	-	5	G	完形
160	3379	21.290	62.977	186.055	C	-	2	i	-	3	a	細石刃	黒曜石A	0.85	0.58	0.1	-	5	G	頭中部
161	3641	22.255	60.711	185.980	C	-	2	h	-	1	a	細石刃	黒曜石A	1.1	0.7	0.17	-	5	G	中間部
162	4546	21.949	59.421	186.015	C	-	3	i	-	10	a	細石刃	黒曜石A	0.9	0.62	0.21	-	5	G	頭部

Gユニット（第45図149～162，表10）

5，18，36ブロックで構成される。5，36ブロックは平面分布が重なっている。また，18ブロックについては一部重なっている。分布にばらつきが見え，垂直分布がうまくいかない可能性があるため，小グリッドの2列（1m幅）での垂直分布の比較を行った。その結果，垂直分布は重複部分について明確な上下関係が認められないため（第28図-2），Gユニットとして取り扱う。

総数553点のユニットである。細石刃核8点，スクレイパー1点，細石刃核整形剥片1点全てを図化した。細石刃は7点中4点を図化した。

細石刃核は 類（152）， 類（158）， 類（149，151，153）， 類（150）がみられる。150の背面はポジ面である。 類のいずれにも打面調整がみられることが特徴といえようか。

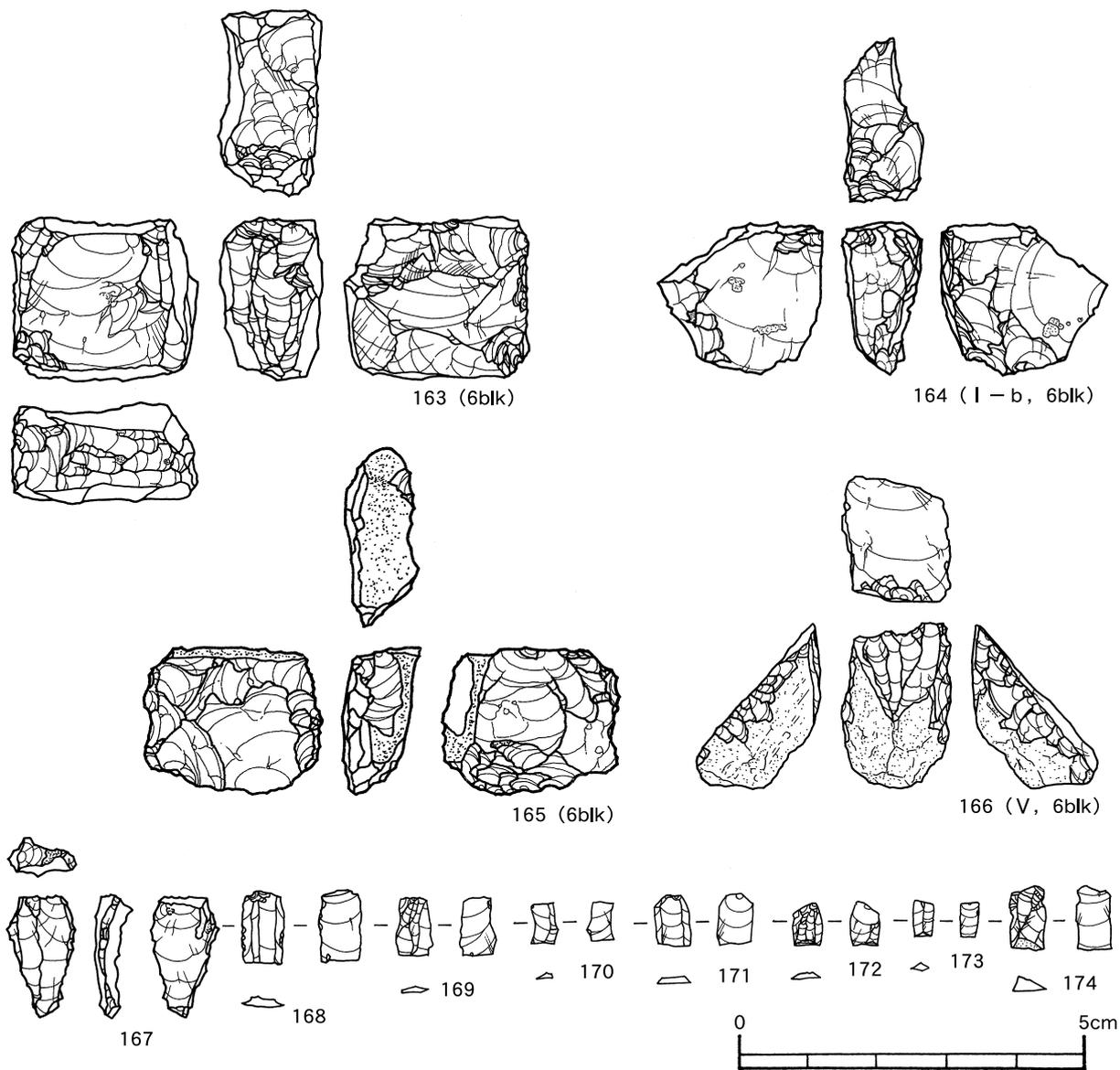
155はスクレイパーである。薄手の剥片の端部にやや急角度な調整により刃部を形成している。157は両端に作業面を持つ。両端とも打面調整が行われている。

Hユニット（第46図163～174，表11）

6ブロック，17ブロックで構成される。両ブロックは平面分布が一部重なっている。特に17ブロックについては線状に分布がみられる。垂直分布をみると，20.5～22の座標にかけて6ブロックが上位に見えるが，17ブロックが斜めに線状に偏った分布を見せていることに起因する乱れである（第28図-3）。よって6，17ブロックをHユニットとして取り扱う。

総数648点のユニットである。細石刃核4点，作業面再生剥片1点，細石刃7点全てを図化した。

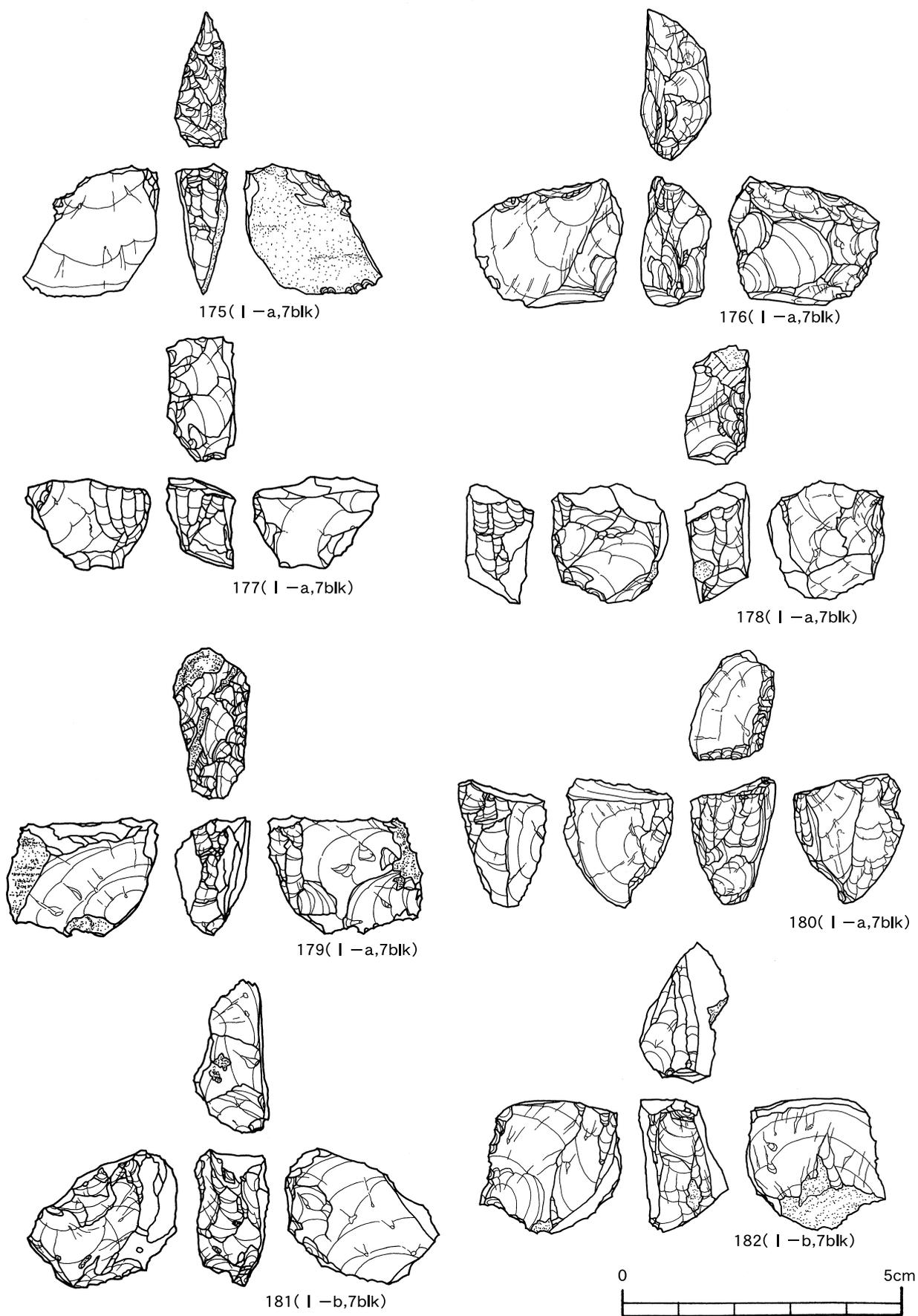
細石刃核は 類（164）， 類（166）がみられる。163は両端に作業面をもつ。166の打面はポジ面である。素材剥片の背面を縦位に作業面として利用している。



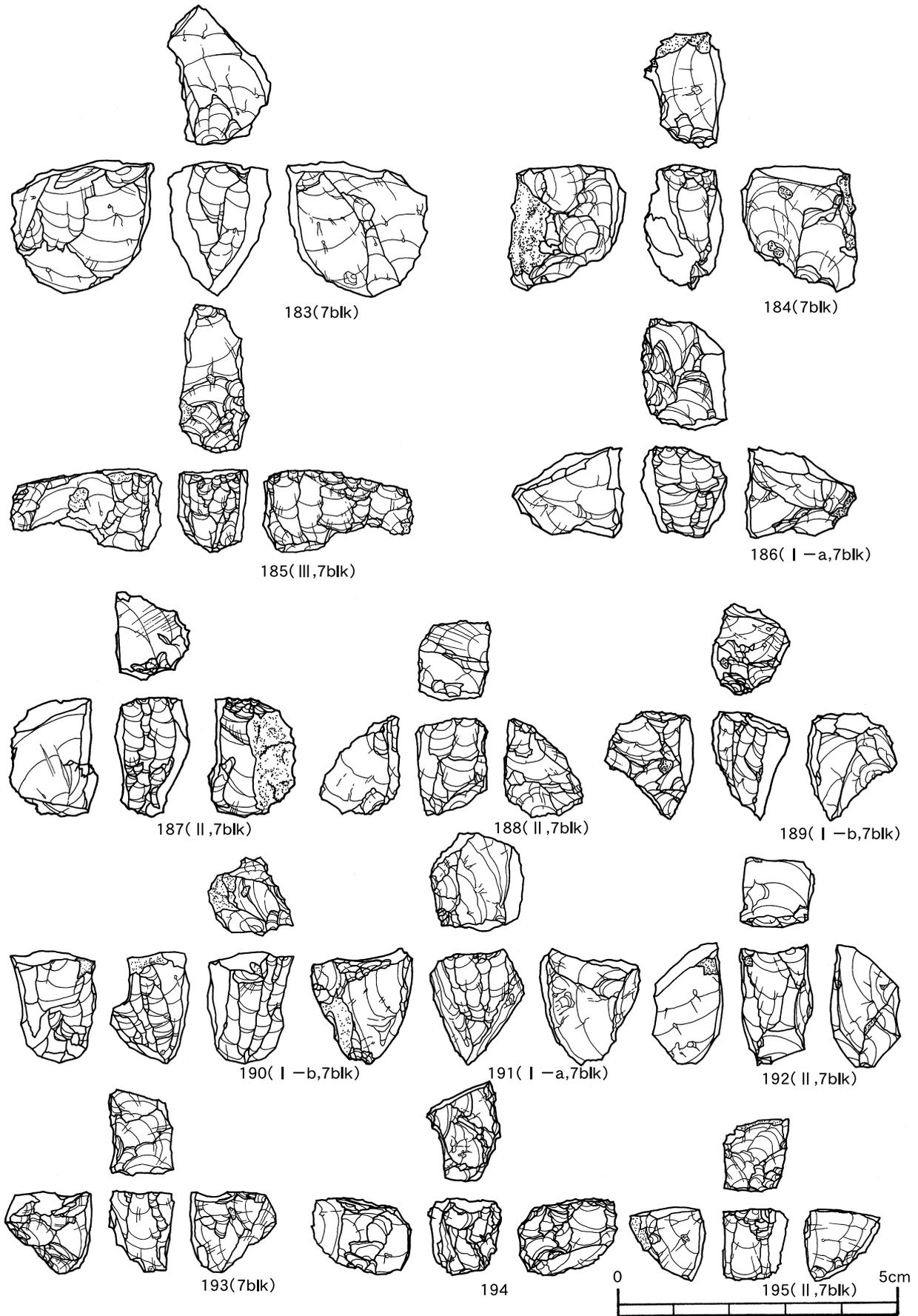
第46図 Hユニット出土遺物

表11 Hユニット実測遺物観察表

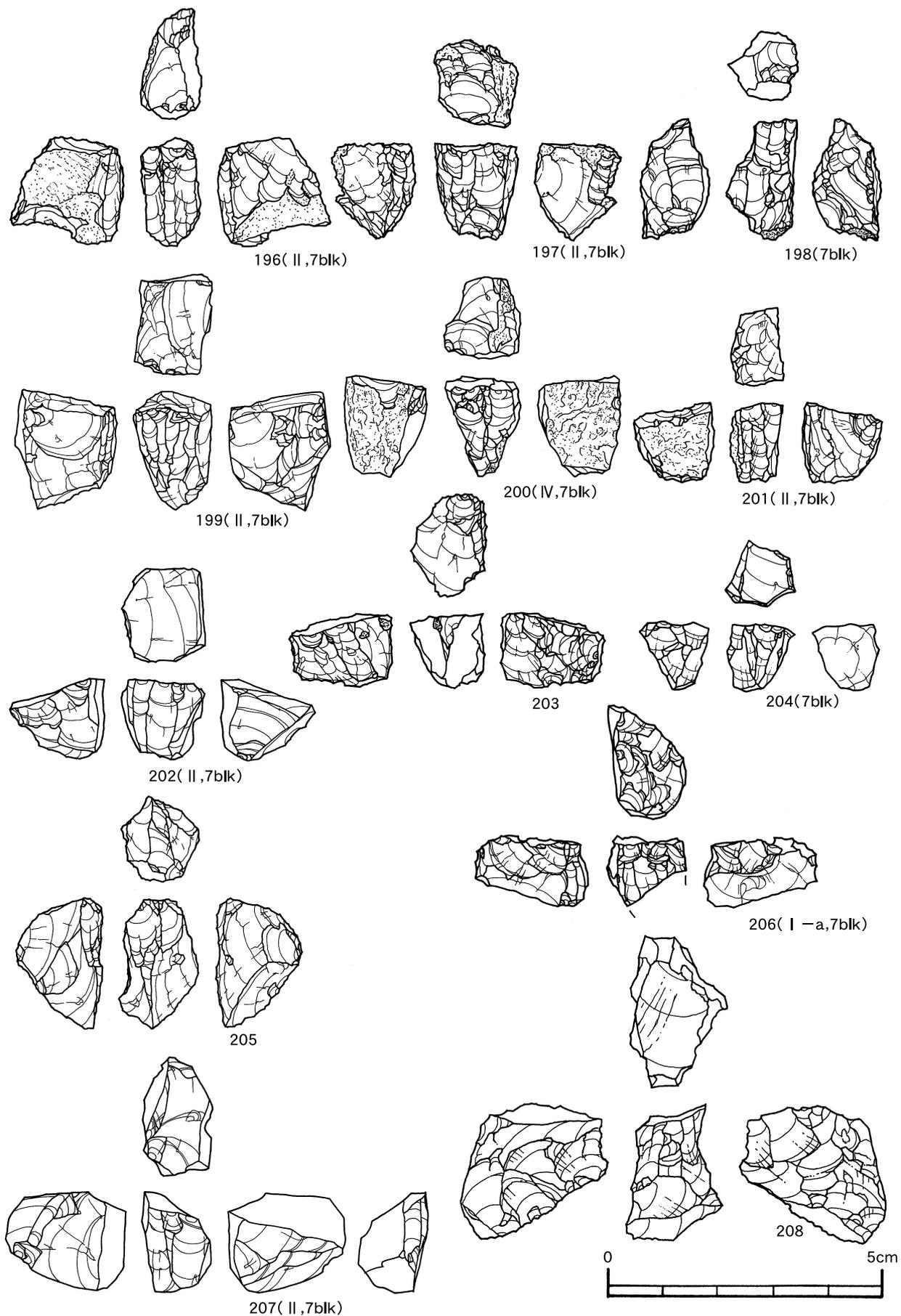
図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
163	3535	21.881	65.479	185.920	C	-	2	i	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.4	1.5	2.7	13.05	6	H	作業面2面
164	10529	26.793	69.043	185.705	C	-	2	d	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	2.2	1.1	2.4	5.69	6	H	-
165	9386	23.058	65.598	185.870	C	-	2	g	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.15	1.1	2.5	7.27	6	H	-
166	10778	23.041	65.570	185.880	C	-	2	g	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.4	1.6	1.4	4.96	6	H	-
167	8926	22.419	64.005	185.950	C	-	2	h	-	5	a	作業面再生剥片	黒曜石A	1.8	0.52	1	0.52	6	H	-
168	9406	23.369	64.689	185.940	C	-	2	g	-	5	a	細石刃	黒曜石A	1.2	0.6	0.19	-	6	H	中間部
169	4940	21.010	63.174	186.005	C	-	2	i	-	4	a	細石刃	黒曜石A	0.88	0.52	0.12	-	6	H	中間部
170	5656	21.978	63.535	185.965	C	-	2	i	-	4	a	細石刃	黒曜石A	0.6	0.39	0.07	-	6	H	中間部
171	8989	21.858	63.386	185.935	C	-	2	i	-	4	a	細石刃	黒曜石A	0.75	0.52	0.1	-	6	H	頭部
172	9374	23.204	64.452	185.930	C	-	2	g	-	5	a	細石刃	黒曜石A	0.63	0.5	0.09	-	6	H	頭部
173	10820	21.762	64.263	185.910	C	-	2	i	-	5	a	細石刃	黒曜石A	0.52	0.31	0.13	-	6	H	中間部
174	13130	20.478	64.389	185.930	C	-	2	j	-	5	a	細石刃	黒曜石B	0.9	0.5	0.2	-	17	H	尾部



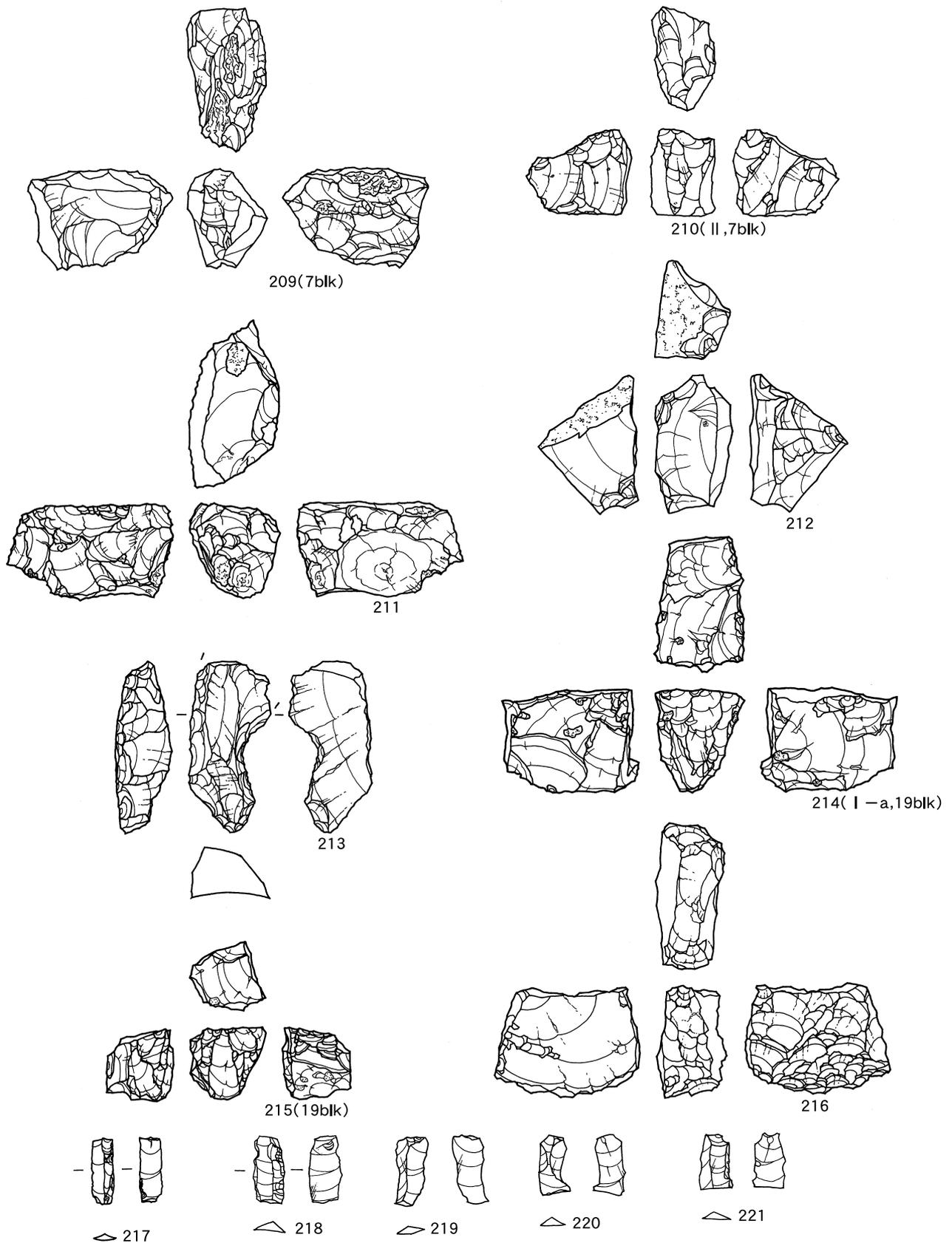
第47図 Iユニット出土遺物(1)



第48図 Iユニット出土遺物(2)



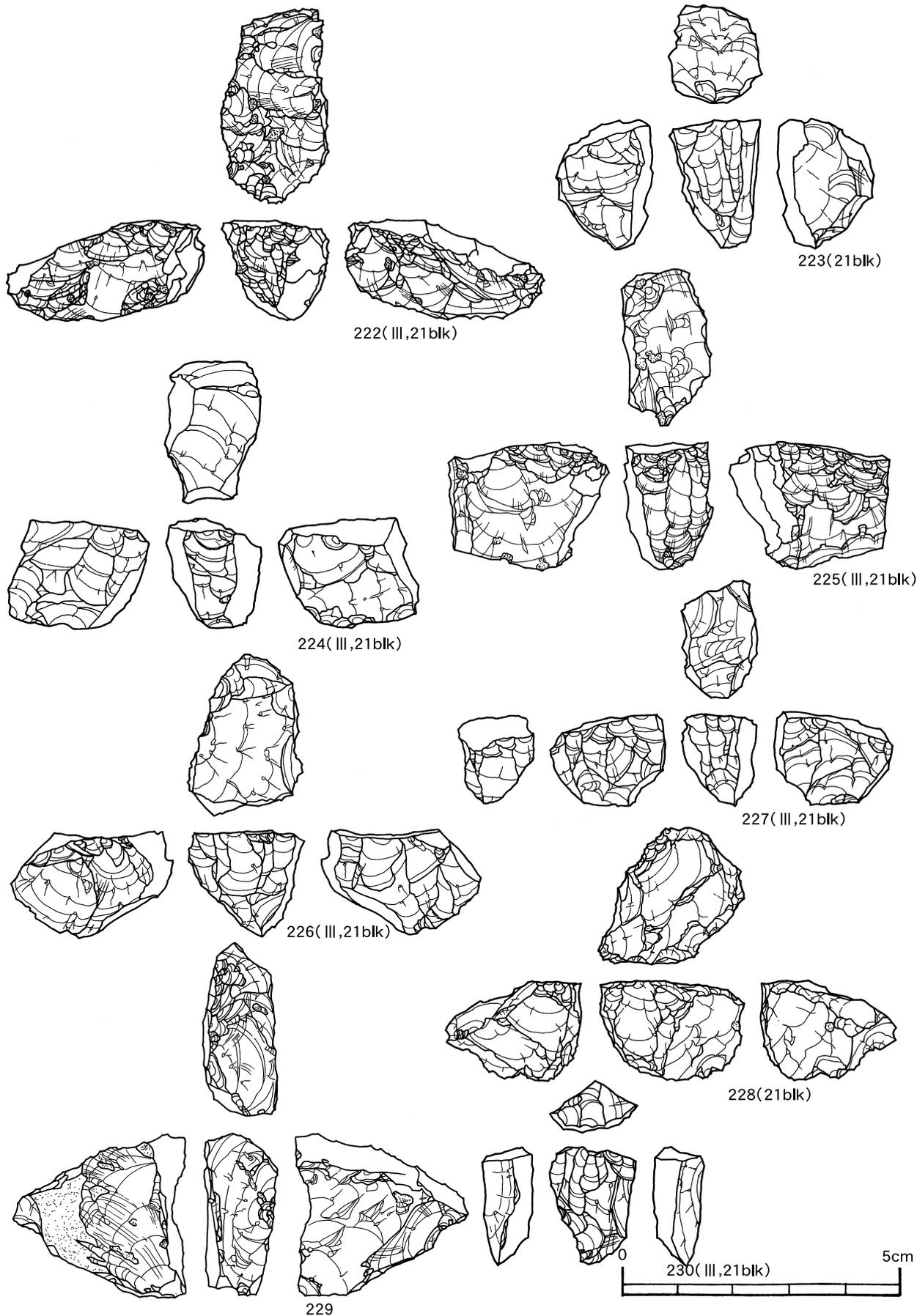
第49図 Iユニット出土遺物(3)



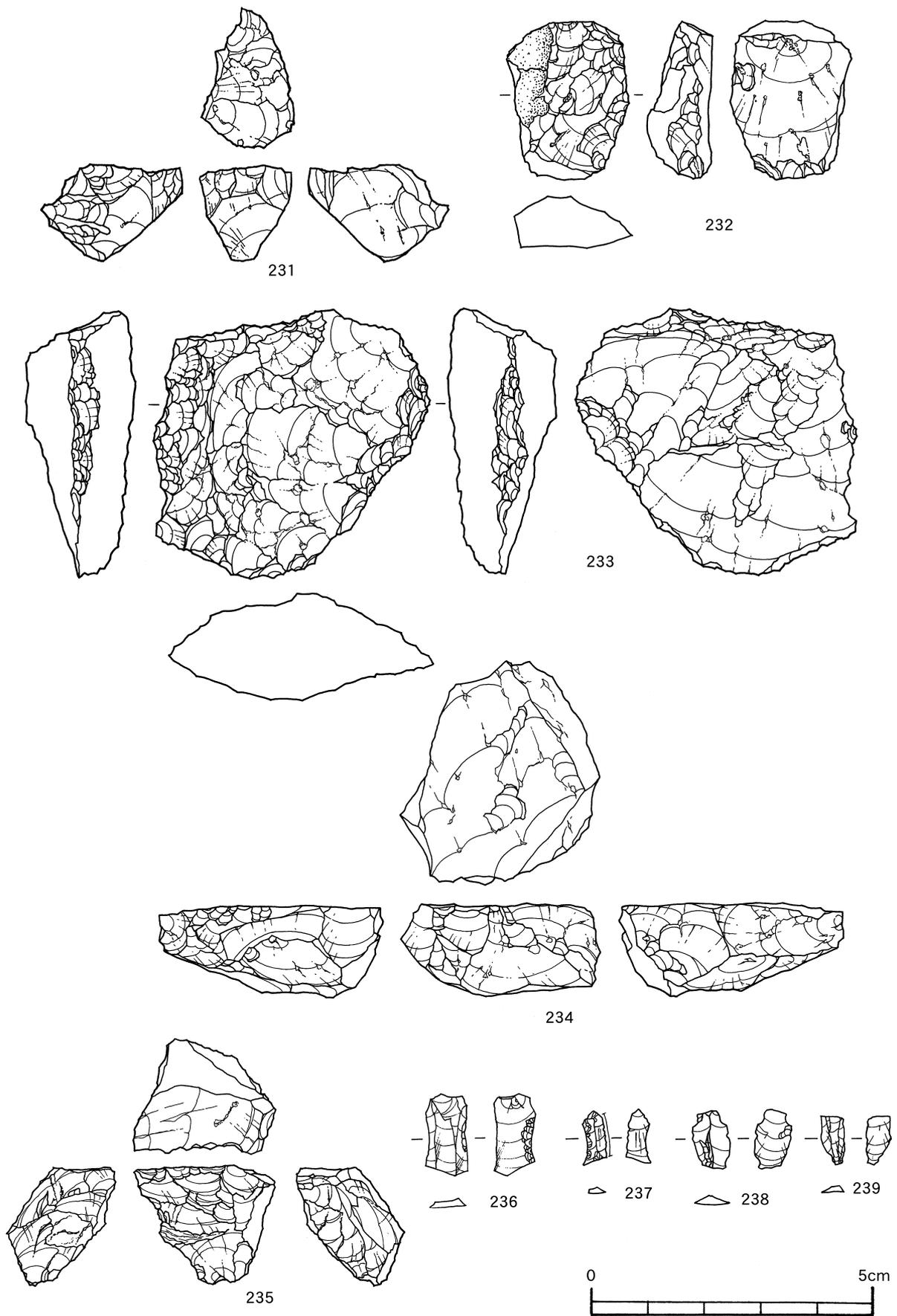
第50図 Iユニット出土遺物(4)

表12 Iユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
175	3449	17.570	66.068	185.970	B	-	2	c	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	2.3	0.9	2.4	4.31	7	I	-
176	9977	17.878	66.694	185.705	B	-	2	c	-	7	b	細石刃核	黒曜石A	2.32	1.29	2.69	9.35	7	I	-
177	3011	18.821	64.649	186.010	B	-	2	b	-	5	a	細石刃核	黒曜石A	1.6	1.2	2.2	4.67	7	I	-
178	3141	18.829	65.515	185.980	B	-	2	b	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.1	1.1	2.05	5.69	7	I	-
179	1630	18.659	65.746	185.990	B	-	2	b	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.1	1.3	2.5	7.71	7	I	-
180	4260	18.573	65.977	185.935	B	-	2	b	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.3	1.51	1.95	6.93	7	I	-
181	2433	17.469	66.626	185.990	B	-	2	c	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	2.2	1.25	2	7.81	7	I	-
182	1363	17.486	67.309	186.000	B	-	2	c	-	8	a	細石刃核	黒曜石A	2.4	1.6	2.5	7.84	7	I	-
183	7667	17.215	66.848	185.945	B	-	2	c	-	7	b	細石刃核	黒曜石B	2.4	1.82	2.5	9.28	7	I	-
184	2549	19.554	65.459	185.970	B	-	2	a	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.3	1.4	2	6.47	7	I	-
185	2474	18.733	66.212	185.955	B	-	2	b	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	1.4	1.2	2.65	5.12	7	I	-
186	1465	16.601	66.072	186.035	B	-	2	d	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	1.61	1.5	2	4.95	7	I	-
187	2551	19.560	65.218	185.975	B	-	2	a	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.1	1.3	1.52	4.2	7	I	-
188	2564	19.131	65.491	185.980	B	-	2	a	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	1.7	1.25	1.4	3.54	7	I	-
189	3557	20.443	65.622	185.950	C	-	2	j	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	1.9	1.4	1.6	3.48	7	I	-
190	1644	18.877	65.520	185.985	B	-	2	b	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.14	1.58	1.4	4.39	7	I	-
191	2434	17.512	66.428	185.995	B	-	2	c	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	1.1	1.7	1.8	5.73	7	I	-
192	10124	13.235	65.847	186.070	B	-	2	g	-	6	b	細石刃核	黒曜石A	2.18	1.3	2.13	3.96	7	I	-
193	1380	17.553	66.884	186.010	B	-	2	c	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	1.4	1.15	1.5	2.41	7	I	-
194	2451	19.493	66.333	185.930	B	-	2	a	-	7	a	ブランク	黒曜石A	1.38	1.39	1.8	3.54	7	I	-
195	1290	17.721	68.372	186.000	B	-	2	c	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	0.8	1.05	1.3	2.39	7	I	-
196	2653	18.780	64.455	186.015	B	-	2	b	-	5	a	細石刃核	黒曜石A	2	1.1	2.05	4.52	7	I	-
197	2622	19.493	65.105	185.965	B	-	2	a	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	1.72	1.55	1.6	3.98	7	I	-
198	3547	20.111	65.238	185.985	C	-	2	j	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	2.2	1.2	1.25	3.57	7	I	-
199	6431	18.509	64.965	186.650	B	-	2	b	-	5	a	細石刃核	黒曜石A	2.14	1.91	1.85	6.73	7	I	-
200	3434	17.416	66.768	185.970	B	-	2	c	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	1.86	1.4	1.5	3.6	7	I	-
201	4077	17.552	65.236	186.010	B	-	2	c	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	1.4	0.9	1.45	2.31	7	I	-
202	7471	18.234	65.740	185.950	B	-	2	b	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	1.45	1.5	1.7	3.53	7	I	-
203	3037	18.784	65.374	185.975	B	-	2	b	-	6	a	ブランク	黒曜石A	1.36	1.3	1.8	3.67	7	I	-
204	3585	21.289	66.649	185.915	C	-	2	i	-	7	a	細石刃核	黒曜石A	1.25	1.2	1.2	1.5	7	I	-
205	2646	19.219	64.520	185.995	B	-	2	a	-	5	a	ブランク	黒曜石A	2.3	1.4	1.6	4.06	7	I	-
206	1332	17.621	67.760	186.020	B	-	2	c	-	8	a	細石刃核	黒曜石A	1.3	1.4	2.05	2.68	7	I	-
207	7673	17.618	66.962	185.925	B	-	2	c	-	7	b	細石刃核	黒曜石A	1.85	1.29	2.15	5.17	7	I	作業面2面
208	3591	21.460	66.047	185.915	C	-	2	i	-	7	a	ブランク	黒曜石A	2.5	1.7	2.7	9.09	7	I	-
209	4361	18.632	64.720	185.995	B	-	2	b	-	5	a	細石刃核	黒曜石A	1.8	1.4	2.5	0.3	7	I	-
210	2613	18.900	65.047	185.985	B	-	2	b	-	6	a	細石刃核	黒曜石A	1.6	1.2	1.9	3.94	7	I	-
211	3594	22.121	66.764	185.865	C	-	2	h	-	7	a	ブランク	黒曜石A	1.7	1.6	2.99	7.2	7	I	-
212	2197	17.350	64.008	186.060	B	-	2	c	-	5	a	ブランク	黒曜石A	2.5	1.4	1.75	5.12	7	I	-
213	2605	18.355	64.759	186.040	B	-	2	b	-	5	a	ナイフ形石器	黒曜石A	3.1	1.5	1	4.11	7	I	-
214	7134	19.685	65.058	185.900	B	-	2	a	-	6	b	細石刃核	黒曜石B	1.8	1.6	2.4	7.31	19	I	-
215	4404	19.549	65.337	185.980	B	-	2	a	-	6	a	細石刃核	黒曜石B	1.8	1.32	1.21	2.46	19	I	-
216	1415	17.347	66.706	185.980	B	-	2	c	-	7	a	ブランク	黒曜石A	2	1.3	2.6	-	7	I	-
217	10174	18.239	66.236	185.915	B	-	2	b	-	7	b	細石刃	黒曜石A	1.11	0.41	0.17	-	7	I	中間部
218	7604	17.991	65.515	185.965	B	-	2	c	-	6	b	細石刃	黒曜石A	1.21	0.55	0.18	-	7	I	頭中部
219	7099	18.117	65.256	185.980	B	-	2	b	-	6	a	細石刃	黒曜石A	1.29	0.6	0.2	-	7	I	完形
220	7019	18.364	65.362	185.970	B	-	2	b	-	6	a	細石刃	黒曜石A	1.01	0.55	0.15	-	7	I	頭中部
221	2600	17.838	64.981	186.020	B	-	2	c	-	5	a	細石刃	黒曜石A	0.98	0.6	0.11	-	7	I	頭部



第51図 Jユニット出土遺物(1)



第52図 J ユニット出土遺物(2)

表13 Jユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
222	1273	16.679	68.469	186.055	B	-	2	d	-	9	a	細石刃核	黒曜石B	1.9	2.1	2.9	9.7	21	J	-
223	1274	16.731	68.354	186.035	B	-	2	d	-	9	a	細石刃核	黒曜石B	1.8	1.95	3.55	11.96	21	J	-
224	1333	17.758	67.781	186.015	B	-	2	c	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	2.3	1.6	1.7	6.31	21	J	-
225	1324	16.579	67.420	185.998	B	-	2	d	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	1.95	1.7	2.5	9.55	21	J	-
226	1286	16.410	67.997	186.045	B	-	2	d	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	2.3	1.6	2.9	10.43	21	J	-
227	1291	17.683	67.995	186.000	B	-	2	c	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	1.7	1.32	2.1	4.97	21	J	-
228	1287	16.442	67.887	186.048	B	-	2	d	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	2.3	2.6	2.4	9.53	21	J	-
229	9969	14.332	65.862	185.950	B	-	2	f	-	6	b	ブランク	黒曜石B	2.95	1.34	3.1	11.82	21	J	-
230	1360	17.380	67.200	186.000	B	-	2	c	-	8	a	細石刃核	黒曜石B	2.1	2.53	0.9	2.33	21	J	スクレイパー
231	3278	16.010	66.249	186.015	B	-	2	d	-	7	a	ブランク	黒曜石B	1.7	1.7	2.45	4.95	21	J	-
232	1315	15.850	67.613	186.068	B	-	2	e	-	8	a	スクレイパー	黒曜石B	2.8	2.2	1.1	5.9	21	J	-
233	1367	17.759	67.247	186.000	B	-	2	c	-	8	a	スクレイパー	黒曜石B	4.8	5	1.95	36.91	21	J	-
234	11730	18.355	72.723	186.010	B	-	1	b	-	3	a	石核	黒曜石B	1.7	3.6	4	22.5	21	J	-
235	1473	16.731	65.938	186.030	B	-	2	d	-	6	a	石核	黒曜石A	2.1	2.6	1.7	8.4	21	J	-
236	1306	16.376	67.824	186.077	B	-	2	d	-	8	a	細石刃	黒曜石B	-	-	-	-	21	J	-
237	1132	15.341	66.553	186.090	B	-	2	e	-	7	a	細石刃	黒曜石B	0.95	0.5	0.12	-	21	J	中間部
238	2271	16.601	66.677	186.010	B	-	2	d	-	7	a	細石刃	黒曜石B	1.05	0.61	0.14	-	21	J	頭部
239	5230	15.236	66.671	186.050	B	-	2	e	-	7	a	細石刃	黒曜石B	0.95	0.41	0.11	-	21	J	尾部

Iユニット（第47～50図175～221，表12）

7，19ブロックで構成される。7，19ブロックに加えて37ブロックも大小の違いはあるものの，分布の中心が一致している。しかし，垂直分布は7，19ブロックは一致しているが，37ブロックが全体的に上位に位置している。特に座標18から18.5にかけての分布の中心が7，19ブロックが185.95m付近をピークとしているのに対し，37ブロックについては186m付近をピークとしている（第29図-1）。よって7，19ブロックをIユニットとして扱い，37ブロックは時期の新しい単独のブロックとして別に取り扱う。

総数3,831点で，当遺跡最大規模のユニットである。細石刃核34点，ブランク7点，ナイフ形石器1点全てを図化した。細石刃は35点中5点を図化した。

細石刃核は 類（175～182，186，189～191，206，214）， 類（187，188，192，195～197，199，201，202，205，207，210，）， 類（185）， 類（200）がみられる。 類， 類が卓越していることが当ユニットの特徴である。

178，180，190，207は両端に作業面を有する。178は両端ともに打面調整がみられず，180，207は打面調整のあるものとないものとが共存する。190は両端ともに打面調整がみられる。207は打面が両端で180°異なっている。213はナイフ形石器で，切出形を呈すると考えられる。刃部が欠損している。

Jユニット（第51～52図222～239，表13）

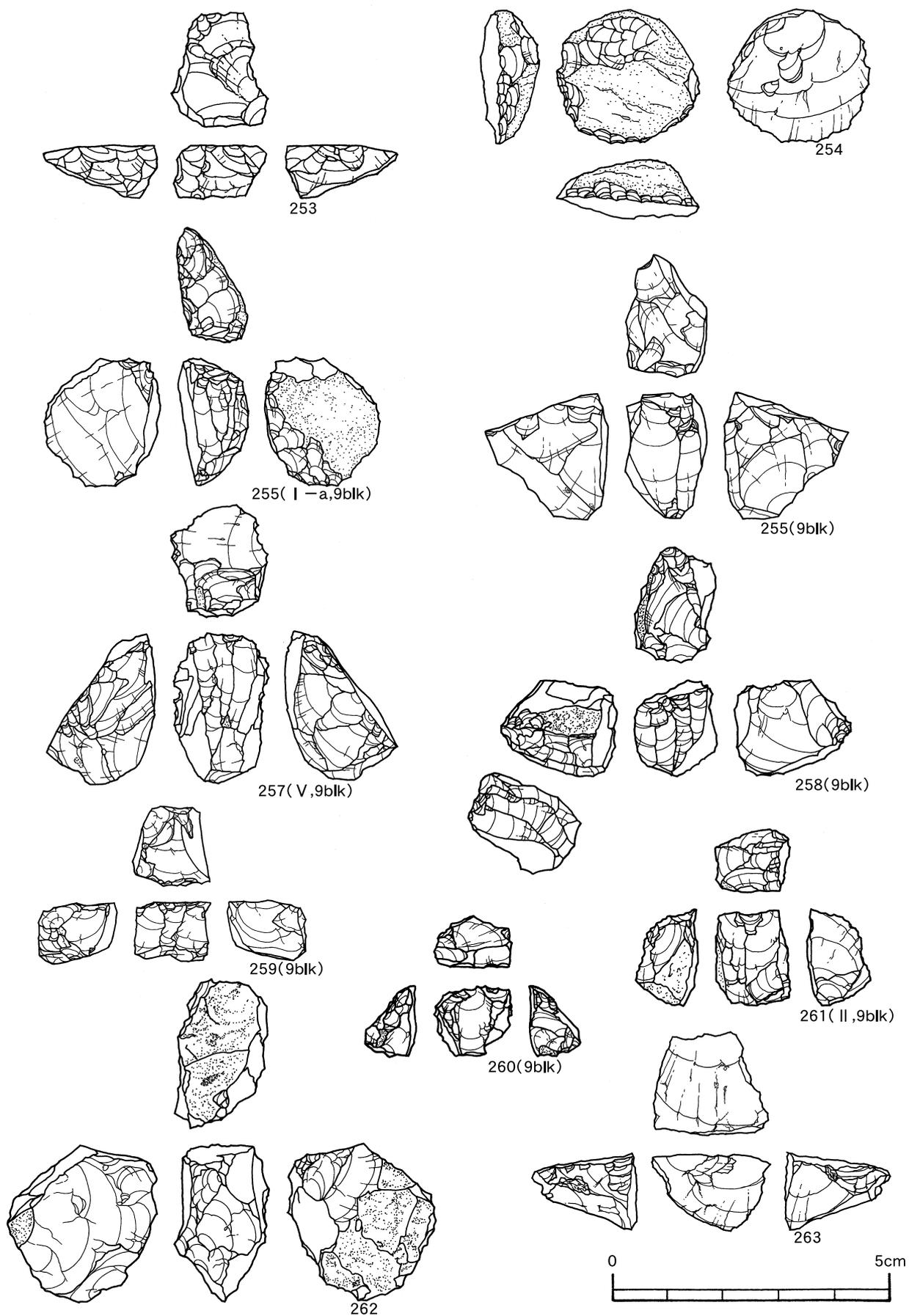
Jユニットは21ブロックの単独で構成され，総数1,073点のユニットである。細石刃核8点，ブランク2点，スクレイパー2点，石核2点，細石刃4点の全てを図化した。

細石刃核は 類（222，224～227）が特徴的にみられ，いずれも下縁が尖っているのが特徴である。

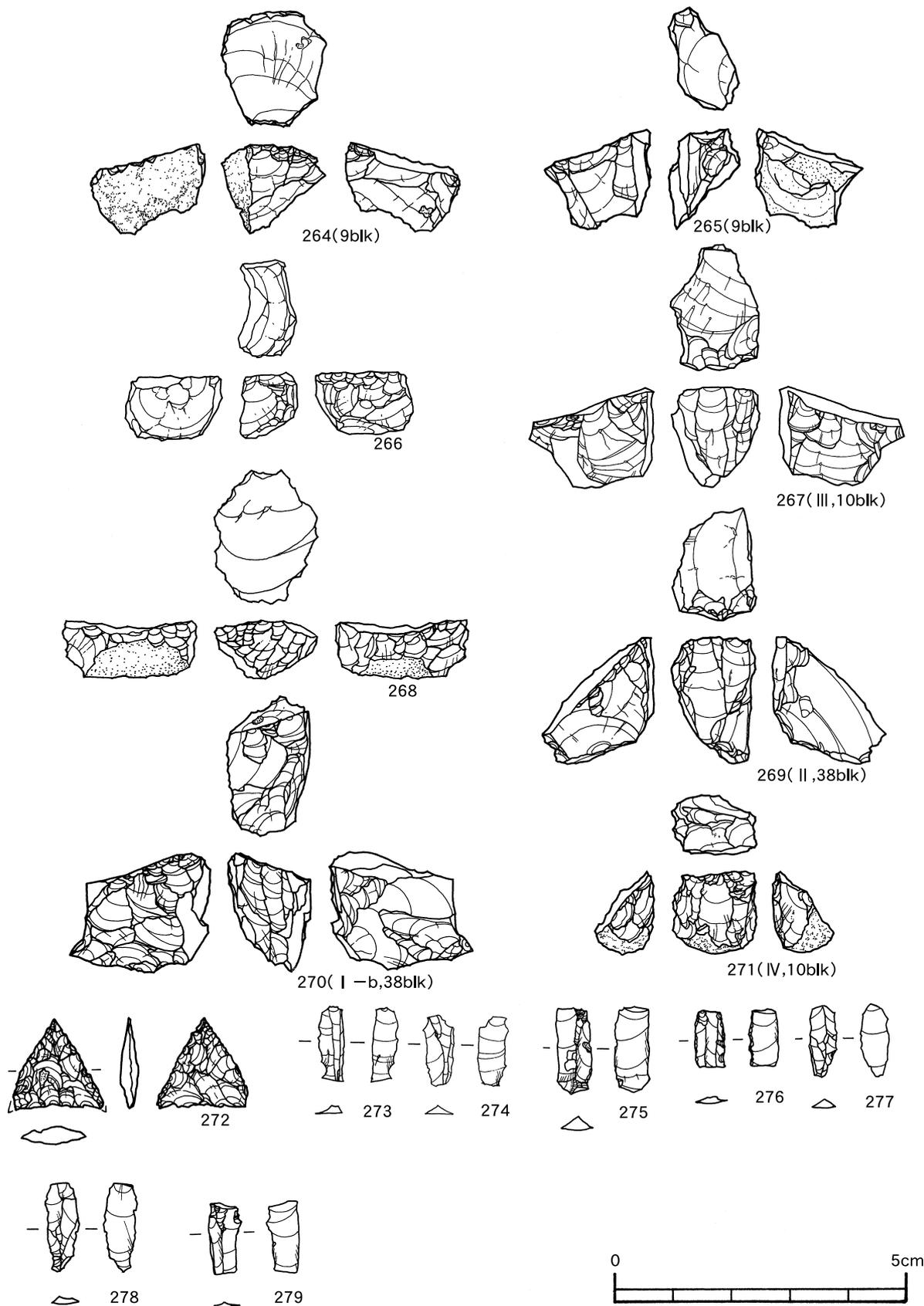
227は作業面を両端に有する。両端ともに打面調整は観察されない。232，233は黒曜石B製のスクレイパーである。232は剥片の片側縁に鋭角な二次加工を施し，刃部を形成している。233は大型の剥片の両側縁に鋭角な二次加工を施し，刃部を形成している。



第53図 Kユニット出土遺物(1)



第54図 Kユニット出土遺物(2)



第55図 Kユニット出土遺物(3)

表14 Kユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考	
240	897	13.537	67.995	186.192	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.5	0.9	1.5	2.76	8	K	-
241	621	13.016	66.968	186.128	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.7	1.15	1.5	4.2	8	K	-
242	894	13.544	67.895	186.167	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.2	1.15	1.3	3.1	8	K	-
243	976	13.554	66.908	186.155	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒曜石A	2	1.6	2.3	3.41	8	K	-
244	599	12.772	67.126	186.139	B	-	2	h	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.09	0.85	1.25	2.85	8	K	-
245	435	12.543	66.508	186.166	B	-	2	h	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.2	1.45	1.1	2.63	8	K	-
246	378	11.464	67.533	186.142	B	-	2	i	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.4	1.45	1	5.36	8	K	作業面2面
247	6246	12.506	66.832	186.815	B	-	2	h	-	b	細石刃核	黒曜石A	2.1	1.55	1.05	3.4	8	K	-
248	612	13.348	67.303	186.159	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒曜石A	2	0.9	1	2.02	8	K	-
249	1888	14.026	66.022	186.130	B	-	2	f	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.96	2.2	2.6	7.45	8	K	-
250	603	12.916	67.582	186.133	B	-	2	h	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.6	1.35	2	4.5	8	K	-
251	7184	13.460	66.025	186.085	B	-	2	g	-	b	細石刃核	黒曜石A	1.6	1.2	2.2	3.14	8	K	-
252	436	12.418	66.537	186.192	B	-	2	h	-	a	ブランク	黒曜石A	1.4	1.4	2.25	3.94	8	K	-
253	7647	13.201	66.671	186.100	B	-	2	g	-	b	ブランク	黒曜石A	0.9	1.6	1.9	2.36	8	K	-
254	6594	13.221	66.553	186.110	B	-	2	g	-	b	スクレイパー	黒曜石A	3.4	3.6	1.1	6.52	8	K	-
255	747	12.352	69.307	186.178	B	-	2	h	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.3	1.2	2.1	5.35	9	K	-
256	841	13.775	68.441	186.186	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.3	1.5	2.2	6.92	9	K	-
257	778	13.700	69.327	186.147	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒曜石A	2.7	1.7	2	7.81	9	K	-
258	1783	11.659	67.908	186.155	B	-	2	i	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.73	1.5	2.1	6.01	9	K	-
259	868	14.458	68.344	186.098	B	-	2	f	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.05	1.3	1.4	2.73	9	K	-
260	855	14.169	68.325	186.167	B	-	2	f	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.2	1.4	0.9	1.45	9	K	-
261	808	12.571	68.865	186.192	B	-	2	h	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.7	1.35	1.05	2.85	9	K	-
262	281	11.035	69.240	186.176	B	-	2	i	-	a	ブランク	黒曜石A	2.81	1.5	2.64	12.4	9	K	-
263	469	11.929	67.954	186.155	B	-	2	i	-	a	ブランク	黒曜石A	1.4	2.1	1.9	5.01	9	K	-
264	7720	11.800	67.920	186.090	B	-	2	i	-	b	細石刃核	黒曜石A	1.51	1.8	1.99	4.25	9	K	-
265	487	11.221	68.961	186.202	B	-	2	i	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.71	1.21	1.85	2.3	9	K	-
266	453	12.205	67.134	186.138	B	-	2	h	-	a	ブランク	黒曜石A	1.1	1	1.5	2.05	9	K	-
267	358	10.905	68.367	186.177	B	-	2	j	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.7	1.5	2.11	4.88	10	K	-
268	323	10.683	66.864	186.174	B	-	2	j	-	a	ブランク	黒曜石A	1	1.8	2.3	4.31	10	K	-
269	1882	13.207	65.937	186.130	B	-	2	g	-	a	細石刃核	黒色安山岩	2.2	1.45	1.9	5.14	38	K	-
270	423	12.839	66.261	186.179	B	-	2	h	-	a	細石刃核	黒色安山岩	0.7	1.4	2.1	7.13	38	K	-
271	384	11.696	67.083	186.123	B	-	2	i	-	a	細石刃核	黒曜石A	1.4	1.45	1	2.06	10	K	-
272	393	11.443	66.709	186.169	B	-	2	i	-	a	石鏃	黒色安山岩	1.59	0.3	1.55	0.52	38	K	-
273	7191	13.614	66.651	186.075	B	-	2	g	-	b	細石刃	黒曜石A	0.76	0.45	0.12	-	8	K	頭中部
274	9908	11.897	67.890	186.065	B	-	2	i	-	b	細石刃	黒曜石A	1.2	0.5	0.11	-	8	K	頭中部
275	664	13.432	65.921	186.144	B	-	2	g	-	a	細石刃	黒曜石A	1.47	0.6	0.24	-	8	K	中間部
276	1796	13.207	68.820	186.135	B	-	2	g	-	a	細石刃	黒曜石A	0.95	0.5	0.14	-	9	K	中間部
277	6568	12.539	67.986	186.115	B	-	2	h	-	b	細石刃	黒曜石A	1.2	0.47	0.14	-	9	K	中尾部
278	472	11.807	68.384	186.148	B	-	2	i	-	a	細石刃	黒曜石A	1.5	0.6	0.13	-	9	K	完形
279	1725	12.933	69.205	186.170	B	-	2	h	-	a	細石刃	黒曜石A	1.21	0.59	0.12	-	9	K	中間部

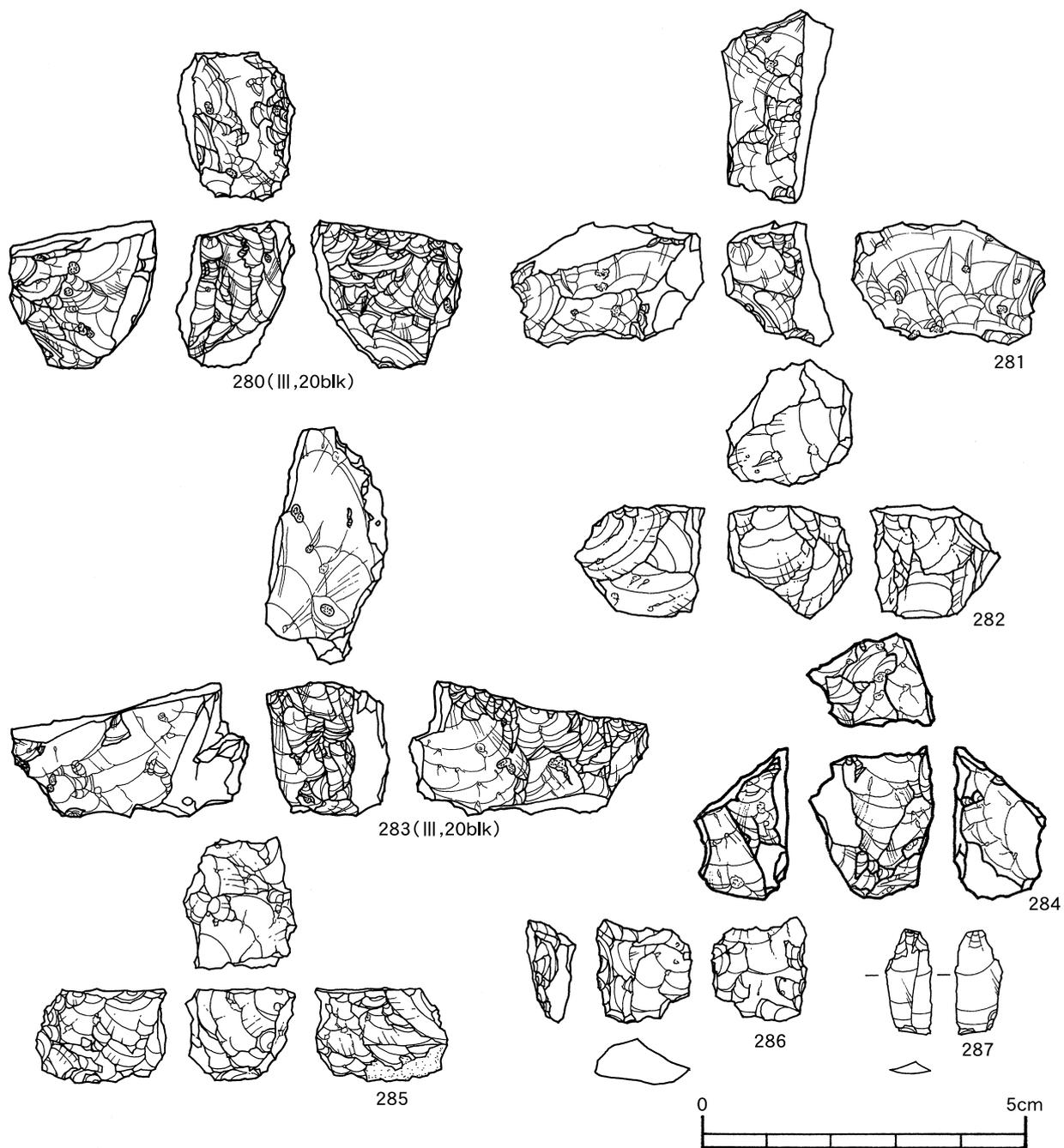
Kユニット（第53～55図240～279，表14）

8，9，10，22，38ブロックで構成される。8・9・10ブロックは同一石材でそれぞれ異なる分布の中心を持つが，非常に近接しており，垂直分布にも差が認められないため同一ユニットとして取り扱う。22ブロックは8ブロックの一部と平面分布が重なる。38ブロックは8ブロックと平面分布の中心が重なる。これらのブロックの垂直分布をみると，明確な上下関係が認められないため（第29図 - 2），Kユニットとして取り扱う。

総数1,784点のユニットである。細石刃核25点，ブランク6点，スクレイパー1点，石鏃1点の全てを図化した。細石刃は32点中7点を図化した。

細石刃核は 類（255，270），類（240，241，243，245，250，261，269），類（249，267），類（244，271），類（257）がみられる。

254は黒曜石A製のスクレイパーである。円礫から剥離した剥片の周辺に背面からやや鋭角な二次加工を施し，刃部を形成している。257の細石刃核の打面はネガ面である。剥離方向を横に利用して作業面を形成している。258は両端に作業面を有する。両端ともに打面調整がみられる。272は黒色安山岩製の凹基無茎鏃である。非常に丁寧な剥離により製作されている。



第56図 Lユニット出土遺物

表15 Lユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量g	ブロック	ユニット	備考	
280	14622	18.844	70.588	186.020	B	-	1	b	-	b	細石刃核	黒曜石B	2.2	1.6	2.3	9.4	20	L	-
281	3741	15.993	69.743	186.040	B	-	2	e	-	b	ブランク	黒曜石B	1.91	1.71	2.98	8.24	20	L	-
282	11787	16.195	71.358	186.125	B	-	1	d	-	a	ブランク	黒曜石B	1.7	1.9	1.8	6.28	20	L	-
283	14623	19.194	70.454	185.970	B	-	1	a	-	b	細石刃核	黒曜石B	2.09	1.79	3.7	12.86	20	L	-
284	1244	16.947	69.871	186.100	B	-	2	d	-	a	ブランク	黒曜石B	2.35	1.95	1.45	5.26	20	L	-
285	1076	15.540	68.497	186.096	B	-	2	e	-	a	ブランク	黒曜石B	1.45	1.7	1.65	5.87	20	L	-
286	6825	17.906	67.264	185.950	B	-	2	c	-	b	スクレイパー	黒曜石B	1.6	1.5	0.7	1.54	20	L	-
287	1262	16.971	68.891	186.000	B	-	2	d	-	a	細石刃	黒曜石B	1.6	0.7	0.23	-	20	L	尾部

Lユニット（第56図286～293，表15）

20ブロックの単独で構成される総数127点のユニットである。細石刃核2点，ブランク4点，スクレイパー1点，細石刃1点の全てを図化した。

細石刃核は 類（280，283）が特徴的にみられる。

286は黒曜石B製のスクレイパーである。剥片の片側縁に急角度な二次加工を施している。

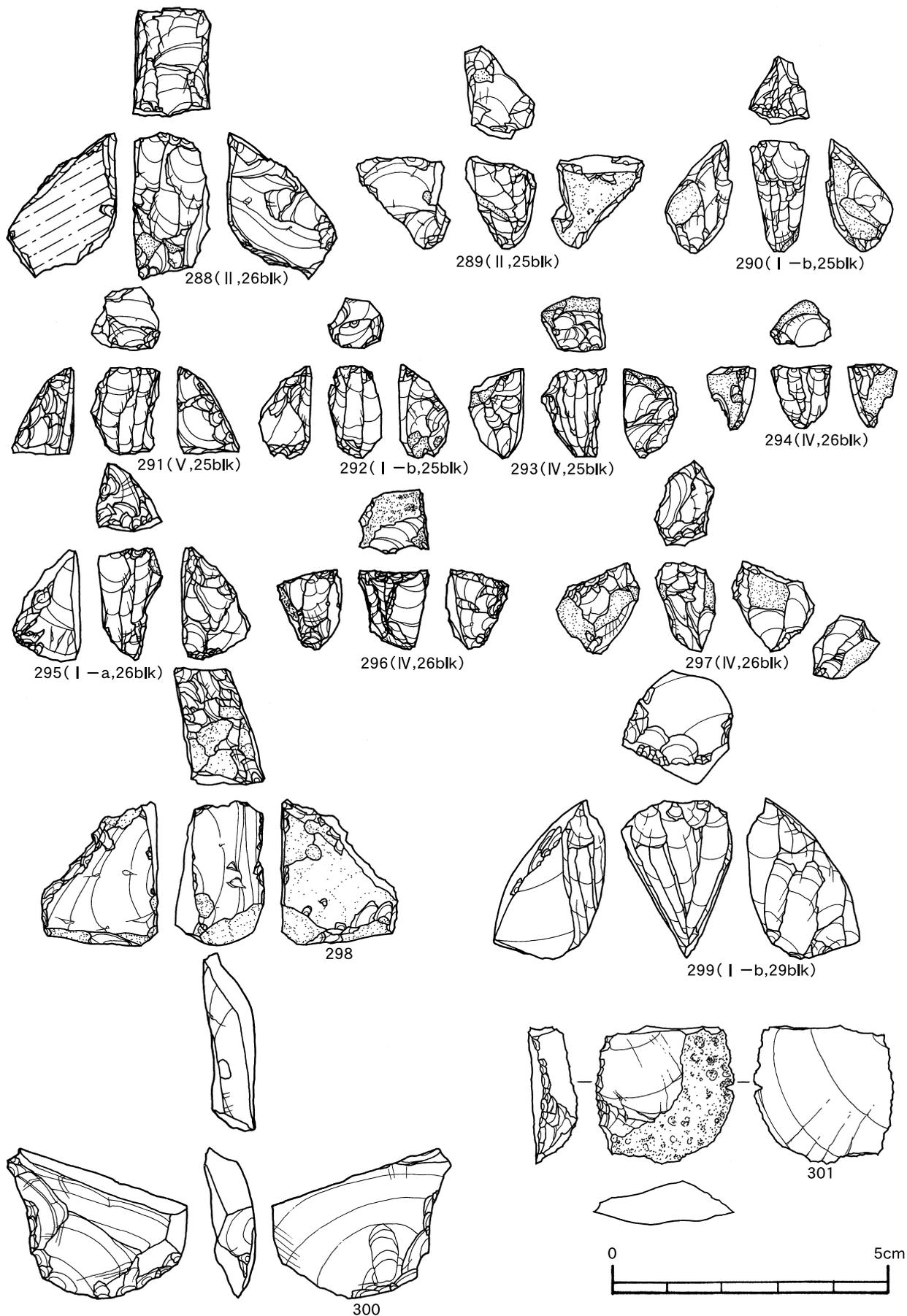
Mユニット（第57～60図288～370，表16）

23～26，29，30，32，33の8つのブロックで構成される。23，29，32ブロックは平面分布の中心が重なる。垂直分布は明確な上下関係が認められず（第29図 - 3），同一ユニットとして取り扱う。24ブロックについても中心はずれているものの平面分布において重なりがみられた。そこで，24ブロックと32ブロックについて垂直分布を確認した（第31図 - 1）ところ，24ブロックが下位にある傾向が見られた。傾斜によるデータの攪乱も考えられるため，1 mごとに区切って垂直分布を確認した（第31図 - 2，3）ところ，7区の9列においてほぼ24ブロックのみの落ち込みが観察された（第31図 - 3）。このデータについては24ブロック（黒曜石C）の土坑である可能性，攪乱の可能性等があるが，明確にできない。落ち込み状の上位の通常の垂直分布に一部重なりがみられることから，ここでは24ブロックについても同一に取り扱うこととする。また，C - 6，7区の横断面の垂直分布をみると，座標18～19の地点に横転か何かの攪乱がみられる（第30図 - 2）。そこで，6区と7区の平面分布の空白は攪乱が影響している。攪乱を除く垂直分布はスムーズに連続している，の2点から判断して，6区の25，26，30，33ブロックも同一ユニットとして扱える可能性を考えた。そこで，25，26，30，33ブロックについて垂直分布をみた（第30図 - 3）ところ，攪乱を受けている6区の1列付近で25ブロックが下位にある傾向を見せたが，その他については明確な上下関係が見いだせなかったため，Mユニットとして一括して扱うこととした。

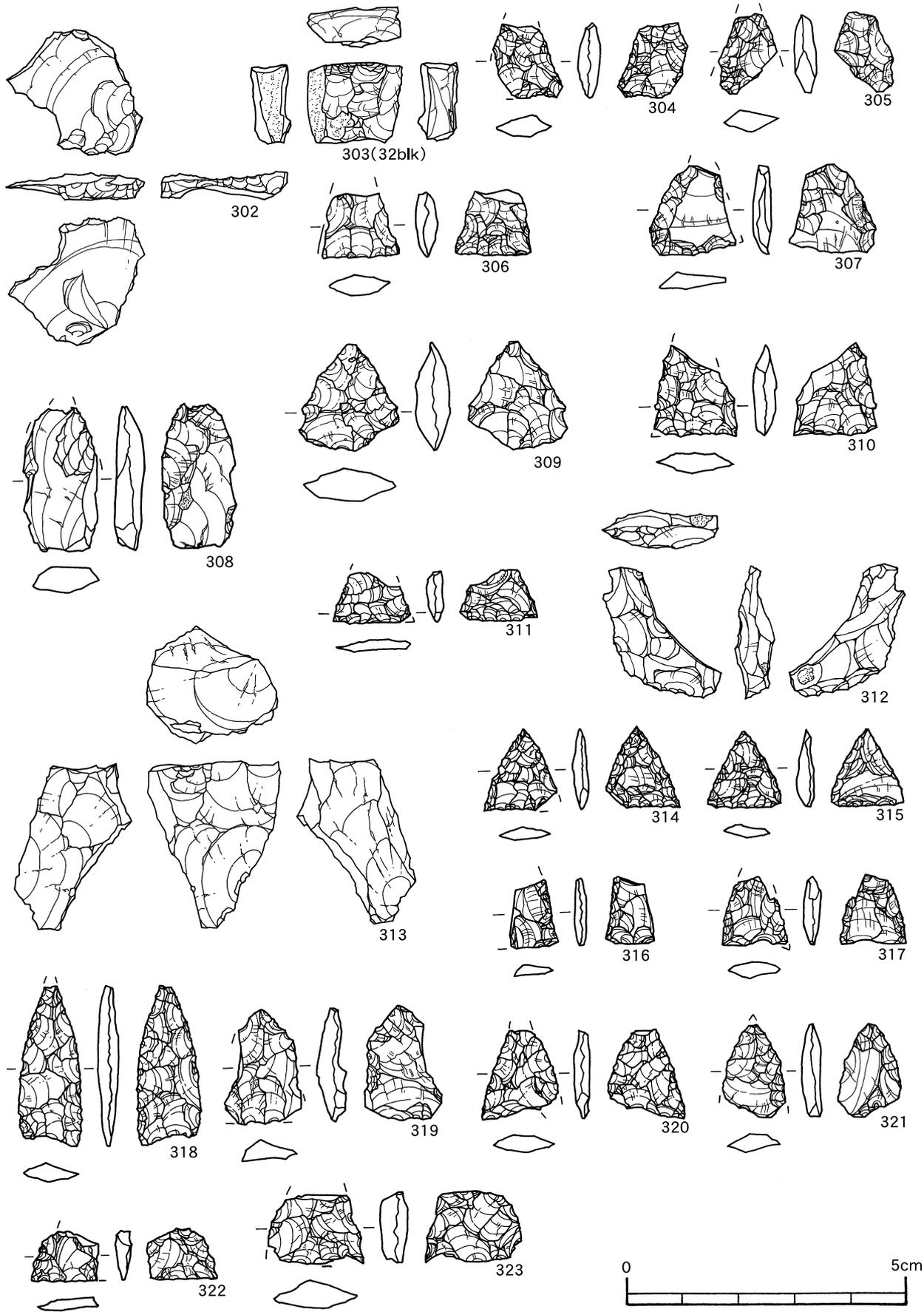
総数2,054点のユニットである。細石刃核12点，ブランク2点，楔形石器1点，スクレイパー1点，石核2点，石斧1点，石鏃18点，打面再生剥片1点，叩石1点の全てを図化した。細石刃は113点中43点を図化した。土器2点についてはいずれも土器粒のため，図化できなかった。

細石刃核は 類（290，292，295，299）， 類（288，289）， 類（293，294，296，297）， 類（291）がみられる。類はともかく細石刃核に小型の一群がまとまってみられるのが当ユニットの特徴である。

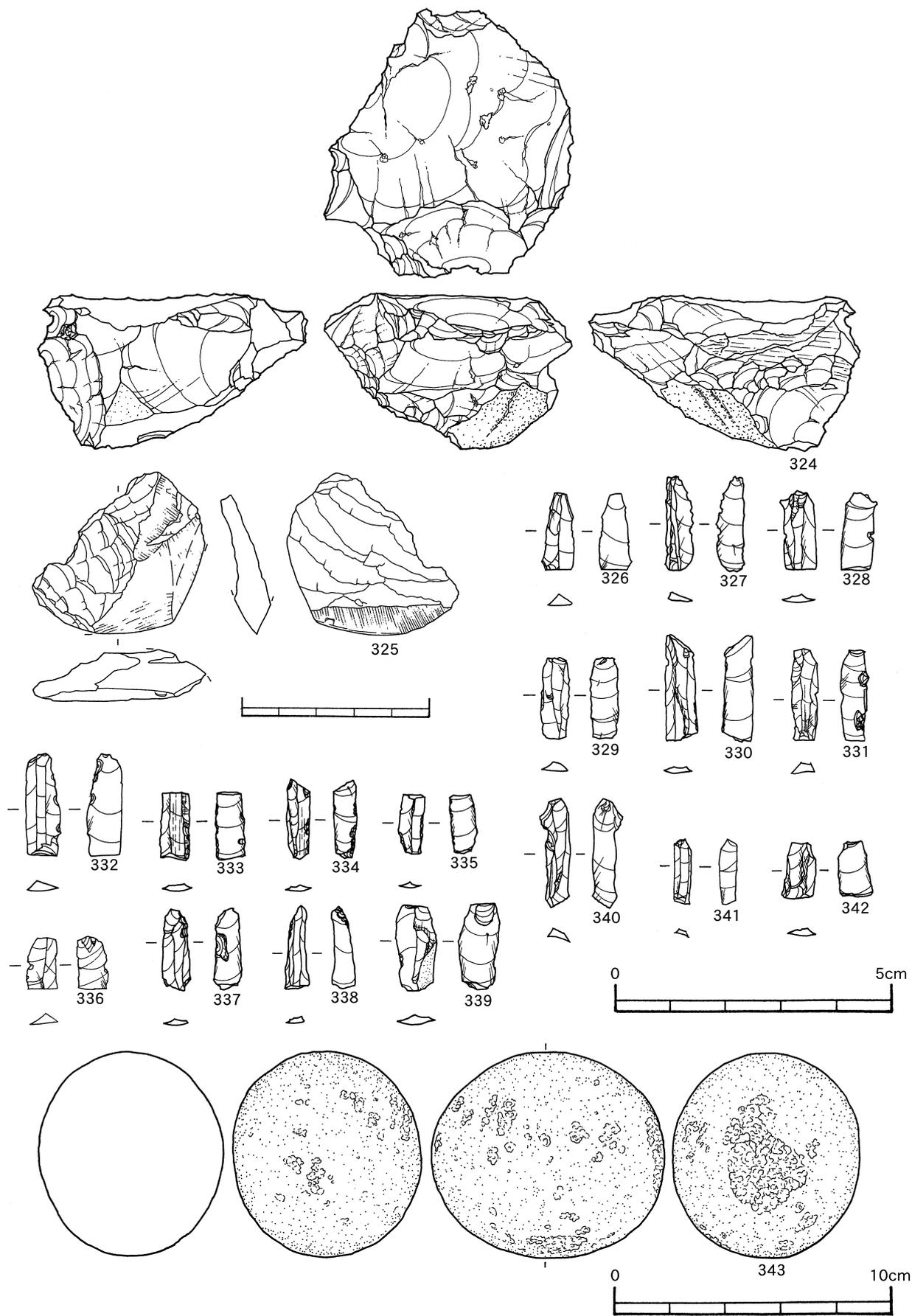
291の細石刃核は作業面が両端に存在している。打面は作業面側から剥離したネガ面であり，縦型スポールを剥いでいる可能性もある。打面調整は両端でみられる。296は作業面を2面有する。最初の作業面を打面転移により側面に利用し，最初の作業面を切るような形で剥離を進行させている。297は作業面を両端に有する。両端の作業面は上下が逆になっており，打面調整はともにみられる。301は黒曜石D製のスクレイパーである。剥片の片側縁に簡易な二次加工を施し，刃部を形成している。304～311，314～323は石鏃である。三角形鏃で凹基のもの（314，317，320），三角形鏃で平基のもの（306，310，311，315，322），大久保型石鏃や帖地型石鏃に類似するもの（318）等に分類される。作りはいずれも非常に丁寧である。313，324は黒色安山岩製の石核で，石鏃の素材獲得を目的としたものであると考えられる。いずれも打面転移がみられる。343は安山岩製の円形の叩石である。長軸の片側端部に集中して打痕が観察される。



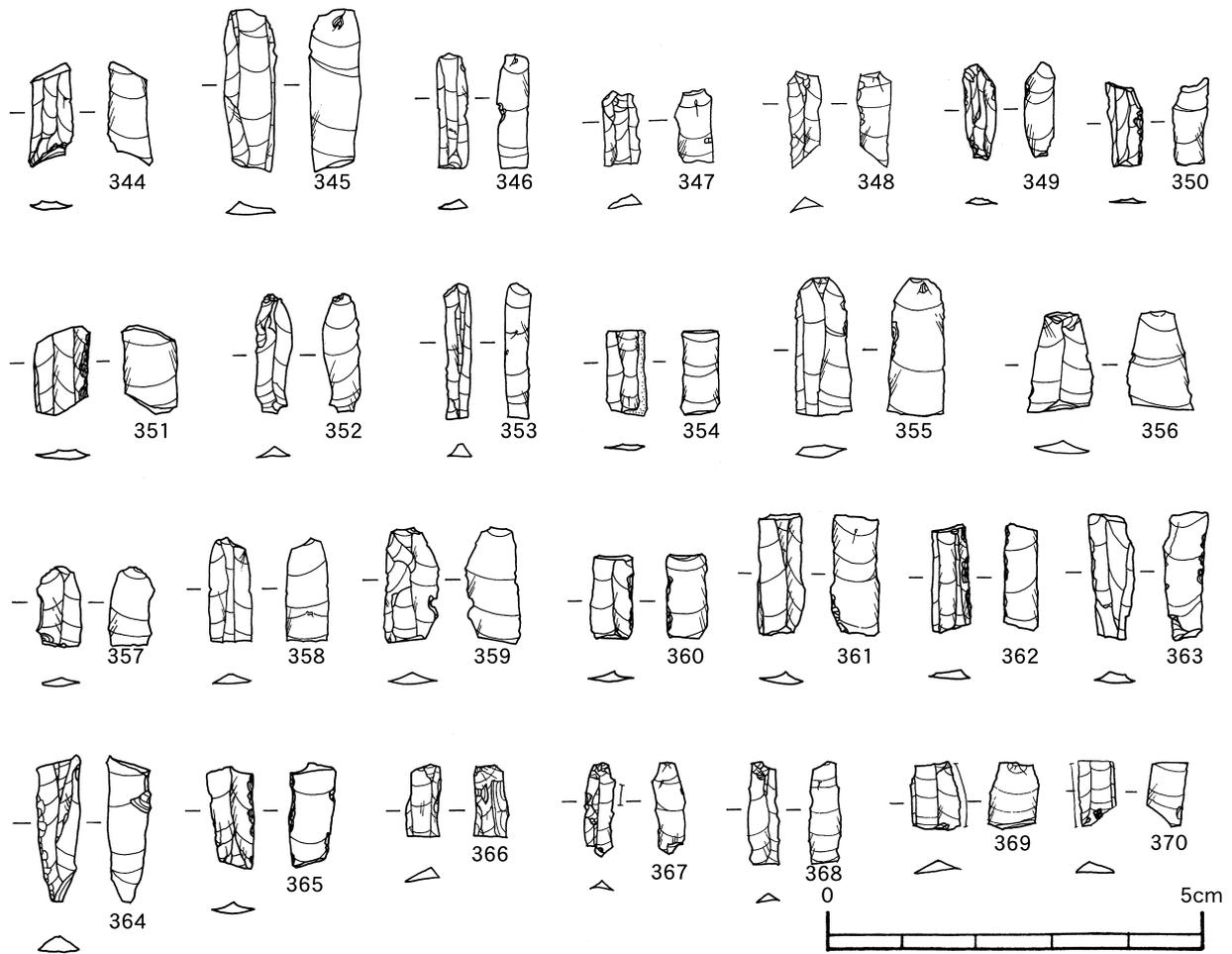
第57図 Mユニット出土遺物(1)



第58図 Mユニット出土遺物(2)



第59図 Mユニット出土遺物(3)



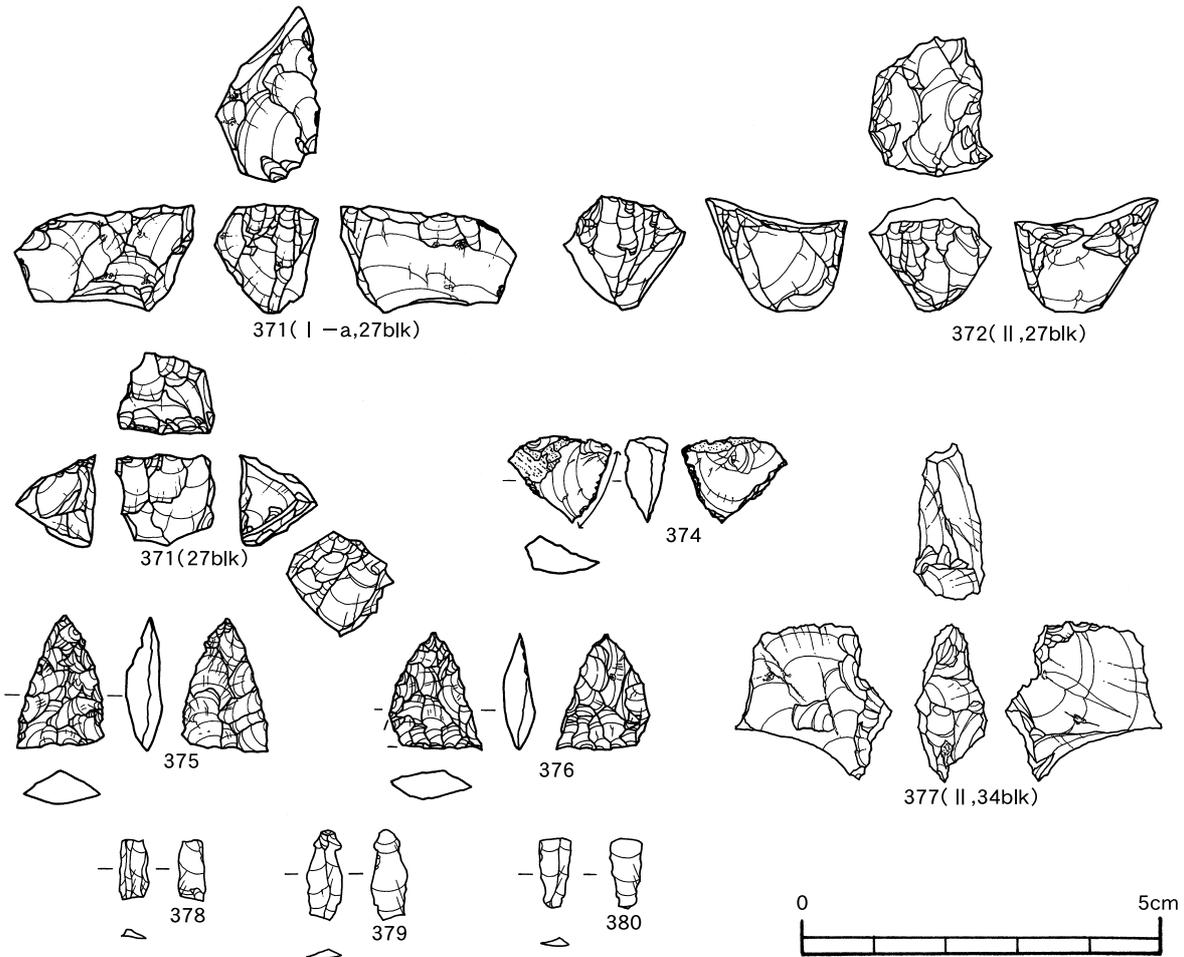
第60図 Mユニット出土遺物(4)

表16 Mユニット実測遺物観察表(1)

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考			
288	20653	28.744	23.521	185.950	C	-	6	b	-	4	a	細石刃核	黒曜石	C	1.4	1.3	1.15	2.16	26	M	ねじれで作業面2面
289	21261	29.003	20.619	185.850	C	-	6	a	-	1	a	細石刃核	黒曜石	C	2.65	1.4	1.9	7.2	25	M	-
290	20695	28.872	22.549	185.915	C	-	6	b	-	3	a	細石刃核	黒曜石	C	1.7	1.25	1.7	2.33	25	M	-
291	20951	30.517	22.031	185.765	D	-	6	j	-	3	a	細石刃核	黒曜石	C	2.2	1.08	1.3	1.79	25	M	-
292	23367	30.039	20.050	185.680	D	-	6	j	-	1	b	細石刃核	黒曜石	C	1.6	1.3	1.1	2.1	25	M	-
293	22089	33.248	24.152	185.315	D	-	6	g	-	5	a	細石刃核	黒曜石	C	1.69	0.99	0.94	1.42	25	M	-
294	22100	28.130	25.755	185.765	C	-	6	b	-	6	a	細石刃核	黒曜石	C	1.6	1.2	1	1.67	26	M	-
295	22739	28.709	25.463	185.680	C	-	6	b	-	6	b	細石刃核	黒曜石	C	1.1	1.05	0.85	0.81	26	M	-
296	20819	28.411	26.433	185.880	C	-	6	b	-	7	a	細石刃核	黒曜石	C	2	1.1	1.2	2.33	26	M	作業面2面
297	21352	27.675	24.852	185.850	C	-	6	c	-	5	a	細石刃核	黒曜石	C	1.6	1.05	1.5	1.96	26	M	-
298	20065	29.981	18.655	186.000	C	-	7	a	-	9	a	ブランク	黒曜石	C	2.6	1.6	2.1	8.83	24	M	-
299	22559	29.681	14.576	186.070	C	-	7	a	-	5	a	細石刃核	黒曜石	D	2.8	1.95	2	8.23	29	M	-
300	20961	30.955	21.233	185.810	D	-	6	j	-	2	a	ブランク	黒曜石	D	2.7	0.9	3.25	5.9	30	M	-
301	21004	30.387	22.562	185.760	D	-	6	j	-	3	a	スクレイパー	黒曜石	D	2.5	2.55	0.8	5.44	30	M	-
302	20055	29.190	19.208	185.950	C	-	7	a	-	10	a	打面再生剥片	黒曜石	D	0.5	2.4	2.3	1.58	30	M	-
303	21884	31.178	15.654	186.020	D	-	7	i	-	6	a	細石刃核	黒色安山岩		1.4	1.7	0.7	2.19	32	M	-
304	20181	32.325	18.832	185.780	D	-	7	h	-	9	a	石鏃	黒色安山岩		1.3	0.35	1.2	0.54	32	M	-
305	21735	29.392	16.996	185.910	C	-	7	a	-	7	a	石鏃	黒色安山岩		1.43	0.4	1.09	0.54	32	M	-
306	20133	32.079	19.185	185.755	D	-	7	h	-	10	a	石鏃	黒色安山岩		1.19	0.41	1.4	0.57	32	M	-
307	20145	30.733	18.527	185.840	D	-	7	j	-	9	a	石鏃	黒色安山岩		1.6	0.3	1.55	0.71	32	M	-
308	22687	31.135	15.343	186.050	D	-	7	i	-	6	a	石鏃	黒色安山岩		2.5	0.5	1.3	2.07	32	M	-
309	20784	29.874	19.846	185.875	C	-	7	a	-	10	a	石鏃	黒色安山岩		1.9	0.6	1.8	1.64	32	M	-
310	21644	29.489	16.424	185.960	C	-	7	a	-	7	a	石鏃	黒色安山岩		1.61	0.4	1.91	0.75	32	M	-
311	20246	35.098	17.471	185.965	D	-	7	e	-	8	a	石鏃	黒色安山岩		0.9	0.25	1.35	0.29	32	M	-

Mユニット実測遺物観察表(2)

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
312	20137	31.063	17.701	185.860	D	-	7	i	-	8	a	楔形石器	黒色安山岩	2.4	2.1	0.7	1.69	32	M	-
313	21946	30.260	17.094	185.870	D	-	7	j	-	8	a	石核	黒色安山岩	3	2.4	1.8	10.45	32	M	-
314	21058	32.838	21.857	185.640	D	-	6	h	-	2	a	石鏃	黒色安山岩	1.4	0.3	1.3	0.37	33	M	-
315	21052	33.976	21.779	185.530	D	-	6	g	-	2	a	石鏃	黒色安山岩	1.3	0.3	1.3	0.43	33	M	-
316	21272	31.781	20.460	185.710	D	-	6	i	-	1	a	石鏃	黒色安山岩	1.2	0.22	1.89	0.24	33	M	-
317	20668	29.177	23.788	185.900	C	-	6	a	-	4	a	石鏃	黒色安山岩	1.2	0.3	1.2	0.38	33	M	-
318	23490	30.750	29.442	185.135	D	-	6	j	-	10	a	石鏃	黒色安山岩	2.9	0.4	0.15	1.07	33	M	-
319	20992	32.105	20.925	185.700	D	-	6	h	-	1	a	石鏃	黒色安山岩	2.1	0.52	1.9	1.01	33	M	-
320	20941	30.603	21.653	185.800	D	-	6	j	-	2	a	石鏃	黒色安山岩	1.6	0.3	1.38	0.51	33	M	-
321	22788	30.052	22.065	185.790	D	-	6	j	-	3	a	石鏃	黒色安山岩	1.65	0.3	1.1	0.53	33	M	-
322	21185	28.183	28.709	185.730	C	-	6	b	-	9	a	石鏃	黒色安山岩	0.9	0.3	1.25	-	33	M	-
323	21129	33.103	22.565	185.710	D	-	6	g	-	3	a	石鏃	黒色安山岩	1.25	0.5	1.7	0.92	33	M	-
324	21041	32.667	23.313	185.650	D	-	6	h	-	4	a	石核	黒色安山岩	2.8	4.5	4.8	49.71	33	M	-
325	21113	31.323	24.792	185.620	D	-	6	i	-	5	a	石斧	頁岩	3.35	0.85	4.1	10.67	-	M	-
326	21794	29.387	17.418	185.915	C	-	7	a	-	8	a	細石刃	黒曜石D	1.4	0.59	0.19	-	23	M	頭中部
327	21585	29.408	15.372	185.990	C	-	7	a	-	6	a	細石刃	黒曜石C	1.68	0.48	0.15	-	23	M	完形
328	23150	31.092	15.462	185.990	D	-	7	i	-	6	b	細石刃	黒曜石C	1.4	0.6	0.14	-	23	M	中間部
329	23030	29.099	17.545	185.905	C	-	7	a	-	8	b	細石刃	黒曜石C	1.45	0.52	0.12	-	23	M	頭中部
330	23405	29.737	16.098	185.840	C	-	7	a	-	7	b	細石刃	黒曜石C	1.9	0.6	0.16	-	23	M	中間部
331	21612	29.527	15.947	185.950	C	-	7	a	-	6	a	細石刃	黒曜石C	1.61	0.5	0.18	-	23	M	頭中部
332	21823	29.673	17.672	185.895	C	-	7	a	-	8	a	細石刃	黒曜石C	1.85	0.65	0.23	-	23	M	頭中部
333	21600	28.820	16.012	185.980	C	-	7	b	-	7	a	細石刃	黒曜石C	1.2	0.51	0.17	-	23	M	中間部
334	21601	29.111	16.070	185.965	C	-	7	a	-	7	a	細石刃	黒曜石C	1.4	0.4	0.14	-	23	M	中間部
335	21618	29.815	15.585	185.970	C	-	7	a	-	6	a	細石刃	黒曜石C	1.09	0.48	0.14	-	23	M	中間部
336	20419	31.576	19.423	185.785	D	-	7	i	-	10	a	細石刃	黒曜石C	0.9	0.59	0.13	-	24	M	頭中部
337	22750	29.423	23.230	185.700	C	-	6	a	-	4	b	細石刃	黒曜石C	1.48	0.51	0.14	-	25	M	中間部
338	20308	31.676	18.894	185.675	D	-	7	i	-	9	a	細石刃	黒曜石C	1.5	0.4	0.14	-	24	M	中間部
339	20169	31.338	19.151	185.770	D	-	7	i	-	10	a	細石刃	黒曜石C	1.56	0.72	0.18	-	24	M	中間部
340	20107	30.250	19.163	185.850	D	-	7	j	-	10	a	細石刃	黒曜石C	1.9	0.5	0.16	-	24	M	完形
341	20427	31.070	17.850	185.730	D	-	7	i	-	8	a	細石刃	黒曜石C	1.15	0.32	0.08	-	24	M	頭中部
342	23131	30.000	19.003	185.710	D	-	7	j	-	10	b	細石刃	黒曜石C	1.02	0.6	0.16	-	24	M	中間部
343	21826	29.508	17.592	185.970	C	-	7	a	-	8	a	叩石	安山岩	7.4	8.3	6.73	570	32	M	-
344	23203	34.993	19.615	185.730	D	-	7	f	-	10	b	細石刃	黒曜石C	1.41	0.6	0.08	-	24	M	中間部
345	20117	29.531	19.517	185.935	C	-	7	a	-	10	a	細石刃	黒曜石C	2.2	0.68	0.19	-	25	M	頭中部
346	20051	29.750	18.778	185.975	C	-	7	a	-	9	a	細石刃	黒曜石C	1.53	0.41	0.12	-	25	M	頭中部
347	23391	31.077	21.097	185.630	D	-	6	i	-	2	b	細石刃	黒曜石C	0.95	0.49	0.09	-	25	M	頭中部
348	21690	29.138	17.298	185.900	C	-	7	a	-	8	a	細石刃	黒曜石C	1.21	0.48	0.13	-	25	M	頭中部
349	22055	30.229	23.298	185.635	D	-	6	j	-	4	a	細石刃	黒曜石C	1.25	0.43	0.09	-	25	M	中間部
350	22052	30.103	22.205	185.755	D	-	6	j	-	3	a	細石刃	黒曜石C	1.1	0.49	0.08	-	25	M	中間部
351	20934	30.589	21.287	185.840	D	-	6	j	-	2	a	細石刃	黒曜石C	1.15	0.75	0.13	-	25	M	中間部
352	20804	29.321	24.698	185.760	C	-	6	a	-	5	a	細石刃	黒曜石C	1.58	0.5	0.16	-	26	M	-
353	20588	26.942	24.950	186.040	C	-	6	d	-	5	a	細石刃	黒曜石C	1.81	0.39	0.14	-	26	M	頭中部
354	20872	26.603	28.262	185.950	C	-	6	d	-	9	a	細石刃	黒曜石C	1.11	0.51	0.11	-	26	M	-
355	23151	30.973	15.451	186.015	D	-	7	j	-	6	b	細石刃	黒曜石D	1.81	0.78	0.17	-	29	M	頭中部
356	23107	28.694	16.816	185.940	C	-	7	b	-	7	b	細石刃	黒曜石D	1.32	0.87	0.17	-	29	M	頭中部
357	23117	29.317	16.969	185.885	C	-	7	a	-	7	b	細石刃	黒曜石D	1.09	0.6	0.14	-	29	M	頭中部
358	21832	33.668	16.697	186.050	D	-	7	g	-	7	a	細石刃	黒曜石D	1.4	0.58	0.15	-	29	M	頭中部
359	21871	30.595	15.007	186.040	D	-	7	j	-	6	a	細石刃	黒曜石D	1.55	0.7	0.11	-	29	M	頭中部
360	21508	29.318	14.565	186.065	C	-	7	a	-	5	a	細石刃	黒曜石D	1.1	0.59	0.14	-	29	M	中間部
361	21888	31.154	15.894	185.970	D	-	7	i	-	6	a	細石刃	黒曜石D	1.61	0.65	0.13	-	29	M	中間部
362	23111	29.031	16.956	185.890	C	-	7	a	-	7	b	細石刃	黒曜石D	1.45	0.51	0.11	-	29	M	中間部
363	21214	28.894	22.304	185.910	C	-	6	b	-	3	a	細石刃	黒曜石D	1.7	0.6	0.14	-	29	M	中間部
364	20174	31.888	19.241	185.755	D	-	7	i	-	10	a	細石刃	黒曜石D	1.9	0.57	0.18	-	30	M	-
365	20741	29.918	21.288	185.840	C	-	6	a	-	2	a	細石刃	黒曜石D	1.33	0.6	0.16	-	30	M	中間部
366	21579	29.167	15.288	186.020	C	-	7	a	-	6	a	細石刃	黒曜石C	0.95	0.45	0.15	-	23	M	頭部
367	21822	29.648	17.567	185.870	C	-	7	a	-	8	a	細石刃	黒曜石C	1.2	0.4	0.11	-	23	M	完形
368	21938	30.835	16.986	185.870	D	-	7	j	-	7	a	細石刃	黒曜石C	1.3	0.4	0.1	-	23	M	中間部
369	22523	28.708	15.533	186.000	C	-	7	b	-	6	a	細石刃	黒曜石C	0.9	0.67	0.15	-	23	M	頭部
370	22579	29.380	15.957	185.950	C	-	7	a	-	6	a	細石刃	黒曜石C	0.88	0.48	0.09	-	23	M	中間部



第61図 Nユニット出土遺物

表17 Nユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
371	22816	19.925	17.364	186.090	B	-	7	a	-	8	b	細石刃核	黒曜石C	1.5	1.4	2.45	4.38	27	N	-
372	22186	18.710	18.424	185.960	B	-	7	b	-	9	a	細石刃核	黒曜石C	1.6	1.7	2	4.17	27	N	作業面2面
373	22213	19.382	16.916	186.020	B	-	7	a	-	7	a	細石刃核	黒曜石C	1.2	1.4	1.1	1.87	27	N	-
374	22836	16.407	14.266	185.495	B	-	7	d	-	5	a	使用痕剥片	黒曜石C	1.8	0.85	2.15	2.01	34	N	-
375	22222	19.040	16.803	185.935	B	-	7	a	-	7	a	石鏃	黒色安山岩	1.85	0.45	1.15	0.8	34	N	-
376	22232	19.373	16.511	186.020	B	-	7	a	-	7	a	石鏃	黒色安山岩	1.6	0.4	1.25	0.6	34	N	-
377	22839	18.624	14.863	185.775	B	-	7	b	-	5	a	細石刃核	黒色安山岩	2.2	1	2.2	3.27	34	N	-
378	22385	16.417	14.588	185.640	B	-	7	d	-	5	a	細石刃	黒曜石C	0.81	0.39	0.1	-	27	N	中間部
379	22390	18.577	13.743	185.770	B	-	7	b	-	4	a	細石刃	黒曜石C	1.21	0.48	0.09	-	27	N	中尾部
380	22860	19.845	14.829	186.020	B	-	7	a	-	5	a	細石刃	黒曜石C	0.95	0.45	0.08	-	27	N	中間部

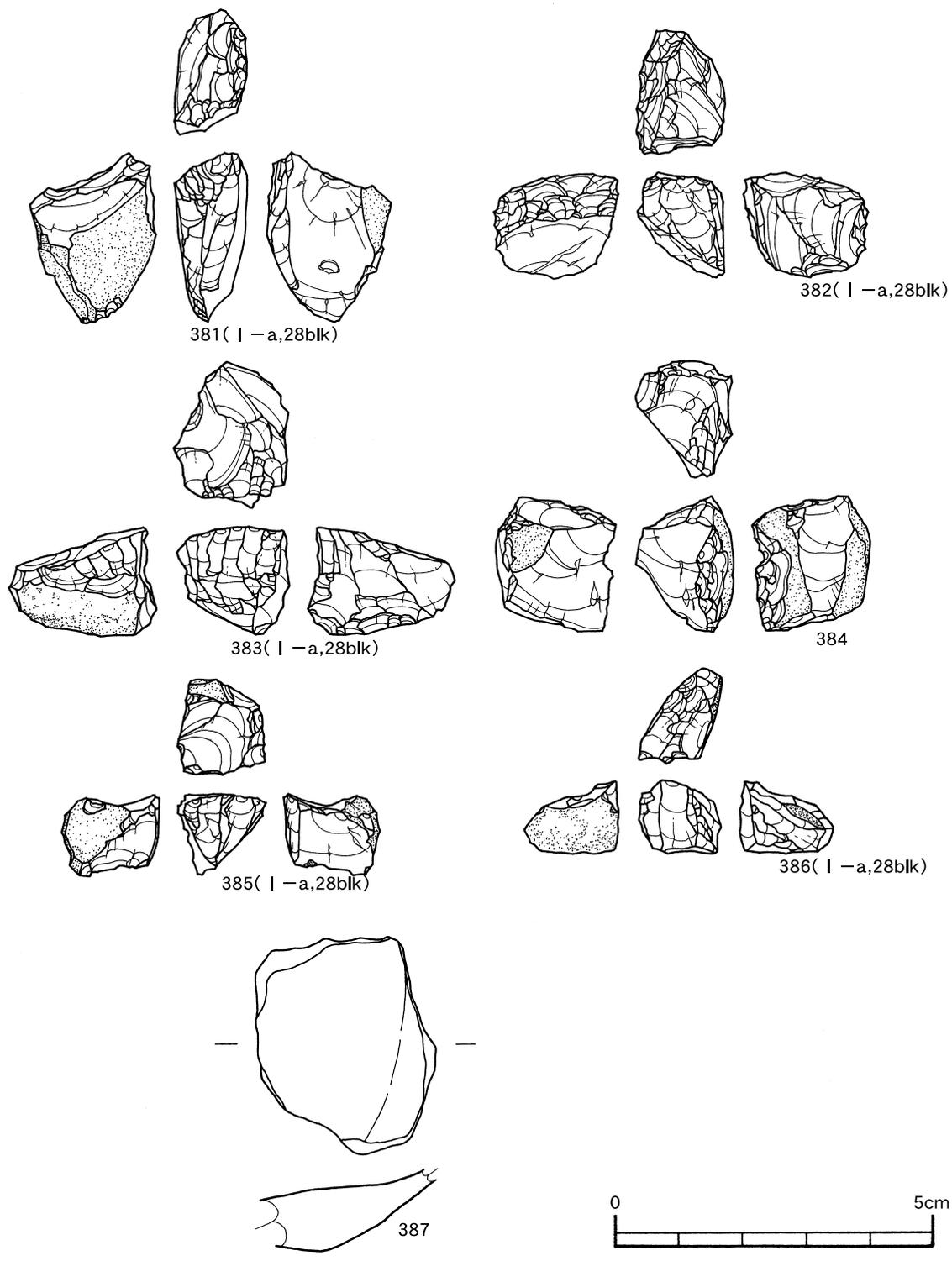
Nユニット（第61図371～380，表17）

27，34ブロックで構成される。両ブロックは分布の中心は若干異なるものの，ほぼ重なる。重複部分について垂直分布（第30図 - 1）をみると，明確な上下関係がみられないため，Nユニットとして取り扱う。

総数364点のユニットである。細石刃核4点，石鏃2点，使用痕剥片1点，細石刃4点の全てを図化した。

細石刃核は 類（371）， 類（372，377）がみられるが，技術的なまとまりに欠ける感があり，特徴を抽出できない。石鏃は凹基のもの（374）と平基のもの（375）とがある。

372，373は作業面を両端に有する。ともに両端に打面調整がみられる。



第62図 Oユニット出土遺物

表18 Oユニット実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
381	22179	17.387	19.180	185.990	B	-	7	c	-	10	a	細石刃核	黒曜石C	2.65	1.1	2	5.39	28	O	-
382	22136	15.263	20.756	185.995	B	-	6	e	-	1	a	細石刃核	黒曜石C	1.6	1.3	1.95	3.71	28	O	-
383	22156	17.045	19.446	186.020	B	-	7	c	-	10	a	細石刃核	黒曜石C	1.7	1.8	2.3	5.44	28	O	-
384	22800	17.241	20.018	186.080	B	-	6	c	-	1	b	ブランク	黒曜石C	2.1	1.5	1.9	6.42	28	O	-
385	22500	0.000	0.000	185.880	-	-	-	-	-	-	b	細石刃核	黒曜石C	1.3	1.4	1.5	1.92	28	O	-
386	22162	16.617	19.591	186.040	B	-	7	d	-	10	a	細石刃核	黒曜石C	1.1	1.3	1.45	2.24	28	O	-
387	23300	14.872	19.379	185.880	B	-	7	f	-	10	a	土器	-	-	-	-	-	O	-	

Oユニット（第62図381～387，表18）

総数118点の28ブロック単体で構成されるユニットである。細石刃核5点，ブランク1点，土器1点の全てを図化した。

細石刃核は 類（381～383，385，386）がみられる。類はいずれも打面が側方からの連続する剥離により形成される - a類である。386は作業面を2面有する。最初の作業面を打面転移により側面に利用し，最初の作業面を切る形で剥離を進行させている。387は土器の底部と考えられる。やや丸みを帯びた平底になると思われる。表面は風化が著しい。類単純で構成されるのが当ユニットの特徴である。

その他のブロック（第63図388～396）

(1) 31ブロック（第63図388～392，表19）

総数29点のブロックである。細石刃核2点，ブランク1点全てを図化し，細石刃は5点中2点を図化した。

細石刃核は 類（389），類（390）がみられる。389は作業面が2面存在し，最初に打面を連続横打調整により形成し，細石刃剥離を行っていた。その後，背面の平坦面に打面転移し，従前の作業面を切るような形で細石刃剥離を行っているものである。

(2) 40ブロック（第63図393，394，表19）

総数13点のブロックである。ブランク2点全てを図化した。

ブランクは 類（393），類（394）に分類されると思われる。

(3) 42ブロック（第63図395，396，表19）

総数8点のブロックである。細石刃核1点，石鏃1点の全てを図化した。

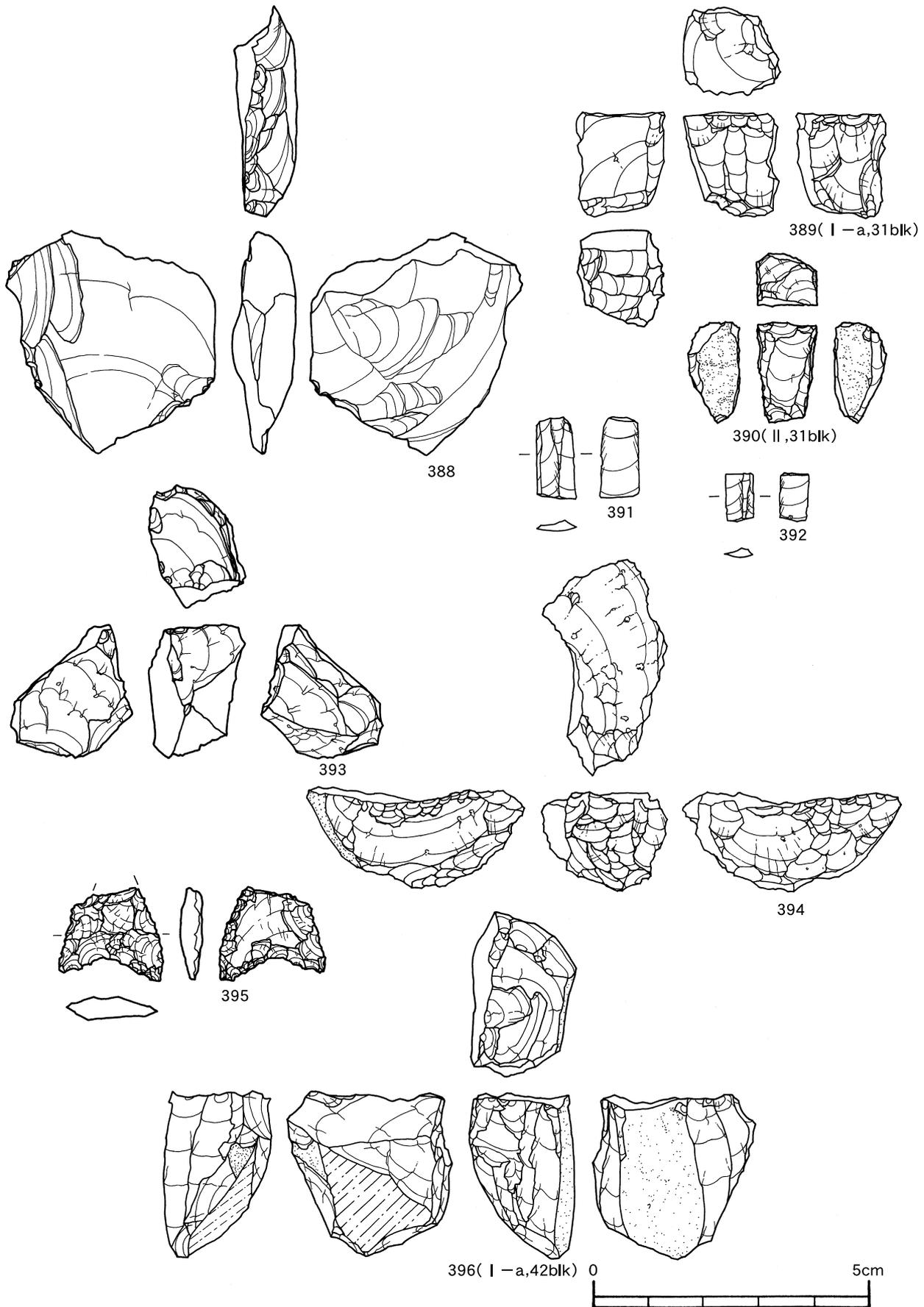
395の石鏃は挟りが深く，当遺跡で主体的にみられるものとは異なる。396の細石刃核は作業面を両面にもち，技術的に畦原型，加治屋園型に類似する。

ブロック外出土遺物（第64～68図397～454，表20）

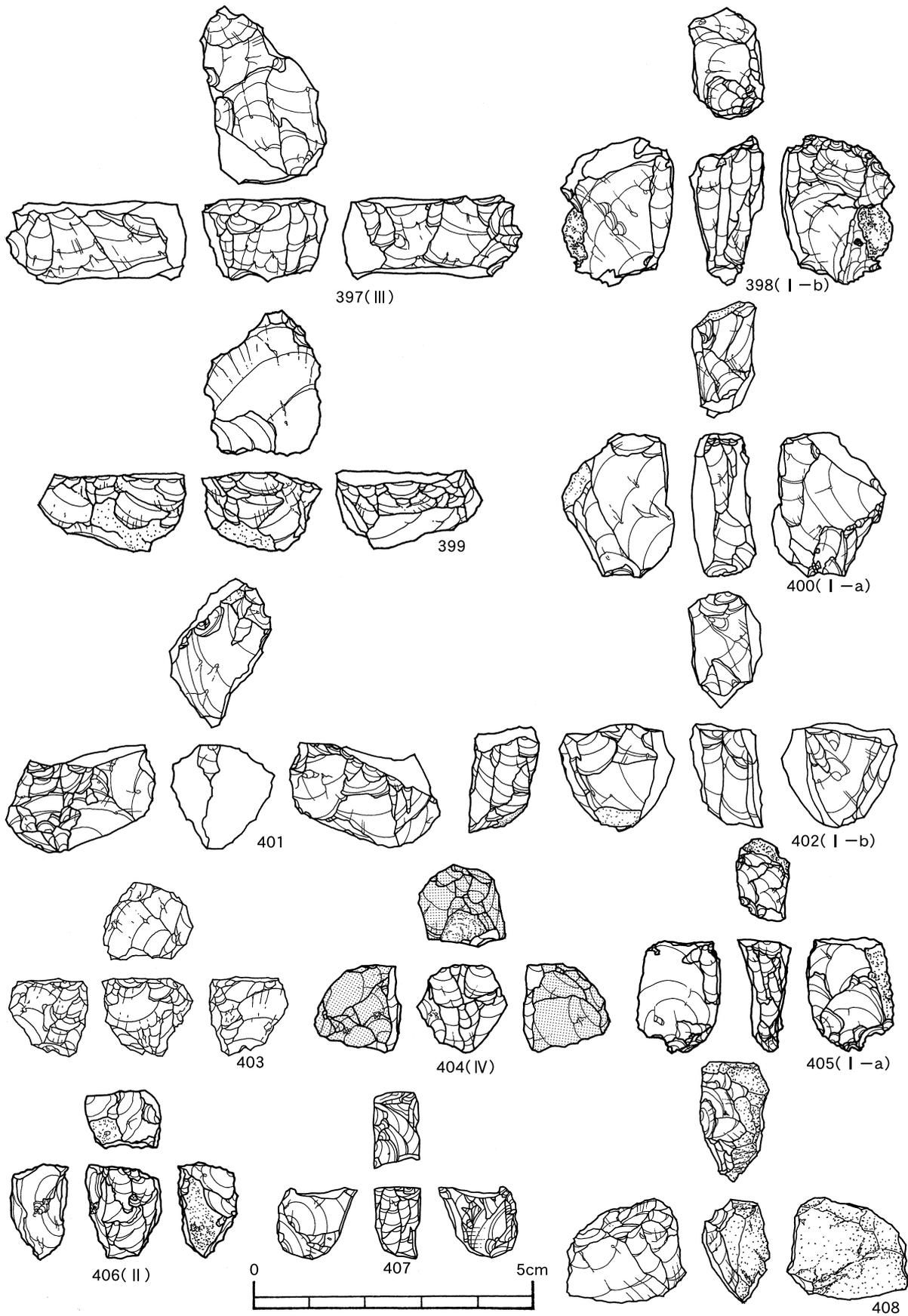
細石刃核12点，ブランク11点，スクレイパー4点，石鏃8点，石核3点，打面再生剥片1点，土器1点全てを図化した。細石刃は88点中14点を図化した。

細石刃核は 類（398，400，402，405，422），類（406，416），類（397，409，413，），類（404），類（414）等がみられる。

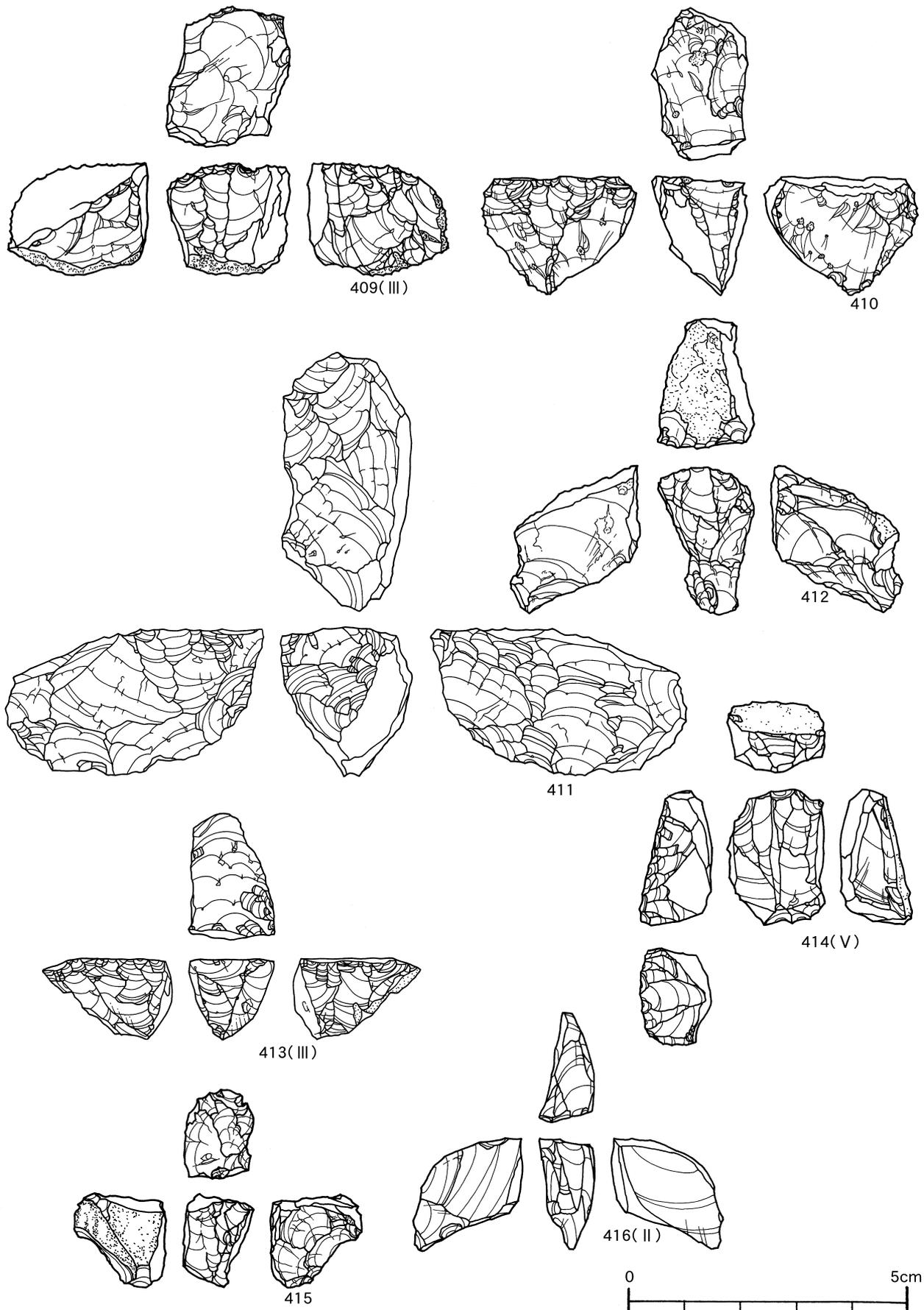
402は両端に作業面を有する。両端ともに打面調整がみられる。414の細石刃核の背面は自然面である。作業面を両端に有する。打面調整はみられない。432～435はスクレイパーである。いずれも剥片の端部に二次加工を施して刃部を形成したものである。453は凝灰岩質頁岩製の打面再生剥片である。作業面の横側から長軸方向に向けて剥離を行っている。454は土器片である。表面は風化が著しく，調整等の観察はできない。



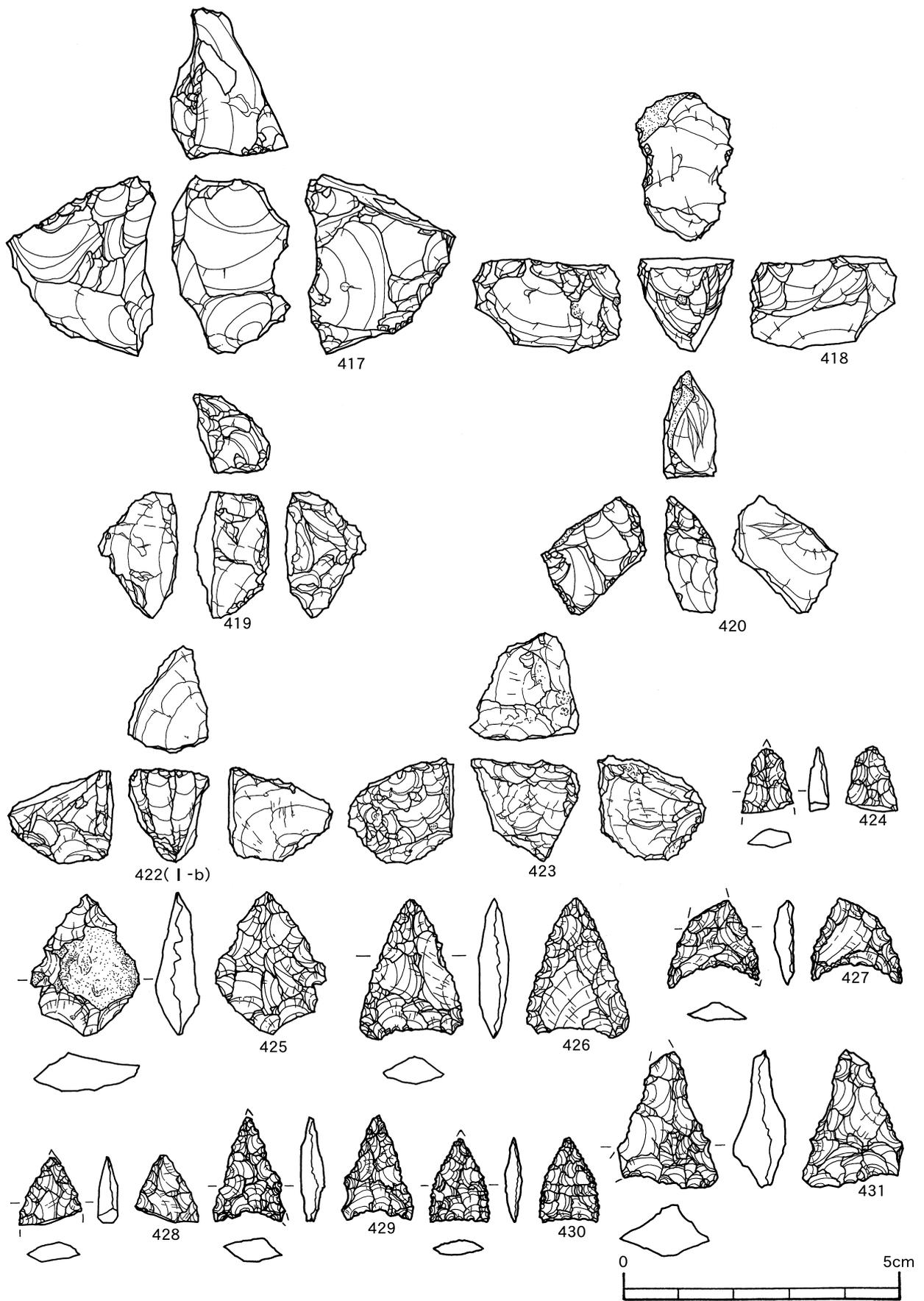
第63図 その他のブロック



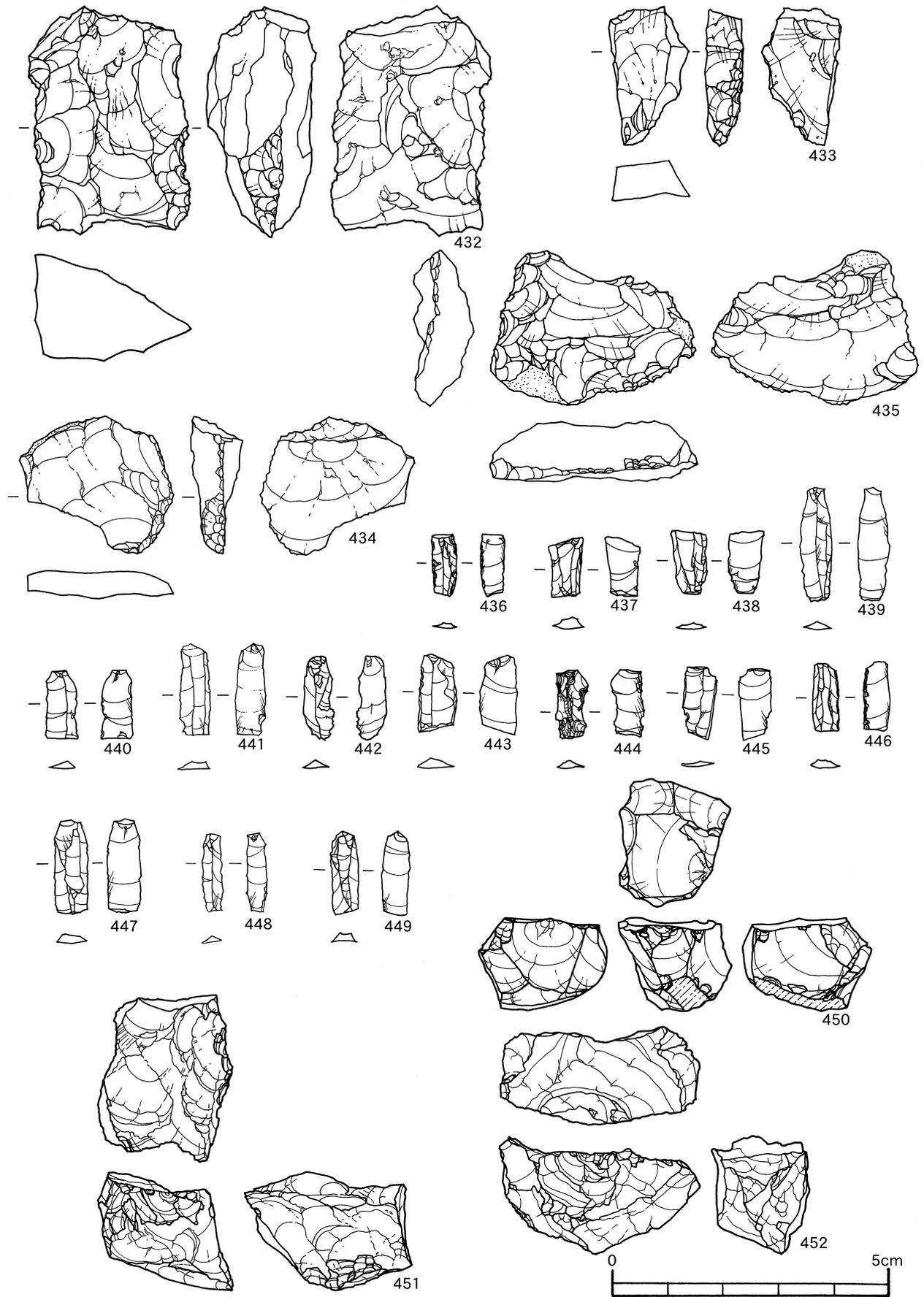
第64図 ブロック外出土の遺物(1)



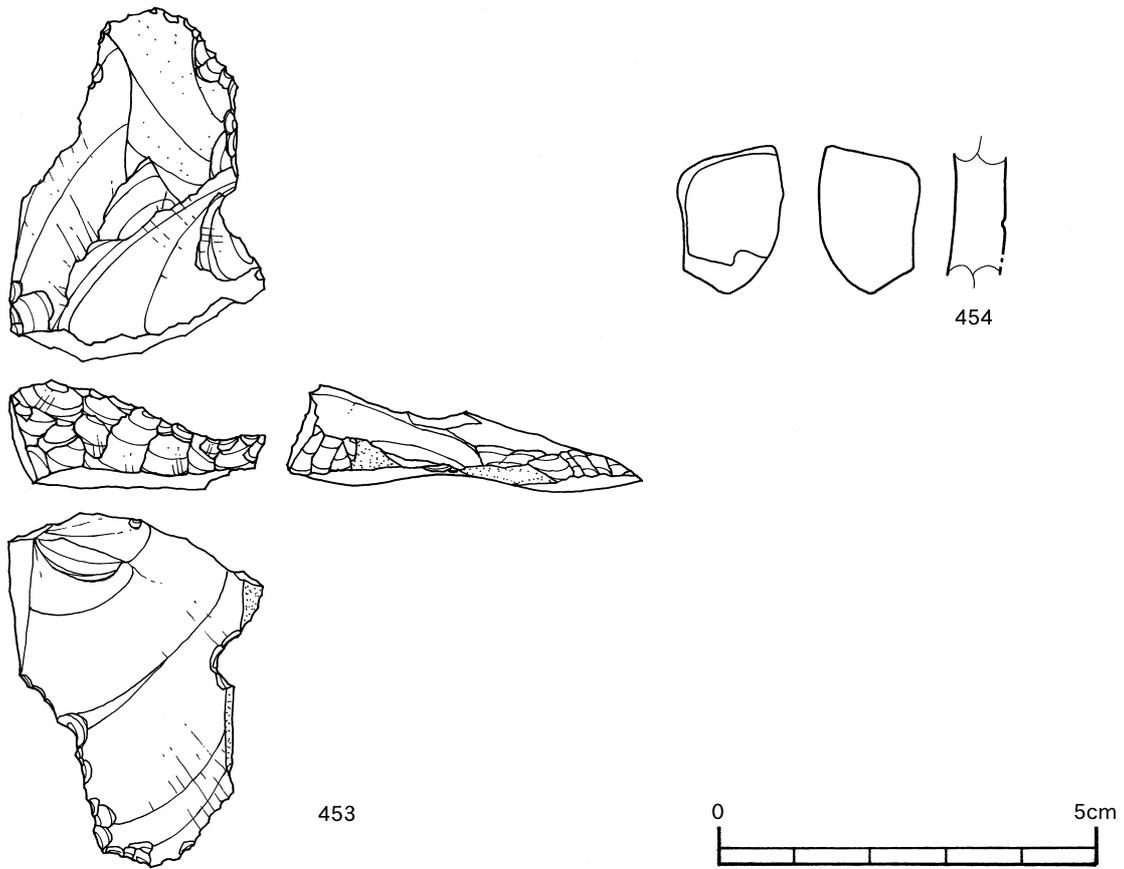
第65図 ブロック外出土の遺物(2)



第66図 ブロック外出土の遺物(3)



第67図 ブロック外出土の遺物(4)



第68図 ブロック外出土の遺物(5)

表19 その他のブロック実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量g	ブロック	ユニット	備考		
388	7058	17.634	63.911	186.025	B	-	2	c	-	4	b	ブランク	黒曜石D	3.96	1.1	3.8	14.9	31	その他	-
389	13748	20.071	66.190	185.875	C	-	2	j	-	7	a	細石刃核	黒曜石D	1.9	1.75	1.6	6.15	31	その他	-
390	2430	17.700	66.958	186.000	B	-	2	c	-	7	a	細石刃核	黒曜石D	1.79	1.1	1.92	2.2	31	その他	-
391	3501	21.263	63.614	186.055	C	-	2	i	-	4	a	細石刃	黒曜石D	1.42	0.7	2.1	-	31	その他	中間部
392	3757	11.069	68.991	186.155	B	-	2	i	-	9	a	細石刃	黒曜石D	0.86	0.51	0.18	-	31	その他	中間部
393	5950	14.465	65.677	186.065	B	-	2	f	-	6	a	ブランク	黒曜石E	2.35	1.7	2.2	6.97	40	その他	-
394	1990	15.003	66.644	186.110	B	-	2	e	-	7	a	ブランク	黒曜石E	1.8	2.3	3.85	13.51	40	その他	-
395	8909	22.520	63.422	185.955	C	-	2	h	-	4	a	石鏃	鉄石英	1.68	0.4	1.9	1.15	41	その他	-
396	21425	25.276	19.494	186.040	C	-	7	e	-	10	a	細石刃核	石英質岩	3	1.9	2.95	16.68	42	その他	-

表20 ブロック外実測遺物観察表

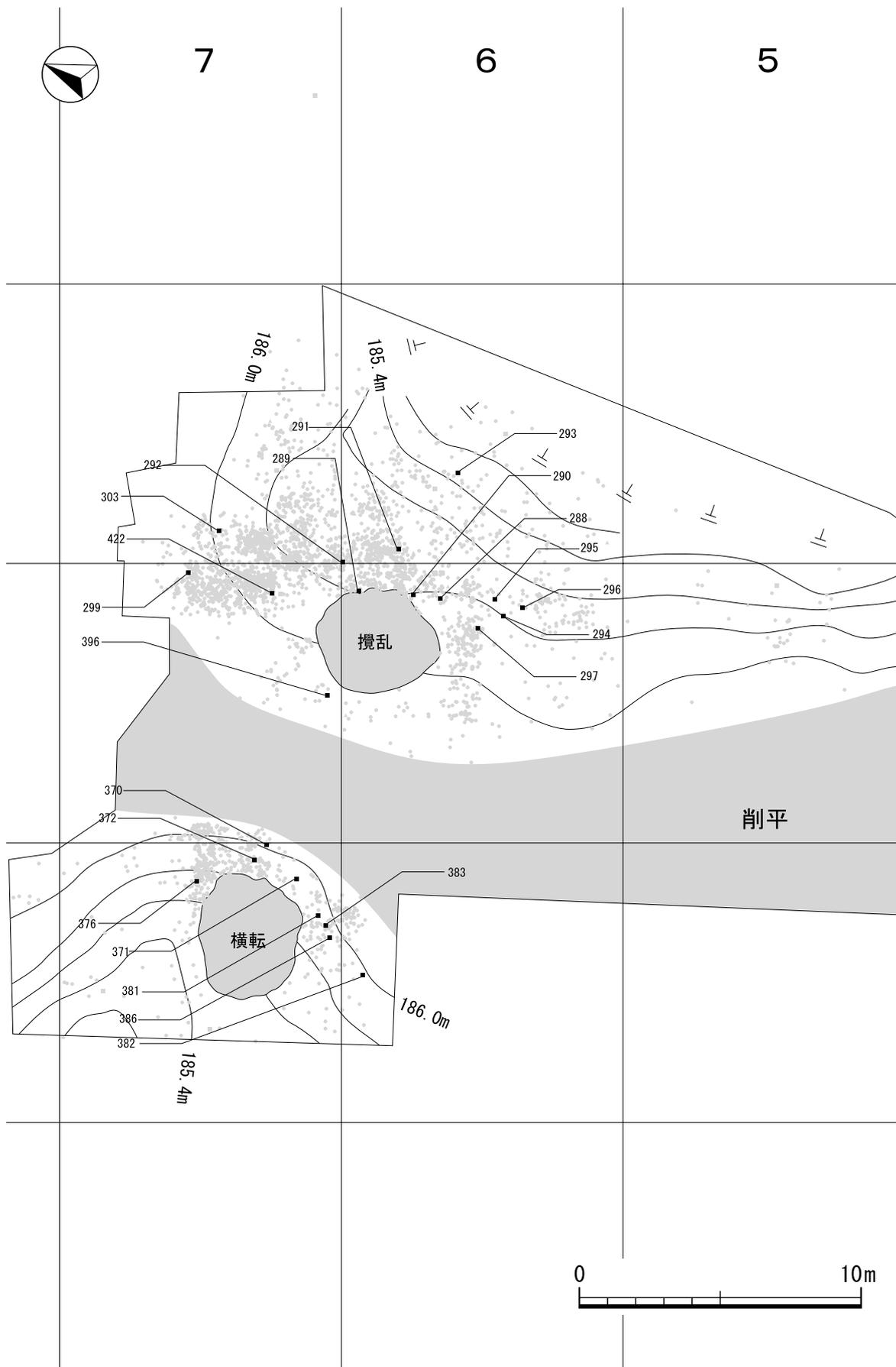
図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	-	g	-	層位L1	分類L1	石材L1	長	幅	厚	重量(g)	ブロック	ユニット	備考		
397	1214	17.137	70.323	186.090	B	-	1	c	-	1	a	細石刃核	黒曜石B	1.45	2.2	3.2	10.41	外	外	-
398	2029	18.664	60.545	186.220	B	-	2	b	-	1	a	細石刃核	黒曜石A	2.7	1.3	2	6.89	外	外	-
399	11817	11.899	73.620	186.300	B	-	1	i	-	4	a	ブランク	黒曜石A	1.4	2	2.6	8.47	外	外	-
400	1662	19.106	65.152	185.965	B	-	2	a	-	6	a	細石刃核	黒曜石C	2.53	1	2	5.46	外	外	-
401	2428	17.685	67.210	185.985	B	-	2	c	-	8	a	ブランク	黒曜石C	1.85	1.8	2.65	5.79	外	外	-
402	7150	16.485	67.248	185.940	B	-	2	d	-	8	b	細石刃核	黒曜石A	1.8	1.3	2.05	4.98	外	外	作業面2面
403	1185	15.888	70.672	186.110	B	-	1	e	-	1	a	ブランク	黒曜石B	1.4	1.7	1.4	2.84	外	外	-
404	2421	18.245	67.261	186.000	B	-	2	b	-	8	a	細石刃核	黒曜石C	1.6	1.64	1.55	3.33	外	外	-
405	3188	18.580	66.587	185.940	B	-	2	b	-	7	a	細石刃核	黒曜石C	1.9	1.95	1.5	3.05	外	外	-
406	3029	18.652	64.818	186.010	B	-	2	b	-	5	a	細石刃核	黒曜石C	1.7	1.35	1	2.44	外	外	-
407	2697	21.010	69.051	185.930	C	-	2	i	-	10	a	細石刃核	黒曜石A	1.3	0.8	1.4	1.65	外	外	-
408	2429	17.834	67.018	185.980	B	-	2	c	-	8	a	ブランク	黒曜石C	1.8	1.25	2.1	4.02	外	外	-
409	3694	21.786	68.065	185.930	C	-	2	i	-	9	a	細石刃核	黒曜石A	2.01	2.2	2.55	11.16	外	外	-
410	2699	20.896	68.762	185.905	C	-	2	j	-	9	a	ブランク	黒曜石B	2.3	1.63	2.7	7.98	外	外	-
411	9122	23.917	53.526	185.775	C	-	3	g	-	4	a	ブランク	黒曜石日東	2.6	2.38	4.6	28.11	外	外	-
412	3688	22.072	67.392	185.910	C	-	2	h	-	8	a	細石刃核	黒曜石A	2.7	1.8	2.41	7.05	外	外	-
413	3813	31.068	65.526	185.535	D	-	2	i	-	6	a	細石刃核	黒曜石C	1.45	1.55	2.25	4.53	外	外	-
414	一括	-	-	-	D	-	1	-	-	-	b	細石刃核	黒曜石C	2.4	1.7	1.25	-	-	外	-
415	6819	0.000	0.000	185.955	-	-	-	-	-	-	b	細石刃核	黒曜石A	1.7	1.2	1.65	3.03	外	外	-
416	一括	-	-	-	C	-	2	-	-	-	b	細石刃核	黒曜石D	2	0.95	2	-	-	外	-
417	20131	46.754	19.070	186.070	E	-	7	d	-	10	a	ブランク	黒曜石D	3.2	2.05	2.7	13.98	外	外	-
418	20239	33.335	17.711	185.840	D	-	7	g	-	8	a	ブランク	黒曜石B	1.7	1.7	2.65	6.03	外	外	-
419	23323	14.701	11.528	185.365	B	-	7	f	-	2	a	ブランク	黒曜石B	2.25	1.3	1.4	3.94	外	外	-
420	23311	13.351	15.326	185.520	B	-	7	g	-	6	a	ブランク	黒曜石C	2.1	1	1.9	2.91	外	外	-
421	1185	15.888	70.672	186.110	B	-	1	e	-	1	a	ブランク	黒曜石B	1.4	1.55	1.4	2.84	外	外	-
422	22620	28.933	17.552	185.940	C	-	7	b	-	8	a	細石刃核	黒曜石A	1.65	1.4	1.9	3.58	外	外	-
423	20041	28.903	17.839	185.910	C	-	7	b	-	8	a	ブランク	黒曜石B	1.9	1.9	1.9	6.1	外	外	-
424	21422	24.569	20.153	186.100	C	-	6	f	-	1	a	石鏃	黒色安山岩	1.15	0.3	0.9	0.32	外	外	-
425	22327	18.958	15.116	185.880	B	-	7	b	-	6	a	石鏃	黒曜石A	2.55	0.8	1.9	2.58	外	外	-
426	20132	31.799	17.755	185.840	D	-	7	i	-	8	a	石鏃	硬砂岩	2.5	0.5	1.8	1.87	外	外	-
427	21394	28.530	34.433	185.770	C	-	5	b	-	5	a	石鏃	硬質頁岩	1.52	0.35	1.7	0.5	外	外	-
428	21458	27.290	18.276	186.110	C	-	7	c	-	9	a	石鏃	玉随	1.2	0.3	1.1	0.4	外	外	-
429	11827	10.464	71.245	186.290	B	-	1	j	-	2	a	石鏃	黒曜石B	1.9	0.4	1.3	0.54	外	外	-
430	8011	25.058	54.404	185.780	C	-	3	e	-	5	a	石鏃	黒曜石A	1.51	0.3	1.09	0.36	外	外	-
431	11779	17.208	72.723	186.105	B	-	1	c	-	3	a	石鏃	チャート	2.4	0.9	1.8	2.38	外	外	-
432	11829	10.339	74.112	186.220	B	-	1	j	-	5	a	スクレイパー	黒色安山岩	4.2	2.9	1.9	25.98	外	外	-
433	23286	19.023	16.326	185.840	B	-	7	a	-	7	b	スクレイパー	黒曜石B	2.5	1.5	0.7	2.61	外	外	-
434	2115	18.955	61.901	186.100	B	-	2	b	-	2	a	スクレイパー	黒曜石A	2.55	2.8	0.95	-	外	外	-
435	2191	17.334	63.389	186.075	B	-	2	c	-	4	a	スクレイパー	黒色安山岩	2.8	3.7	1.05	9.31	外	外	-
436	22404	16.766	11.618	185.680	B	-	7	d	-	2	a	細石刃	黒曜石C	1.5	0.49	0.12	-	外	外	頭中部
437	12199	20.708	70.527	185.965	C	-	1	j	-	1	a	細石刃	黒曜石C	1.4	0.38	0.09	-	外	外	頭中部
438	2327	19.509	70.259	185.980	B	-	1	a	-	1	a	細石刃	黒曜石A	1.7	0.65	0.23	-	外	外	頭中部
439	5660	22.291	63.519	185.955	C	-	2	h	-	4	a	細石刃	黒曜石C	1.1	0.47	0.15	-	外	外	中間部
440	3408	18.912	70.182	185.975	B	-	1	b	-	1	a	細石刃	黒曜石A	1	0.7	0.22	-	外	外	-
441	2325	19.106	70.271	185.970	B	-	1	a	-	1	a	細石刃	黒曜石A	1.1	0.7	0.16	-	外	外	中間部
442	471	11.767	68.180	186.147	B	-	2	i	-	9	a	細石刃	黒曜石C	2	0.6	0.2	-	外	外	頭中部
443	9555	31.033	69.331	185.640	D	-	2	i	-	10	a	細石刃	チャート	1.35	0.6	0.18	-	外	外	-
444	2575	18.890	65.610	185.980	B	-	2	b	-	6	a	細石刃	黒曜石C	1.62	0.51	0.1	-	外	外	頭中部
445	3002	19.160	64.709	185.985	B	-	2	a	-	5	a	細石刃	黒曜石C	1.49	0.52	0.19	-	外	外	完形
446	8014	23.353	51.962	186.000	C	-	3	g	-	2	a	細石刃	黒曜石D	1.4	0.7	0.2	-	外	外	頭中部
447	20268	37.972	18.488	186.080	D	-	7	c	-	9	a	細石刃	黒曜石B	1.21	0.61	0.15	-	外	外	中間部
448	20354	28.312	64.893	185.715	C	-	2	b	-	5	a	細石刃	黒曜石C	1.3	0.6	0.08	-	外	外	頭中部
449	21459	27.278	18.136	186.115	C	-	7	c	-	9	a	細石刃	黒曜石C	1.21	0.49	0.14	-	外	外	中間部
450	21147	34.648	25.824	185.210	D	-	6	f	-	6	a	石核	頁岩	2.5	3.1	3.45	30.18	外	外	-
451	21380	29.206	35.467	185.570	C	-	5	a	-	6	a	石核	黒色安山岩	3.2	3.65	4.5	33.66	外	外	-
452	20696	28.769	22.471	185.955	C	-	6	b	-	3	a	石核	鉄石英	3.2	5.4	2.7	38.19	外	外	-
453	4682	17.325	58.822	186.425	B	-	3	c	-	9	a	打面再生剥片	凝灰岩質頁岩	1.4	3.35	4.7	-	外	外	-
454	21413	26.521	43.833	186.030	C	-	4	d	-	4	a	土器	-	0	0	0	-	外	外	-



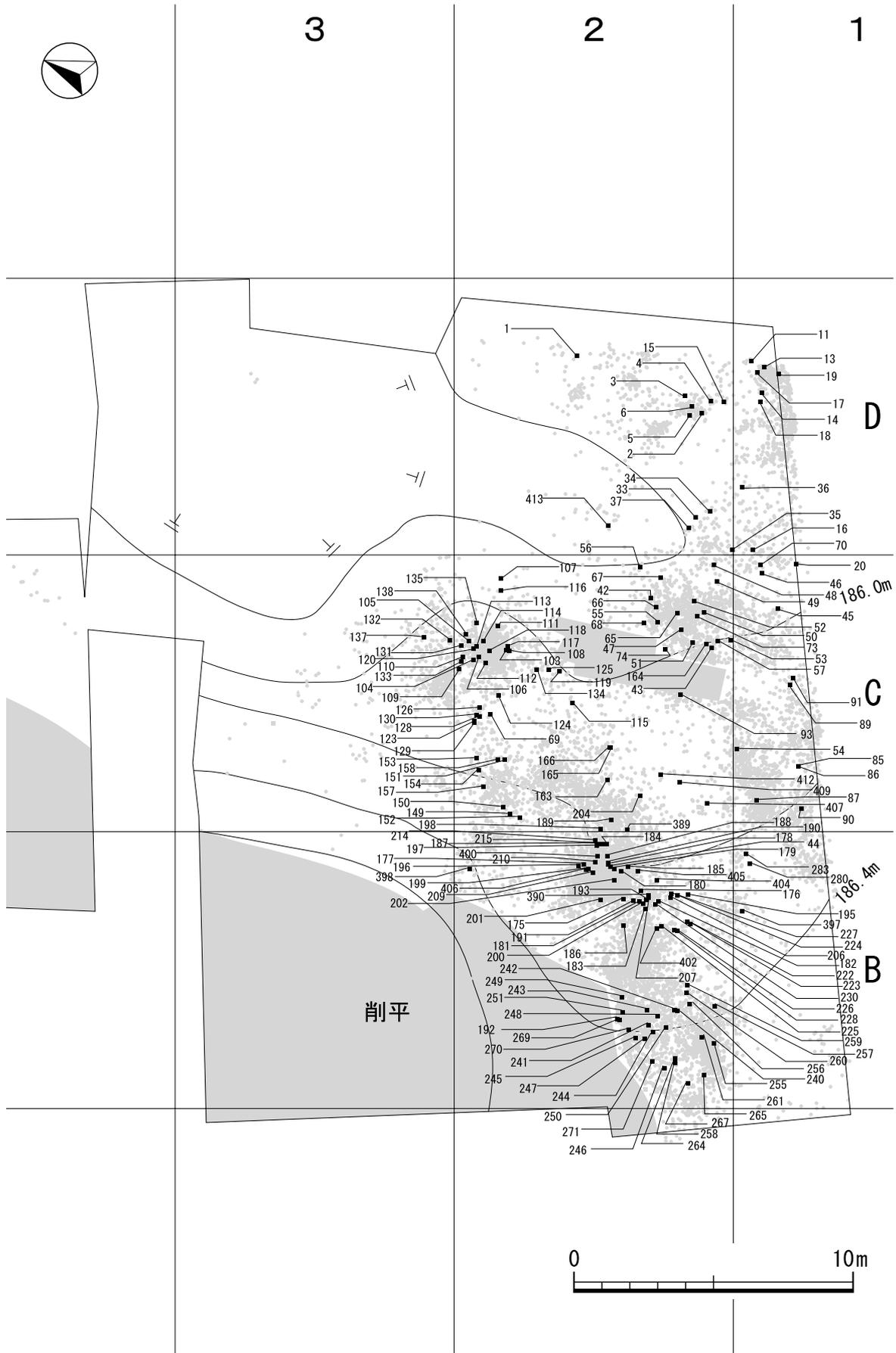
番号	図番号	器種	ユニット	主剥離面				打面			下縁調整		作業面		自然面						分類	石材	
				打面	側面	その他	不明	横打形成	打調有	打調無	有	無	1面	2面	1	2	3	4	5	無			
52	103	細石刃核	F																		- b	黒曜石A	
53	104	細石刃核																					黒曜石A
54	105	細石刃核																					黒曜石A
55	106	細石刃核																				その他	黒曜石A
56	107	細石刃核																					黒曜石A
57	108	細石刃核																				その他	黒曜石A
58	109	細石刃核																				その他	黒曜石A
59	110	細石刃核																					黒曜石A
60	111	細石刃核																				- b	黒曜石A
61	112	細石刃核																				- b	黒曜石A
62	113	細石刃核																					黒曜石A
63	114	細石刃核																				その他	黒曜石A
64	115	細石刃核																					黒曜石A
65	116	細石刃核																					黒曜石A
66	117	細石刃核																				その他	黒曜石A
67	118	細石刃核																				その他	黒曜石A
68	119	細石刃核																					黒曜石A
69	120	細石刃核																				その他	黒曜石A
70	123	細石刃核																					黒曜石B
71	124	細石刃核																				その他	黒曜石B
72	125	細石刃核																				その他	黒曜石B
73	126	細石刃核																				その他	黒曜石B
74	128	細石刃核																				- a	黒曜石B
75	129	細石刃核																				- b	黒曜石B
76	130	細石刃核																				その他	黒曜石B
77	131	細石刃核					なし																黒曜石C
78	132	細石刃核					なし																黒曜石C
79	133	細石刃核																				その他	黒曜石C
80	134	細石刃核					なし																黒曜石C
81	135	細石刃核					なし																黒曜石C
82	136	細石刃核					なし																黒曜石C
83	137	細石刃核					なし																黒曜石C
84	138	細石刃核																				その他	黒曜石C
85	149	細石刃核		G																			黒曜石A
86	150	細石刃核																					黒曜石A
87	151	細石刃核																					黒曜石A
88	152	細石刃核																				- a	黒曜石A
89	153	細石刃核																					黒曜石A
90	154	細石刃核					背面															その他	黒曜石A
91	157	細石刃核																				その他	黒曜石B
92	158	細石刃核																				黒色安山岩	
93	163	細石刃核	H																		その他	黒曜石A	
94	164	細石刃核																				- b	黒曜石A
95	165	細石刃核																				その他	黒曜石A
96	166	細石刃核																					黒曜石A
97	175	細石刃核	I																		- a	黒曜石A	
98	176	細石刃核																				- a	黒曜石A
99	177	細石刃核																				- a	黒曜石A
100	178	細石刃核																				- a	黒曜石A
101	179	細石刃核																				- a	黒曜石A
102	180	細石刃核																				- a	黒曜石A
103	181	細石刃核																				- b	黒曜石A

番号	図番号	器種	ユニット	主剥離面				打面			下縁調整		作業面		自然面						分類	石材		
				打面	側面	その他	不明	横打形成	打調有	打調無	有	無	1面	2面	1	2	3	4	5	無				
104	182	細石刃核	I																		- b	黒曜石A		
105	183	細石刃核																				その他	黒曜石B	
106	184	細石刃核																				その他	黒曜石A	
107	185	細石刃核																					黒曜石A	
108	186	細石刃核																					- a	黒曜石A
109	187	細石刃核																						黒曜石A
110	188	細石刃核																						黒曜石A
111	189	細石刃核																					- b	黒曜石A
112	190	細石刃核									不明												- b	黒曜石A
113	191	細石刃核																					- a	黒曜石A
114	192	細石刃核																						黒曜石A
115	193	細石刃核																				その他	黒曜石A	
116	195	細石刃核																						黒曜石A
117	196	細石刃核				なし																		黒曜石A
118	197	細石刃核																						黒曜石A
119	198	細石刃核																				その他	黒曜石A	
120	199	細石刃核																						黒曜石A
121	200	細石刃核				なし																		黒曜石A
122	201	細石刃核																						黒曜石A
123	202	細石刃核																						黒曜石A
124	204	細石刃核																				その他	黒曜石A	
125	206	細石刃核																				- a	黒曜石A	
126	207	細石刃核																						黒曜石A
127	209	細石刃核																				その他	黒曜石A	
128	210	細石刃核																						黒曜石A
129	214	細石刃核																					- a	黒曜石B
130	215	細石刃核																				その他	黒曜石B	
131	222	細石刃核		J																				黒曜石B
132	223	細石刃核																					その他	黒曜石B
133	224	細石刃核																						
134	225	細石刃核																						黒曜石B
135	226	細石刃核																						黒曜石B
136	227	細石刃核																						黒曜石B
137	228	細石刃核																				その他	黒曜石B	
138	230	細石刃核																				その他	黒曜石B	
139	240	細石刃核	K																				黒曜石A	
140	241	細石刃核																						黒曜石A
141	242	細石刃核																				その他	黒曜石A	
142	243	細石刃核																						黒曜石A
143	244	細石刃核				なし																		黒曜石A
144	245	細石刃核																						黒曜石A
145	246	細石刃核																				その他	黒曜石A	
146	247	細石刃核				背																その他	黒曜石A	
147	248	細石刃核																				その他	黒曜石A	
148	249	細石刃核																						黒曜石A
149	250	細石刃核																						黒曜石A
150	255	細石刃核																				- a	黒曜石A	
151	256	細石刃核																				その他	黒曜石A	
152	257	細石刃核																						黒曜石A
153	258	細石刃核																				その他	黒曜石A	
154	259	細石刃核																				その他	黒曜石A	
155	260	細石刃核																				その他	黒曜石A	

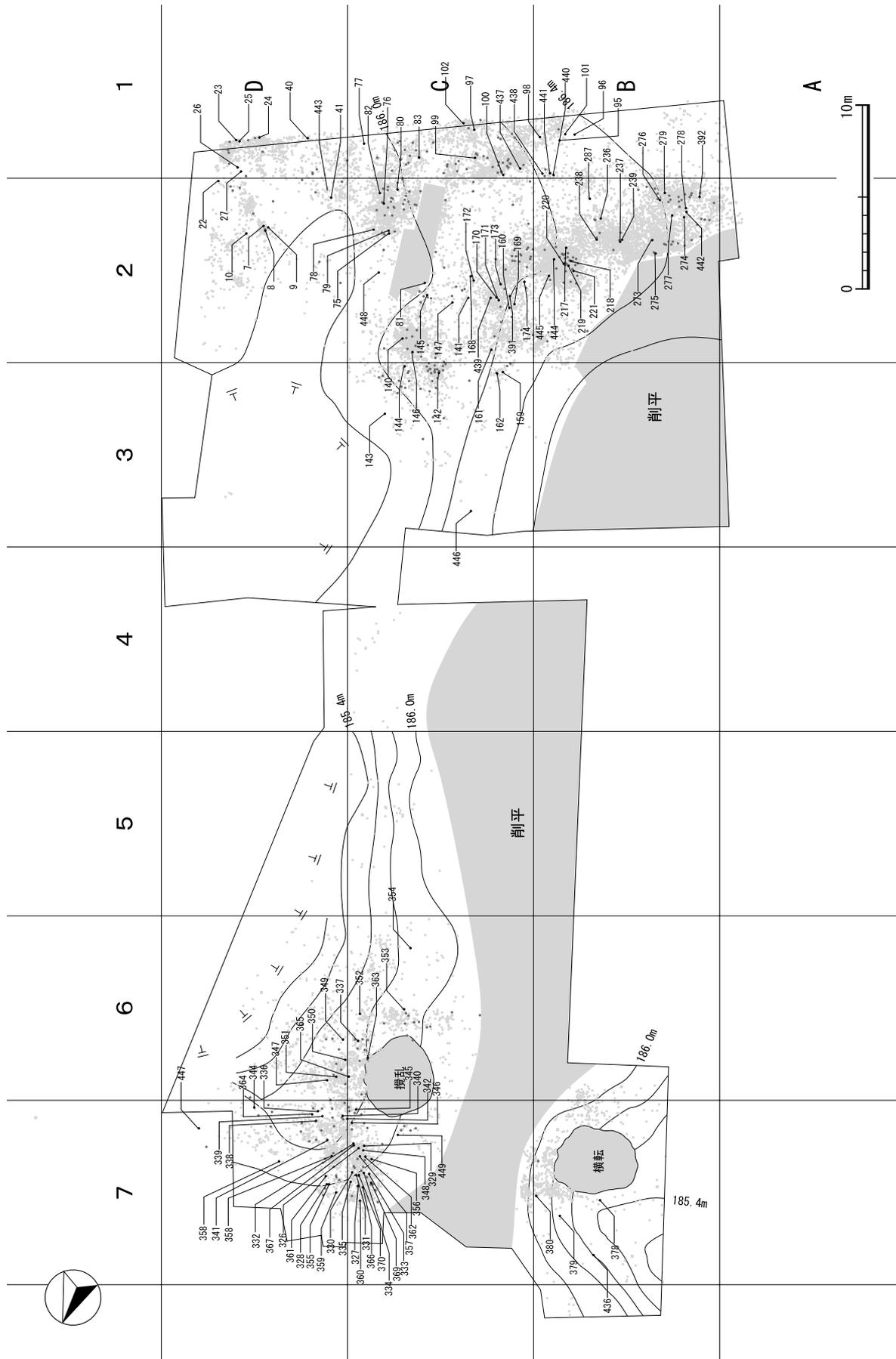
番号	図番号	器種	ユニット	主剥離面				打面			下縁調整		作業面		自然面					分類	石材		
				打面	側面	その他	不明	横打形成	打調有	打調無	有	無	1面	2面	1	2	3	4	5			無	
156	261	細石刃核	K																			黒曜石A	
157	264	細石刃核																					その他 黒曜石A
158	265	細石刃核																					その他 黒曜石A
159	267	細石刃核																					黒曜石A
160	269	細石刃核																					黒色安山岩
161	270	細石刃核																					- b 黒色安山岩
162	271	細石刃核																					黒曜石A
163	280	細石刃核	L																			黒曜石B	
164	283	細石刃核																					黒曜石B
165	288	細石刃核	M																			黒曜石C	
166	289	細石刃核																					黒曜石C
167	290	細石刃核																					- b 黒曜石C
168	291	細石刃核																					黒曜石C
169	292	細石刃核																					- b 黒曜石C
170	293	細石刃核				なし																	黒曜石C
171	294	細石刃核				なし																	黒曜石C
172	295	細石刃核																					- a 黒曜石C
173	296	細石刃核				なし																	黒曜石C
174	297	細石刃核				なし																	黒曜石C
175	299	細石刃核																					- b 黒曜石D
176	303	細石刃核																				その他 黒色安山岩	
177	371	細石刃核	N																			- a 黒曜石C	
178	372	細石刃核																					黒曜石C
179	373	細石刃核																					その他 黒曜石C
180	377	細石刃核																					黒色安山岩
181	381	細石刃核	O																			- a 黒曜石C	
182	382	細石刃核																					- a 黒曜石C
183	383	細石刃核																					- a 黒曜石C
184	385	細石刃核																					- a 黒曜石C
185	386	細石刃核																					- a 黒曜石C
186	389	細石刃核	その他																			- a 黒曜石D	
187	390	細石刃核																					黒曜石D
188	396	細石刃核																					- a 石英質岩
189	397	細石刃核	外																			黒曜石B	
190	398	細石刃核																					- b 黒曜石A
191	400	細石刃核																					- a 黒曜石C
192	402	細石刃核																					- b 黒曜石A
193	404	細石刃核				なし																	黒曜石C
194	405	細石刃核																					- a 黒曜石C
195	406	細石刃核																					黒曜石C
196	407	細石刃核																					その他 黒曜石A
197	409	細石刃核																					黒曜石A
198	412	細石刃核																					その他 黒曜石A
199	413	細石刃核																					黒曜石C
200	414	細石刃核																					黒曜石C
201	415	細石刃核																					その他 黒曜石A
202	416	細石刃核																					黒曜石D
203	422	細石刃核																					- b 黒曜石A



第69図 細石刃核出土状況(1)



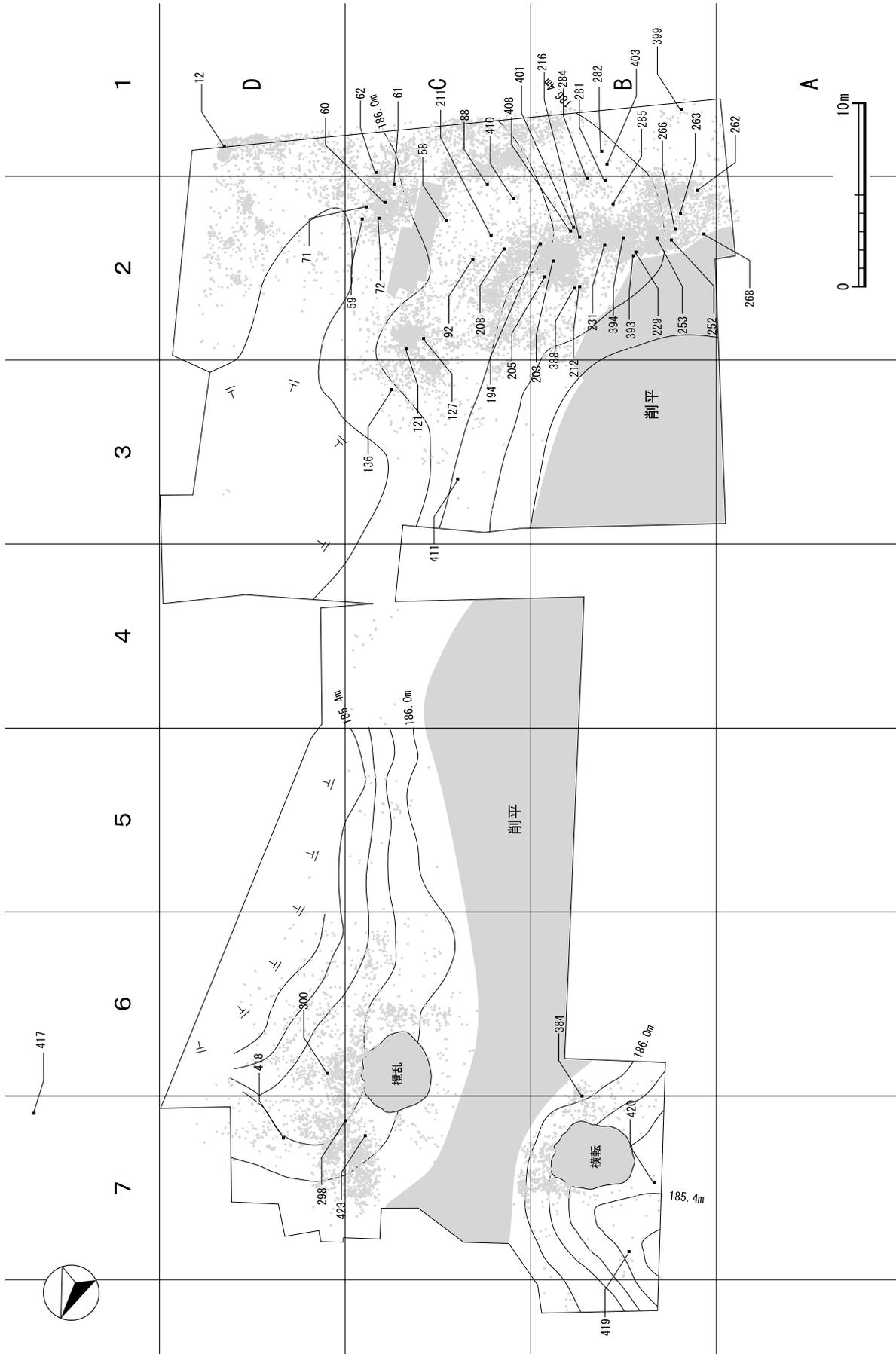
第70図 細石刃核出土状況(2)



第71図 細石刃出土状況



第72図 石鏃出土状況



第73図 ブランク出土状況



第74図 その他の石器

表22 ブロック観察表

ユニット	ブロック	石材	位置		規模 (m)	総数	剥片等	細石刃核	プランク	細石刃	打再	作再	石鏃	削器	石核	土器	叩石	石斧	砥石	備考
			区	場所																
A	1	黒曜石A	D-2	中央	8×4	252	242	6	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	黒曜石B	D-2	中央	9×5	142	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B	2	黒曜石A	D-1	北	5×3	284	269	4	1	10	0	0	0	0	0	11	0	0	0	
	12	黒曜石B	D-1	北	6×3	249	246	2	0	1	0	0	0	0	0					
	45	黒曜石C	D-1	北	8×5	24	19	3	0	1	0	1	0	0	0					
C	44-1	黒曜石C	D-1,2		4×3	30	15	6	0	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	35	黒色安山岩	C-D-1~2		4×3	37	36	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	
D	3	黒曜石A	C-1~2	東	7×6	1123	1059	18	4	40	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
	13	黒曜石B	C-2	南東	4×4	374	368	4	2	0	0	0	0	0	0					
	44-2	黒曜石C	C-1~2		4×3	38	18	2	0	18	0	0	0	0	0					
E	16	黒曜石B	B~C-1	北	7×3	1177	1168	5	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	44-3	黒曜石C	B,C-1		7×4	60	17	2	1	40	1	0	0	0	0					
F	4	黒曜石A	C-2~3	東	5×5	617	594	18	1	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
	14	黒曜石B	C-2	北	2×2	425	417	5	1	2	0	0	0	0	0					
	15	黒曜石B	C-2~3		2×2	257	247	2	0	8	0	0	0	0	0					
	43	黒曜石C	C-2~3		5×5	72	22	7	1	41	0	1	0	0	0					
G	5	黒曜石A	C-2	北西	3×3	251	238	6	0	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	18	黒曜石B	B~C-2	北	5×4	232	230	1	0	1	0	0	0	0	0					
	36	黒色安山岩	C-2	北西	4×4	70	69	1	0	0	0	0	0	0	0					
H	6	黒曜石A	C-2	西	4×4	480	469	4	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
	17	黒曜石B	C-2	西	4×2	168	167	0	0	1	0	0	0	0	0					
I	7	黒曜石A	B~C-2		5×5	3363	3290	32	7	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ナイフ形石器1
	19	黒曜石B	B-2	東	3×3	468	465	2	0	1	0	0	0	0	0					
J	21	黒曜石B	B-2	南	5×4	1073	1055	8	2	4	0	0	0	2	2	0	0	0	0	
K	8	黒曜石A	B-2	南西	4×2	634	611	12	2	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	9	黒曜石A	B-2	南西	3×2	679	650	9	3	17	0	0	0	0	0					
	10	黒曜石A	A~B-2	南	2×2	166	157	2	1	6	0	0	0	0	0					
	22	黒曜石B	B-2	南西	2×2	218	218	0	0	0	0	0	0	0	0					
	38	黒色安山岩	B-2	南西	4×4	87	83	2	0	1	0	0	1	0	0					
L	20	黒曜石B	B-1~2	東	3×3	127	119	2	4	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
M	23	黒曜石C	C~D-7		5×3	177	151	0	0	26	0	0	0	0	0	2	1	1	0	
	24	黒曜石C	D-7	南西	3×3	157	136	0	1	20	0	0	0	0	0					
	25	黒曜石C	C~D-6~7		5×3	207	179	5	0	23	0	0	0	0	0					
	26	黒曜石C	C-6	東	5×4	89	68	5	0	16	0	0	0	0	0					
	29	黒曜石D	C~D-7		5×4	191	171	1	0	19	0	0	0	0	0					
	30	黒曜石D	C~D-6	北	5×4	42	32	0	1	7	1	0	0	1	0					
	32	黒色安山岩	C~D-7	南	6×4	716	704	1	0	2	0	0	8	0	1					
	33	黒色安山岩	C~D-6	北	5×4	471	460	0	0	0	0	0	10	0	1					
N	27	黒曜石C	B~C-7		5×4	90	83	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	34	黒色安山岩	B~C-7		3×3	274	271	1	0	0	0	0	2	0	0					
O	28	黒曜石C	B-6~7		5×4	116	111	4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
その他	37	黒色安山岩	B-2	東	4×4	132	132	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	31	黒曜石D	B~C-2~3		20×15	29	21	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	39	砂岩	B-2		6×2	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	40	黒曜石E	B-2	南	10×5	13	11	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	41	鉄石英	B~C-1~2		15×10	10	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	42	石英質岩	C-7	南	3×2	8	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

## 第5章 III, IV層(縄文時代早期)の調査

### 第1節 調査の方法

表土剥ぎ後に、東側の谷部に傾斜するC, D区に層の残存がみられた。D区は古代の包含層も残存しており、古代の調査後に縄文早期の調査を行った。遺物は 層～ 層にかけて出土した。

### 第2節 調査の内容

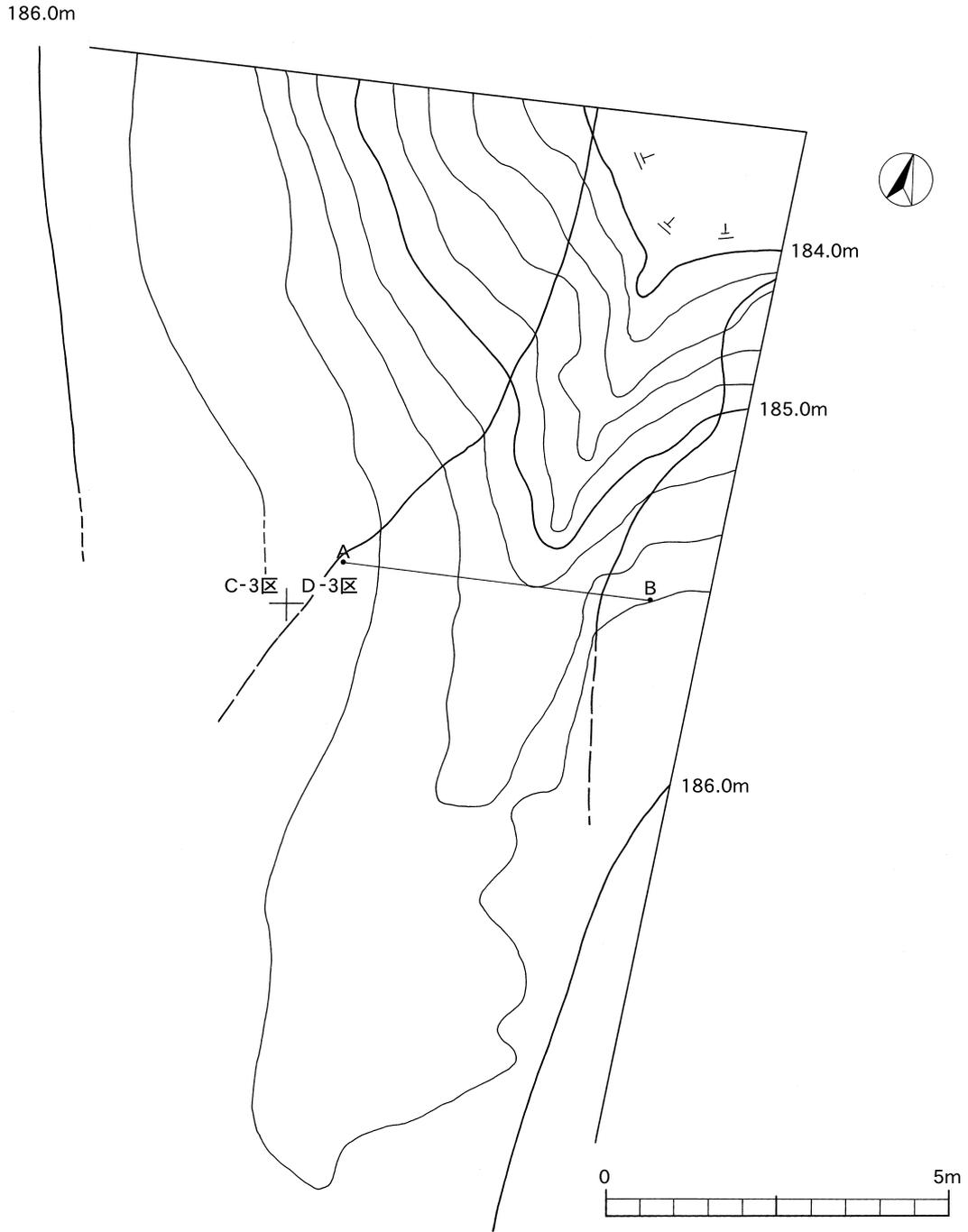
#### (1) 遺構(第75図)

D-1～3区にかけて、薩摩火山灰層上面で遺構検出を行ったところ、南北方向に黒い 層が筋状に検出された。 層のみを掘り下げた結果、 a層を床面とする筋状の遺構であることが判明した。鹿児島市加栗山遺跡、松元町前原遺跡、国分市上野原遺跡、伊集院町永迫平遺跡、伊集院町上山路山遺跡と検出状況が類似しており、自然の地形を利用した道跡と判断した。検出した遺構の長さは約20mで、下場は谷に向かって狭くなっている。遺構の時期については土器が前平式土器、押型文土器、塞ノ神式土器等が出土しているため、縄文時代早期であることは確実であるが、早期のどの時期であるかについては確定できない。

#### (2) 遺物(第76図～第78図)

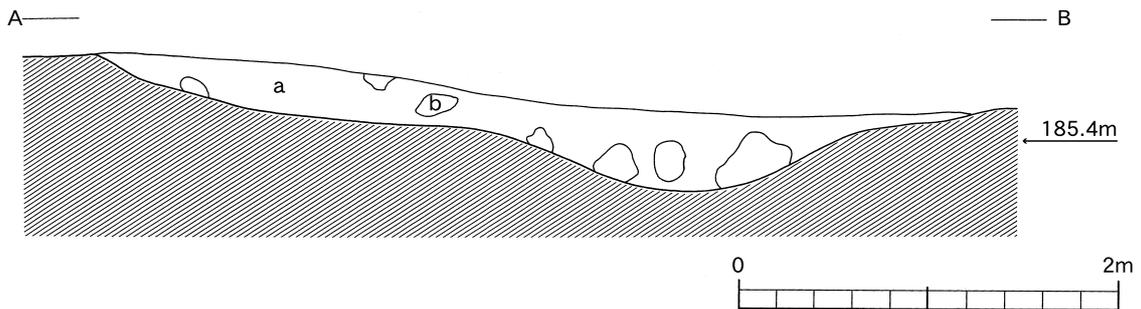
層の遺物は179点出土し、うち25点を図化した。

1～5, 7は前平式土器の角筒土器である。貝殻条痕文の上に流水状、直線状の貝殻条痕文が重ねられている。また、貝殻刺突文が連点状に施されているものもみられる。2は波状の口縁部である。口唇部に刻みはみられない。7は底部である。底部外面に刻みが施されている。6は円筒形土器の胴部である。貝殻条痕文の上に縦位の貝殻刺突文が重ねられている。加栗山式土器と考えられる。8は加栗山式土器の底部である。貝殻条痕文の上に獣医の貝殻刺突文が重ねられ、底部外面には縦位の刻みが施されている。6と同一個体の可能性が高い。9は円筒形土器の底部である。外面に横方向への調整痕がわずかに観察されるが、風化により明らかでない。厚手である。10, 11は楕円押型文土器の胴部である。10の土器の内面には一部山形押型文が施されている。12は平栴式土器の口縁部である。口唇部外面に刻みが、その下には条痕が施されている。14は苦浜式土器に類似する。15, 16は安山岩製の石鏃である。基部の挟りが大きい。なお、16は表土出土資料である。17はチャート製の五角形鏃である。18はチャート製の長三角形鏃である。剥離が細かく、作りが非常に丁寧である。19はタンパク石製の石器である。やや厚みがあり、楔形石器の一部か、石鏃の未製品である。20はタンパク石製の石鏃の一部である。21は黒曜石C製の石鏃である。先端は欠損ではなく細かい調整がみられる。22はタンパク石製の石鏃の未製品である。表裏両面に大剥離面を残す。23は頁岩製の楔形石器である。やや厚手で、表裏両面に上下からの剥離痕がみられる。24は安山岩製の叩石である。長軸の一端に打痕が観察されるが、使用頻度は高くない。25は手向山式土器で、全体形が復元できる資料である。屈曲部から下の部分を粘土紐を積み上げて作成し、縦に山型押型文を施文している。その後屈曲部から上の部分を積み上げにより作成し、先に作った下半部に内外面をかぶせる形で接合し、外面に丁寧な横方向への指ナデを施した後に沈線文を施している。口縁部内面にも丁寧な横方向への指ナデの後、横方向へ山型押型文を施文している。



a: 黒褐色土(V層)  
 b: 薩摩火山灰二次堆積の遊離

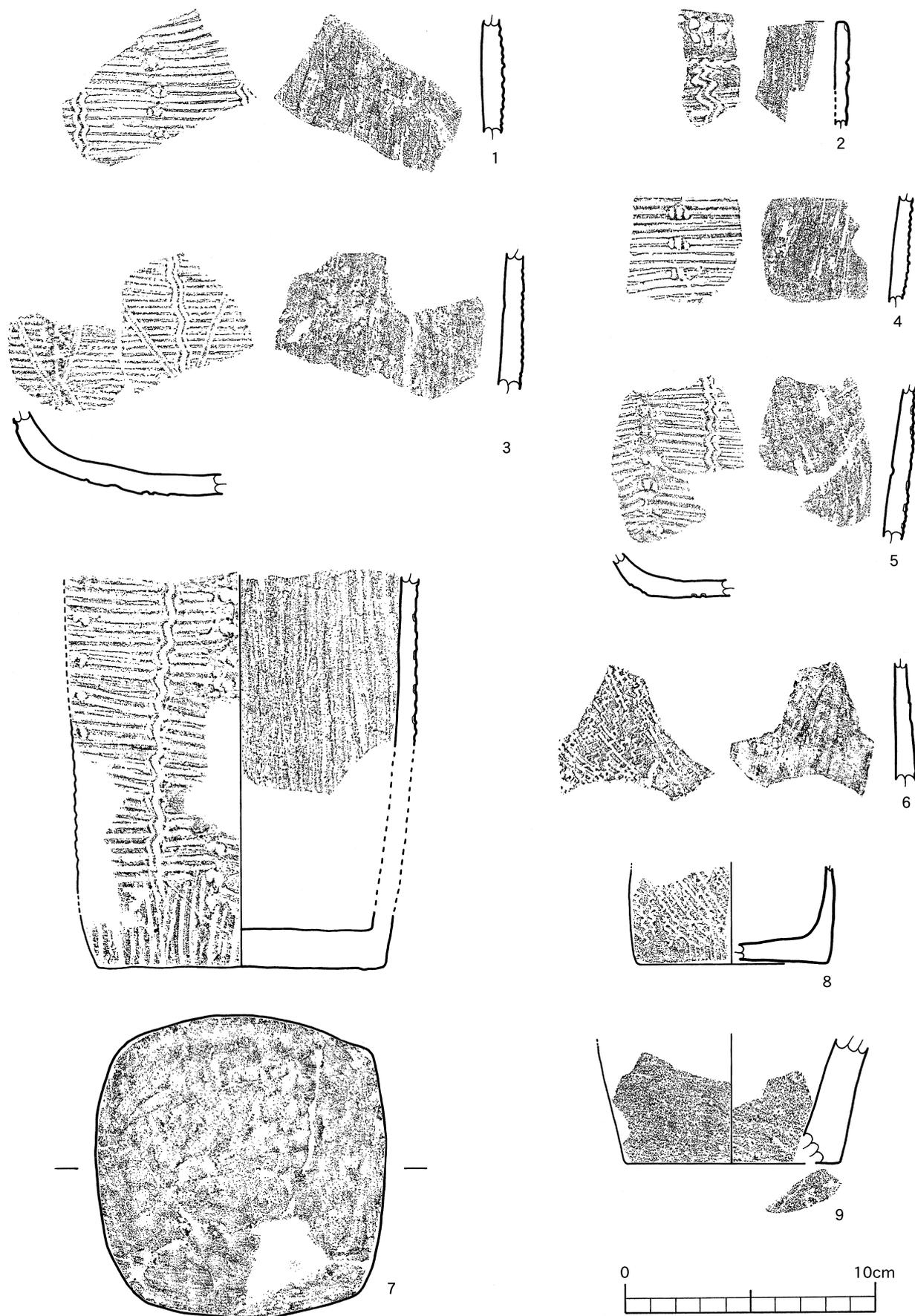
C-2 D-2  
 C-1 D-1



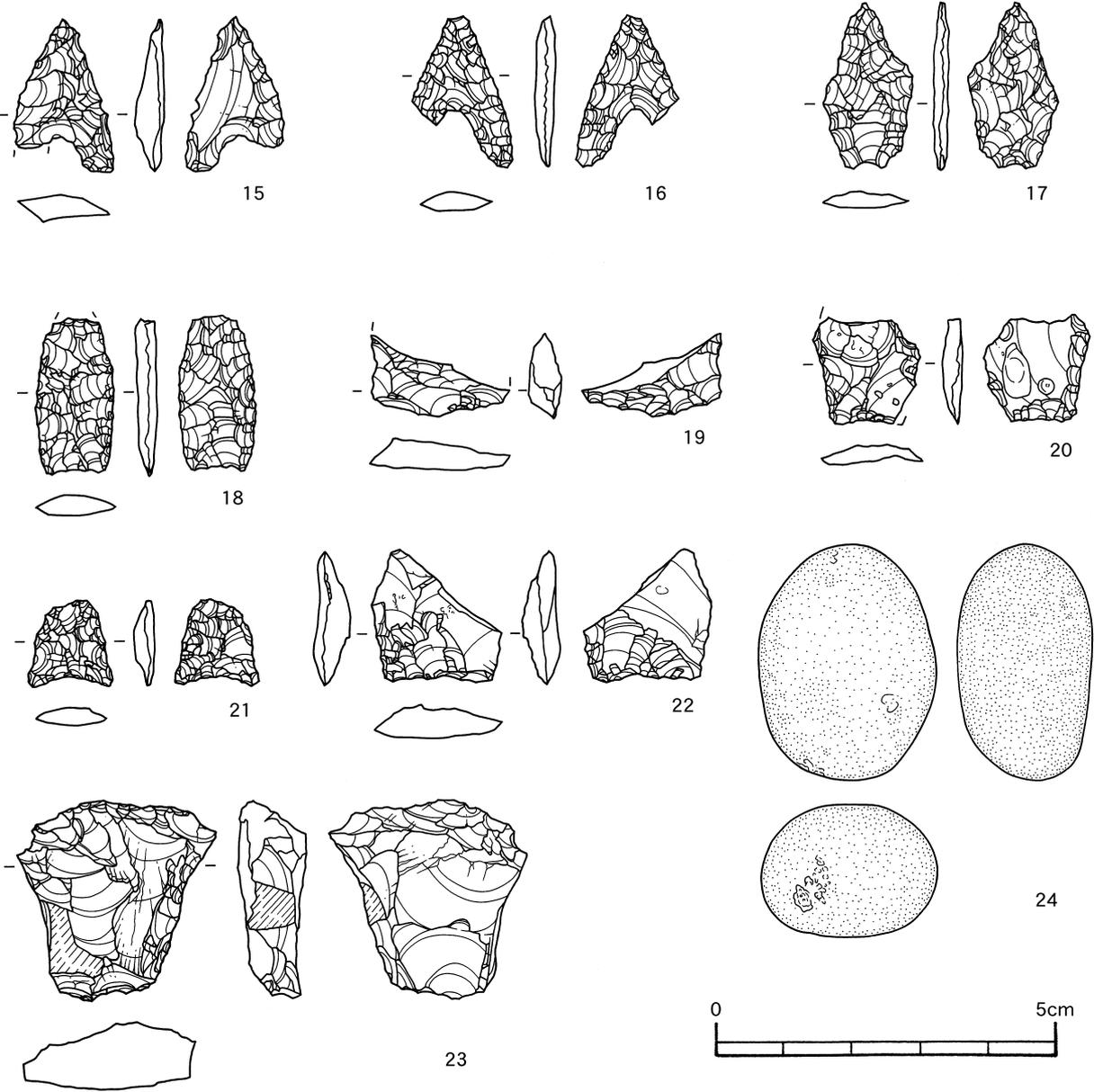
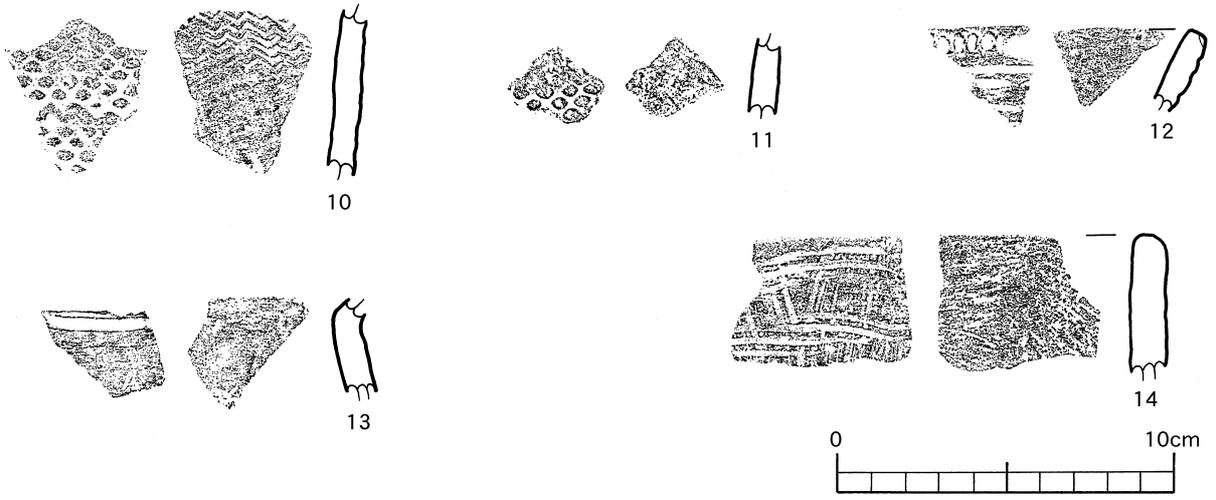
第75図 早期道跡検出状況



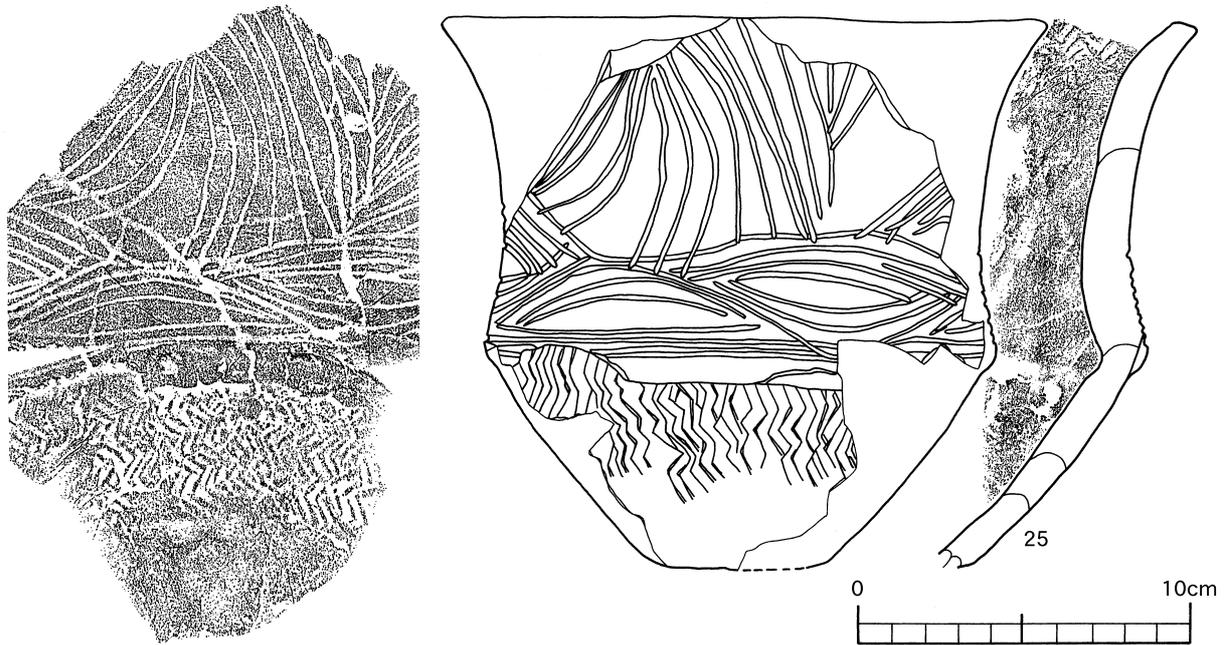
第76図 縄文時代早期遺物出土状況



第77圖 繩文時代早期出土遺物(1)



第78図 縄文時代早期出土遺物(2)



第79図 縄文時代早期出土遺物(3)

表23 縄文時代早期実測遺物観察表

図番	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	- g -	層位L 1	器種	部位	その他
1	13133	24.571	70.345	186.380	C - 1	f - 1		前平式土器	胴部	角筒
2	180	32.978	64.795	186.200	D - 2	h - 5		前平式土器	口縁部	角筒
3	129	32.618	60.033	186.116	D - 2	h - 1		前平式土器	胴部	角筒
3	142	31.808	60.196	186.096	D - 2	i - 1		前平式土器	胴部	角筒
4	203	26.513	60.424	186.462	C - 2	d - 1		前平式土器	胴部	角筒
5	158	31.005	62.176	186.330	D - 2	i - 3		前平式土器	胴部	角筒
6	一括	-	-	-	-	-		前平式土器	胴部	円筒
7	151	32.428	61.901	186.077	D - 2	h - 2		早期土器	底部	角筒
7	178	32.663	65.588	186.379	D - 2	h - 6		前平式土器	底部	角筒
8	131	31.694	59.246	185.969	D - 3	i - 10		前平式土器	底部	円筒
8	2103	32.337	59.254	185.630	D - 3	h - 10		前平式土器	底部	円筒
9	20501	28.468	36.010	186.090	C - 5	b - 7		前平式土器	底部	円筒
10	177	33.088	65.999	186.250	D - 2	g - 6		楕円押型文土器	胴部	-
11	8856	22.815	62.323	185.915	C - 2	h - 3	a	楕円押型文土器	胴部	-
12	165	30.960	68.791	186.389	D - 2	j - 9		塞ノ神式土器	口縁部	-
13	204	26.171	60.943	186.519	C - 2	d - 1		早期土器	胴部	-
14	139	30.384	58.978	186.374	D - 3	j - 9		早期土器	口縁部	-
15	13178	27.143	69.949	186.245	C - -	c - 10		石鏃	-	安山岩
16	一括	-	-	-	- - -	- - -		石鏃	-	安山岩
17	21138	35.757	23.710	184.920	D - 6	e - 4		石鏃	-	チャート
18	20486	31.728	25.306	185.900	D - 6	i - 6		石鏃	-	チャート
19	2102	31.264	60.226	185.710	D - 2	i - 1		石鏃	-	タンパク石
20	2101	31.058	62.566	185.870	D - 2	i - 3		石鏃	-	タンパク石
21	20495	33.178	26.591	185.655	D - 6	g - 7		石鏃	-	黒曜石
22	114	31.032	56.371	186.009	D - 3	i - 7		石鏃	-	タンパク石
23	一括	-	-	-	- - -	- - -		楔形石器	-	頁岩
24	13170	31.928	70.569	186.380	D - 1	i - 1		叩石	-	安山岩
25	252	35.926	52.907	186.030	D - 3	e - 3		手向山式土器	底部~口縁部	-

## 第6章 II層（古代）の調査

### 第1節 調査の方法

表土剥ぎ後に、東側の谷部に傾斜するD区の一部に包含層の残存がみられたため、古代の調査を行った。調査面積は約150㎡であり、遺物は a層～ b層にかけて出土した。

### 第2節 調査の内容

#### (1) 遺構

D - 4区より、口縁部を合わせた状態で2個の土師器壺が埋納された土坑が検出された。検出時に平面からの掘り込みの確認を行ったが、明確な掘り込みラインが確認できなかったため、横方向から断ち割って検出を行ったところ、壺よりもやや大きめの掘り込みが確認された。土坑の大きさは直径約15cmの略円形であると推定され、検出面からの深さは最深部で約5cmである。土師器には上壺、下壺ともに内外面に赤色顔料が塗布されていた。上・下壺ともに上から押しつぶされた形で口縁部周縁が破損しており、おそらく後世の土圧によるもので、埋納当時は上・下壺がきれいに重なった状態であったと推測される。

上壺外面南側には正位で「肥道里」と読める墨書が確認され、見込み底面には刻書が確認された。下壺外面南側には正位で「子」、ほぼ対称となる位置の北側には正位で「☆（一文字不明）」の墨書が確認された。上壺と下壺を併せた状態での墨書の位置関係については、上壺「肥道里」の下に下壺の「子」の文字が縦に並ぶ状況である。

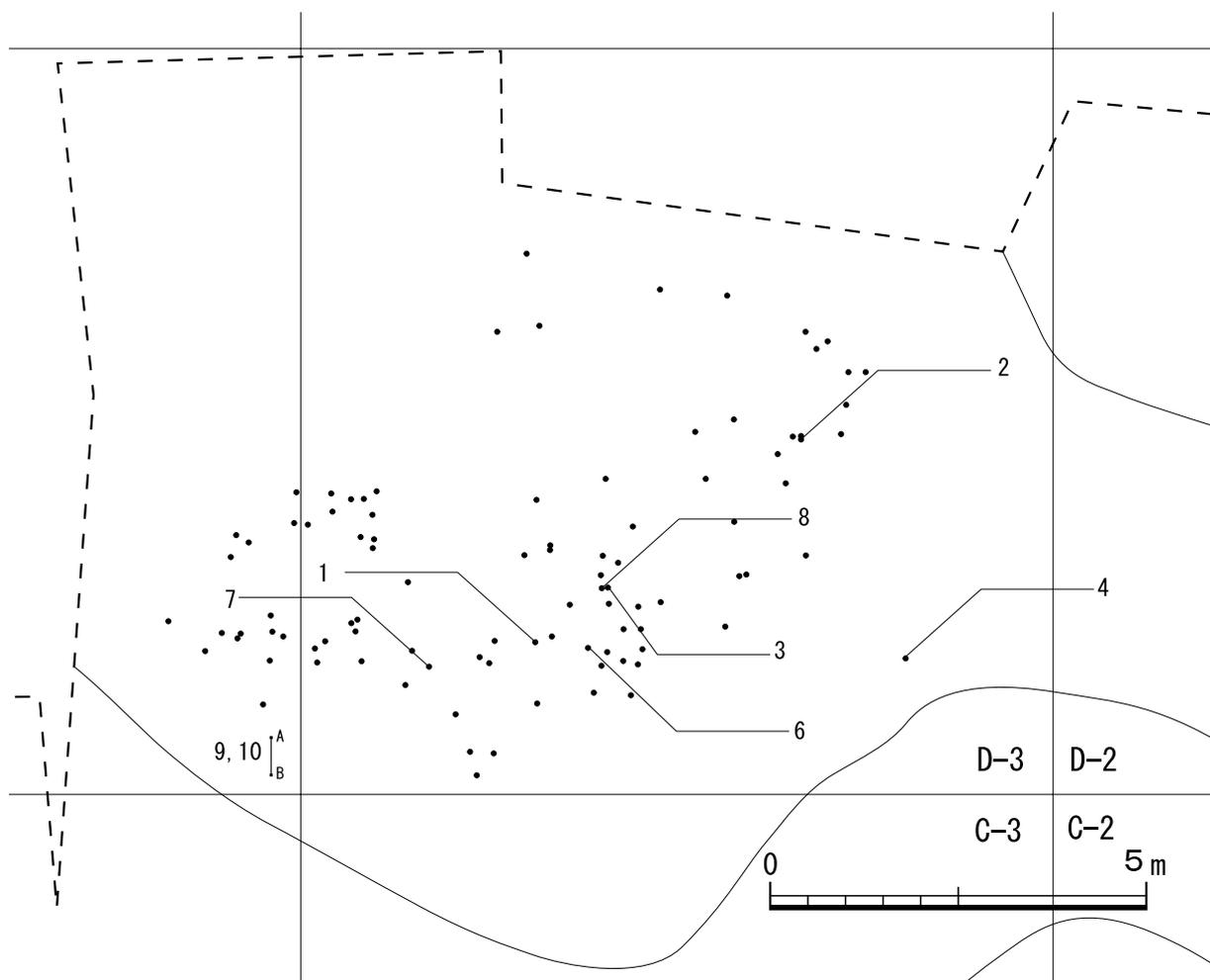
上壺を外して内壺の中の土を慎重に調査したところ、埋土のみを除去した状態で中に環状に白っぽい物質が確認された（第82図，Plate 2 - 4）。

なお、墨書、内容物等については7章、8章で詳細に報告したい。

#### (2) 遺物

層では約100点の遺物が出土し、そのうち比較的破片の大きい10点を図化した。出土遺物は須恵器甕、土師器壺、坏、甕等がある。

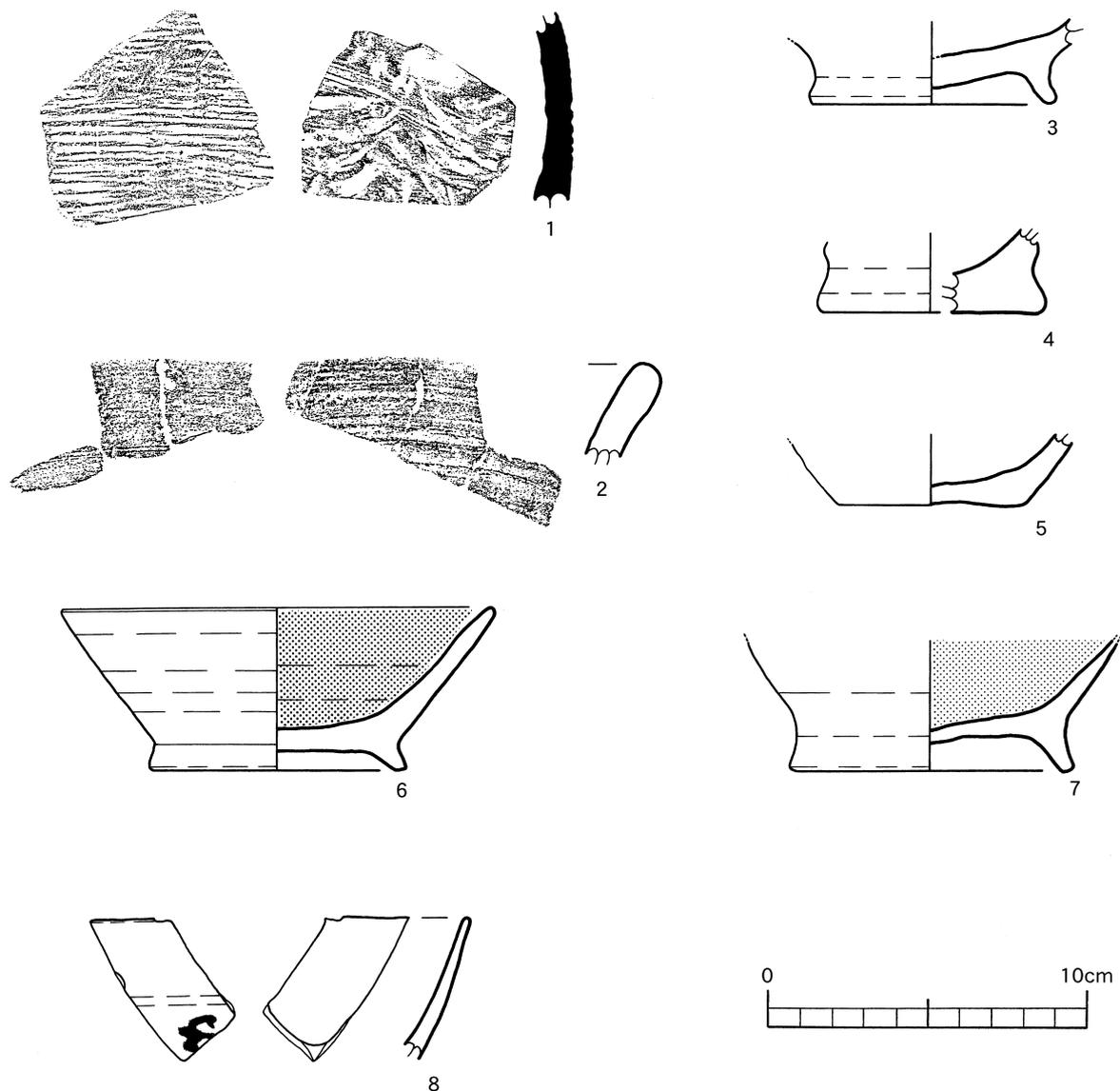
1は須恵器の甕の胴部である。赤焼きで、焼成が不良である。外面は平行タタキであり、内面の当て具は同心円状のものである。内面に指頭痕を残す。2は土師器甕の口縁部である。口縁部は短く、緩やかに曲折する。内外面ともに横方向のナデがみられる。3は土師器壺の底部である。高台は緩やかに外側に開き、端部は丸みをもつ。高台周縁部は丁寧にナデられている。4は土師器の充実高台である。5は土師器の坏である。表面が風化している。底部はヘラ切りで、ナデ消しているが完全ではない。内外面ともに横方向のナデ調整が観察される。中央付近がくぼんでいる。6、7は土師器の壺である。6は内外面とも横方向の丁寧な調整が施され、内面の上半はナデられている。器高は5.1cm、口径は13.4cm、底径は7.9cmである。底部の内面には一部線状のミガキが観察される。内面には全面に赤色顔料が塗布されており、外面は上半に確認され、顔料の垂れがいくつかみられる。7は摩滅があり、観察が困難であるが、内外面に赤色顔料が施されているようである。8は土師器壺の口縁部である。体部外面に倒位の「子」という墨書がみられる。9は合わせ口土師器壺の上壺である。内面はミガキ、外面はナデ調整が施されている。器高は5.7cm、口径は14cm、底径



第80図 古代遺物出土状況

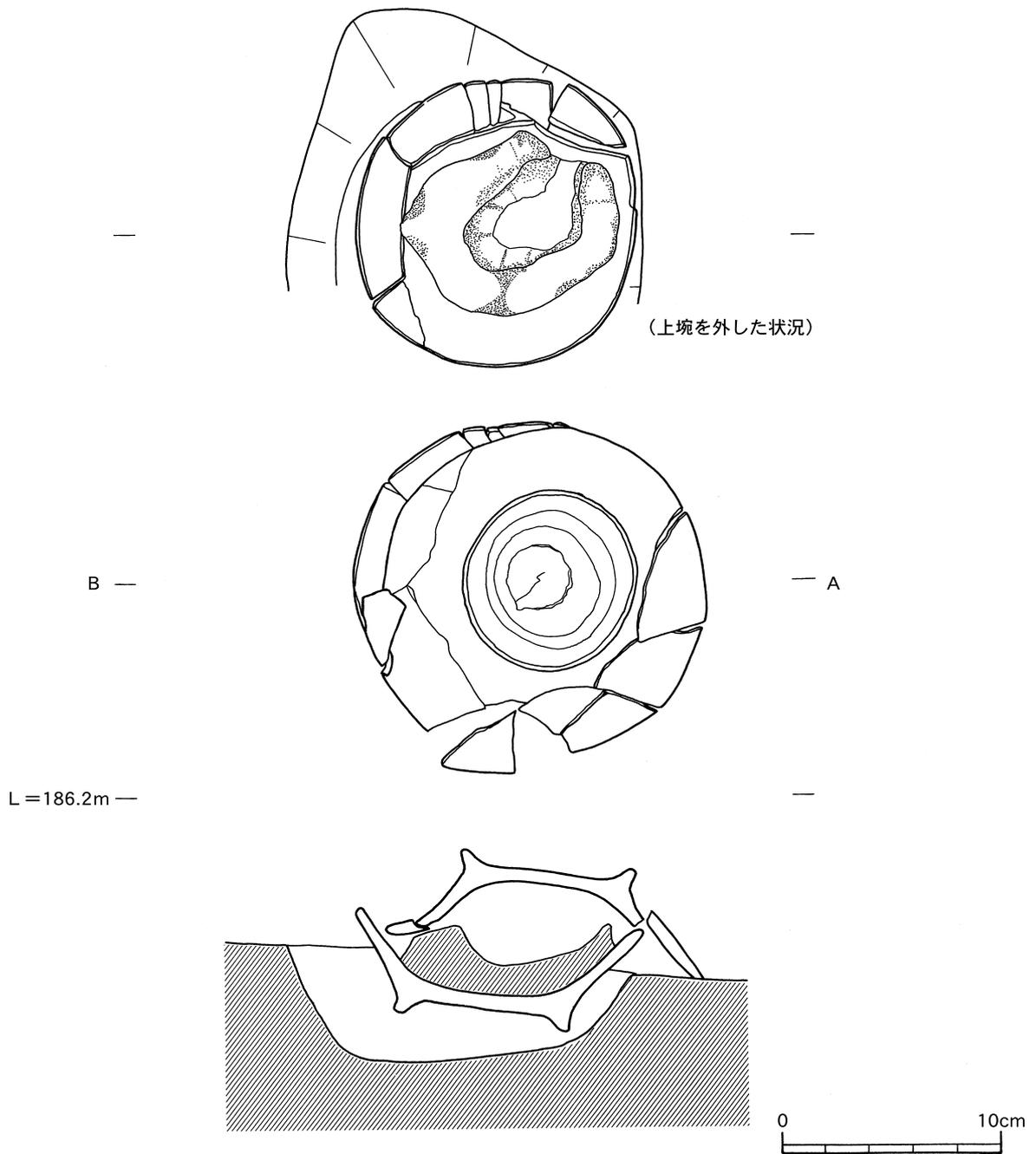
表24 古代実測遺物観察表

図番号	取上No	X座標	Y座標	Z座標	区	- g -	層位 L 1	分類 L 1	分類 L 2	墨書
1	52	32.003	53.088	186.261	D - 3	h - 4	b	須恵器	甕	
2	86	34.721	56.618	186.410	D - 3	f - 7	b	土師器	甕	
3	90	32.732	54.053	186.205	D - 3	h - 5	b	土師器	碗	
4	101	31.782	58.011	186.477	D - 3	i - 9	b	土師器	甕	
5	一括	-	-	-	D - 3	- - -	b	土師器	皿	
6	67	31.926	53.788	186.271	D - 3	i - 4	b	土師器	碗	
7	13188	31.673	51.676	186.205	D - 3	i - 2	b	土師器	碗	
8	43	32.726	53.972	186.258	D - 3	h - 4	b	土師器	碗	「子」
9	埋納土坑	-	-	-	D - 4	- - -	b	赤色土師器	碗	「肥道里」
10	埋納土坑	-	-	-	D - 4	- - -	b	赤色土師器	碗	「子」「☆」

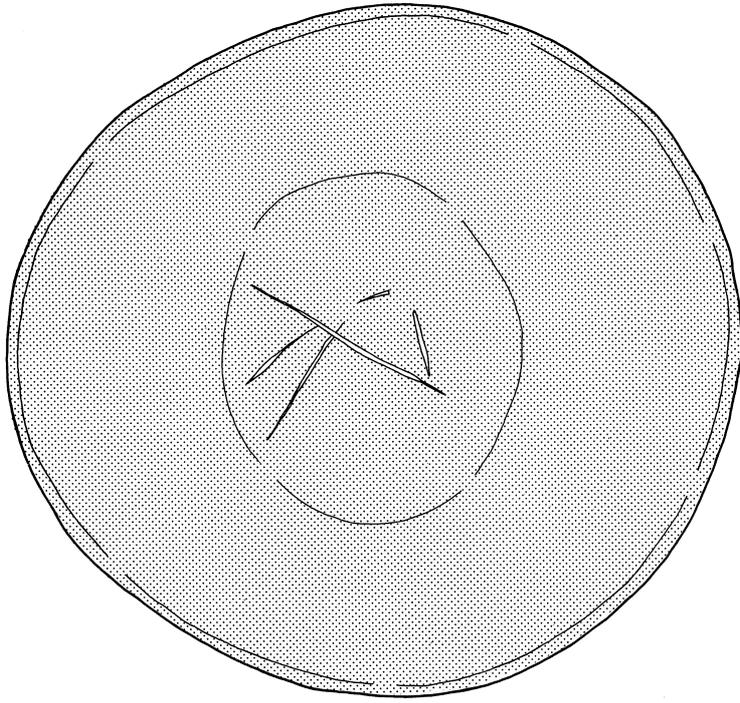


第81図 古代出土遺物

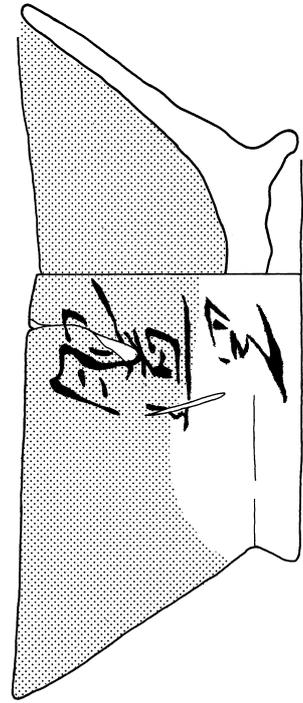
は8.7cmである。横から見た口縁部の水平ラインは曲線を呈し、上面からみた口縁部のラインもきれいな円形を描かず、変形している。体部外面に「肥道里」の墨書が確認できる。里の文字の下部は底部外面にまで及んでいる。外面の一部に塗料の垂れがみられる。赤色顔料は底部外面～体部外面の屈曲部以外の部分全てに確認され、顔料につけ込んで色を付けていることが推測される。底部内面に、焼成後に施された刻書が確認される。10は合わせ口土師壺の下壺である。内面はミガキ、外面はナデ調整が施されている。器高は5.2cm、口径は13.6cm、底径は8cmである。底部外面～体部外面の屈曲部以外の部分全てに赤色顔料が確認され、上壺同様顔料につけ込んで色を付けていることが推測される。外面に「子」「☆」の墨書がみられる。下位にある文字の下部は上壺同様底部外面にまで及んでいる。



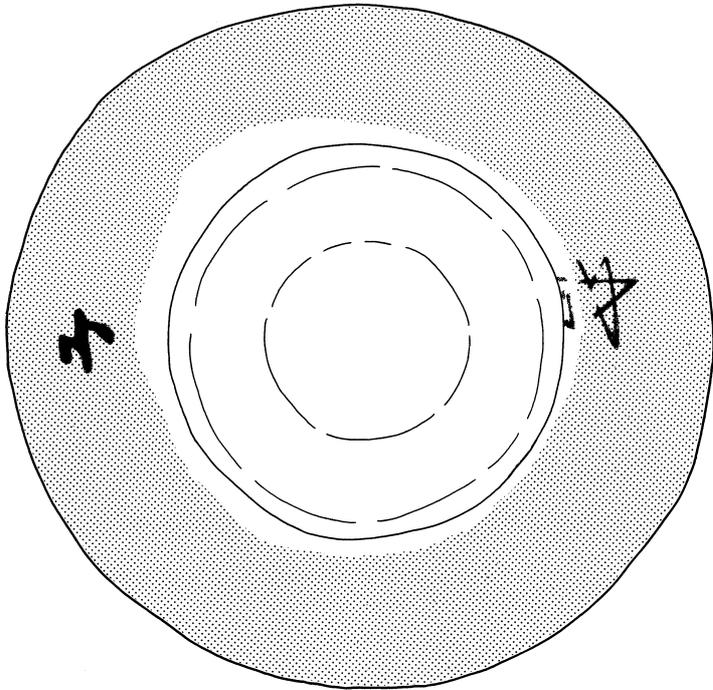
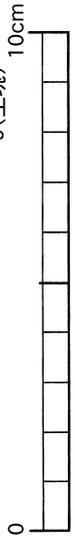
第82図 合わせ口土師壺検出状況



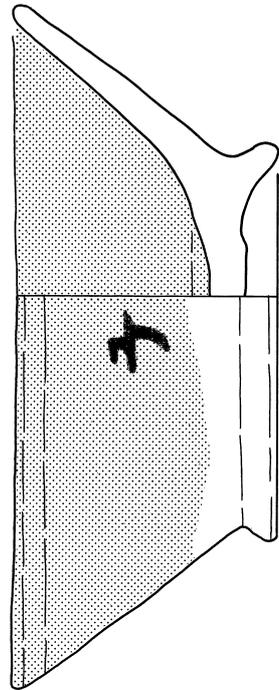
(見込み面)



9(上碗)



(底面)



10(下碗)

第83図 合わせせ口土師碗

## 第7章 分析・同定

### 土師器の内容物について

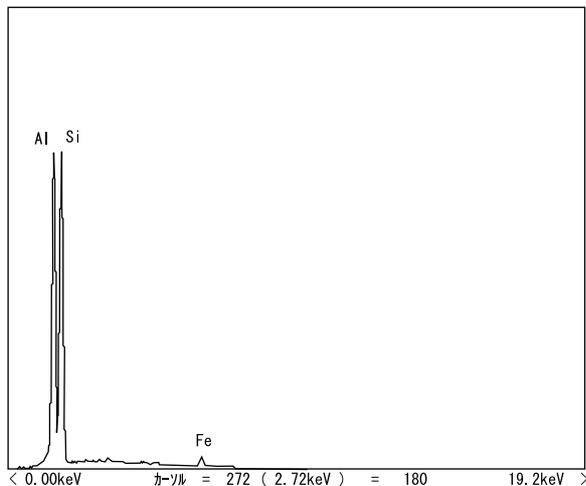
本遺跡より出土した合わせ口土師器壺内部の土壌に含まれた白色物質について実体顕微鏡，走査型電子顕微鏡による形状観察とエネルギー分散型X線分析装置（EDS）によるX線分析を行った。分析は鹿児島県立埋蔵文化財センターの機器（SEM：JSM - 5300LV，EDS：JED - 2001日本電子製）を使用し，測定は永濱功治（鹿児島県立埋蔵文化財センター）が行った。

分析資料は合わせ口土師器壺（9世紀第三四半世紀）の下壺の中（第83図）にみられた白色物質で，5 mm程度の粒が拡散していた。白色物質のみ抽出後，走査型電子顕微鏡で3000倍まで拡大し，形状観察を行ったが，特徴的な粒子の形状は確認できなかった。さらにエネルギー分散型X線分析装置を用い，加速電圧15.00kV，取り出し角度29.05°，作動距離20.00mm，有効時間100秒の条件で分析した。その結果，Al，Si，Feのピークを得た（第84図）。これらの元素は一般に土壌や岩石の成分として検出される元素であり，土以外の物質の存在を特定することは難しい。分析の目的を絞り，他の分析手法を併用しながら物質を特定する必要がある。

なお，土師器の出土状況，墨書等から骨粉の可能性があるのでないかと想定をし，東市来町栴城跡の中世の墓から出土した人骨の分析データと比較を行った（第85図）。中世の人骨はP，Caのピークを得ており，本遺跡のデータと異なり，このデータを見る限り，現時点では当遺跡の土師器の内容物が骨粉であるとは言えない状況である。

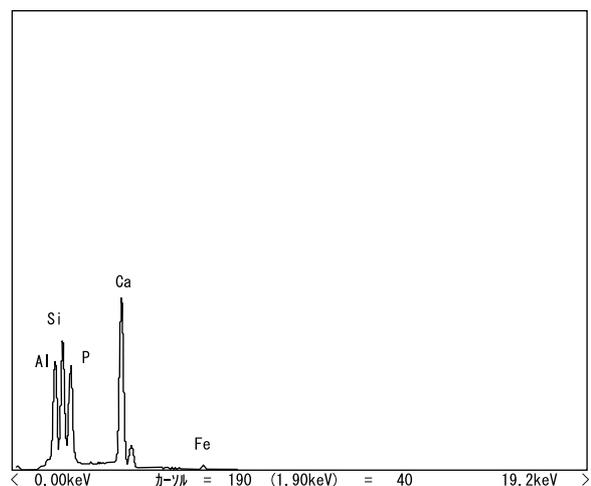
栴城跡は未報告である。比較資料として提示した。

JEOL JED-2001  
試料名：383  
経過時間：128.80秒  
有効時間：100.00秒  
測定日：2003年10月20日  
測定時刻：16時23分11秒  
フルスケール 8k



第84図 合わせ口土師壺内容物データ

JEOL JED-2001  
試料名：384-2  
経過時間：124.58秒  
有効時間：100.00秒  
測定日：2003年10月20日  
測定時刻：16時56分17秒  
フルスケール 8k



第85図 栴城中世人骨データ

## 第8章 考察編

### 第1節 石清水型削器について

当遺跡では縦長剥片の縁辺に二次加工を施す石器（石清水型削器）が特徴的に認められる。また、同じ縦長剥片を素材とした石器として剥片尖頭器、ナイフ形石器等がみられる。そこで、本節では、石清水型削器と剥片尖頭器、ナイフ形石器の素材の形状等に注目して、器種の選択が何に起因するのかについて考察する。

#### (1) 各石器の素材剥片の検討（第86図）

##### 剥片尖頭器

素材剥片の形状を大きく変えないため素材剥片の規格が推定しやすい。1は長・幅・厚が10×4.5×1.5cmの剥片で先細りかどうかは推測できない。しかし、左側の側縁は石器の中心軸へ傾斜している。長幅比は2.2である。2は8.5×3.5×1.7cmの先細り剥片である。長幅比は2.4である。3は7.5×2.6×1.1cmの先細り剥片である。長幅比は2.9である。4は7.5×2.8×1cmの剥片で、先細りかどうかについては推測できない。長幅比は2.7である。6は欠損部が大きいため、分析の対象外とする。いずれの剥片も反り、ねじれが少ない。強いていえば4に若干のねじれが観察される。いずれの剥片も厚みにむらがない（背面に大きな凹凸がない）。

##### ナイフ形石器

対象資料は1点のみであるが、参考までに観察する。素材は8×2.5×1.3cmの先細り剥片である。長幅比は3.2である。反り、ねじれがなく、厚みにむらもない。

##### 石清水型削器

9は13.8×4.0×1.2cmの剥片である。長幅比は3.5である。10は12.2×3.5×2.7cmの剥片である。長幅比は3.4である。11は11.0×3.0×1.8cmの剥片である。長幅比は3.7である。12は12.8×2.9×2.1cmの剥片である。長幅比は4.4である。13は9.4×3.4×1.5cmの剥片である。長幅比は2.8である。ねじれが大きい。14は10.5×5×2cmの厚みのある剥片である。長幅比は2.0である。剥片の反りが大きく、中央に付近が厚くなっている。15は欠損部が大きいため、分析の対象外とする。16は長幅比1.8である。17は7.1×5.5×1.4cmの剥片である。長幅比は1.3である。

18は8.5×3.6×1.7cmの剥片である。長幅比は2.4である。剥片の先端部にかけて厚くなっている。19は9.9×2.9×1.2cmの剥片である。長幅比は3.4である。打面側が剥離時に半分に折れている。

##### 縦長剥片

20は11.5×4.5×1.3cmの剥片である。長幅比は2.6である。右側縁が先端部で大きく傾斜している。23は4.7×2.9×0.9cmの剥片である。長幅比は1.6である。24は8.0×2.6×1.0cmの先細り剥片である。長幅比は3.1である。25は9.0×2.9×1.0cmの剥片である。長幅比は3.1である。打瘤を過ぎてから剥片が急に細くなっている。

#### (2) 検討結果

以上、各石器で素材剥片の特徴をみてきたが、以下の点が指摘できる。

剥片尖頭器の素材剥片の長幅比はおおむね2～3である。

石清水型削器の素材剥片の長幅比は2以下か3以上のものが多く、2～3に収まるものについては長幅比以外に剥片の厚さ、形状等において剥片尖頭器の素材と成り得ない負の要素がみられる。具体的には厚さが不均衡である、側縁のラインが波打っている、剥離時に剥片の一部が欠損している、等である。

縦長剥片については長幅比が2～3以外、長さが十分でない等の特徴がある。

石清水型削器、縦長剥片のうち、強いて剥片尖頭器への加工が可能であったものをあげるとすれば、20、24の石器くらいであるが、この2つについても最適であるとはいえない。

### (3) 小結

最後に、当遺跡において観察される剥片尖頭器に必要な素材の要素を整理すると下記のとおりである。

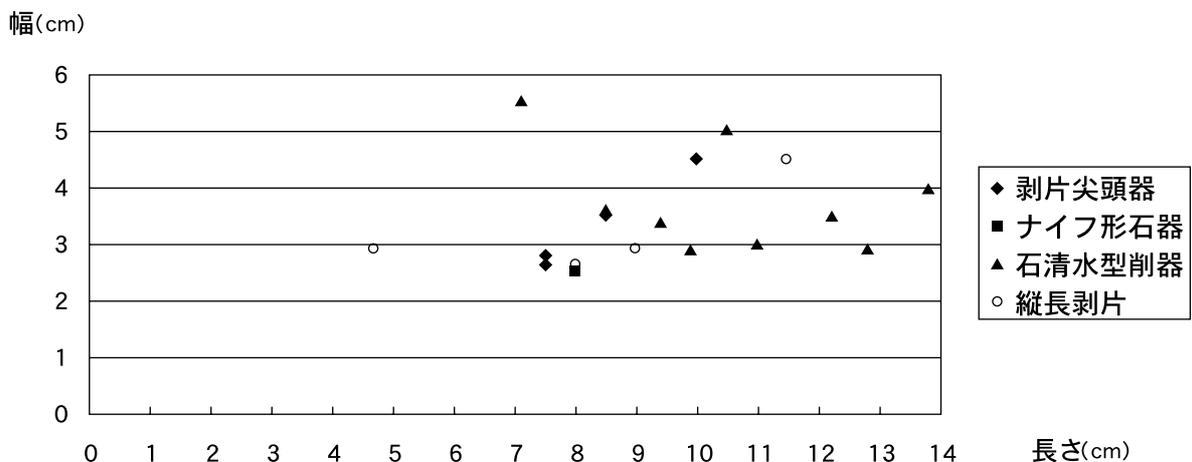
打面がしっかり残っている先細りの剥片（三角形）か、それに準ずる剥片である。（両側縁幅にむらがない）

一定程度の長さ（7cm以上）が確保されて、長幅比は2～3である。

剥片の厚さが均一である。（素材剥片の基部のみが厚かったり先端のみが厚かったりの不均一製がない）

反り、ねじれが少ない。

以上の4つの条件を満たさない剥片が、石清水型削器の素材剥片となっていることが確認された。また、日置郡松元町宮ヶ迫遺跡の考察でも触れたが、ナイフ形石器については剥片尖頭器に使用される素材よりも、細いものを素材としている可能性を本遺跡の1点も示している。具体的には上記の、を満たし、長幅比がおおむね3より大きいものが縦長剥片を素材としたナイフ形石器の素材となっているようである。



第86図 各石器の長幅比

## 第2節 細石刃核について

### (1) 製作技術について

本遺跡では細石刃核を 類から 類に分類した。さらなる細分は可能であったが、細石刃核が多量であることから分類を多く設けることにより本質がぼやけてしまう可能性があると考え、各類にある程度幅を持たせて、比較的大きく分類を行った。 類は福井型細石刃核に比定されるものである。打面の形成過程より - a , - b 類に細分した。 類の中には打面形成が素材獲得の後に行われることが明確に観察できないものを含むため、技術的には 類に分類される可能性のあるものも含まれる。報告者としては 類も福井型細石刃核と関連づけられると考えている。 類は技術的には船野型細石刃核や野岳型細石刃核に近いものである。しかし、打面と作業面の角度、打面調整の有無等から、両型式とは厳密には異なると考えられる。 類はあまり石核整形を施さないものであるが、これは素材が小礫であることに起因する。詳細はこの後に述べたい。 類は作業面と打面が非常に急角度であるため見た目が扁平で、非常に特徴的な細石刃核である。近年福井型細石刃核に伴って出土する事例がみられる（福岡県元岡遺跡、宮崎県阿蘇原上遺跡）。

### (2) 石材と重量との関係について

当遺跡の細石刃核は、石材間で重量に差がみられたので、この点についてまとめる。まず各石材ごとの重量を示すと、黒曜石A製の細石刃核の平均重量は4.4g（対象117点）、黒曜石B製は6.1g（対象33点）、黒曜石C製は3.2g（対象42点）、黒曜石D製は5.5g（対象3点）、黒色安山岩製は5.3g（対象5点）であった。黒曜石D、黒色安山岩は分析個体数が少ないため参考程度の数値であるが、黒曜石B製が最大値を示し、黒曜石C製が最小値を示すという結果が得られた。

ここで、細石刃核に残された自然面の面数（細石刃核を6面に換算した場合）を石材別に観察してみると、黒曜石A製が0.79面/1個体、黒曜石B製が0.48面/1個体、黒曜石C製が2面/1個体である。参考までに黒曜石D製は0.67面、黒色安山岩は0.6面であった。

なお、黒曜石Aの産地と考えられる樋脇町上牛鼻と当遺跡の直線距離は約14km、黒曜石Bの産地と考えられる鹿児島市竜ヶ水と当遺跡の直線距離は約13kmとほぼ同じである。黒曜石Cは霧島系や県外産の黒曜石が含まれると考えられ、比較的遠地のものである。

これらのデータから、当遺跡においては細石刃核の素材選択にあたって黒曜石Aは礫皮面がある程度残されるような比較的小型の素材（たとえば拳大）を、黒曜石Bは比較的大型のものを、黒曜石Cはあまり加工を必要としない小礫（たとえば指先大）を選択している状況が伺えるという事実が確認される。黒曜石AとBの原産地は当遺跡からの距離がほぼ同じであることから、原産地における所在形態の在り方を反映している可能性がある。また、黒曜石Aについては大小様々な礫が原産地で確認できることから、比較的小型な素材を選択している可能性が高い。

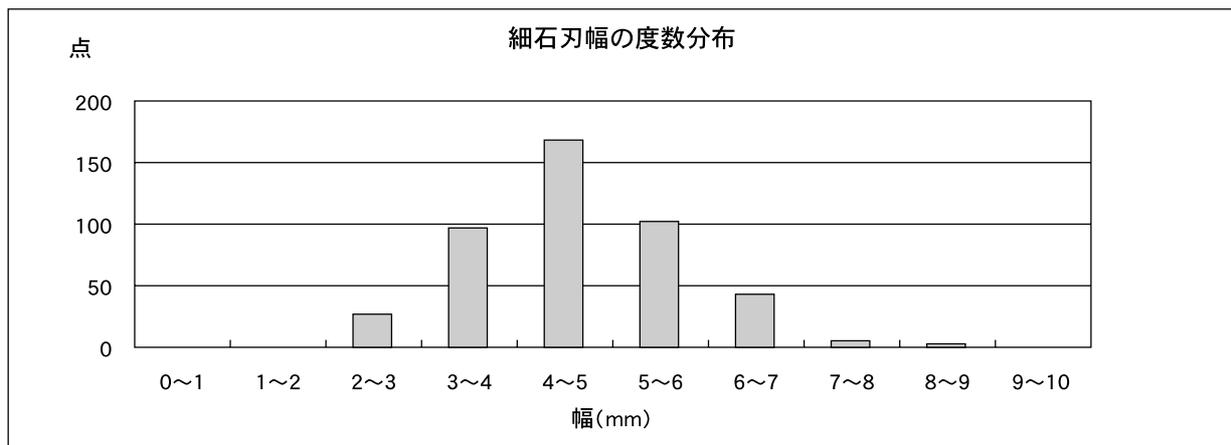
### (3) 石材と製作技術との関係について

石材と素材との関係について述べたが、次に石材と製作技術との関係（素材の大きさと製作技術との関係）が見いだせるかをみていく。

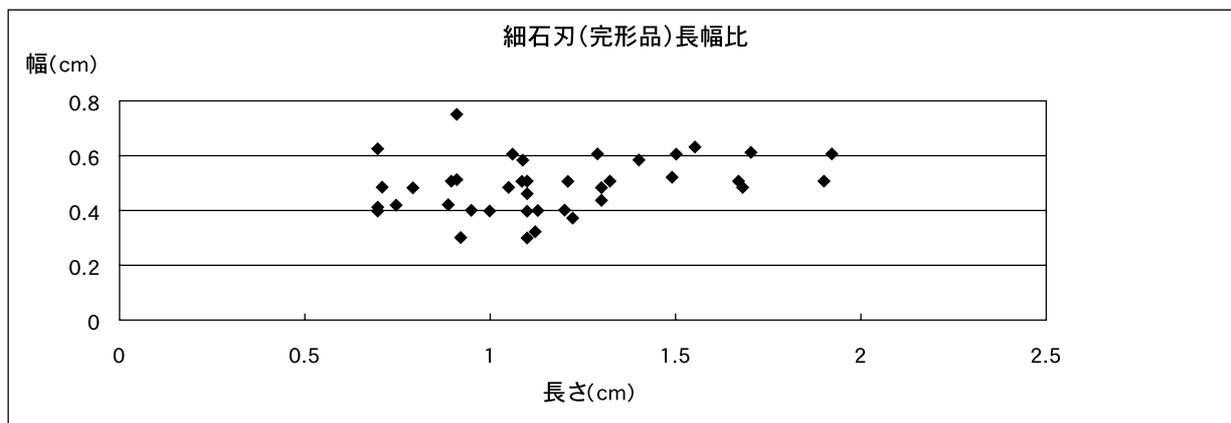
各石材と分類の関係については表25のとおりである。黒曜石Aは 類、 類の割合が高く、 類も一定程度みられる。黒曜石Bは 類、 類も確認されるものの、 類の割合が高いことが特徴である。黒曜石Cは 類と石核整形加工があまり施されない 類が多い。黒曜石D、黒色安山岩は参

表25 細石刃核の石材と分類

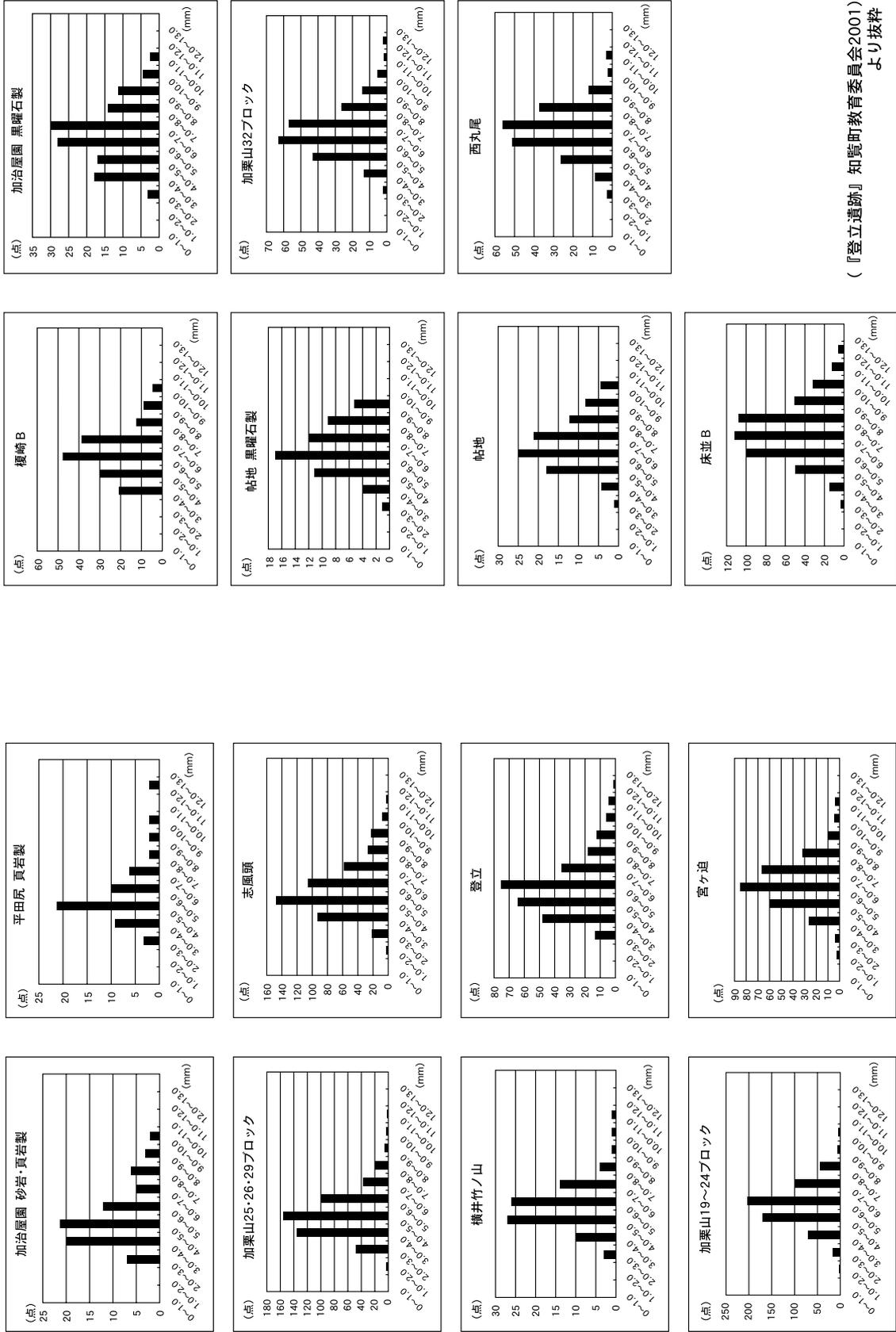
						その他	合計
黒曜石 A	25	30	18	3	6	33	115
黒曜石 B	5	5	11	0	0	12	33
黒曜石 C	11	7	4	12	4	6	44
黒曜石 D	2	2	0	0	0	0	4
黒色安山岩	1	3	0	0	0	2	6
合計	44	47	33	15	10	53	202



第87図 細石刃幅の度数分布



第88図 細石刃(完形品)長幅比

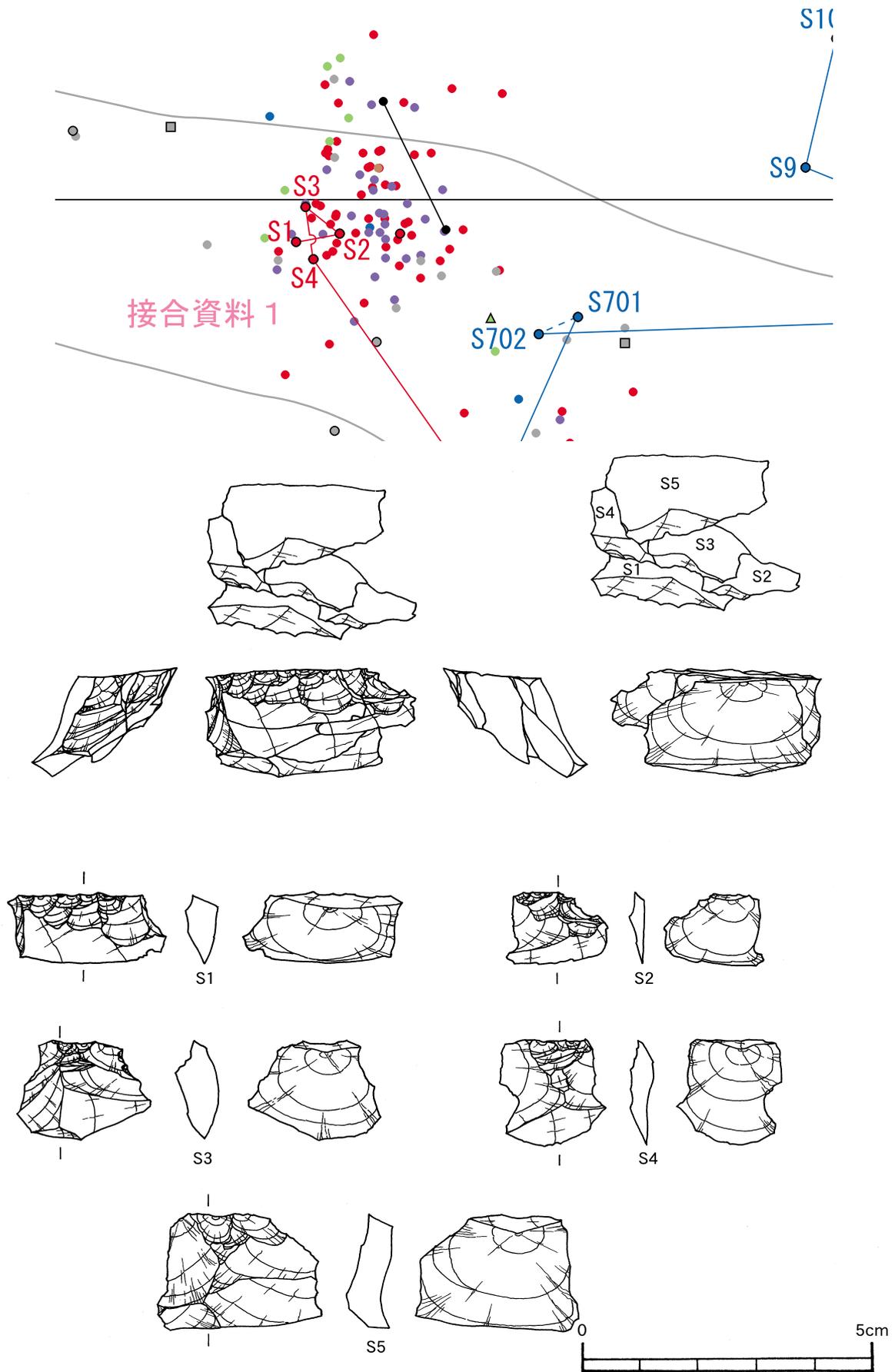


(『登立遺跡』知覧町教育委員会2001) より抜粋

第89図 他遺跡の細石刃幅の度数分布

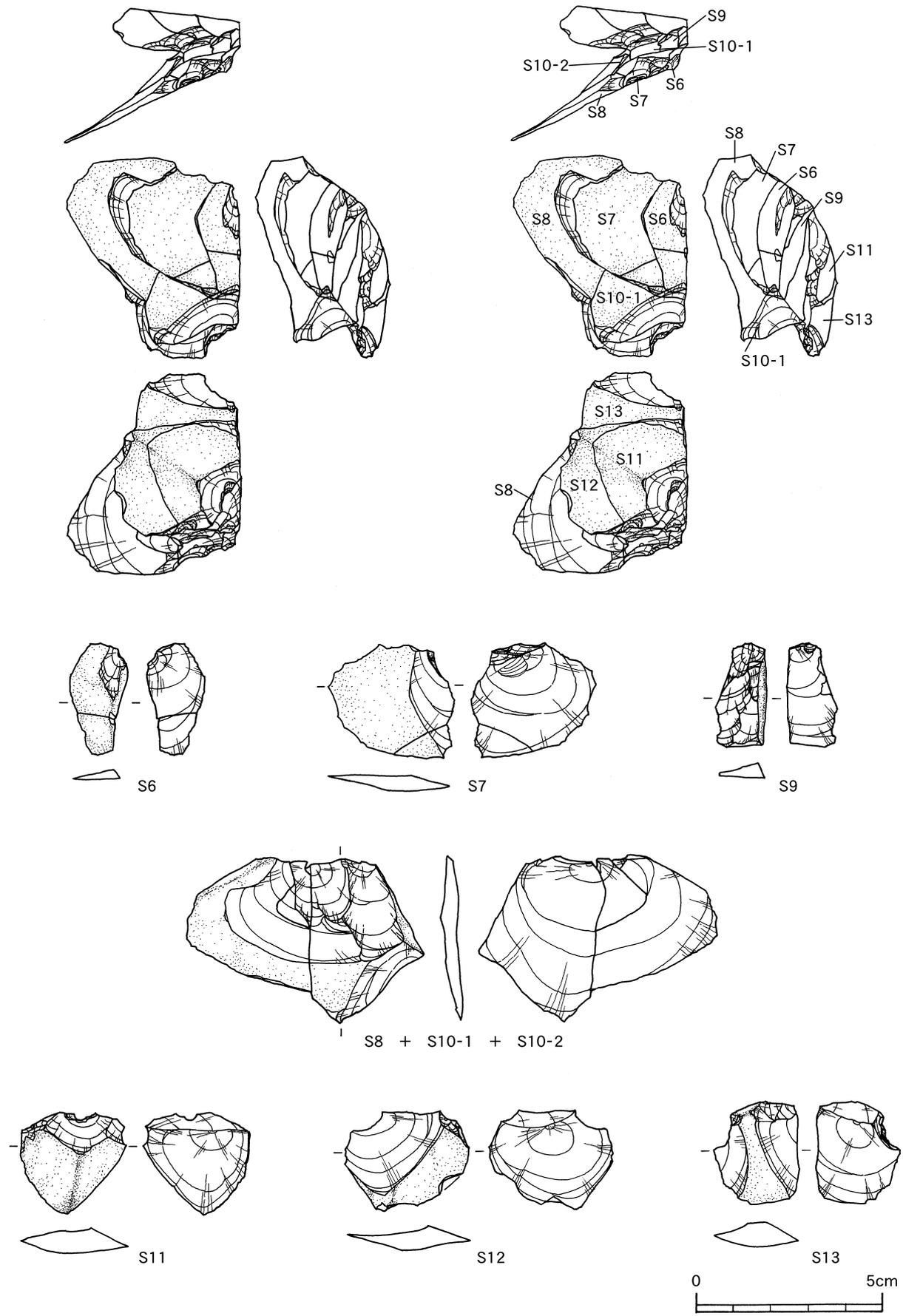




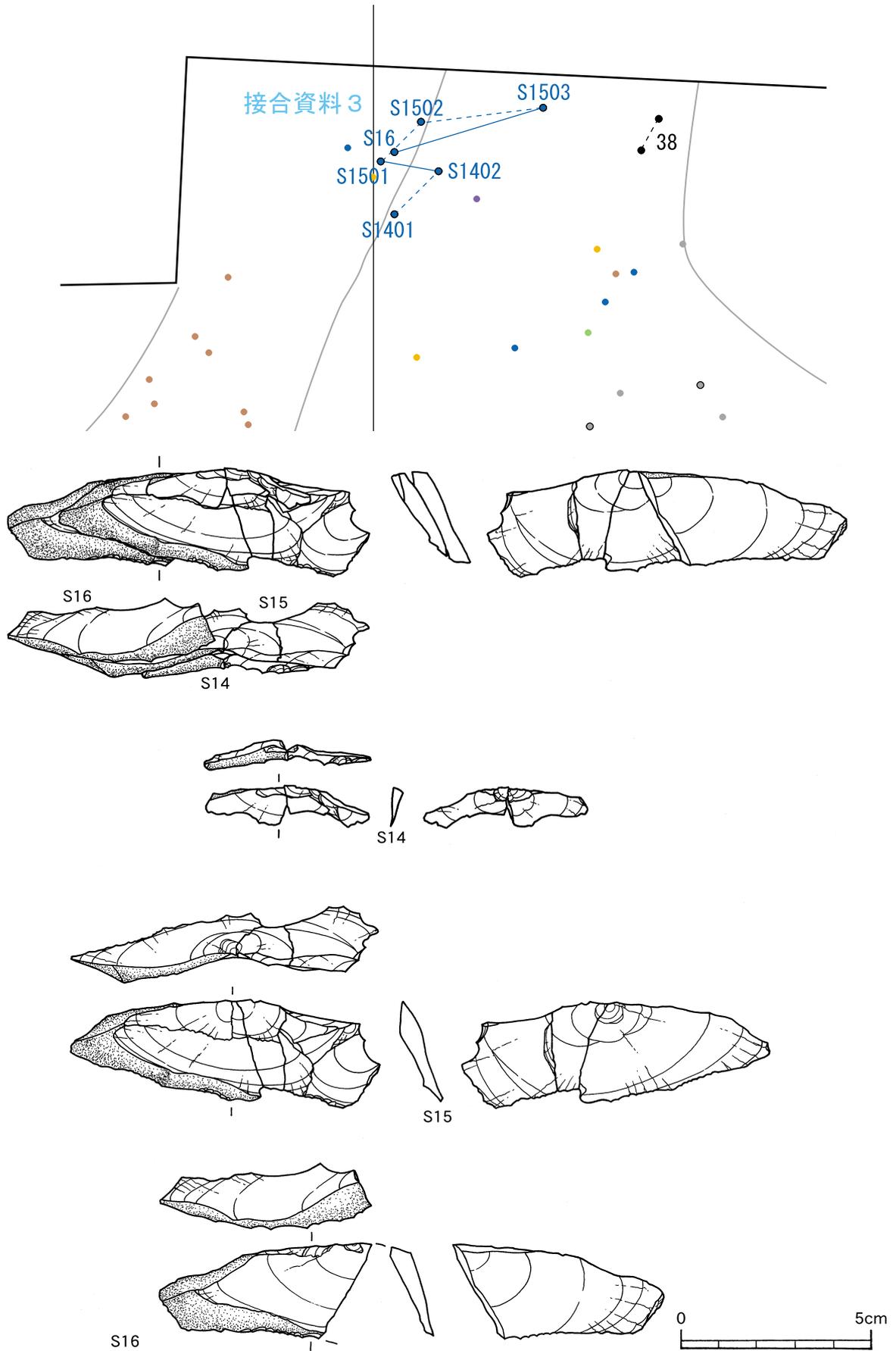


第90図 VIII層接合資料(1)





第91圖 VIII層接合資料(2)



第92図 VIII層接合資料(3)

## 第6節 鹿児島市横井竹ノ山遺跡出土の墨書土器について

永山修一

はじめに

鹿児島市横井竹ノ山遺跡から9世紀第3四半期のものとされる3点の墨書土器が出土している。土師器8には「子」、土師器9には「肥道里」「八万」、土師器10には「☆」「子」という文字が記してある。本稿では、この3点の墨書土器について考察を加え、平安前期の南九州の状況についても触れてみたい。

### 1 墨書土器の釈読

土師器8 包含層から出土した口縁部を含む土師器碗の破片に、体部外面に倒位で「子」の字が墨書されている。

土師器9 高台付土師器の碗の体部外面に正位で3字あるいは4文字墨書されている。上の2文字は「肥道」と判読できる。残りの文字を1字と見るか2字と見るかが問題である。体部と高台にまたがって墨書されており、それぞれを1字とする余地はある。1字と見れば「里」、2字と見れば「田人」と釈読できる。「田人」とする可能性も完全に否定されるものではないが、文字の大きさ、字配りから見れば「里」とするのが穏当であろう。以下「肥道里」として行論する。また、底部内面には「八万」の文字が刻書されている。

土師器10 高台付土師器の碗の体部外面に正位で「子」と墨書されている。また、その直径をはさむ反対側の体部外面に正位で2文字が墨書されている。この2文字については肉眼ではほとんど判読できない。ハンディ型の赤外線ビデオカメラや鹿児島県埋蔵文化財センターの赤外線ビデオカメラを用い、また水に漬けた状態で、上の文字は、とを確認することができる。は判読できないが、全体とすれば「☆」として良からう。一般に五芒星は一筆書き状になるが、千葉県柏市花前遺跡群の例（右写真）を見ると、稜の部分で線が交差しているものもあり、土師器9の記号を五芒星と見ることが可能である。その下の文字は判読できない。



財団法人千葉県文化財センター提供

次に、墨書された文字の意味について見ていくことにする。

### 2 墨書内容の検討

#### i 「肥道里」について

「肥道里」については、地名あるいは人名の可能性はある。横井竹ノ山遺跡は薩摩国麿島郡と日置郡にまたがる位置にあるが<sup>1)</sup>、麿島郡と日置郡には条里が全く確認されておらず、条里地名である可能性は低い。また一般地名とした場合、現時点では全く知られていない。

人名とした場合、肥君の一族とすることが可能である。肥君は、火国を代表する豪族であり、その本拠地は後の肥後国八代郡肥伊郷とされている。火君は、筑紫国造磐井の配下にあったが、磐井

の乱後も生き残り、筑紫火君としてむしろ朝廷の朝鮮半島経営に積極的に参加協力することで、勢力を拡大していった。この後、筑紫火君は、肥前・筑前に進出し、8世紀代には「大宝二年筑前国嶋郡川辺里戸籍」には嶋郡の大領をつとめる肥君猪手の一家124人が見える<sup>2)</sup>。

さて、肥君の一族は、薩摩国内にもその足跡を残している。『天平八年薩摩国正税帳』には、出水郡の大領肥君（名欠）、薩摩郡主政の肥君廣龍が見える。

まず、出水郡の肥君について。出水郡の郡司は、大領が外正六位下勲七等の肥君（名欠）、少領が外従八位下勲七等の五百木部（名欠）、主政が外少初位上勲十等の大伴部足床、主帳が無位の大伴部福足であり、全員が肥後に出自をもつ氏族で占められている。

高城郡には肥後からの移民が郡を単位として計画的に行われたと考えられるが<sup>3)</sup>、出水郡の郷名に肥後国の郡名と一致するものを確認することはできないから、出水郡は7世紀代において肥後の勢力下あり、大宝二年（702）の薩摩国の設置に際し、薩摩国に編入されたと考えられる。したがって、出水郡の肥君は、7世紀以前にこの地域に勢力を持っていたと考えられる。

次に、薩摩郡主政の外少初位上勲十二等の肥君廣龍について。これに関しては、同じく肥後に出自をもつと考えられる阿多郡主帳の無位建部神嶋をあわせて考える必要がある。薩摩郡の主帳肥君廣龍は勲十二等を帯びているが、これは神龜元（724）年二月の聖武天皇即位に伴う一斉叙勲に際して、与えられたものであるから<sup>4)</sup>、この直前には主帳ではあったが勲位を持っていなかったことになる。そして、その後の10年余に及び主帳としての勤務によって外少初位上に叙されていると考えられる。高城郡への計画的移民が行われた時期を8世紀初頭とすれば、それから20年ほどの間に、さらに「隼人郡」内に入り込んだ地域で、在地に相当な勢力を確立できたとは考えがたい。また、もし相当な勢力を持っていたとすれば養老四年の「隼人の戦い」にもそれなりの形で関与し、勲位を得ることができたと想像されるが、実際には勲位を得ていない。したがって、肥君廣龍が在地で相当の勢力を持っていたとは考えられない。また、阿多郡主帳建部神嶋は、天平八年の段階で勲位を持っていないから、神龜元年の時点では、主帳ではない。とすればこの両者は、ある一定の意図のもとに郡司に任用されたものではないかと思われる。

さて、養老職員令によれば大領の職掌は「撫養所部、檢察郡事」で少領はこれに準じるのに対し、主政は「糺判郡内、審署文案、勾稽失、察非違」ことを職掌とし、主帳は「受事上抄、勘署文案、検出稽失、読申公文」を職掌とした。また、養老選叙令郡司条によれば、「性識清廉で、時務に堪」えるものを大領・少領とし、「強幹聡敏で、書計に巧み」なものを主政・主帳とすることになっている。すなわち大領・少領が郡の行政全体に責任を負うのに対し、主政・主帳は行政のなかの文書部門を中心に処理していくことになっていた。また、大領・少領が終身官であったのに対して、主政・主帳は終身官ではなかった。「正税帳」の国司巡行の所要日数などから、「隼人郡」の多くで律令制の諸原則の適用が留保されていた状況をうかがうことができるが<sup>5)</sup>、そのような地域も律令的文書行政と無縁ではなかったことは、薩摩郡・阿多郡・河辺郡のいわゆる「隼人郡」に関する正税帳が存在することから明らかである。「昏荒」とされる隼人の中であって文書行政に通じた「公民」こそ必要とされたのであり、こうした任務を担ったのが、主帳の肥君廣龍や主帳建部神嶋ではなかったかと考える。とすれば、文書行政に通じた「公民」は隼人郡の多くに必要とされたのであり、土師器9に見える「肥道里」が、こうした麿島郡あるいは日置郡に置かれた「肥」一族の末裔である可能性は十分に存する。

後述するように、土師器9と組み合わせられる形で見つかった土師器10には、「子」や五芒星が記されていることから、「肥道里」は地名とするより、人名と理解する方が良いと思われる。ただし人名としては、稀な例としなければならない<sup>6)</sup>。

## ii 「八万」について

「八万」を墨書した土師器は、旧薩摩国内では鹿児島市武E遺跡から2点出土している。また旧薩摩国内から、「万」(金峰町筆付遺跡・伊集院町下永迫A遺跡・市来町市ノ原遺跡第1地点)、「日万」(金峰町筆付遺跡)、「十万」(市来町ムシナ遺跡)、「万万」(市来町市ノ原遺跡第1地点)などの、「万」を記した土器が出土している。平川南氏によれば、古代東国の集落遺跡から出土する墨書土器の主流となる文字は、富・吉・得・福・生・財・万・人・大・田・西・立・力・天・来・集・合・足の19種であり、それらは、生産・集積(生・富・得・来・集・合・立・足)、良好な状態(吉・福・万・大・財・(力))、天・地・人(天・田・人)を意味する語として分類できるとする<sup>7)</sup>。「八万」は、良好な状態を意味する語として、全国的に用いられたものとしてすることができる。

ただし、土師器9の底部内面に刻書されている「八万」は、本来の「八万」の字形を理解していた者が書いたとするには躊躇を覚えるほど稚拙なものであり、「肥道里」の筆者と同一人物が書いたとするのは難しいと考える。

## iii 「子」について

「子」は、土師器8には体部外面に倒位で、土師器10には体部外面に正位で墨書されている。一般に同一遺跡からは同一の文字が多く出土する傾向があり、その点からすると、横井竹ノ山遺跡では墨書土器3点中2点に「子」が記されていることは、注目できる。「子」については、十二支のひとつと考えるのが妥当であろうが、年を意味するものかあるいは方位(北)を意味するものか判然としない。土師器10は、五芒星も記されているので、「子」に何らかの祭祀的意味を見ることが可能であろう。また、土師器8も、「子」が倒位で墨書されていることから<sup>8)</sup>、あるいは祭祀的意味をもった使用に供された可能性を考えることができる。年を意味するものであれば生年を、方位であれば方忌みに関わるとも考えられる。

## iv 「☆」について

「☆」は五芒星とよばれ、呪符に用いられる符号である。陰陽道や修験道では「五行」とされ、「陰陽五行説」の「木・火・土・金・水」を表すという。南九州では、宮崎県国富町の西下本庄遺跡で確認されているが、これは中世のものである<sup>9)</sup>。

古代の墨書土器で「☆」が記されたものとしては次のような例が知られている<sup>10)</sup>。

- a 群馬県群馬町上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、刻書土師器坏・8世紀前半代
- b 群馬県新田町市野井、須恵器坏、8世紀中葉
- c 千葉県柏市花前・遺跡、土師器坏9点・須恵器坏9点、9世紀中葉
- d 京都府向日市長岡京左京南一条二坊十一町宅地築地堀雨落溝、土師器皿、8世紀末
- e 秋田県千畑町厨川谷地遺跡、土師器坏、10世紀前半

これによれば、「☆」は、aのように8世紀前半段階で古代上野国内の先進地帯で用いられ、9世紀中葉にはcのように上総国の集落でも用いられていた。また、五芒星を用いた祭祀は、eのように10世紀前半、出羽国の払田柵でも行われていた。

山下克明氏のご教示によれば、8世紀以降の土器に書かれるものは、道教の北辰信仰を象徴する紋様、さらに邪鬼払いの呪号とされ、中世の木簡には「☆天刑星」、「☆蘇民将来符」とあることから、天刑星ついで蘇民将来を象徴し、疫病除け、鎮祭に用いられたと考えられるという。

### 3 土師器9・土師器10について

土師器9・土師器10は、口縁部を合わせる形（土師器9が蓋、土師器10が身）で埋納されていた。どのような目的で埋納されたものか、いくつかの可能性を探ってみたい。

口縁部を合わせた形で墨書した坏・壙を埋納した例としては、都城や寺院・埋葬遺構を除けば、東京都町田市綾部原遺跡をあげることができる<sup>11)</sup>。これは、10世紀前半代の須恵器坏を埋納したもので、身として用いられた坏の体部外面に（正位と横位の間）「山本」と墨書されている。報告書では、胞衣容器の可能性と丘陵に対する地鎮行為の一環の可能性を示しているが、土器内部から胞衣容器を裏付ける物質は検出されなかったという。

土師器10は、明らかに埋土とは異なる白っぽい内容物があつたため、蔵骨器としての可能性が考えられたが、内容物を測定してもリンやカルシウムが検出されないことから、これは否定される。また、胞衣容器の可能性については、脂肪酸分析を行っていないので、否定も肯定もできない。しかし土師器10は、高台付土師器壙としてはややの部類にはいるものの、口径約14cm、深さ約4cmしかなく、胞衣を納めるには小さすぎると考えられ、胞衣容器的な利用については否定的とならざるを得ない<sup>12)</sup>。

さて、文献資料から見て、口縁部を合わせた形で墨書した坏・壙を埋納するという事例は、『宇治拾遺物語』に見える<sup>13)</sup>。その大意を示すと次のようになる。

『宇治拾遺物語』「御堂関白御犬清明等奇特の事」卷十四ノ十

御堂関白（藤原道長）が、法成寺を建立し、毎日御堂に参る際、いつも白い犬を連れていた。ある日、いつものように道長が門を入ろうとすると、この犬が門を塞ぐようにして邪魔をする。車を降りて門をくぐろうとすると、袖を噛んで引き止めようとする。そこで道長は、何かあるのではと思い、阿倍清明を喚んだ。清明は、「君（道長）を呪詛するものを、道に埋めてあるのです。犬には通力があるので、告げたのです」と言い、そして、「ここにある」という所を掘ってみると、5尺ほどの深さから、「土器を二うちあはせて、黄なる神捻にて十文字にからげ」た状態で見つかった。「ひらいて見れば、中には物もなし。朱砂にて、一文字を土器のそこに書きたる斗」であった。清明は、懐から取り出した紙を白鷺に変えて、首謀者を探らせたところ、藤原顕光の指示で、道摩法師が行ったことがわかり、この老法師を本国播磨へ追放した。

この説話では、口を合わせた土器が呪詛に用いられている。横井竹ノ山遺跡出土の土師器9・土師器10については、埋納された土師器9には、「八万」という良好な状態を意味する語が刻書されていることから、これらが呪詛に用いられたとするには否定的にならざるを得ない。五芒星が記されていることや、埋納された状態から見て、少なくとも陰陽道と何らかの接点をもつ祭祀に用いられたものとすることはできるであろう<sup>14)</sup>。

#### 4 陰陽道の祭祀について

陰陽道の祭祀について、筆者は全く知識を持ち合わせていないが、山下克明氏によれば、陰陽寮官人は8世紀末から山陵の鎮祭・怪異の解謝、さらには個人の除病・延命等のため祓を行う呪術宗教家としての性格を明らかにしていき、9世紀には自らをさまざまな個別祭祀を執行する司祭者へと成長させ、その宗教性を高めていったといい、10世紀後半までには陰陽寮四等官のみならず暦博士・天文博士までも呪者・司祭者としての行動をとるようになり、その帯びる官職にかかわらず陰陽師と通称されるようになったという。また、陰陽師の基本的職務は、日時・方忌の勘申、怪異占・病事占などの占術、呪術・祭祀であったという<sup>15)</sup>。小坂眞二氏によれば、陰陽道祭は、9世紀中ごろに本格的な祭祀形成が始まり、10世紀後半に大きな転換期を迎え、それまで40件程度であった陰陽道祭は、鎌倉時代には60～70件ほどあったという<sup>16)</sup>。

さて、こうした祭祀の中に、道・堺の祭が含まれていることが知られている。四角四堺祭が最も有名であるが、この成立は10世紀のことで、それ以前は神祇官祭祀として道と堺の疫神祭が行われていたという<sup>17)</sup>。しかしこのような道や堺の祭祀が、かなり遡る点については、風土記に見えるいくつかの説話によって知ることができる。『筑後国風土記』逸文によれば、筑前と筑後が一つの国であった頃、その堺に荒ぶる神がいて、往来する人は半ば生き、半ば死んだ。その神は命尽くしの神と呼ばれていたが、筑紫君・肥君らが占って、筑紫君の祖先甕依姫を祝として祭ったところ、被害はなくなったという。また『播磨国風土記』では、託賀郡法太里の「甕坂」について、一説をあげ、丹波と播磨の国の境を決めたとき、大甕をこの坂の上に埋めて、国の境にしたという。この2つの説話に共通するのは、堺と甕である。

本稿で考察を加えている墨書土師器が出土した横井竹ノ山遺跡は、近世の参勤交代路に面しており、鹿児島市と伊集院町・松元町の境界上に位置する（横井は鹿児島市、竹ノ山は伊集院町の地名である）。鹿児島市は古代の麿島郡、伊集院町・松元町は古代の日置郡であり、この遺跡は、古代に於いても麿島・日置両郡の堺に位置した可能性が高い。また、薩摩国府から日置郡家を経て麿島郡家に至る伝使往来路については未詳であるが、近世の参勤交代路が古代以来の道路を踏襲していた可能性は充分にある。したがって、この遺跡で、道や堺の祭祀が行われた可能性も考慮に入れる必要がある。

#### 5 古代南九州の祭祀関係遺物

南九州で行われた古代の土器を用いた祭祀・儀礼に係る遺構の可能性のあるものとして、市来町安茶ケ原遺跡、始良町建昌城跡をあげることができる<sup>18)</sup>。

安茶ケ原遺跡は、八房川の河口部を見下ろせる標高25メートルの安茶ケ原台地で調査され、国府と日置郡家を結ぶ官道に近接して立地していたと考えられる。不整形をした土抗の中から廃棄されたかたちで完形に近い1個の坏と2個の塀が出土し、坏の底部外面に「日置厨」の墨書があった。この土抗にはこれ以外にいくつかの破片があったことから、4個体以上が破棄されたと考えられる。これらはすべて須恵器で、8世紀後半ころのものと考えられるが、完形に近い3個は一括して埋められたと考えられ、何らかの祭祀に関わる可能性がある。

建昌城跡では、南北1.25m以上、東西1.35m以上の不整形な土坑の中央部に、甕を内蔵した壺を正位で置いた土器埋納遺構が検出されている。これは平安時代のものであり<sup>19)</sup>、何らかの祭祀に関

わる可能性がある。

祭祀に関係する遺物についてもいくつか知られている。まず、人形土製品については、荒神免遺跡（末吉町）・牧野遺跡（志布志町）・内布遺跡（加世田市）・塞ノ神遺跡・岡野遺跡・津栗野遺跡・大迫遺跡（菱刈町）、馬形土製品については小瀬戸遺跡・宮田ヶ岡瓦窯跡（始良町）、塞ノ神遺跡・岡野遺跡・津栗野遺跡などで出土している。全国的に見て馬形土製品は水辺の祭祀に関わると考えられており、こうした祭祀が行われた可能性がある<sup>20)</sup>。「☆」とならんで陰陽道に関する呪符とされる「井」がある。これは、九字と呼ばれ、縦に4本、横5本で、「臨・兵・闘・者・皆・陣・列・在・前」を意味するというが、魔物も迷う迷路で、除災招福の呪符であり、必ずしも縦4本、横5本ではなく、これより多いこともあれば、「井」のように簡略化して記されることもある<sup>21)</sup>。

鹿児島県市来町島内ムシナの市ノ原遺跡第1地点から2点、東市来町伊作田の犬ヶ原遺跡から1点の九字の刻書土器が出土している。市ノ原遺跡第1地点は9世紀第4四半期～10世紀前半、犬ヶ原遺跡は10世紀前半期の遺物が多い。また、金峰町尾下の山野原遺跡からは、9世紀代とされる墨書土師器の「井多」が1点、「井」が4点、ヘラ書の「井多」が2点、「井」が3点出土しているが、この遺跡からは「三ト」とヘラ書きされた須恵器小壺も出土していることから、「井」が漢字の井ではなく九字の簡略体である可能性はかなり高いとすることができる。さらに溝辺町麓の山神遺跡でも9世紀後半から9世紀末の「井」と刻書された土師器が出土しており、これも九字である可能性が否定できない。

また、山川町成川の神方遺跡では、須恵器の壺に「占」の文字の書かれているものが採集されている<sup>22)</sup>。これについては、出土状況や現物の所在が分からず、図面・写真等もないため、詳細は不詳とせざるを得ないが、「占」の字から祭祀に伴うものとするはできよう。さらに、指宿市敷領遺跡からは、将棋の駒のような形をした幅14.6cmの、鉄製品が出土していたが<sup>23)</sup>、最近、これは簡略化された形の亀トに用いられたものであり、年代は8世紀後半～9世紀前半期とすることができるという見解が示された<sup>24)</sup>。

以上のように、薩摩国では、9世紀代には、かつての隼人郡・隼人郡を問わず、土器を用いた祭祀や亀ト・ト占などが行われていたようであり<sup>25)</sup>、土師器9・土師器10もこのような状況の中で用いられたと考えられる。

おわりに

以上、横井竹ノ山遺跡で出土した3点の墨書土器について、簡単にまとめてみたい。

- i 土師器9・土師器10は、口を合わせ、五芒星を書き、また埋納された状態で検出されており、明らかに何らかの陰陽道に接点のある祭祀に関わるものとするができる。
- ii この祭祀の主体あるいは対象として「肥道里」なる人物が深く関わっており、これは8世紀に薩摩に来た肥君一族の末裔の可能性もある。
- iii 祭祀の種類について、「八万」という良好な状態を意味する語が刻書された土師器が用いられていることから、呪詛の可能性は低いと考えられる。
- iv 「子」については、年あるいは方位ととらえることが可能である。
- v 祭祀について、除災招福あるいは道・塚に関わるものの可能性を考えることができる。

愚考をめぐらしたものの、いずれも可能性の範囲を出るものではない。土師器10の内容物が明らかになれば、また新たな展開があろう。また、この遺跡の古代の調査面積はかろうじて残っていた100数十㎡であり、この土器埋納遺構以外に遺構は確認されていないものの、包含層からは100数十点の土師器・須恵器の破片が出土していることから、この付近に何らかの古代の遺構が存したと考えられる。残念ながらこれについてはすでに明らかにし得ないが、類例の調査によって、推測できるようになればと思う。

いずれにしても、土師器9・土師器10は、陰陽道に何らかの関わりを持つ祭祀に用いられ埋納されたもので、陰陽道の祭祀の地方への伝播を考える上で貴重な事例である点は間違いなく、また平安時代の南九州の歴史的展開の評価に大きな意味を持つと考えるが、紙幅もつきたので、別稿を期して擱筆することにしたい。

付記 本稿を成すにあたっては、網田龍生・池畑耕一・石上英一・大平聡・川野和昭・桑波田武志・坂上康俊・重久淳一・柴田博子・下鶴弘・高島英之・鶴嶋俊彦・厩尾達哉・中村明蔵・野口実・深野信之・細井浩志・宮下貴浩・森哲也・山下克明・山田邦和の諸氏に御教示を得た。中でも、高島英之氏には資料の提供をはじめ多くの御教示を得た。記して感謝の意を表する次第である。

1) 薩摩国の国名表記に関して、8世紀前半は「薩麻」が正式なものであったが(鎌田元一「律令制国名表記の成立」門脇禎二編『日本古代国家の展開 上巻』思文閣出版 1995年)、本稿では、切り替えの時期が明白でないこと、および煩雑を避けるため、引用史料を除き薩摩国を用いることにする。

2) 板楠和子「古墳時代 倭王の時代」(『新宇土市史 通史編 第一巻 自然原始古代』2003年)

3) 『鹿児島県史 第一巻』(鹿児島県 1939年) 163頁

4) 『続日本紀』神龜元年二月甲午条

5) 永山修一「8世紀に於ける隼人支配の特質について - 薩摩国を中心に - 」(『古代文化』(古代学協会) 44巻7号 1992年)

6) 試しに六国史や『平安遺文』を調べても「道里」という人名は見あたらない。したがって、「道里」という人名は、用いられたとしてもきわめて稀であったとせざるを得ない。そこで、先述したように字の大きさや字配りから言って不自然ではあるが、「肥道田人」の釈読を採用してみる。そうするとウジ名と人名は、「肥」「道田人」あるいは「肥道」「田人」となる。「田人」については、『平安遺文』で人名として確認でき、また始良町の小倉畑遺跡からは「田人」の墨書土器が出土しているので問題ないが、「肥道」というウジ名、あるいは「道田人」という人名も管見に触れない。したがって人名としても、稀な例としなければならない。

7) 平川南「墨書土器とその字形」(『墨書土器の研究』吉川弘文館 2000年) 265～266頁

8) 平川南「「厨」墨書土器論」(『墨書土器の研究』吉川弘文館 2000年) 136頁

9) 柴田博子・中野和浩・東憲章「特論二 宮崎県墨書土器集成」(『宮崎県史 通史編 原始・古代2』1997)によれば、国富町西下本庄遺跡では、1個の14世紀代の土師器坏に、五芒星が16個以上、則天文字の「日」が2個以上墨書されていた。

10) cについては、平川南氏の注5論文300頁。a～dについては、高島英之「古代東国の在地社

会と文字」(『古代出土文字資料の研究』東京堂出版 2000年) 210～211頁。eについては、『秋田魁新報』2002年5月10日の記事(但し、筆者は同社ホームページ上の「さきがけonTheWeb」で閲覧)。

11) 都内遺跡調査会綾部原遺跡調査団『綾部原遺跡』(1998, 10), 林克彦・湯瀬禎彦「東京都町田市綾部原遺跡検出の祭祀遺構について」(祭祀考古学会『情報祭祀考古』第15号, 1999年10月)

12) 奈良国立文化財研究所学報52『西隆寺発掘調査報告書』(1992年)は、土器埋納遺構に関する従来の胞衣壺としての理解に対し、疑義を呈している。

13) 高島英之注9論文208～209頁。また、『古事談』巻六「犬、道長に危難を告げること」にも同様の説話が載せられていることについて、野口実氏・山下克明氏よりご教示を得た。

14) 山下克明氏のご教示による。

15) 山下克明「陰陽師再考」(『平安時代の宗教文化と陰陽道』岩田書院 1996年) 37～40頁

16) 小坂眞二「祭・祓と陰陽道の祭祀部門」(村山修一他編『陰陽道 4 特論』名著出版1993年) 401～402頁

17) 岡田荘司「陰陽道祭祀の成立と展開」(村山修一他編『陰陽道 1 古代』名著出版1991年) 167～171頁

18) 薩摩国分寺の西北隅には土師甕が埋納されており、これは地鎮のためと考えられる。また金峰町白樫野遺跡、鹿児島市弓場城跡などでは蔵骨器にともなう形で墨書土器が埋納されている事例が知られる。本稿では、地鎮や葬送に関わるものは除いた。

19) 『建昌城跡』(始良町教育委員会 2002年)

20) 新東晃一氏は「南九州における人形・馬形土製品の祭祀形態」(『古代文化』30巻2号, 1978年)の中で、菱刈で出土した人形・馬形土製品に関し、火葬墓との関連とともに荒神祭祀が行われたと推定している。『大口市郷土誌 上巻』(1981年) 63～69頁, 108～111頁

21) 平川南注6論文299～303頁, 高島英之注9論文210～214頁, 274～276頁。

22) 『鹿児島県遺跡地名表』(鹿児島県教育委員会 1964年), 『山川町史(増補版)』(山川町 2000年 227頁)。

23) 指宿市教育委員会『敷領遺跡』(1997年)

24) 下山覚「鹿児島県指宿市敷領遺跡出土の鉄製品について」(『考古学雑誌』第87巻第3号 2003年)

25) 『日本三代実録』貞観十六年(874)七月戊子条に、開聞岳の噴火に関して「之を蒼龜に求むるに、神、封戸を願ふ」との記事がある。蒼龜の行われた場所については、薩摩国府・大宰府・神祇官とともに、額娃郡・揖宿郡など近接郡家の可能性も考えられる。

## 第9章 まとめ

### 第1節 旧石器時代ナイフ形石器文化期

350㎡と狭い範囲での出土であったが、比較的まとまりのある良好な資料が得られた。剥片尖頭器、ナイフ形石器、石清水型削器等の組成は当遺跡から2km南西に位置する宮ヶ迫遺跡でもみられており、当該期における組成の確実性を補完するものである。

定形石器、剥片、碎片等を観察すると、技術的に3種類が存在している。1つは縦長剥片を剥離する技術である。当遺跡においては縦長剥片を素材とした石器が一程度みられる。しかし、これらの縦長剥片を剥離する過程で剥離される剥片類が見あらず、これら一連の縦長剥片類は当遺跡に持ち込まれたものであると評価するのが妥当であると考えられる。ただし、二次加工時に剥出されたとみられる剥片<sup>37)</sup>はある程度みられるため、報告者としては当遺跡は縦長剥片を持ち込み、二次加工を行った場であると評価したい。

もう一つの技術は寸詰まり剥片を剥離する技術である。根拠となる石核は38～42である。また、考察で紹介した接合資料1,2もみられる。当遺跡には寸詰まり剥片を素材としたナイフ形石器は2点出土している(11,12)。石材は黒曜石であり、この石器に関しては他に碎片等の出土がみられないため他からの搬入品であると考えられる。しかし、石核や接合資料等からは、他にもナイフ形石器や台形石器の存在が考えられる。

3つ目の技術は、横長剥片を剥離する技術である。接合資料3により確認された技術で、打面の一部に自然面を利用するなど瀬戸内技法そのものではないが、山形の打面を意識しており関連は伺える。

以上の検討から、当遺跡では、縦長剥片を持ち込み、二次加工を施す、石核を持ち込み、寸詰まり剥片を獲得する、石核を持ち込み、横長剥片を剥離するという最低3つの行為が確実に行われていることが指摘できる。

### 第2節 旧石器時代細石器文化期～縄文時代草創期

層からは細石器、石鏃、土器が出土している。調査面積は1,400㎡ながら、遺物総数が20,000点以上とおびただしい集中がみられ、石材の集中度合いから42ブロック、15ユニットに分けられた。

細石刃核203点については剥片、碎片等を多数ともなっており、当遺跡内で製作されたものと判断される。技術的には～類に分類した。型式で考えると、細石刃核には野岳・休場型はみられず、福井型やそれに準ずるもの(、類)がみられる。また、類に分類した船野型細石刃核に類似した細石刃核、類に分類した小礫を素材とした細石刃核については特定産地の石材との結びつきが確認された。類については宮崎県阿蘇原上遺跡や福岡県の元岡遺跡などでも福井型細石刃核に伴って出土しており、両型式は共伴する可能性が非常に高い。縄文時代の開始期の細石刃核には少なくとも本遺跡出土の5種類の細石刃核がみられることが確認できた。今後は接合等によりこれら細石刃核がどのような一連のテクニクにより製作されるのかを検証する必要がある。

石鏃については黒色安山岩製が大半をしめ、石核、剥片、碎片等を伴う製作跡が7か所確認されており、当遺跡での製作が認められる。作りは非常に丁寧なものが多く、形態は三角形の凹基無莖

鍬が主流を占める。

土器は包含層が非常に粘質が強いこともあり、非常にもろいため、ほとんどが土器粒での検出であった。昭和63年度に鹿児島市で調査したときのような特徴を持つものはみられず、調整等の観察は困難であった。非常に粒が小さいもの等を合わせると、当遺跡にはかなりの土器が存在していたのではないかということが推察される。

細石器、石鍬、土器については考察で述べたとおり、報告者としては共伴すると判断している。また、楔形石器、スクレイパー、石斧等の石器の共伴も生業を考える上で興味深いものである。

### 第3節 縄文時代早期

縄文時代早期については包含層が削平のためあまり残っておらず、遺物も少量にとどまった。その中でも昭和63年度横井竹ノ山遺跡発掘調査時に確認されていた前平式土器が今回も確認され、削平以前は当台地に前平期の遺跡が多数存在していたであろうことが予測される。また、今回昭和63年度横井竹ノ山遺跡発掘調査時には、層が削平されていたため確認ができなかった押型文土器が確認され、押型文土器期の遺跡の存在が新たに判明した。

### 第4節 古代

古代については削平のため傾斜面以外はほとんど包含層が残っていなかった。その中で土師器塚が合わせ口状に埋納された遺構は大きな発見であった。上塚の「肥道里」の墨書は肥国との関連を想定させ、江戸時代の官道沿いに位置する当地が更にさかのぼった古代においても何らかの交通の要所であった可能性を想起させる。また、下塚の「☆」の墨書は祭祀色を強く感じさせるものである。今後の類例出土、研究等により位置づけがより明確になっていくことを期待したい。時期としては出土遺物からおおむね9世紀第三四半世紀頃と考えられる。

# 写真図版





1 遺跡遠景



2 11年度確認調査近景



3 12年度全面調査区近景

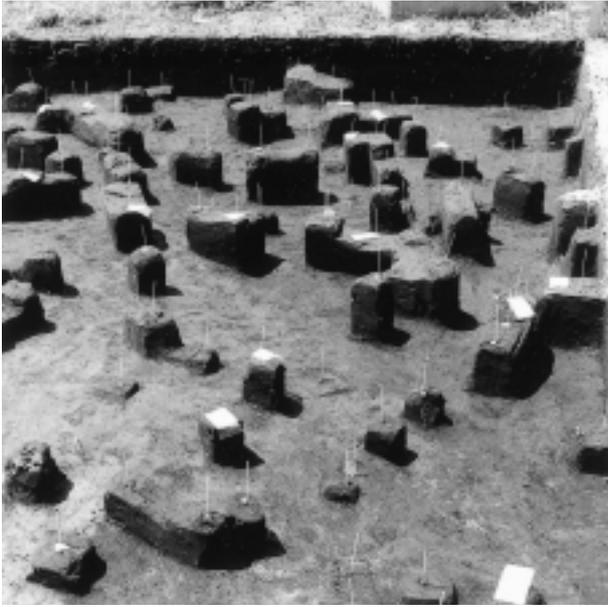


4 遺跡東側谷の湧水地と迫田



5 土層断面

Plate 2



1 古代遺物出土状況



2 合わせ口土師器検出状況



3 合わせ口土師器検出状況



4 合わせ口土師器下碗検出状況



5 合わせ口土師器（復元）



1 縄文時代早期遺物出土状況



2 縄文時代早期道跡検出状況



3 道跡（谷側から）



4 道跡埋土断面



5 道跡完掘状況



1 細石器文化期調査風景（11年度）



2 F.D.Hユニット検出状況



3 I.J.K.Lユニット検出状況



4 Mユニット南側検出状況



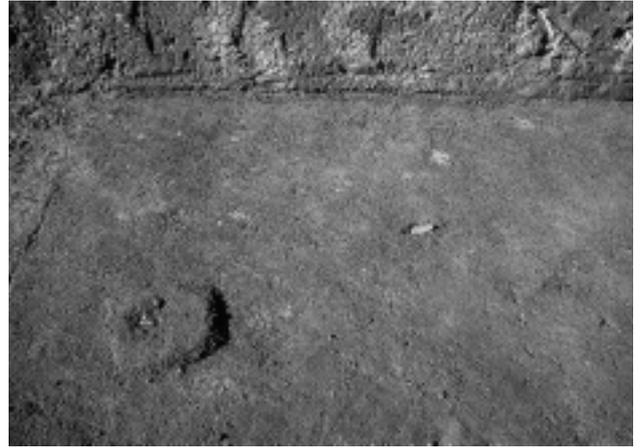
5 Mユニット北側検出状況



6 N.Oユニット検出状況



1 縄文草創期土器(387)出土状況



2 草創期土器と細石器(Oユニット)



3 細石刃核(182)出土状況



4 細石刃出土状況



5 縄文草創期石斧(325)出土状況



6 叩石(148)出土状況

Plate 6



1 ナイフ形石器文化期調査風景



2 ナイフ形石器文化期遺物出土状況



3 剥片尖頭器(1)出土状況



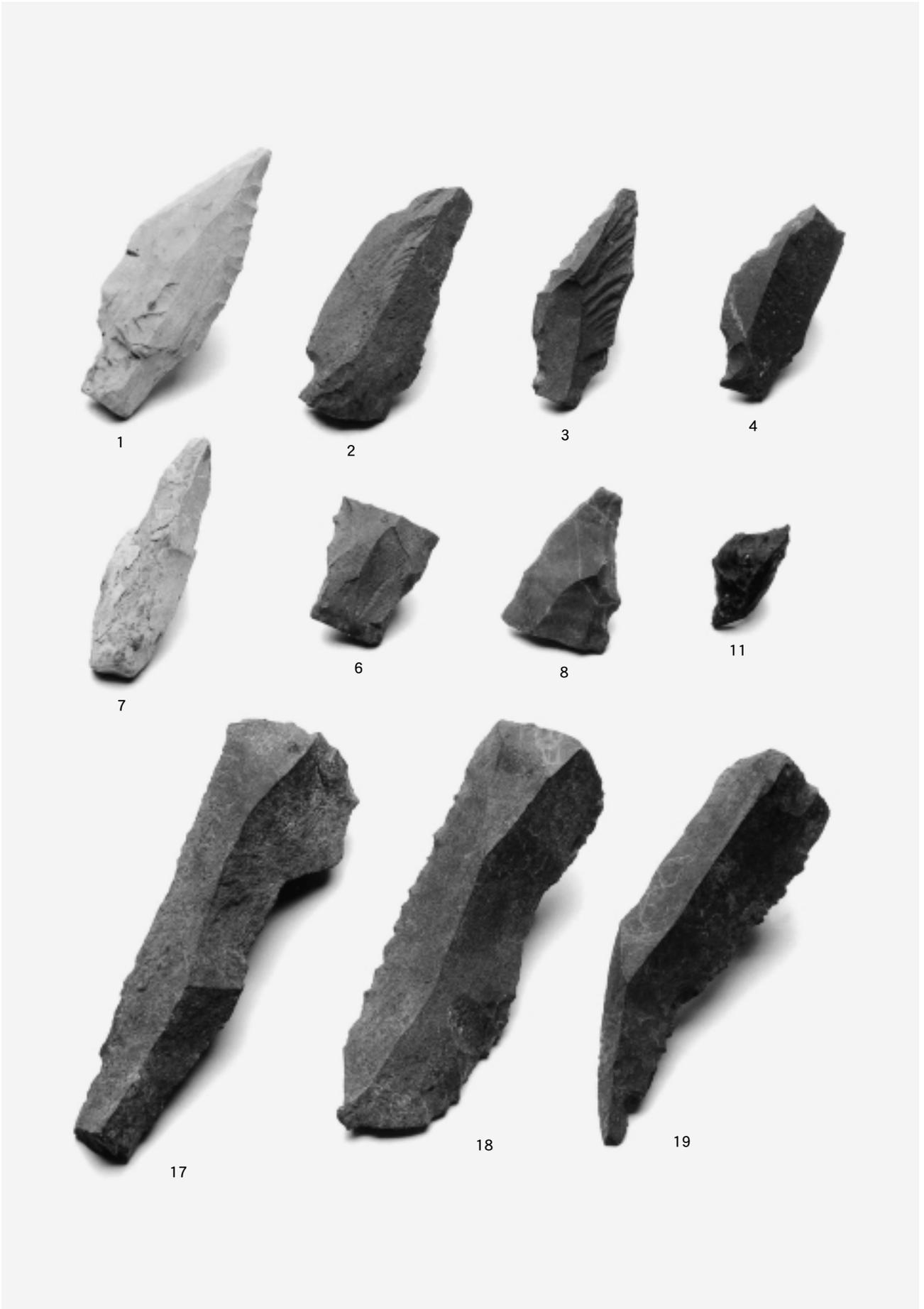
4 削器(17. 18. 19)出土状況



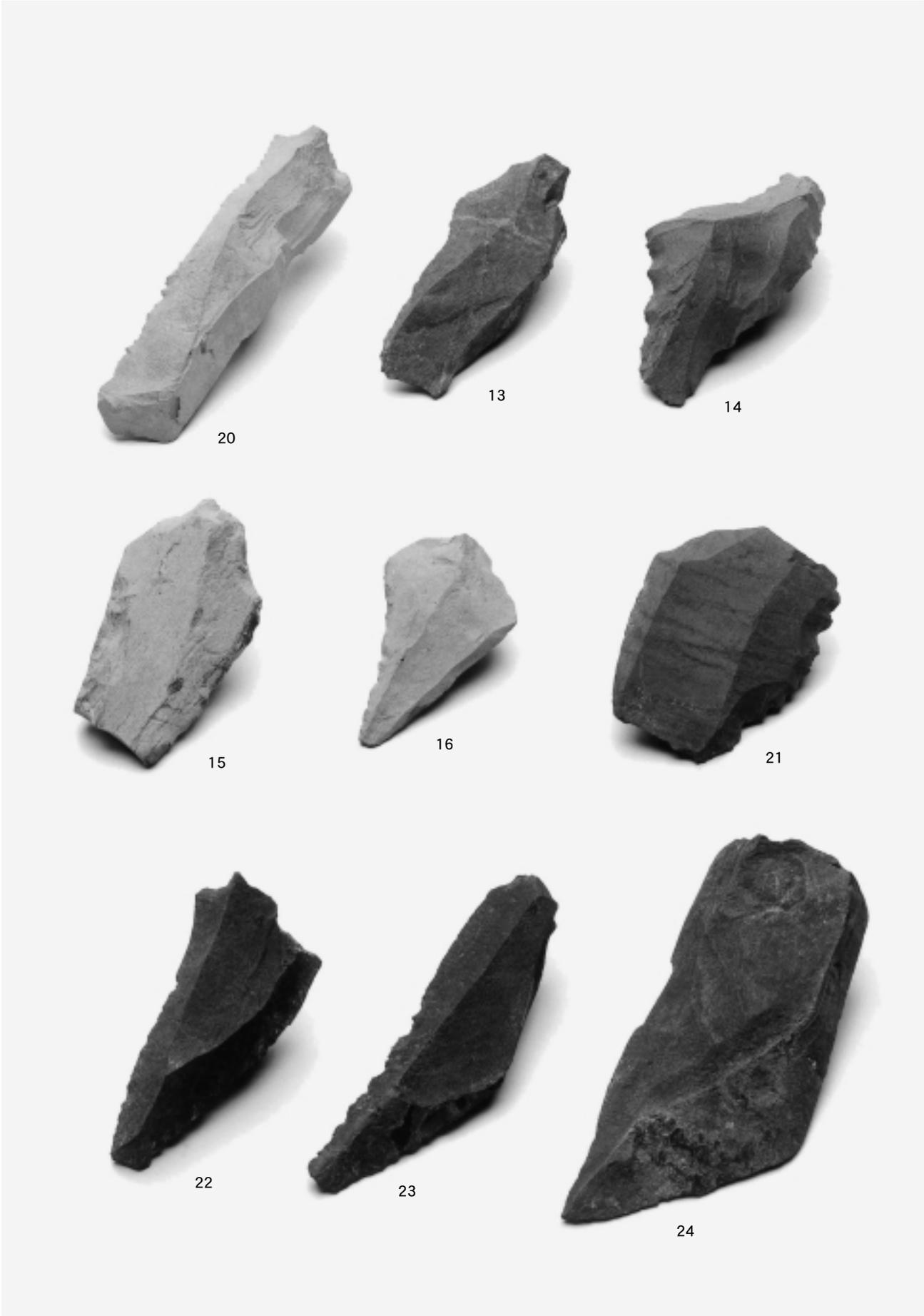
5 削器(20)出土状況



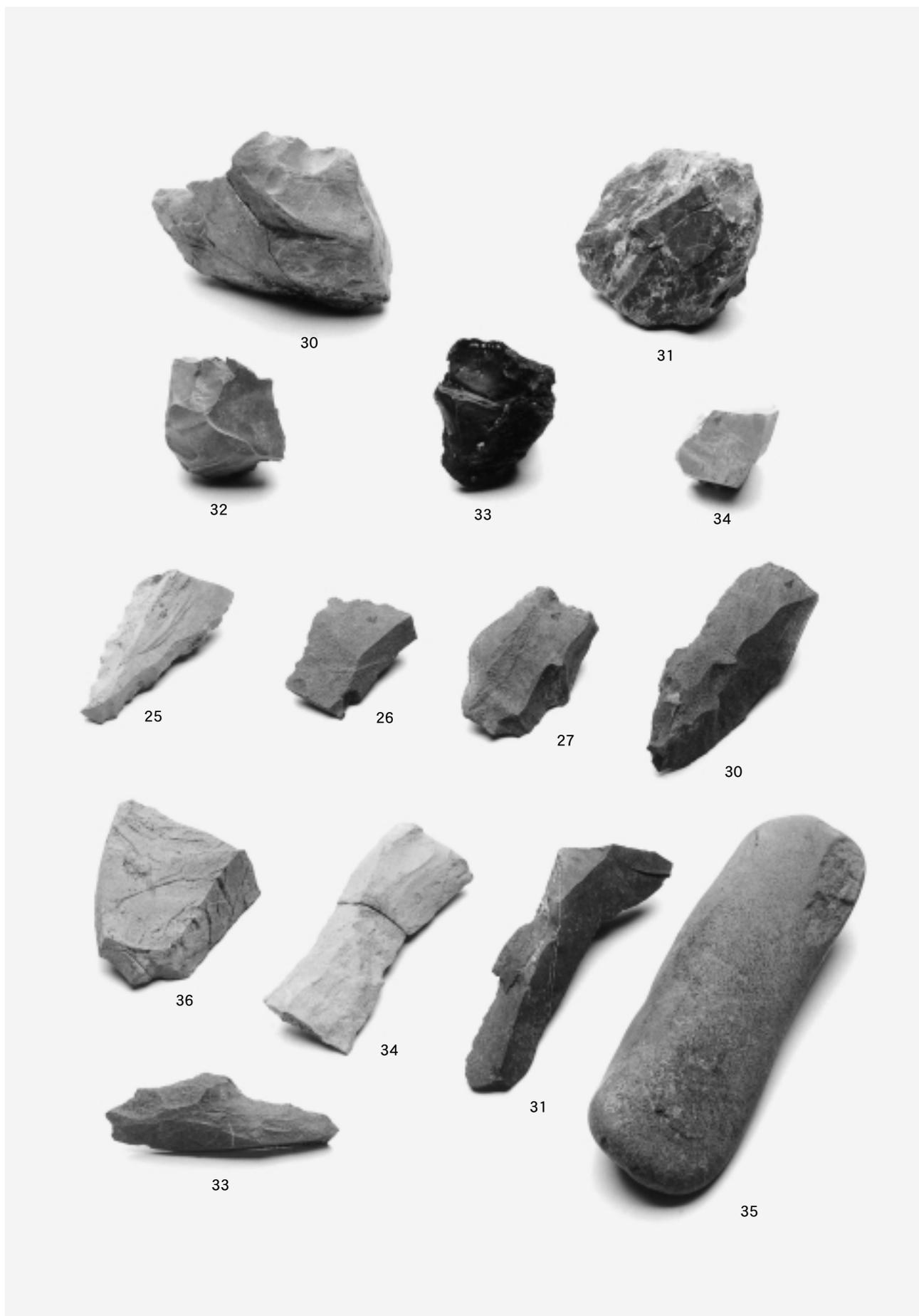
6 12年度調査区完掘状況



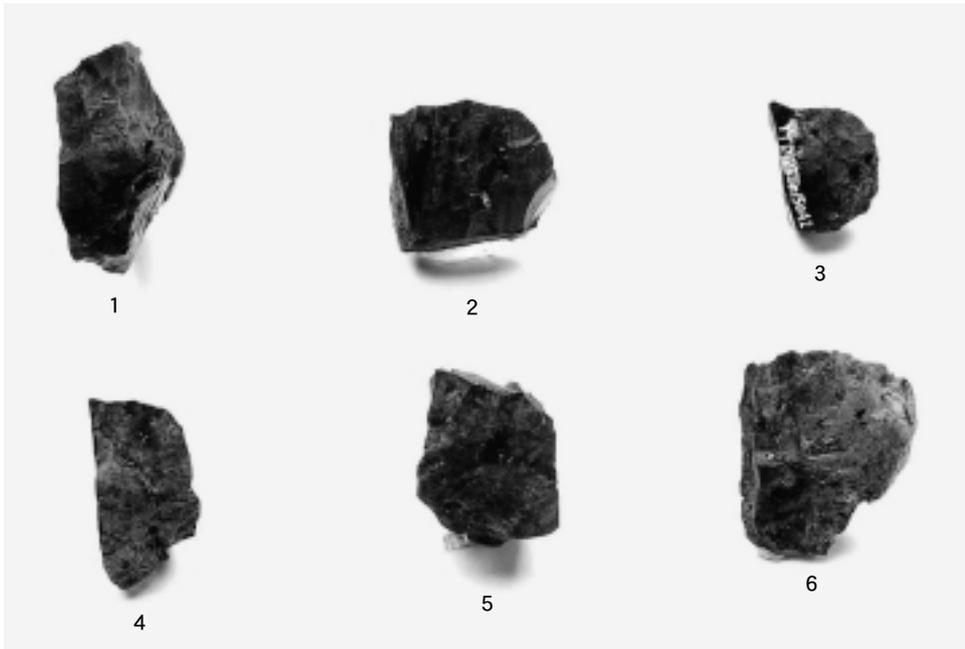
VIII層出土遺物(1)



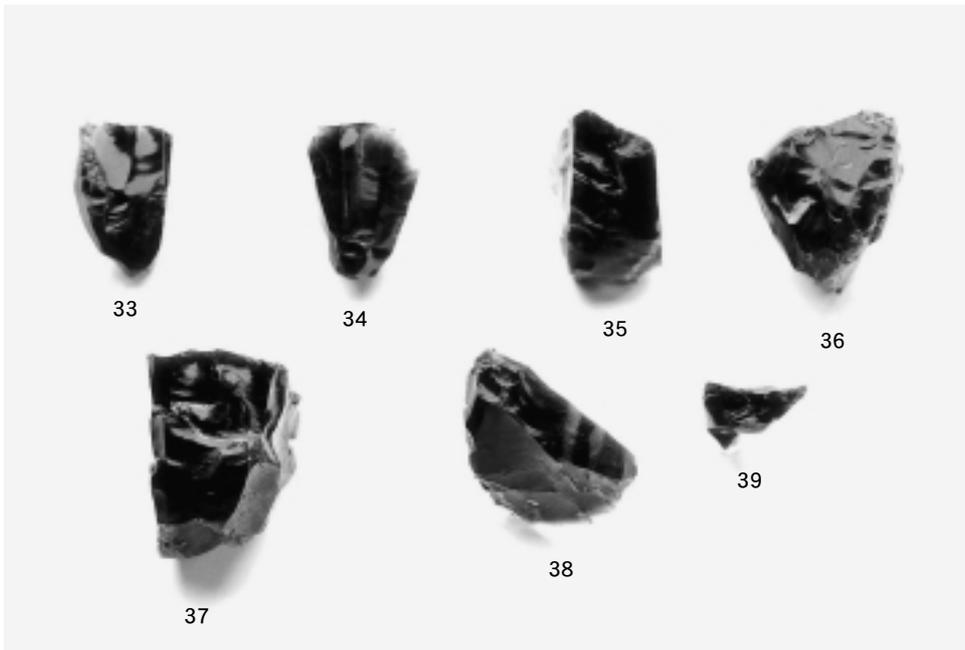
VIII層出土遺物(2)



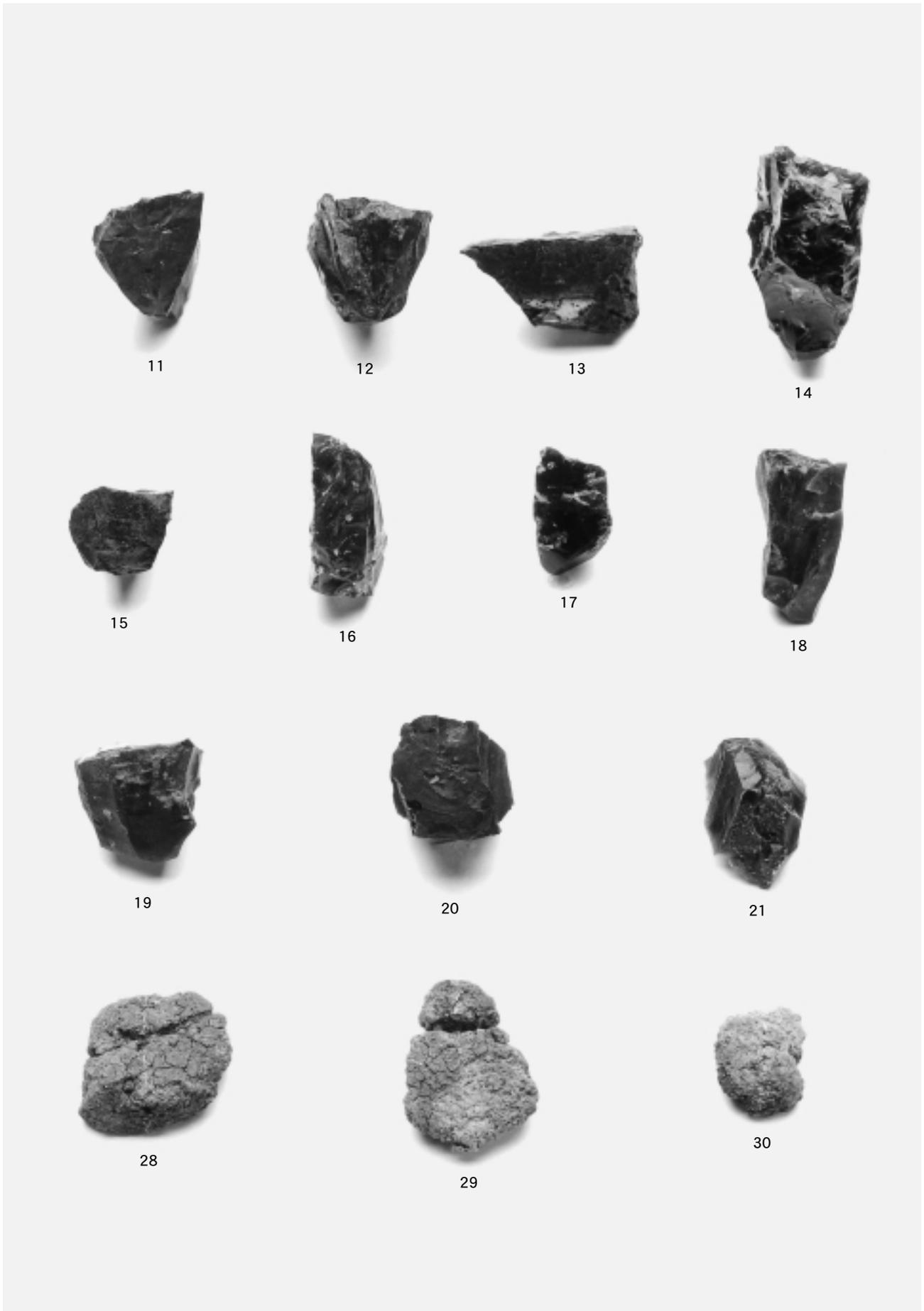
VIII層出土遺物(3)



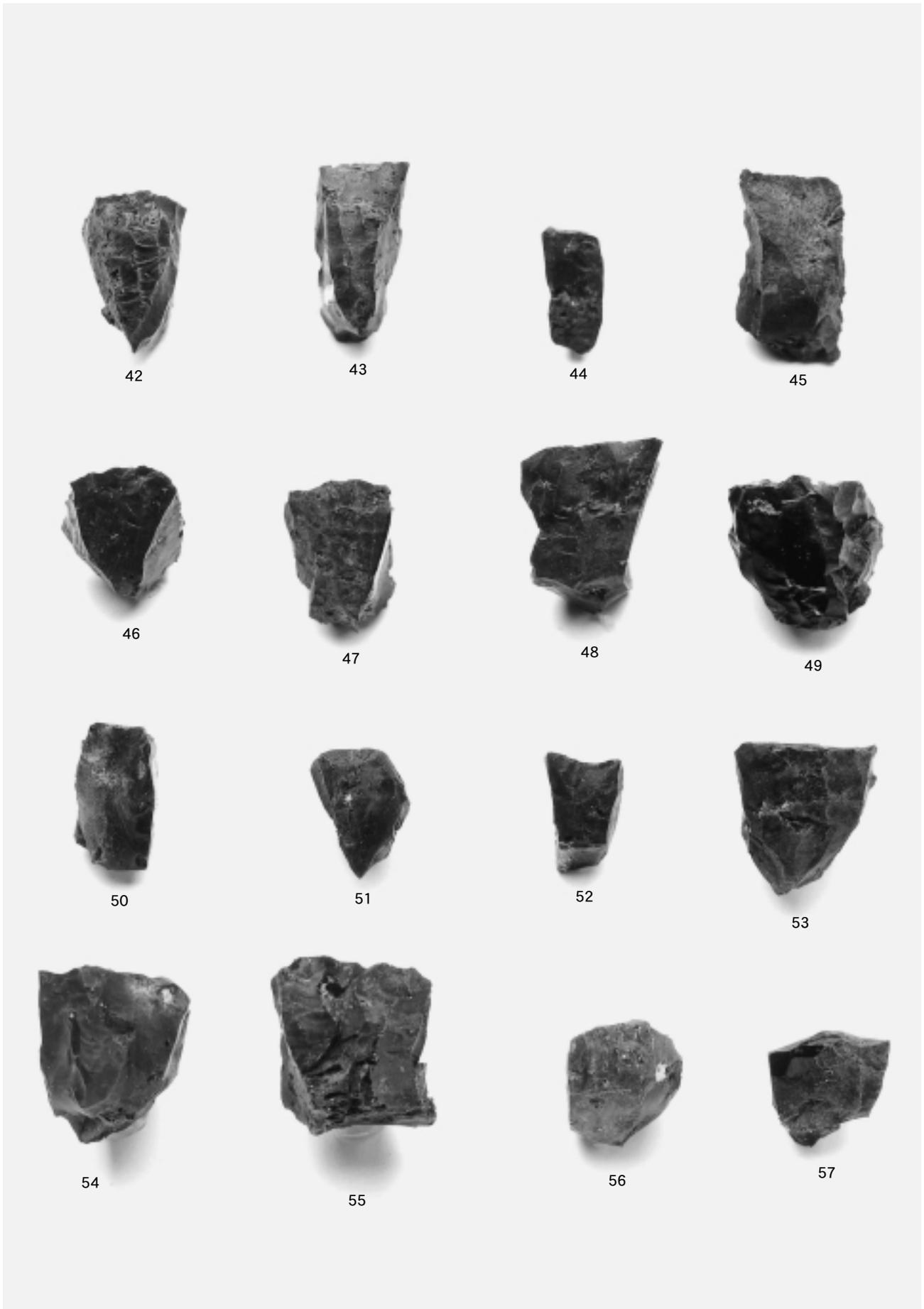
1 Aユニット出土遺物



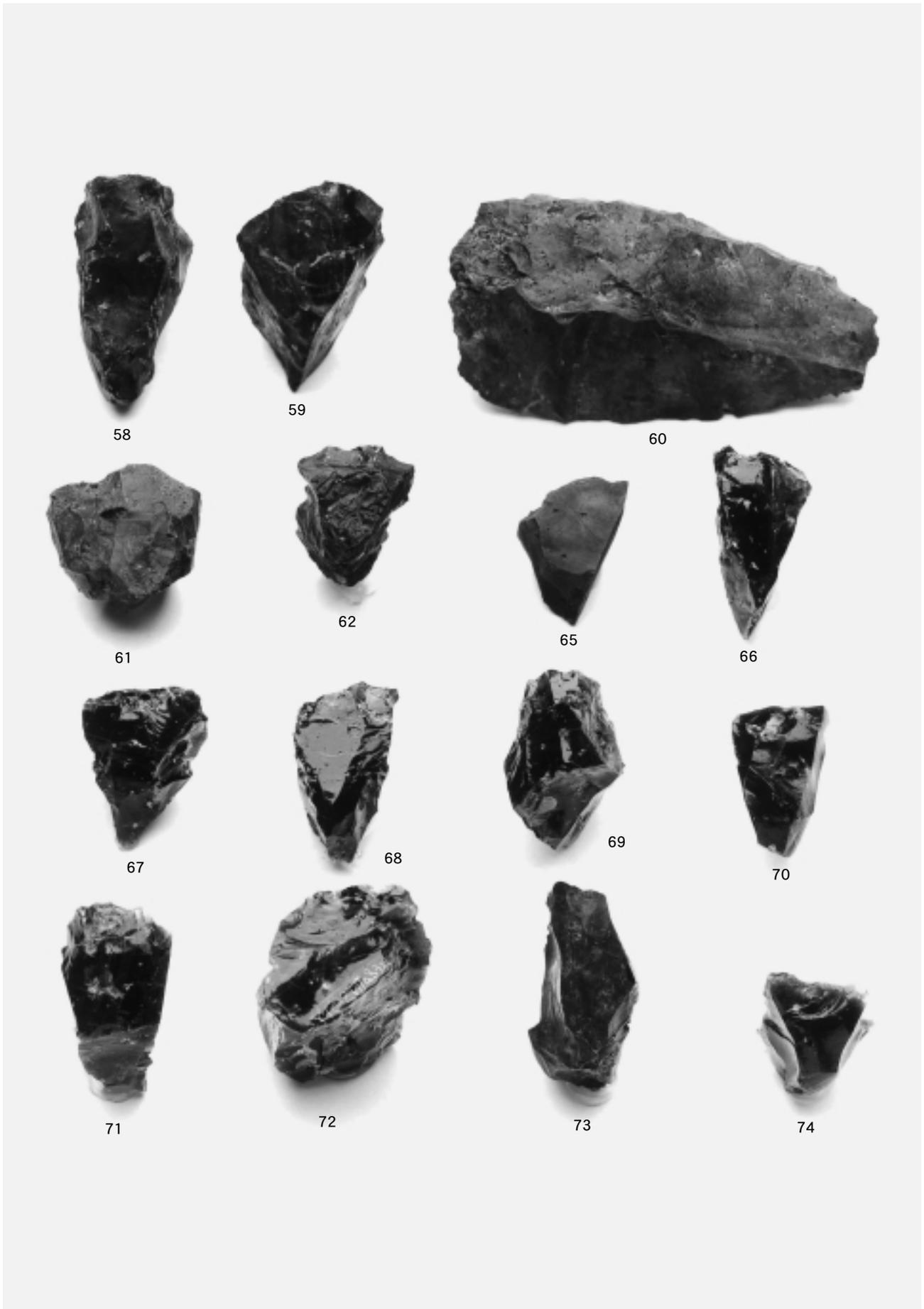
2 Cユニット出土遺物



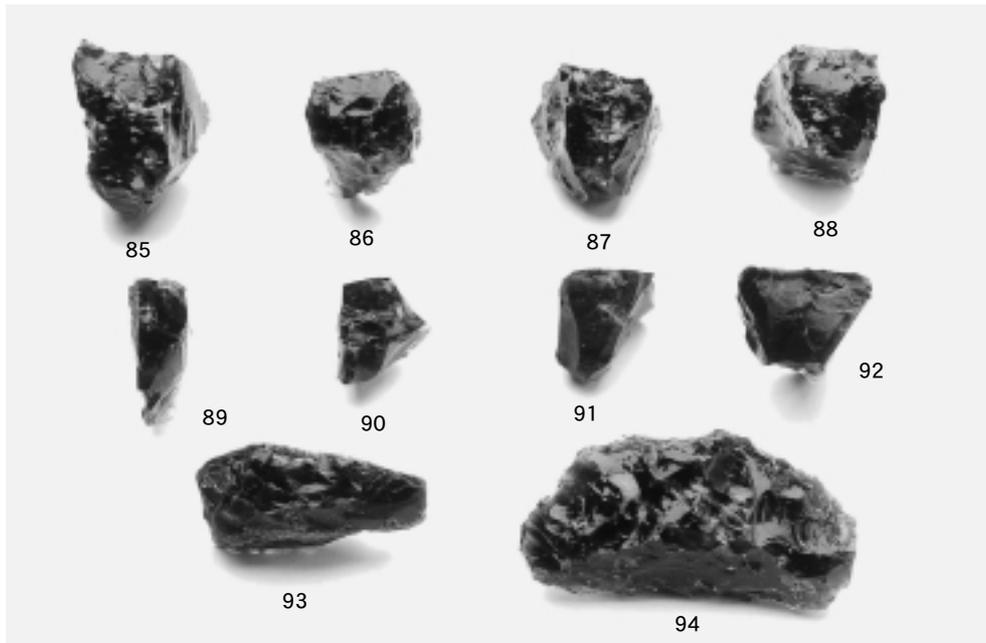
Bユニット出土遺物



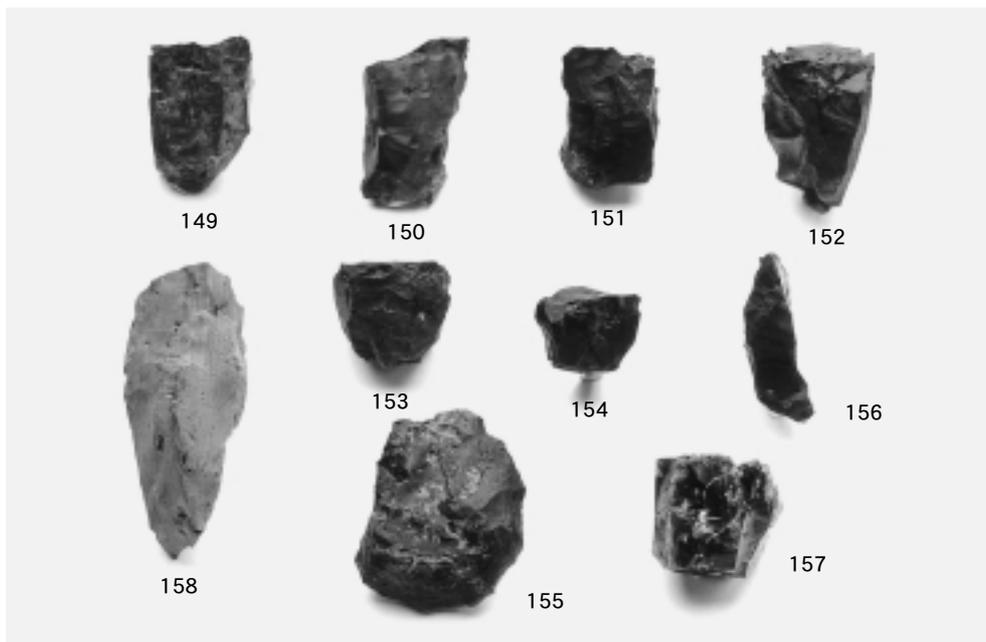
Dユニット出土遺物(1)



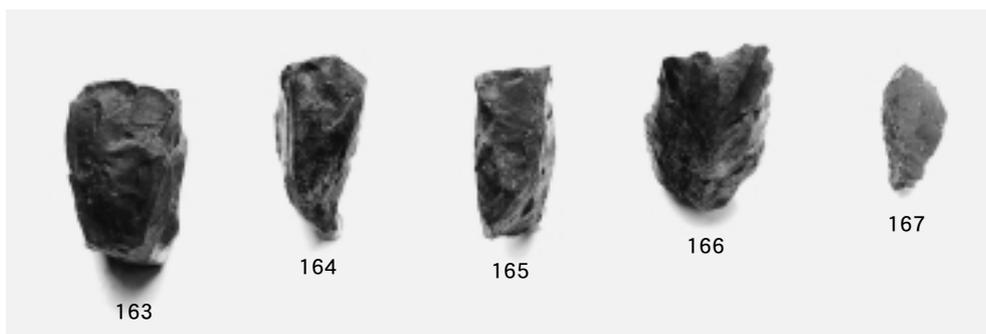
Dユニット出土遺物(2)



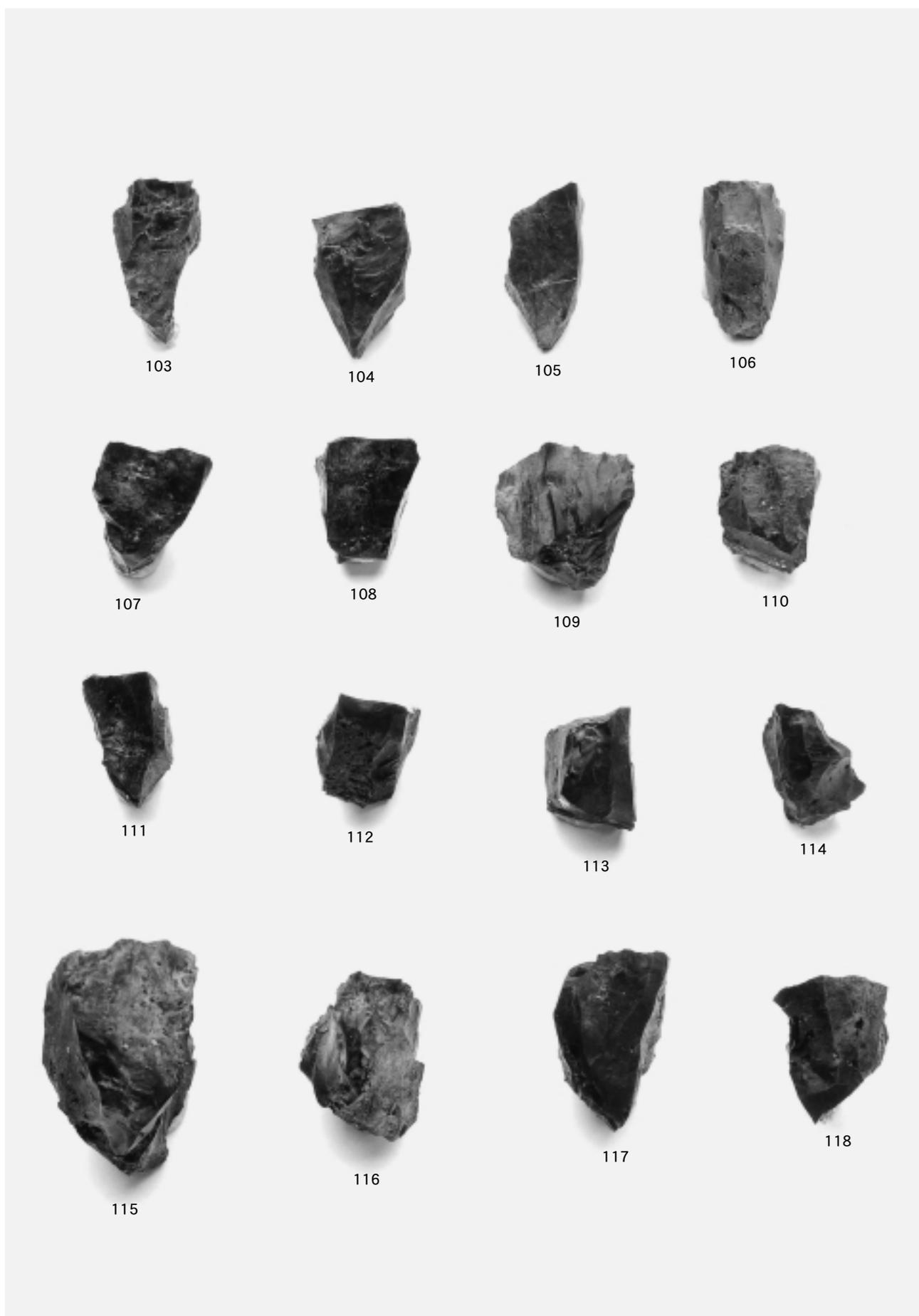
1 Eユニット出土遺物



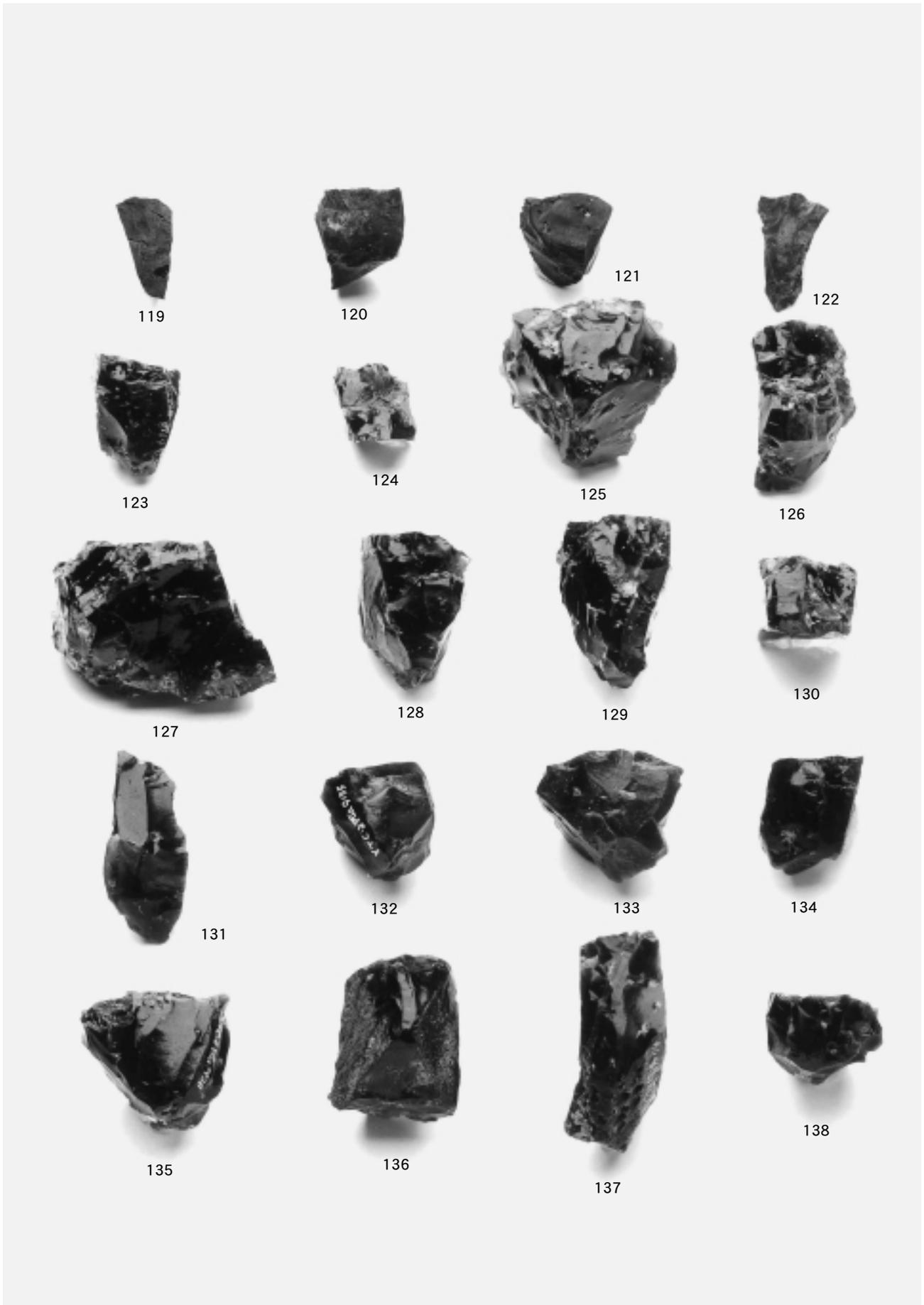
2 Gユニット出土遺物



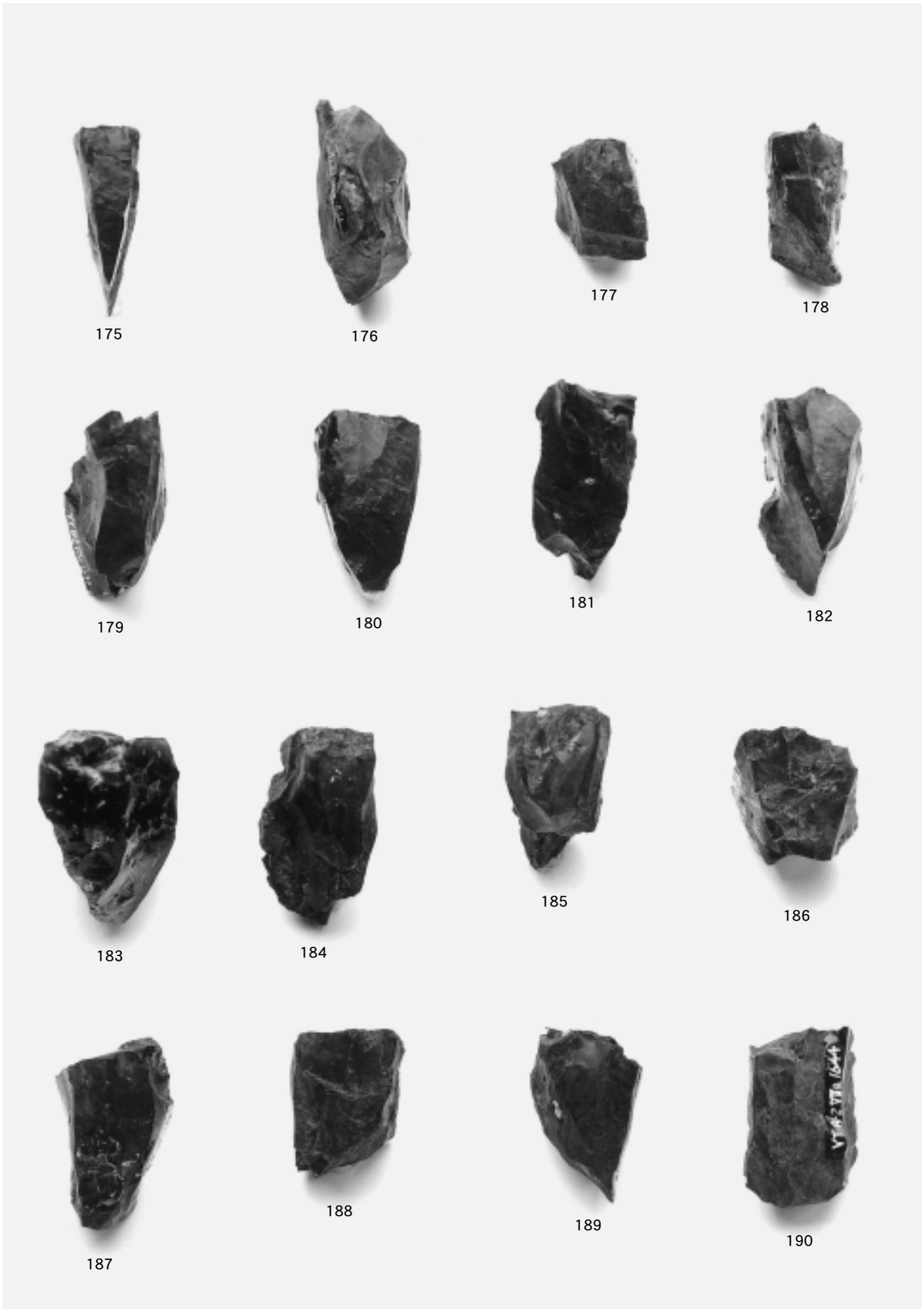
3 Hユニット出土遺物



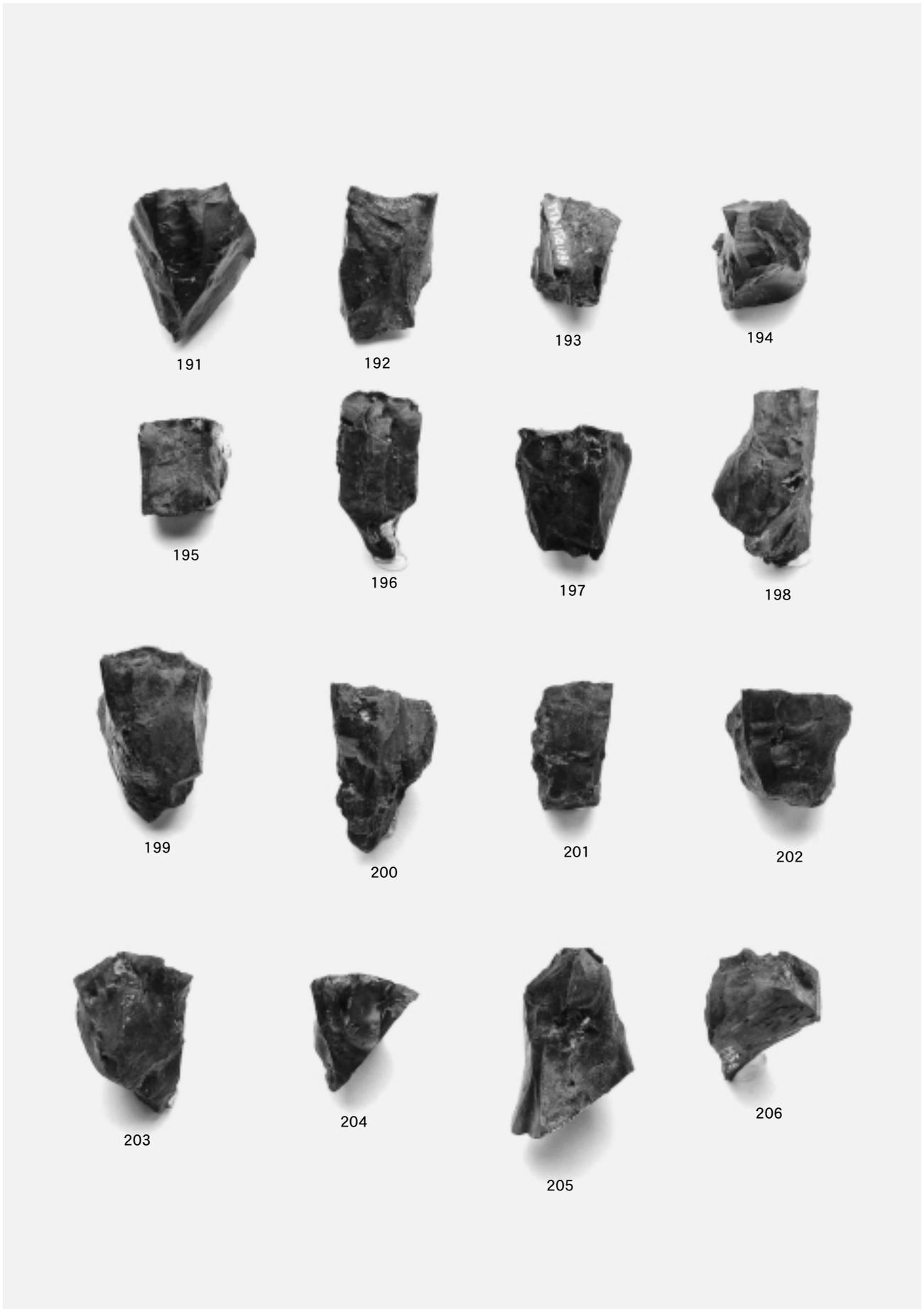
Fユニット出土遺物(1)



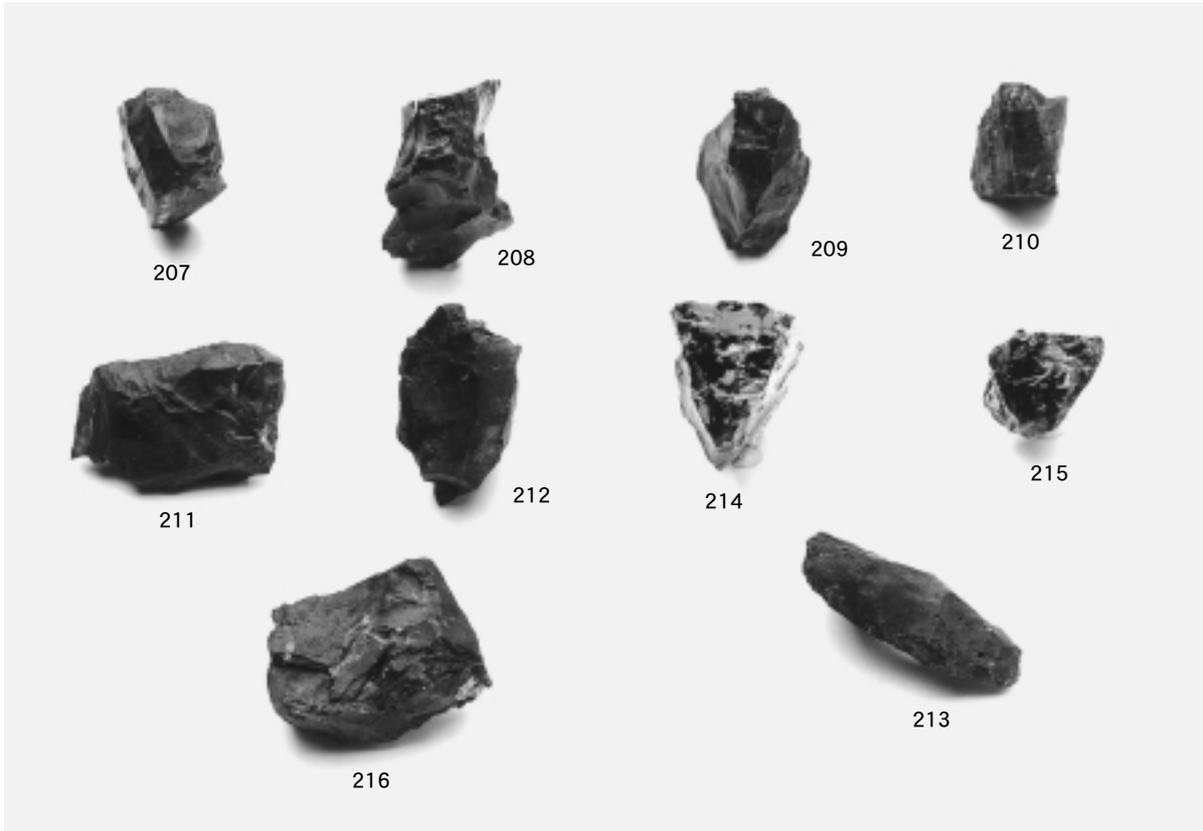
Fユニット出土遺物(2)



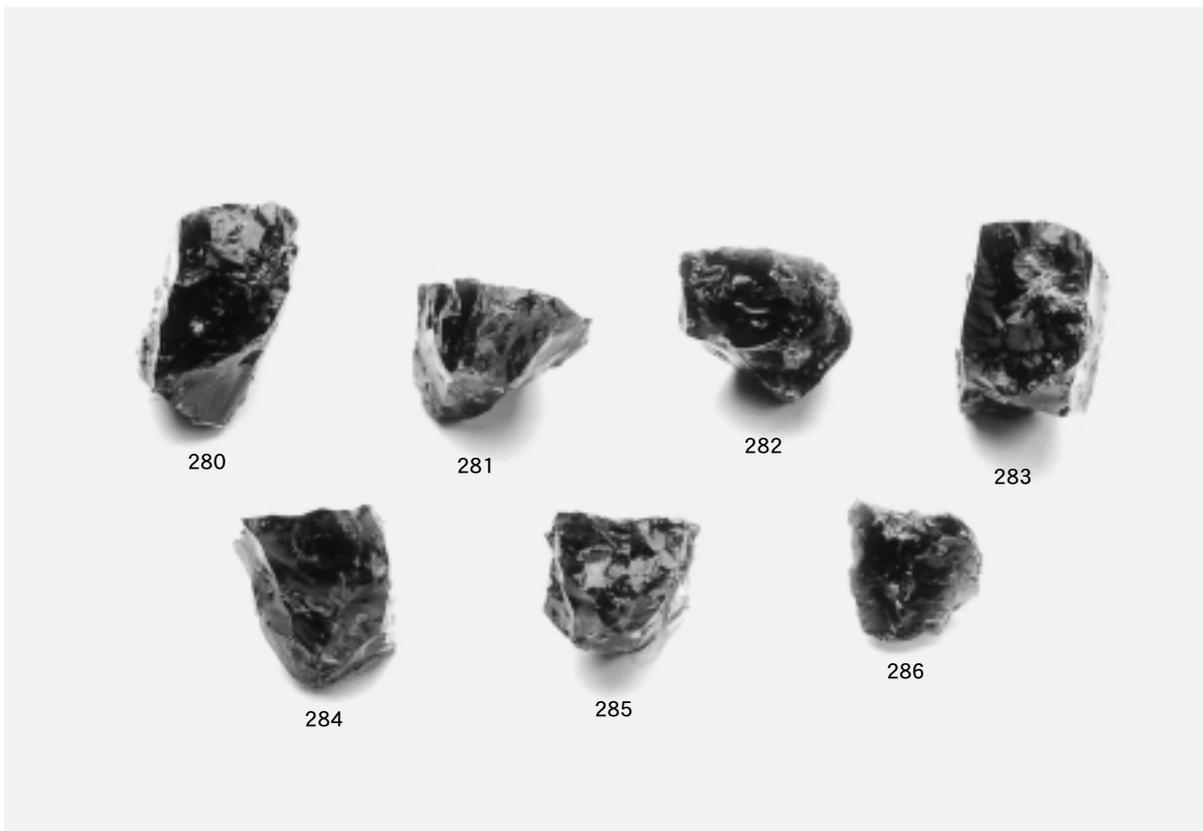
I ユニット出土遺物(1)



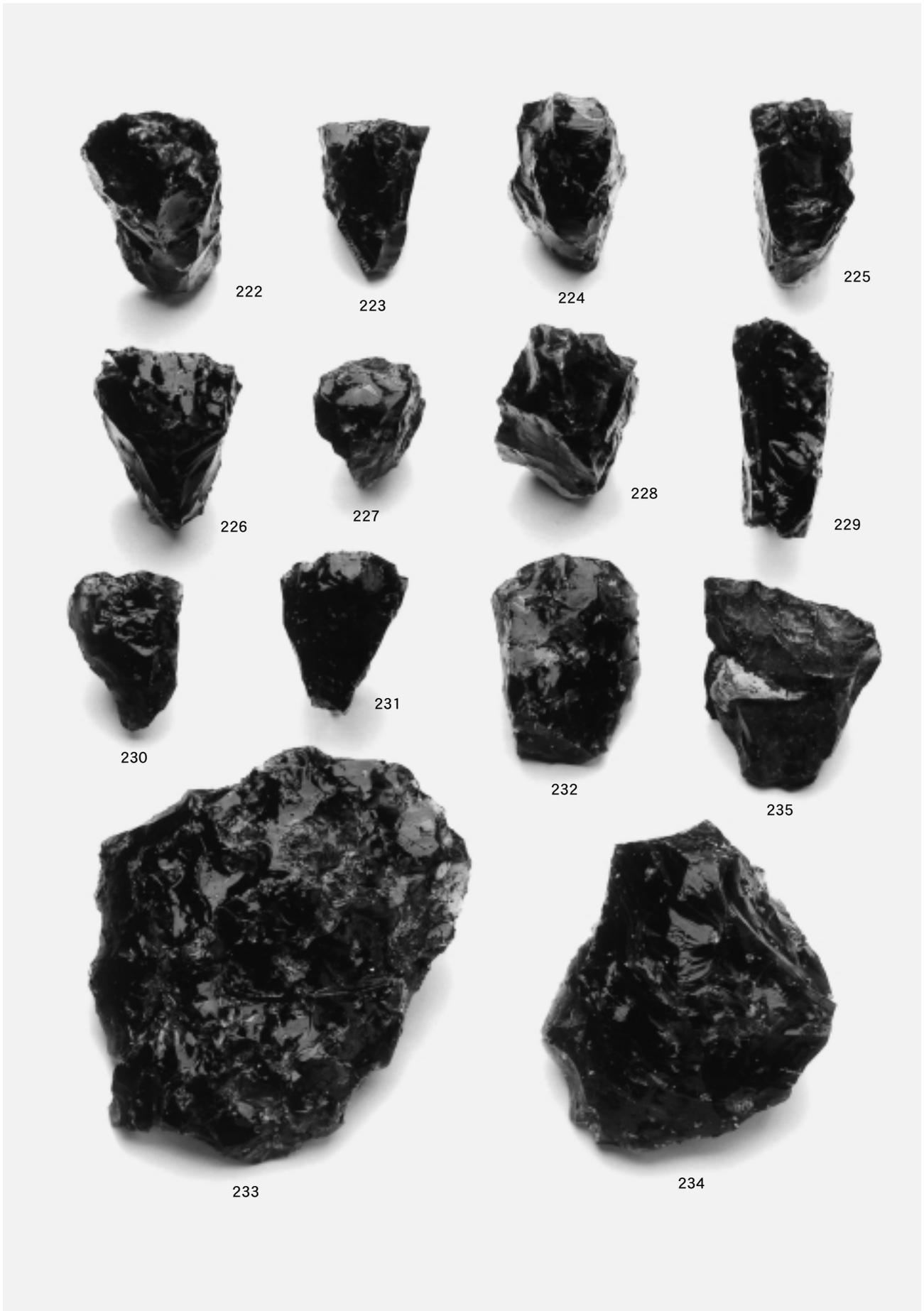
I ユニット出土遺物(2)



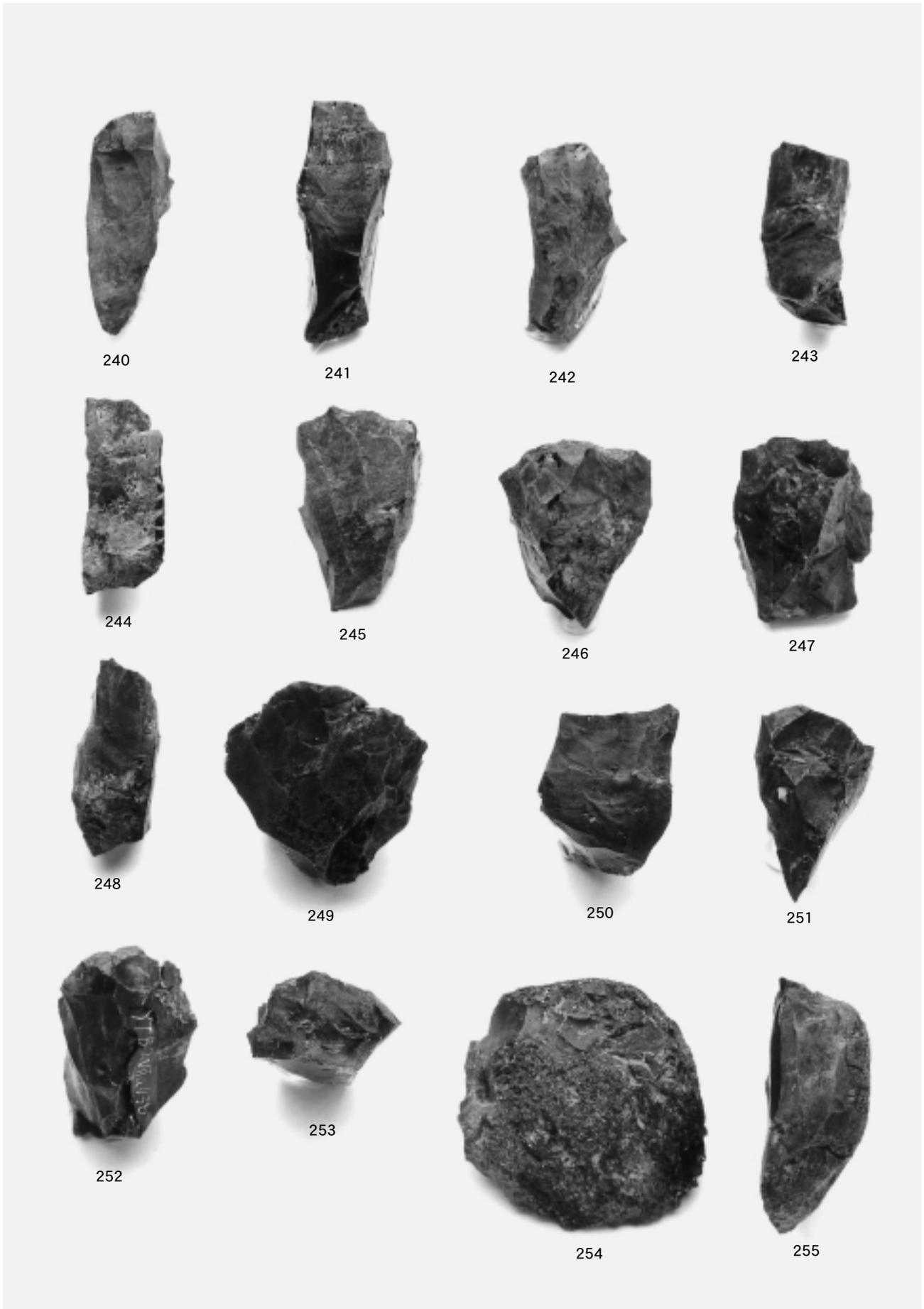
1 Iユニット出土遺物(3)



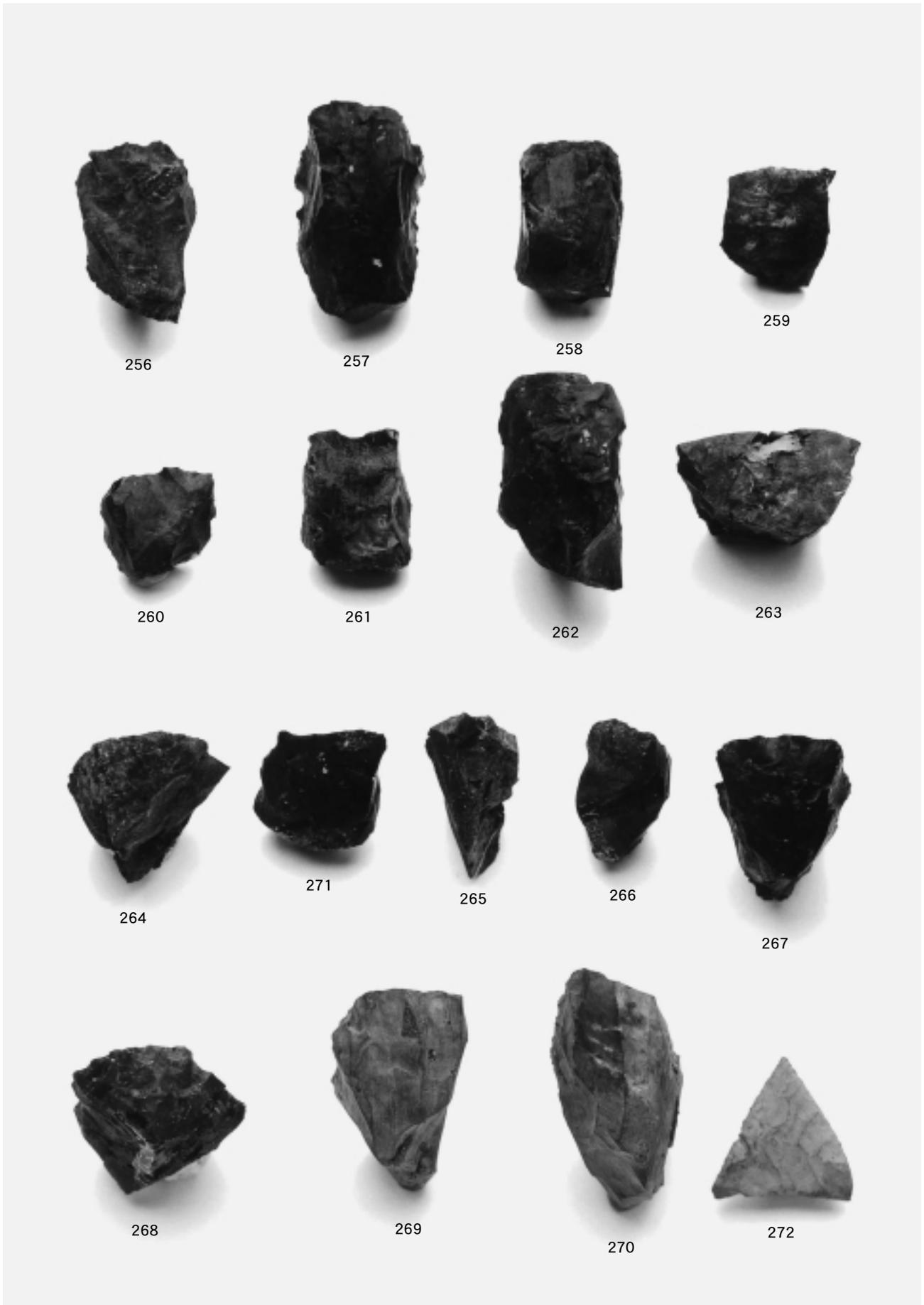
2 Lユニット出土遺物



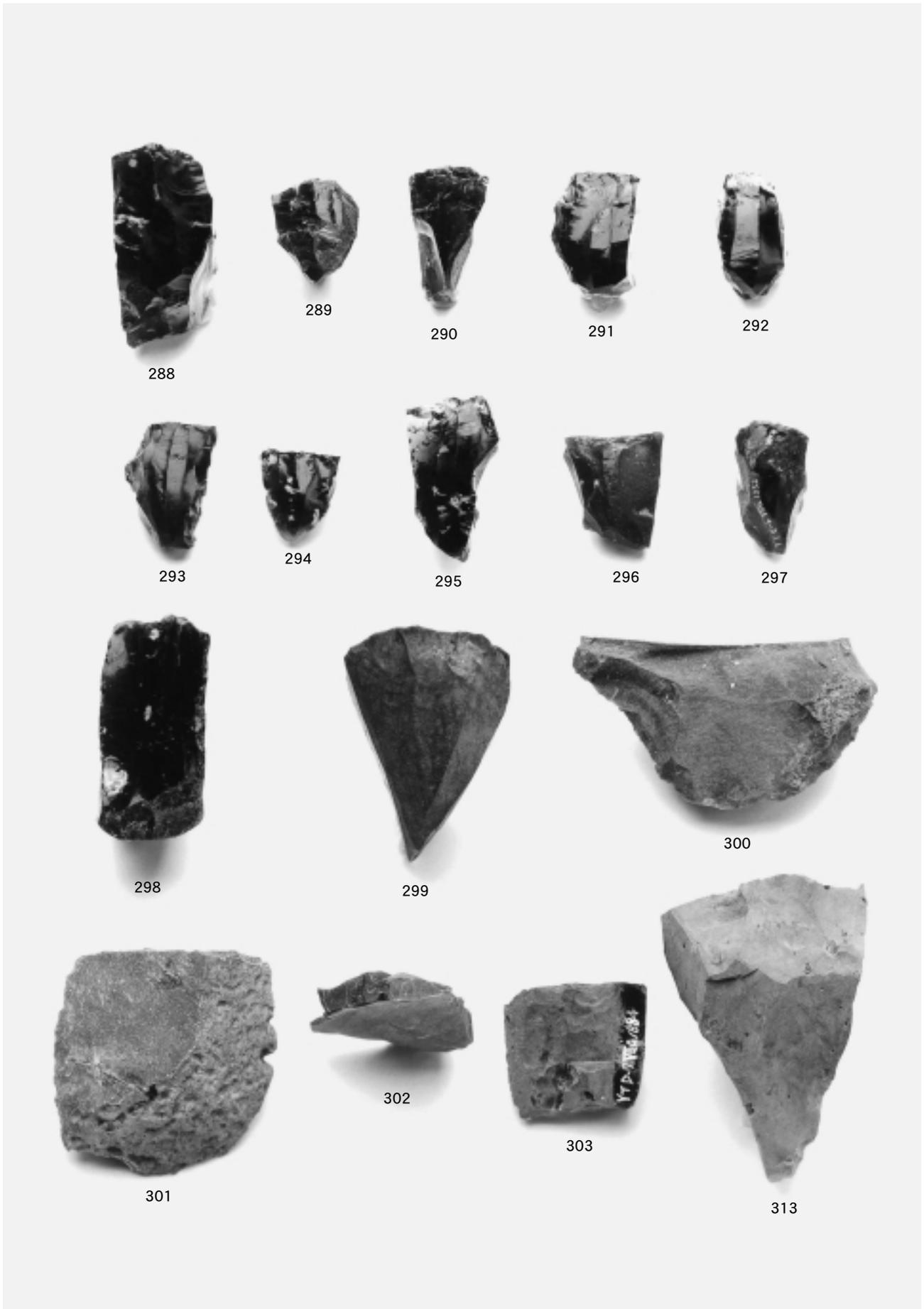
ジュニット出土遺物



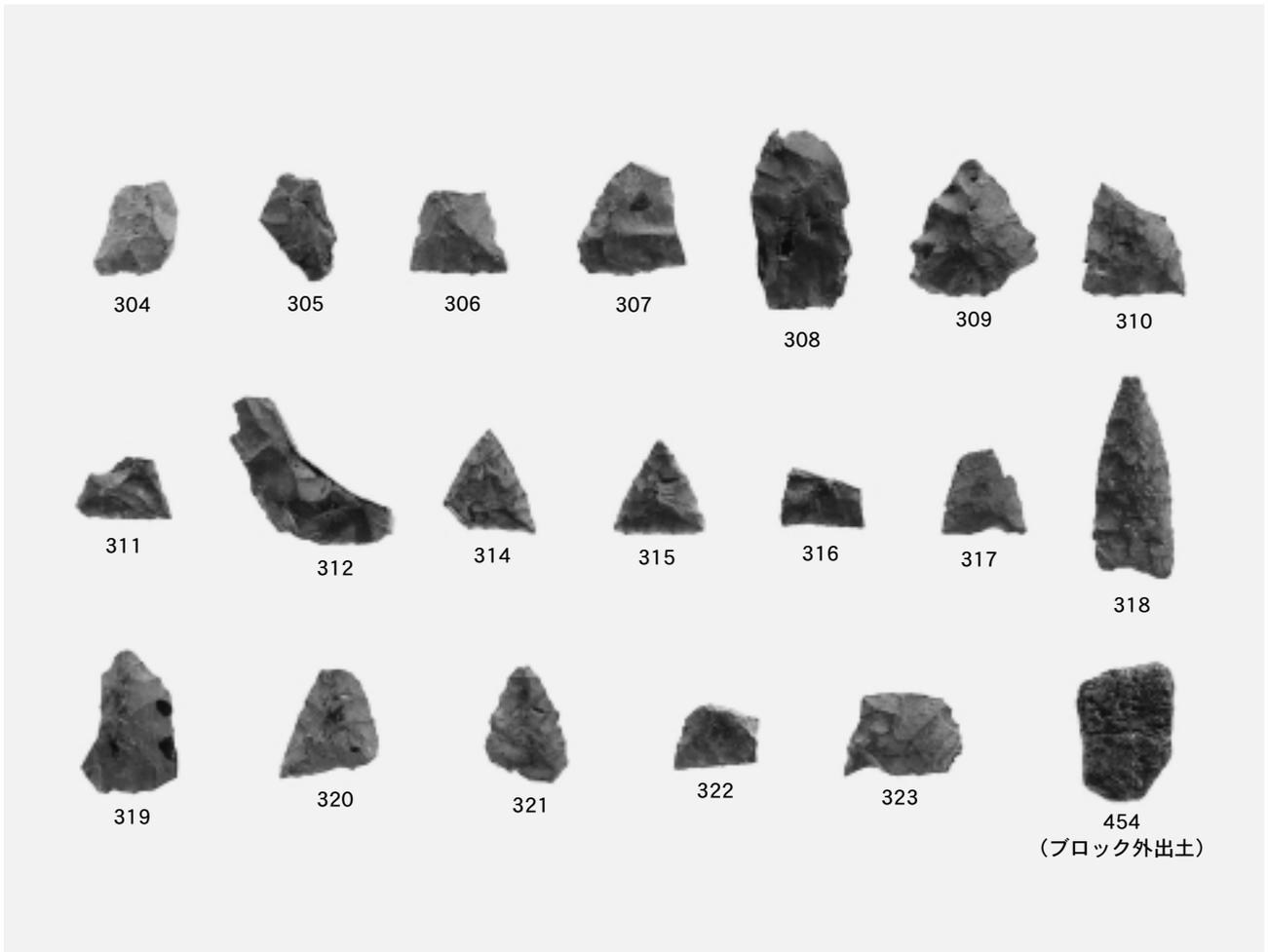
Kユニット出土遺物(1)



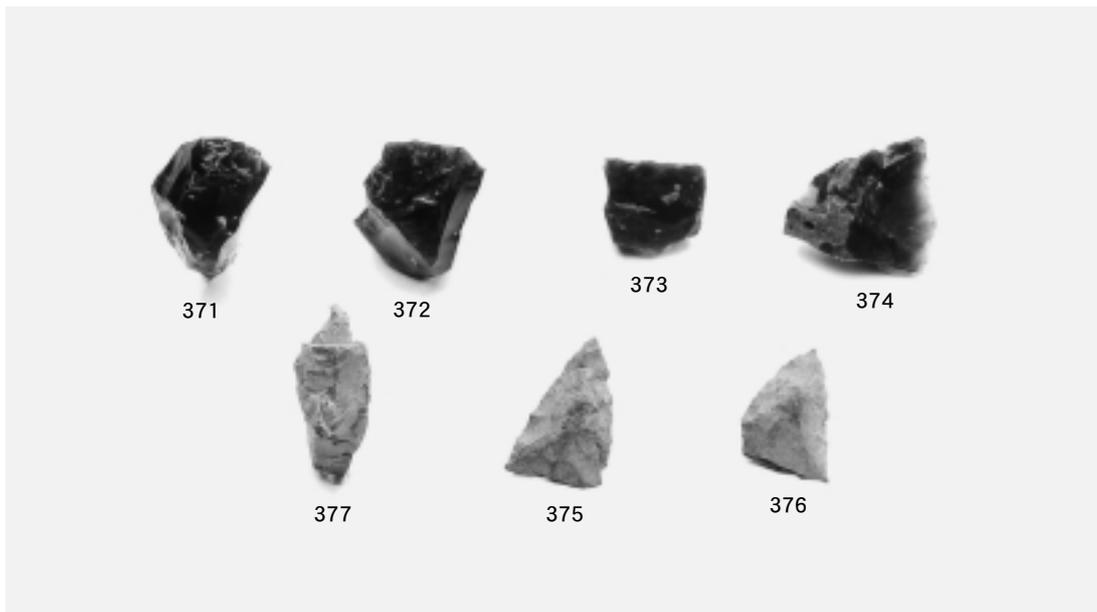
Kユニット出土遺物(2)



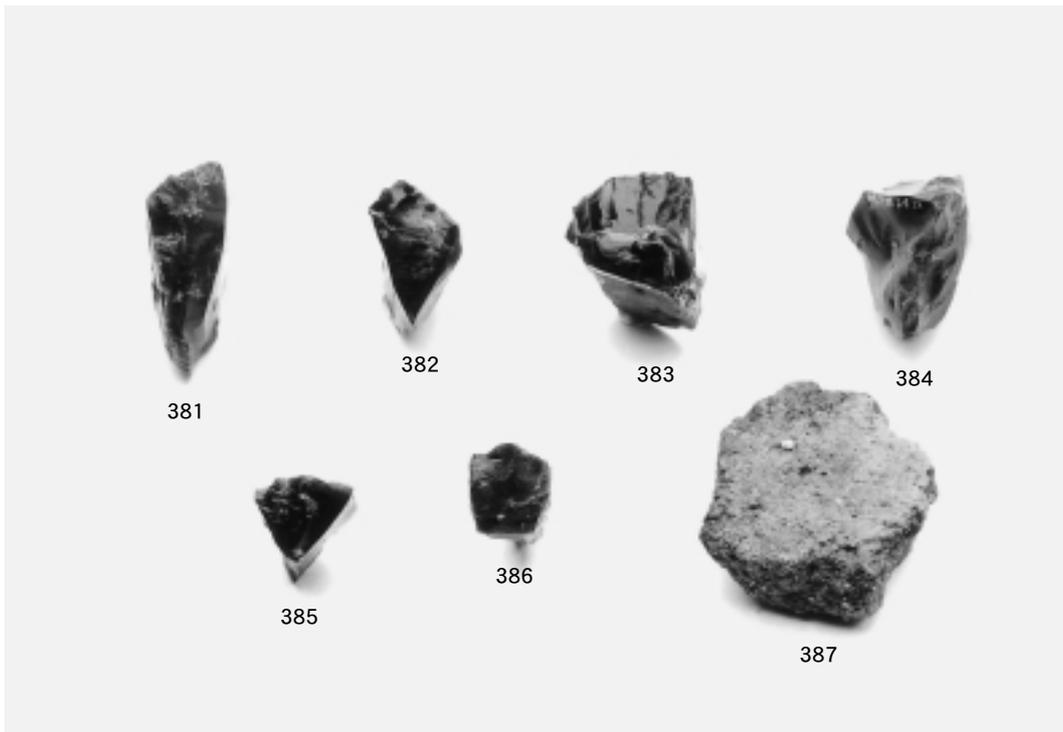
Mユニット出土遺物(1)



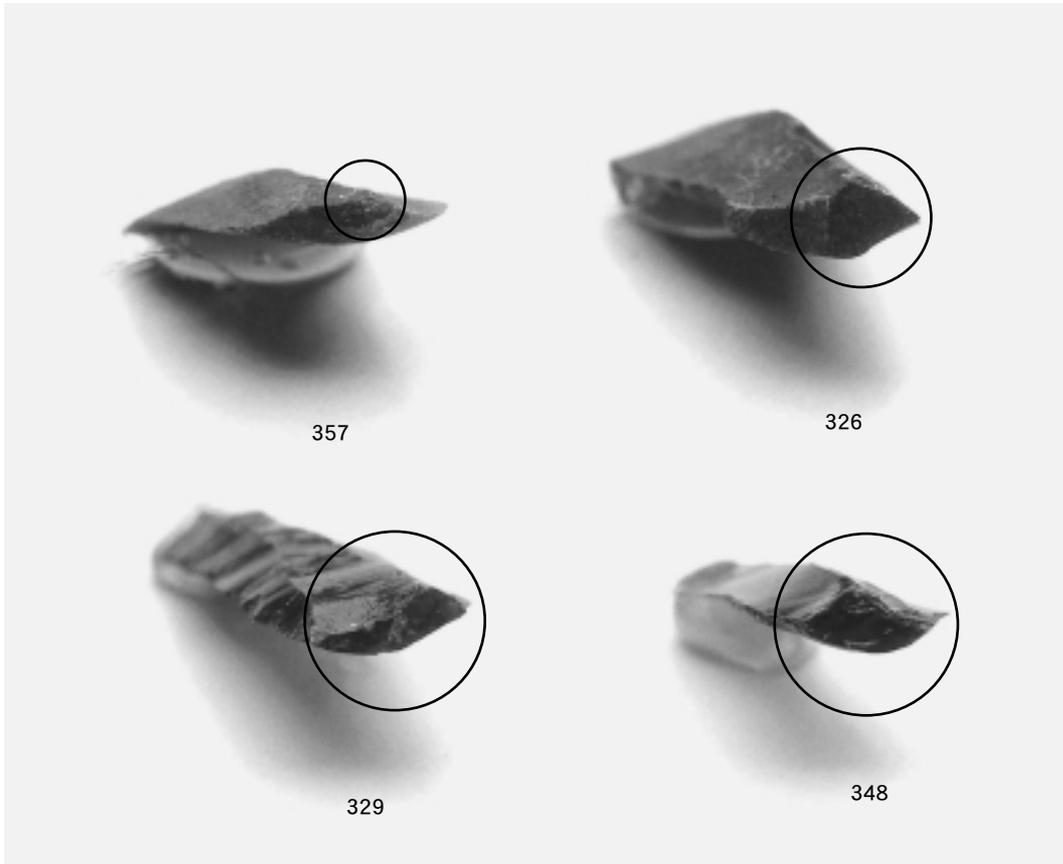
1 Mユニット出土遺物(2)



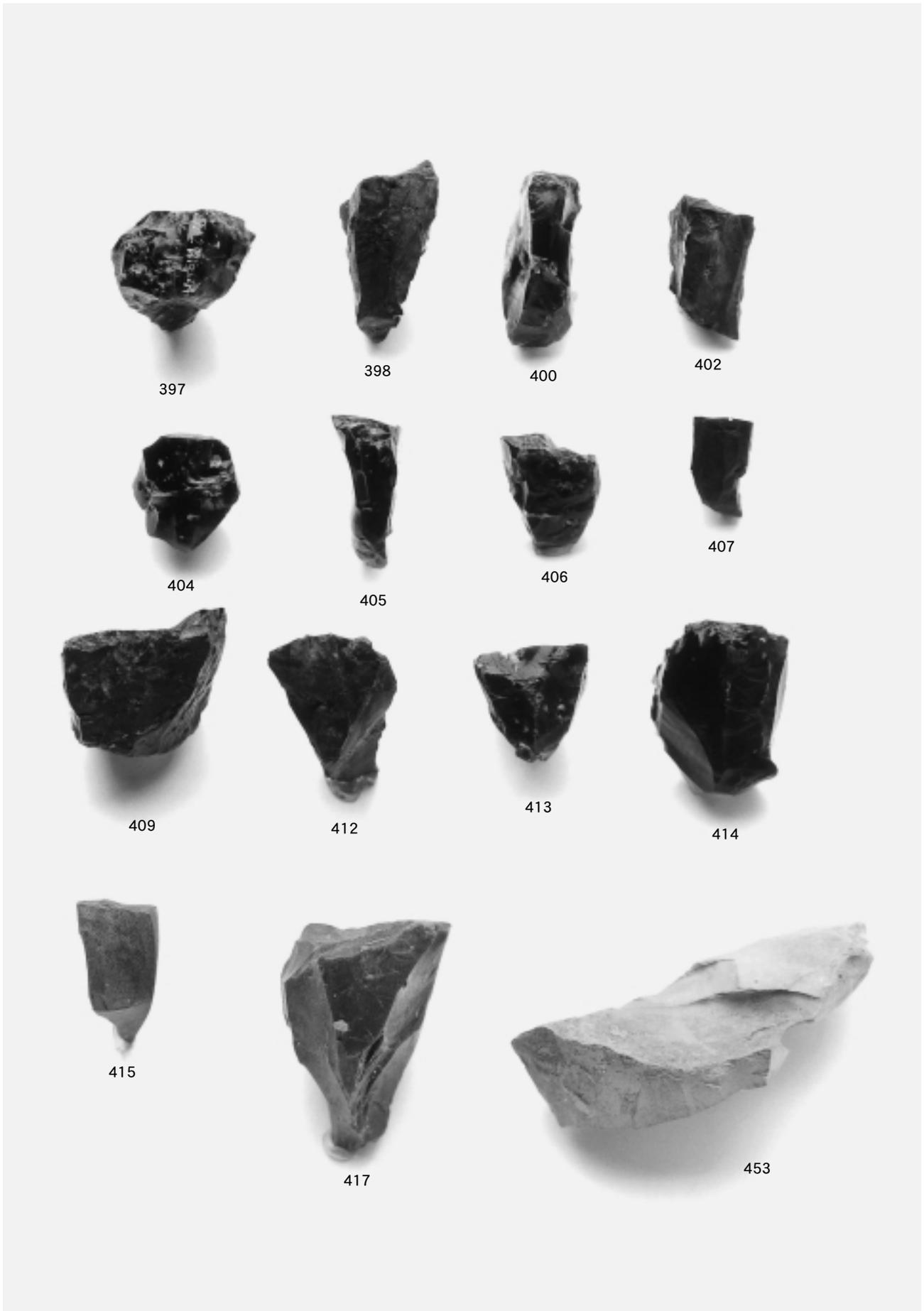
2 Nユニット出土遺物



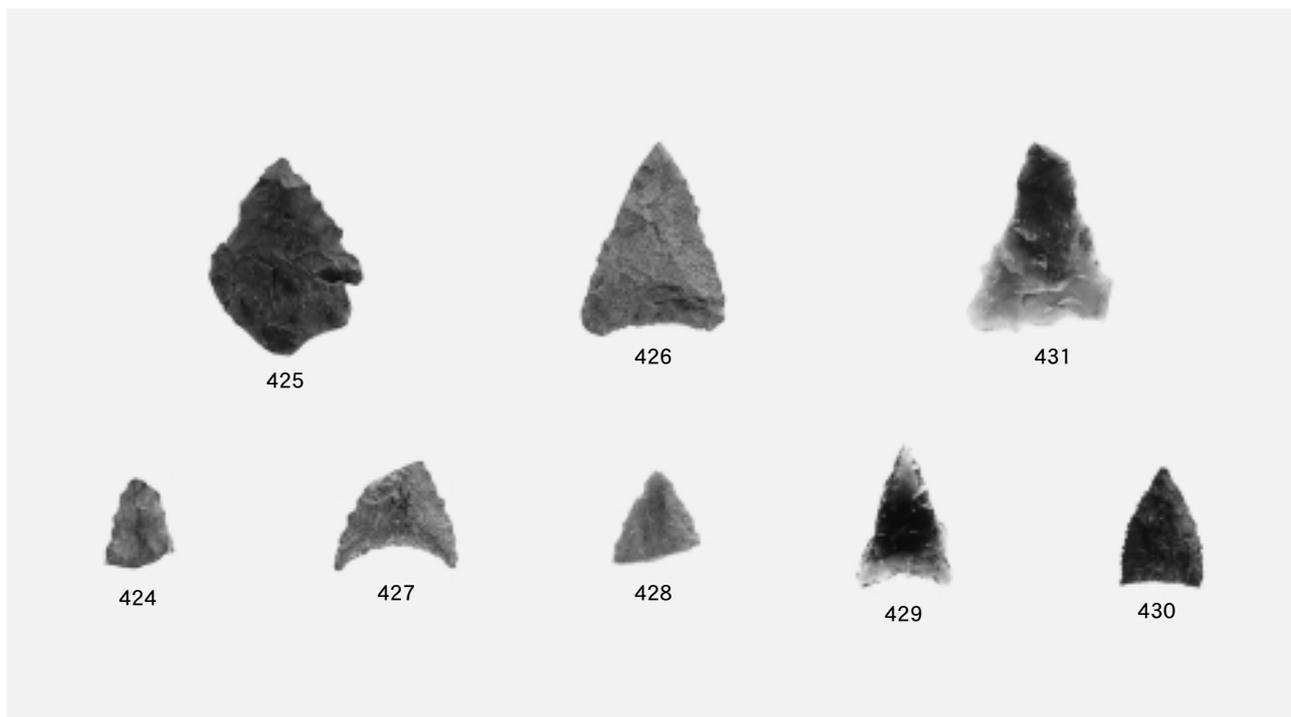
1 Oユニット出土遺物



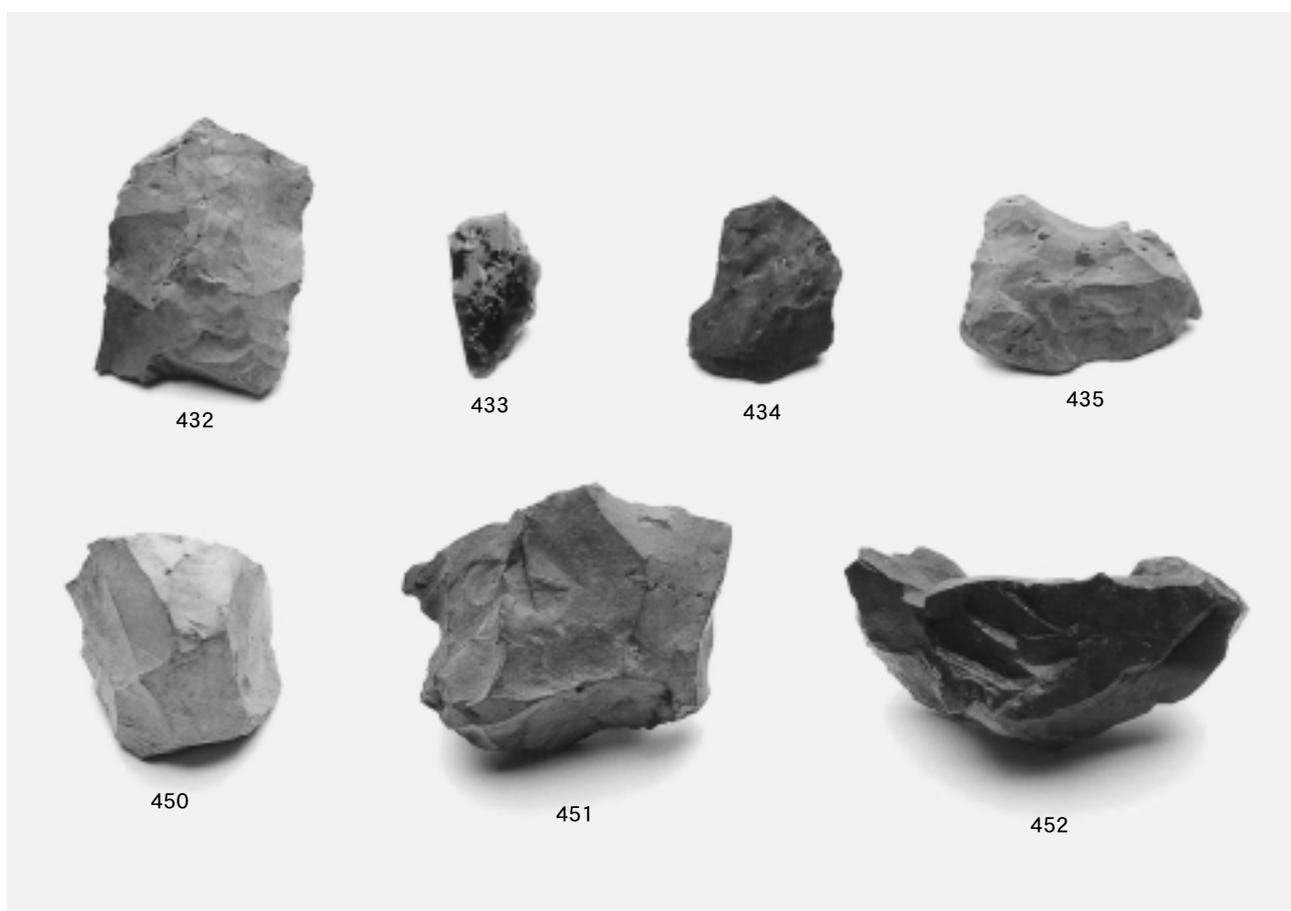
2 細石刃打面（左上：点，右上：三角，左下：台形，右下：打面調整）



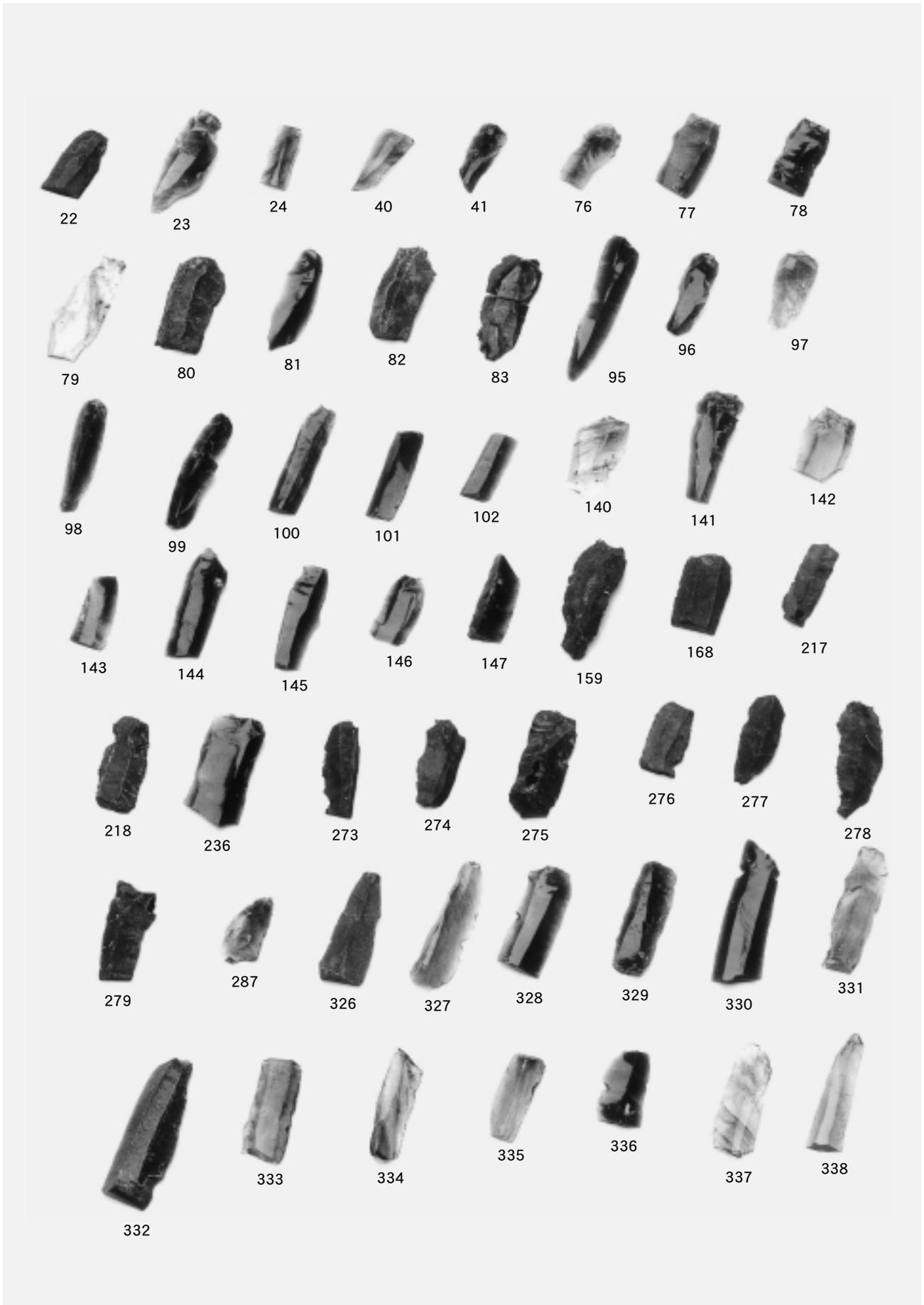
ブロック外出土遺物(1)



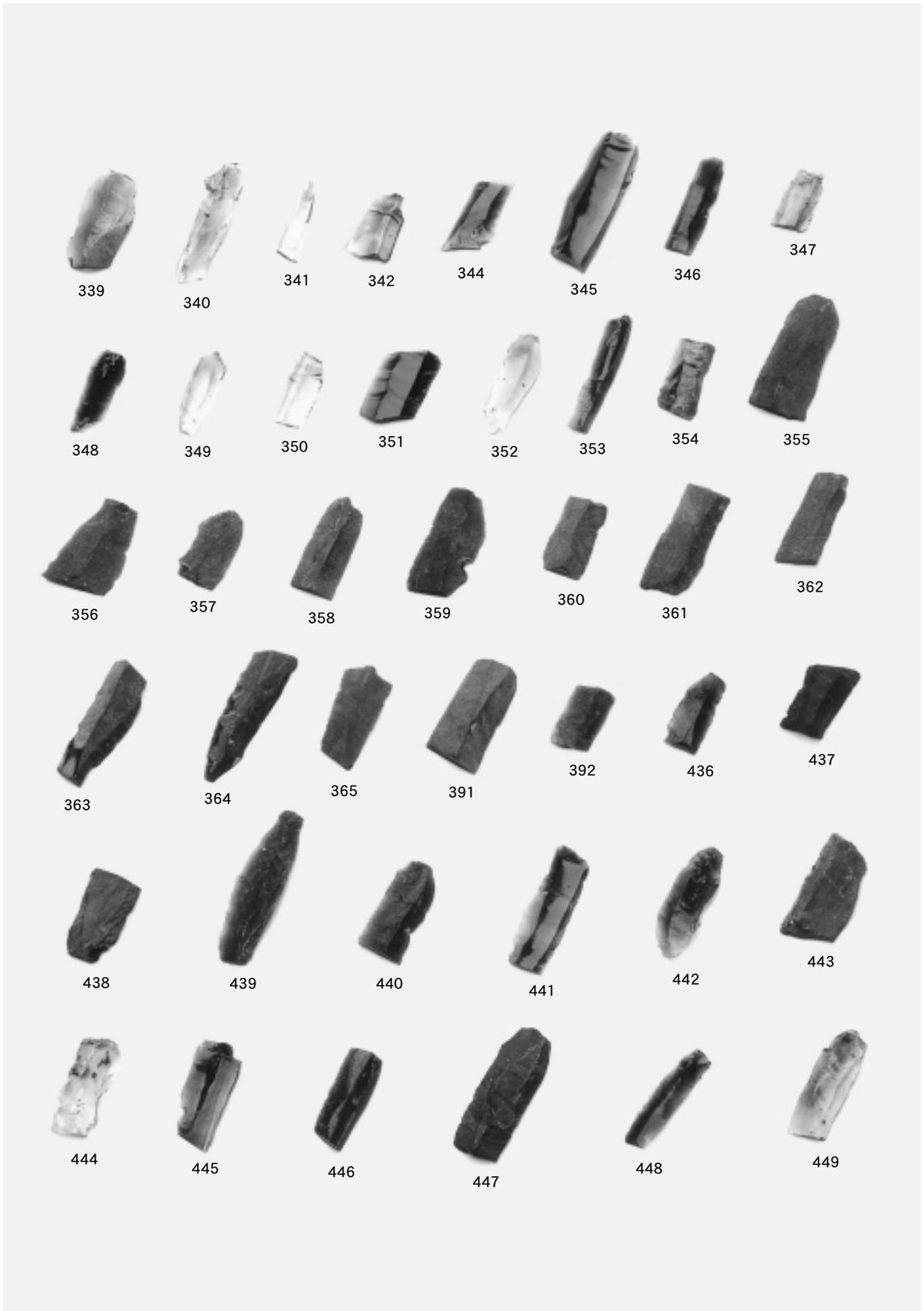
1 ブロック外出土遺物(2)



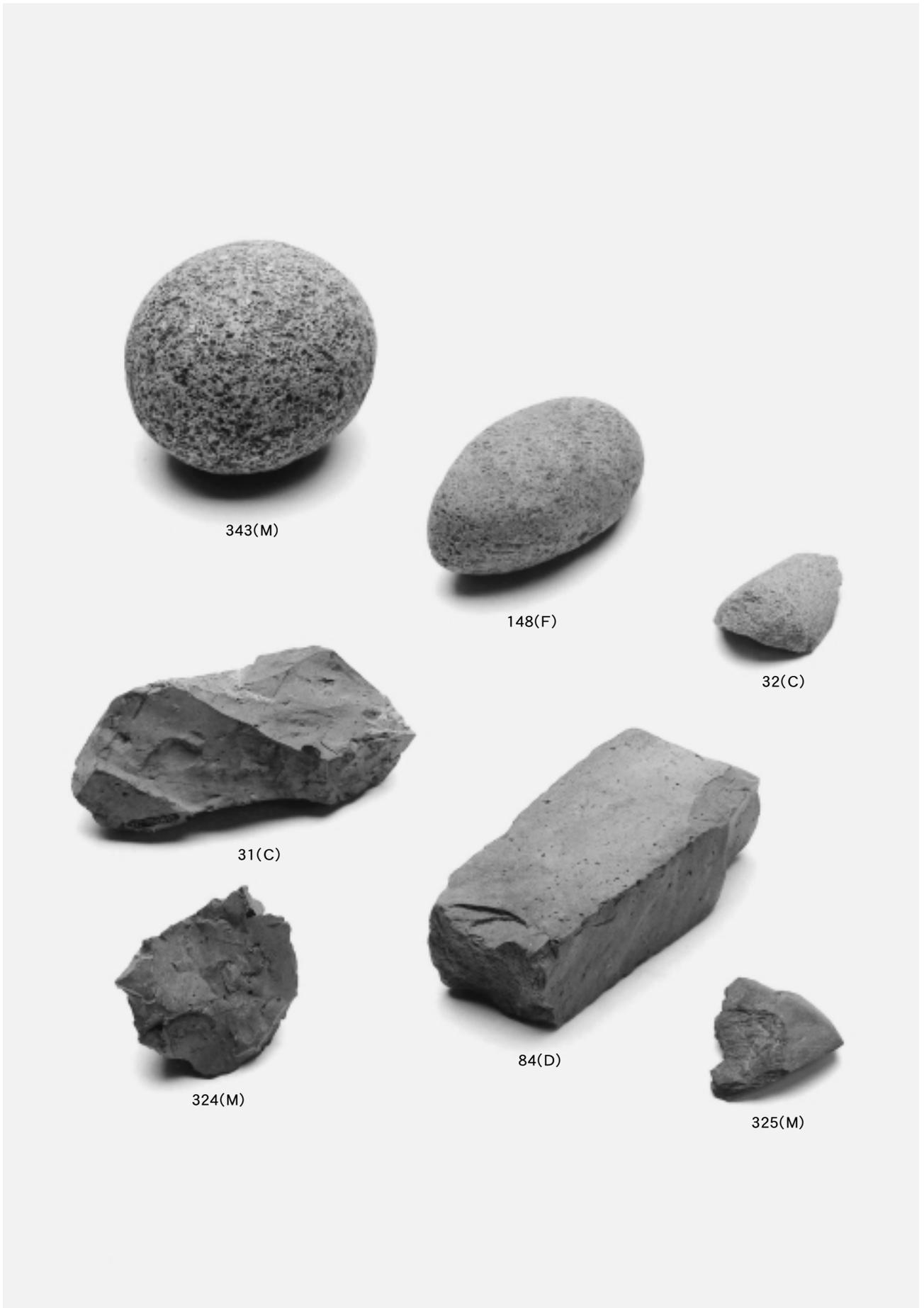
2 ブロック外出土遺物(3)



細石刃(1)



細石刃(2)



343(M)

148(F)

32(C)

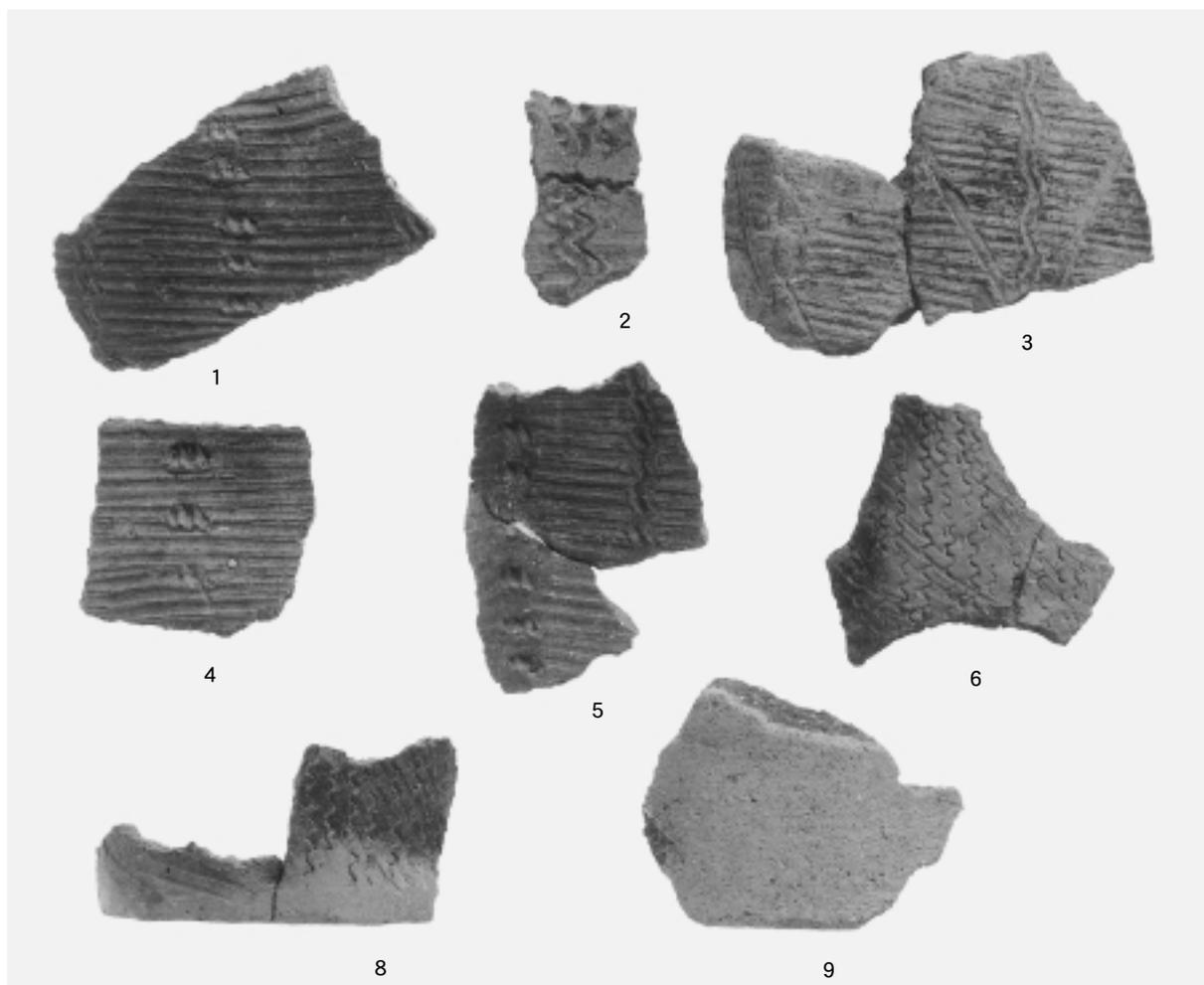
31(C)

324(M)

84(D)

325(M)

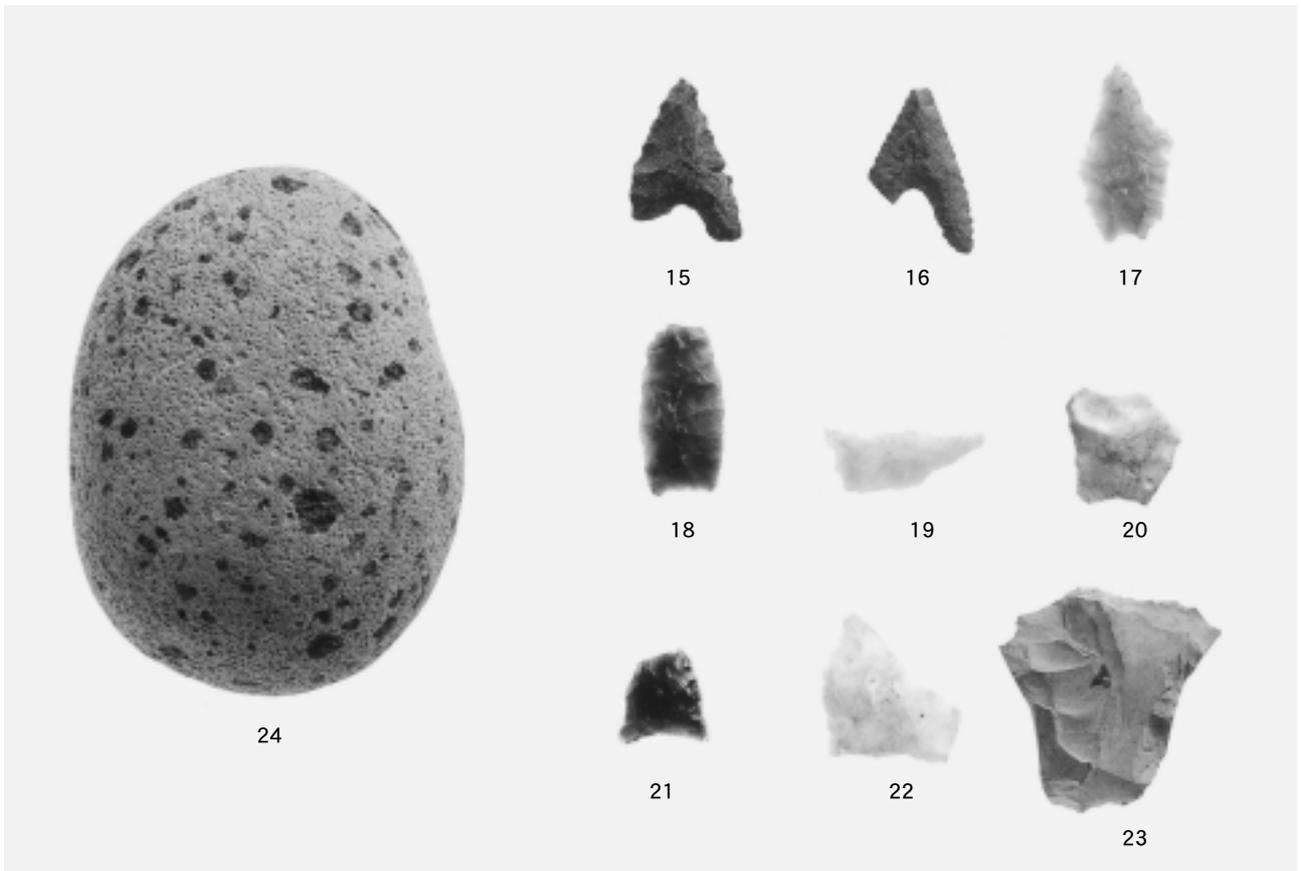
礫石器



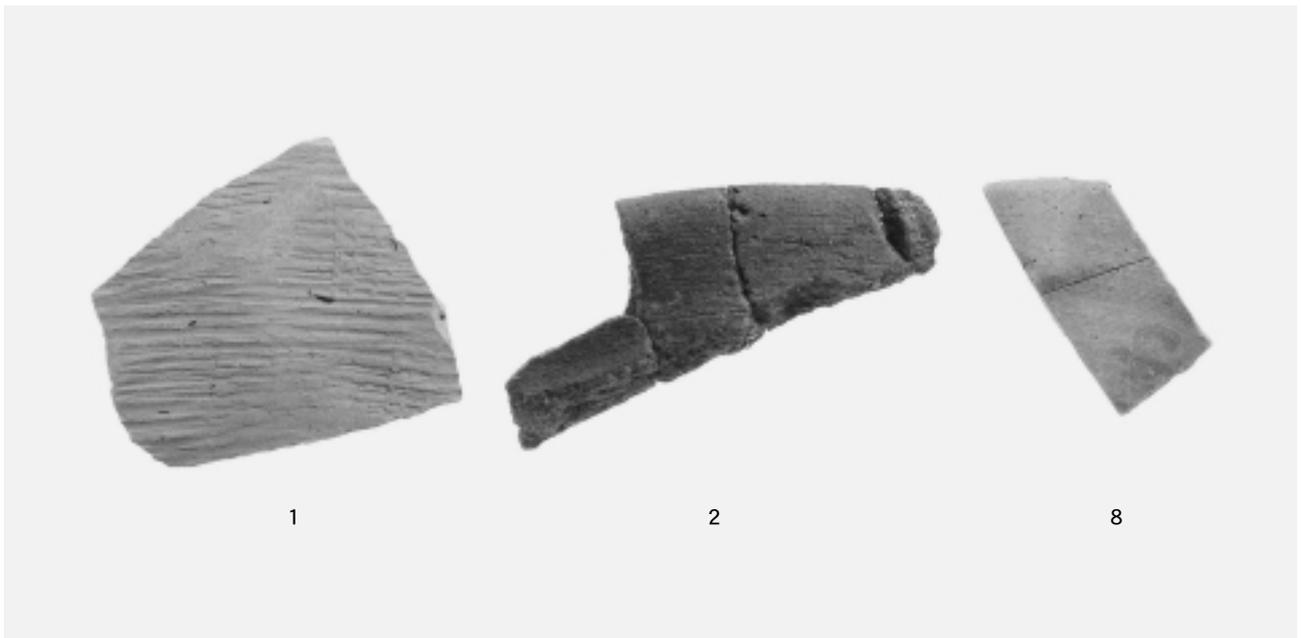
1 縄文時代早期土器



2 前平式土器（角筒）



1 縄文時代早期石器



2 縄文時代早期・古代土器



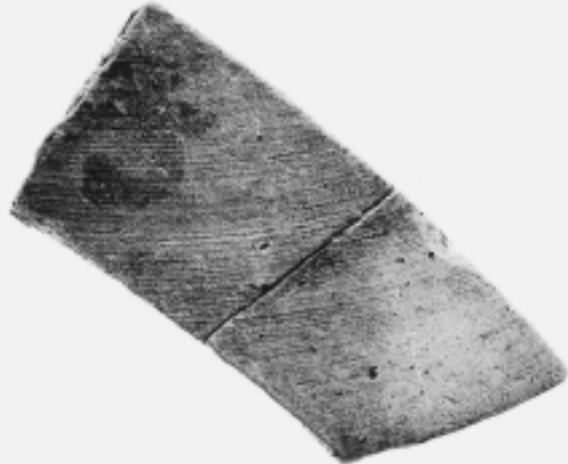
3



6



7



8



9



10

古代土師器



1 土師器碗(9)「肥道里」



2 土師器碗(9)刻書「八万」



3 土師器碗(10)「子」



4 土師器碗(10)「☆□」



1 整理作業員



2 工事施工後の遺跡遠景

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（67）

—一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 I—

## 横井竹ノ山遺跡

発行日 平成16年3月

発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899 - 4461 鹿児島県国分市上之段1175番地 1  
T E L ( 0995 ) 48 - 5811

印刷所 株式会社あすなる印刷  
〒899 - 0041 鹿児島市城西2 - 2 - 36  
T E L ( 099 ) 250 - 7033